

飯塚市
障がい者（児）実態調査及び
市民意識調査報告書

平成 25 年 10 月

飯塚市

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の内容	1
3. 回収状況	1
4. 調査の回答者	2
5. 調査結果の見方	2
第2章 調査結果	3
第1節 回答者の基本属性	3
1. 基本属性	3
（1）性別	3
（2）年齢	4
（3）障がいの発生年齢	5
（4）障がい程度区分の認定状況	6
（5）要介護認定の有無	7
（6）介護保険サービスの利用状況	8
（7）生活費の状況	8
2. 身体障がい者の状況	9
（1）身体障がいの程度（身体障がい者手帳の等級）	9
（2）主な身体障がいの部位	10
（3）重複する身体障がいの部位	11
（4）身体障がい者手帳以外の障がい者手帳の有無	12
（5）医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況	13
3. 知的障がい者の状況	14
（1）知的障がいの程度（療育手帳の判定）	14
（2）主な知的障がい	15
（3）身体障がい者手帳の有無等	16
（4）精神障がい者福祉手帳の有無	17
（5）医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況	18
4. 精神障がい者の状況	19
（1）精神障がい者保健福祉手帳の有無	19
（2）精神障がい者保健福祉手帳を持っていない理由	20
（3）主な精神障がい	21
（4）主なもののほかに診断を受けている精神障がい	22
（5）精神障がい者保健福祉手帳以外の障がい者手帳の有無	23
（6）医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況	24
（7）現在の症状	25

5. 障がい児の状況	26
(1) 障がいの状況	26
(2) 身体障がいの程度（身体障がい者手帳の等級）	26
(3) 主な身体障がいの部位	27
(4) 重複する身体障がいの部位	28
(5) 知的障がいの程度（療育手帳の判定）	29
(6) 主な知的（発達）障がい	30
(7) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況	31
6. 難病患者の状況	32
(1) 障がい者手帳の有無	32
(2) 特定疾患医療受給者証を受けている疾病	33
(3) 特定疾患医療受給者証を受けている病気による入院の有無（過去3年以内）	34
(4) 健康保険のきかない治療の有無（過去3年以内）	35
(5) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況	35
7. 市民の状況	36
(1) 職業	36
(2) 身近における要介護者の有無	37
第2節 日常生活について	38
1. 生活状況	38
(1) 現在の住まい	38
(2) 在宅生活者の同居者	40
(3) 施設入所者の生活満足度	45
(4) 施設入所者が希望する将来の暮らし方	47
(5) 施設入所者が施設でずっと暮らしたい理由	48
(6) 施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件	49
(7) 主な介助者	51
(8) 主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法	53
(9) 障がい児の介助者支援として必要なこと	55
(10) 精神障がい者の急に支援が必要になった場合の相談先	56
第3節 日中の過ごし方や就労について	57
1. 日中の過ごし方	57
2. 労働環境	61
(1) 月収	61
(2) 仕事上の悩みや困っていること	63
(3) 障がい者が働くために必要な条件	67
第4節 障がい児の療育や保育・教育について	71
1. 療育等について	71
(1) 障がいの診断・判定を受けた場所	71
(2) 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み	72
(3) 治療や療育、訓練等についての希望	74

2. 保育・教育について	75
(1) 日中の過ごし方	75
(2) 通園・通学で困っていること	76
(3) 保育・教育に関する要望	77
(4) 学校卒業後の進路希望	78
第5節 外出について	79
1. 外出の状況	79
(1) 外出の状況	79
(2) 外出時の移動手段	82
(3) 外出時に不便や困難を感じる事	84
第6節 福祉サービスについて	89
1. 福祉サービスの利用状況・利用意向	89
(1) 現在利用中の障がい福祉サービス	89
(2) 今後利用してみたい障がい福祉サービス	95
第7節 情報収集について	101
1. 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報について	101
(1) 生活に必要な情報の入手先	101
(2) 生活に必要な情報の入手状況	104
(3) 充実してほしい情報	106
第8節 災害対策について	108
1. 災害対策について	108
(1) 自宅近くの災害時の避難先の認知状況	108
(2) 職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先の認知状況	108
(3) 災害時の対策	109
(4) 災害時の自力による避難	110
(5) 災害時に頼れる人	113
(6) 大きな災害が起きた場合に必要支援	115
(7) 災害時の避難支援体制について	116
第9節 社会参加や地域での生活について	117
1. 地域活動について	117
(1) 地域の人とのつきあい	117
(2) 障がい児の地域活動等への参加状況	119
(3) 地域活動に参加するときにさまたげとなること	120
2. 余暇活動について	123
(1) 参加したい余暇活動の内容	123

第 10 節 生活全般について	125
1. 生活上の不安・悩みや相談先について	125
(1) 困っていることや将来に対する不安・悩み	125
(2) 障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩み	128
(3) 困っていることや不安・悩みの相談先	129
(4) 日常生活についての不安・悩みの相談先（難病患者）	132
(5) 特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みの相談先（難病患者）	133
2. 障がい者に対する市民の理解について	134
(1) 障がい者に対する市民の理解について	134
(2) 障がい者への差別や偏見	136
(3) 差別や偏見を感じる場所	137
(4) 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況	138
第 11 節 福祉全般について	139
1. 障がい者福祉施策について	139
(1) 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと	139
(2) 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況	142
第 12 節 市民調査	143
1. 障がい者福祉に関連する言葉について	143
(1) 「共生社会」認知状況	143
(2) 「共生社会」に基づいた考え方について	144
(3) 福祉に関する用語の認知状況	145
2. 障がい者施策やイベント等について	146
(1) 障がい者施策やイベント等の認知状況	146
3. ボランティア・福祉について	147
(1) 障がい者への介助経験	147
(2) 介助を行った際の気持ち	148
(3) 介助内容	149
(4) 介助しなかった理由	150
(5) 障がい福祉への関心度	151
(6) 障がい福祉に関心を持つ理由	152
(7) ボランティア活動への関心度	153
(8) ボランティアの活動経験	154
(9) ボランティア活動内容	155
(10) ボランティア活動をしたことがない理由	155
4. 障がい者への差別や偏見について	156
(1) 障がい者への差別や偏見	156
(2) 差別や偏見を感じる場所	157
(3) 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況	158
(4) 障がい者への理解を促進するために必要な取り組み	159

5. 障がい者福祉施策について	160
(1) 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況	160

第3章 自由回答(抜粋)..... 161

第4章 調査票..... 171

1. 身体障がい者調査 調査票	162
2. 知的障がい者調査 調査票	162
3. 精神障がい者調査 調査票	162
4. 障がい児調査 調査票	162
5. 難病患者調査 調査票	162
6. 市民調査 調査票	162

第1章 調査の概要

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、平成25年度に行う「飯塚市障がい者計画」策定の基礎資料として、障がい者・障がい児の生活実態や福祉サービス等の利用状況・利用意向、行政に対する要望等を把握することを目的として実施した。

2. 調査の内容

調査票による郵送調査とした。実施にあたっては、調査票に依頼状及び返信用封筒を同封して、郵送した。その後、平成25年11月12日までに回収された有効調査票について集計作業を行った。

調査の種類	(1)身体障がい者調査	(2)知的障がい者調査	(3)精神障がい者調査
対象者	身体障がい者手帳所持者	療育手帳所持者	自立支援医療利用者
調査方法	郵送配布、郵送回収		
サンプル数	1,300 サンプル(抽出)	400 サンプル(抽出)	400 サンプル(抽出)
実施時期	平成25年8月		

調査の種類	(4)障がい児調査
対象者	障がい者手帳所持者 手帳を所持していない障がい福祉サービスの支給決定を受けている児童
調査方法	郵送配布、郵送回収
サンプル数	328 サンプル(全数)
実施時期	平成25年8月

調査の種類	(5)難病患者	(6)市民
対象者	特定疾患医療受給者	飯塚市に居住する男女個人
調査方法	郵送配布、郵送回収	
サンプル数	300 サンプル(抽出)	2,000 サンプル(抽出)
実施時期	平成25年8月	

3. 回収状況

4,728 標本に対して、調査票を送付し、平成25年11月12日までに返送されてきた調査票は2,251 票で、回収率は47.5%であった。なお、調査区分で最も回収率の高かった調査は、難病患者調査で回収率は66.0%となっている。

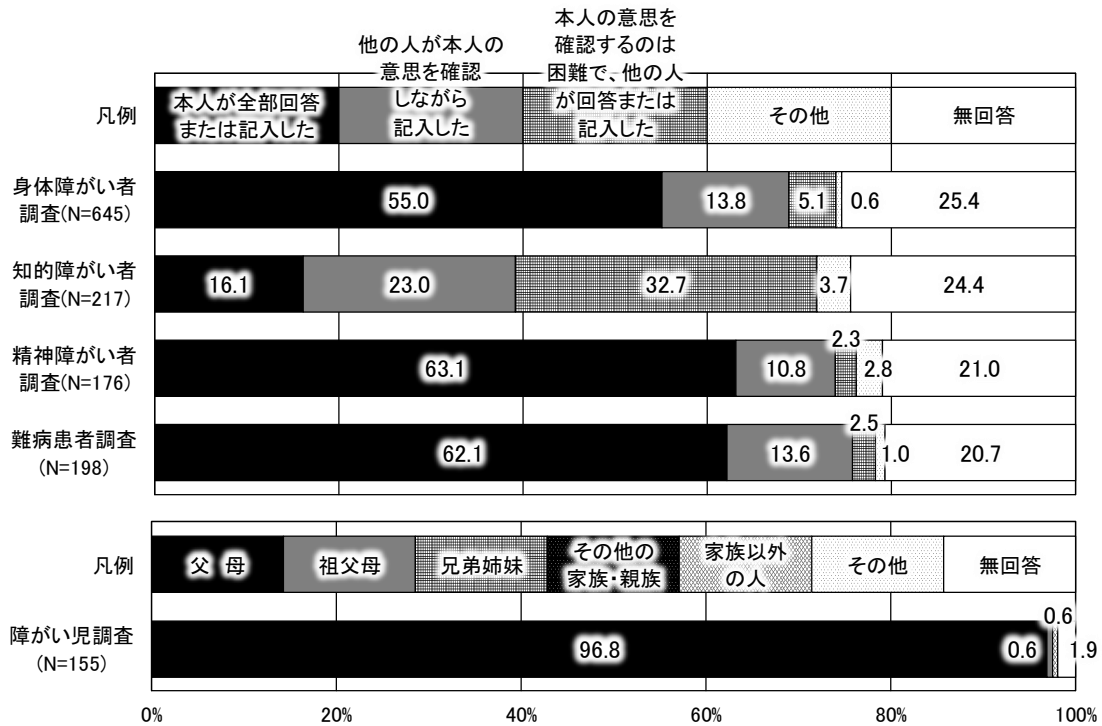
※調査における回収率は、下表のとおり。

区分	標本数	有効回収調査票数	標本数に対する回収率
身体障がい者調査	1,300	645	49.6%
知的障がい者調査	400	217	54.3%
精神障がい者調査	400	176	43.8%
障がい児調査	328	155	46.6%
難病患者調査	300	198	65.7%
市民調査	2,000	860	43.0%
計	4,728	2,251	47.5%

4. 調査の回答者

身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・難病患者・障がい児調査の回答者は下記のとおりである。
 なお、障がい児調査は保護者が回答している。

【図表 1-1 調査の回答者】



5. 調査結果の見方

- ①集計結果は百分比(%)で表示している。原則的に小数点以下第2位を四捨五入しているため、その結果として、この比率の合計と全体を示す数値とが一致しない場合(99.9%、100.1%)がある。
- ②1人の対象者に2つ以上の回答を認めた設問では、百分比(%)の合計は100%を上回る場合がある。
- ③本文のグラフ、表中の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- ④本文中のグラフは、見やすさに配慮するために、回答の比率がわずかの選択肢については、数値を表記していないものがある。(5%以下で分析上、表記が重要でないもの)
- ⑤図表に示すNは標本全数、nは限定された回答者の数(その質問を回答しなくてよい人を除いた数)であり、回答率算出上の基数(標本数)である。

第2章 調査結果

第2章 調査結果

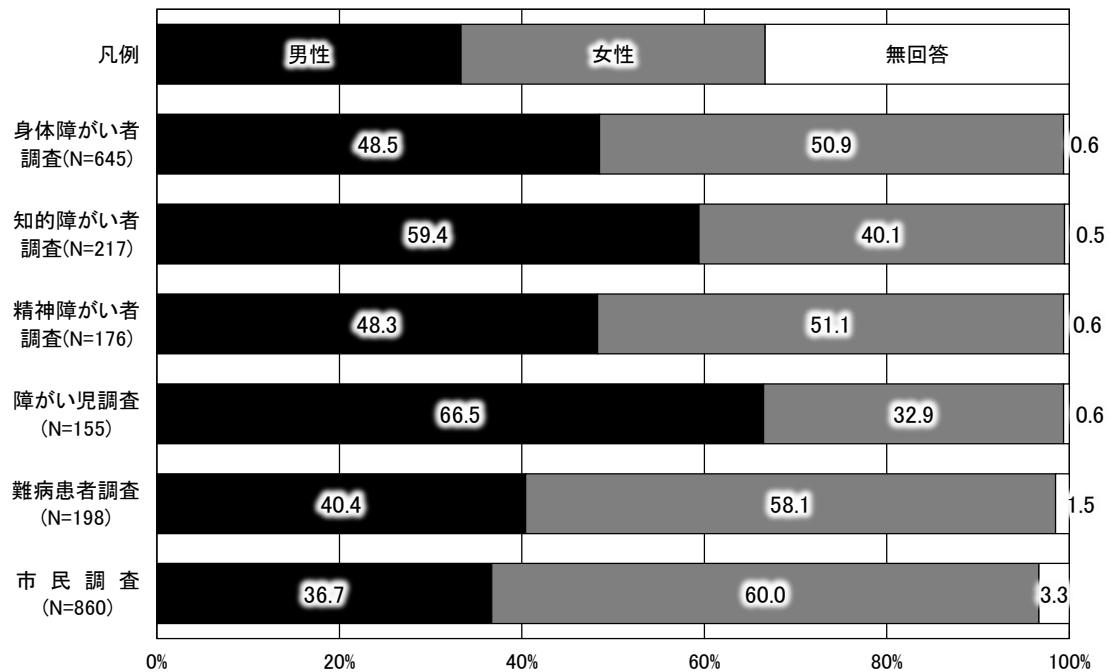
第1節 回答者の基本属性

1. 基本属性

(1) 性別

[身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・障がい児・難病患者:問1(1)、市民:F1]

【図表 2-1-1 性別(全体・調査別)】

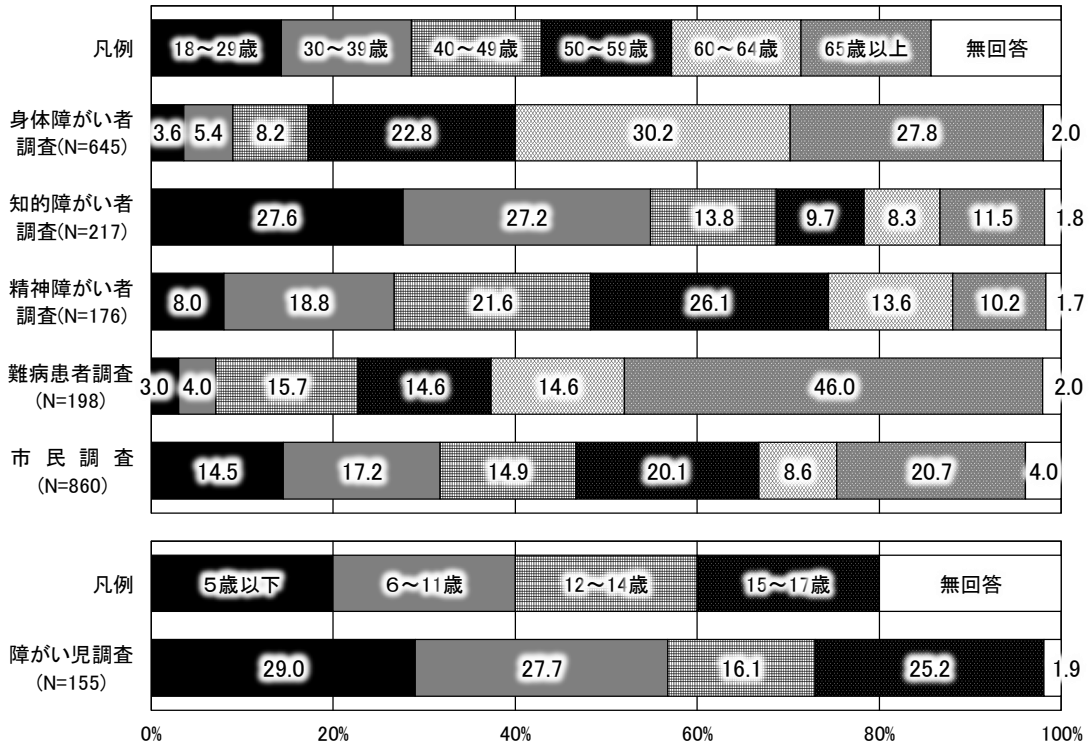


身体障がい者、精神障がい者、難病患者、市民は女性が5～6割を占めている。一方、知的障がい者、障がい児は男性の方が6割程度と多い。

(2) 年齢

[身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・障がい児・難病患者:問1(2)、市民:F2]

【図表 2-1-2 年齢(全体・調査別)】



※『市民調査』は「20～29歳」の数値結果を、他の障がい者調査の「18～29歳」と比較している。

身体障がい者は高齢層が多く、60歳以上が58.0%を占めている。

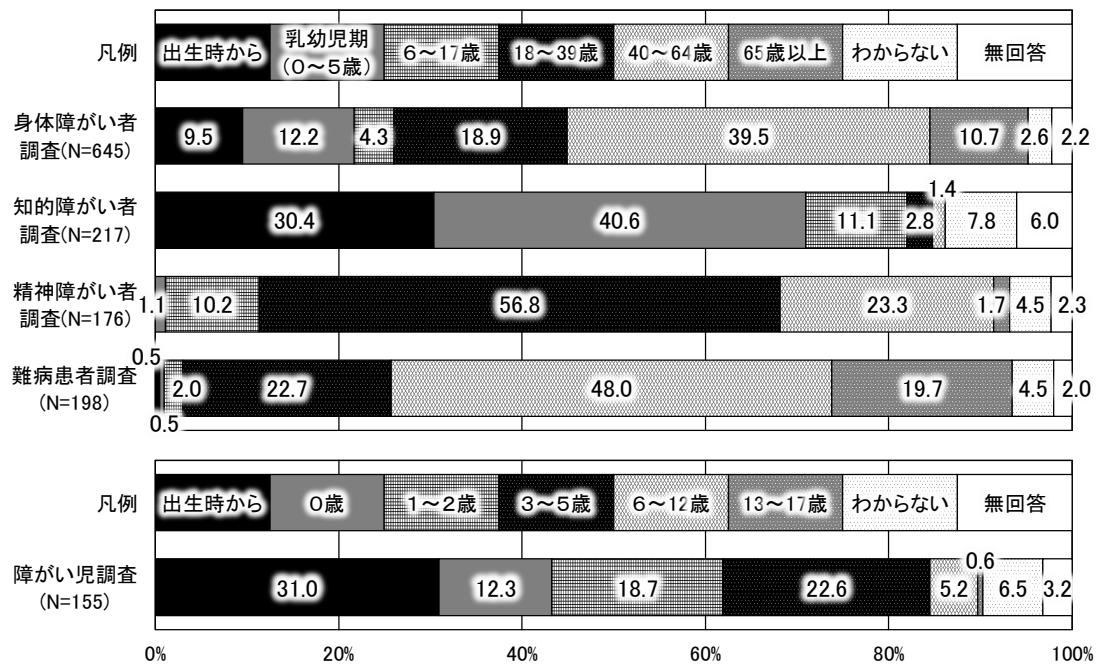
知的障がい者は30代以下(54.8%)、精神障がい者は40～50代(47.7%)が多い。

難病患者と市民は65歳以上が最も多くなっている。障がい児については、5歳以下が29.0%で最も多く、11歳まで含めると56.7%となっている。

(3) 障がいの発生前年齢

[身体障がい者:問4、知的障がい者:問4、精神障がい者:問5、障がい児:問4、難病患者:問3]

【図表 2-1-3 障がいの発生前年齢(全体・調査別)】



身体障がい者と難病患者は「40~64歳」での発生が最も多くなっている。

精神障がい者は「18~39歳」(56.8%)、障がい児は「出生時から」(31.0%)が多い。

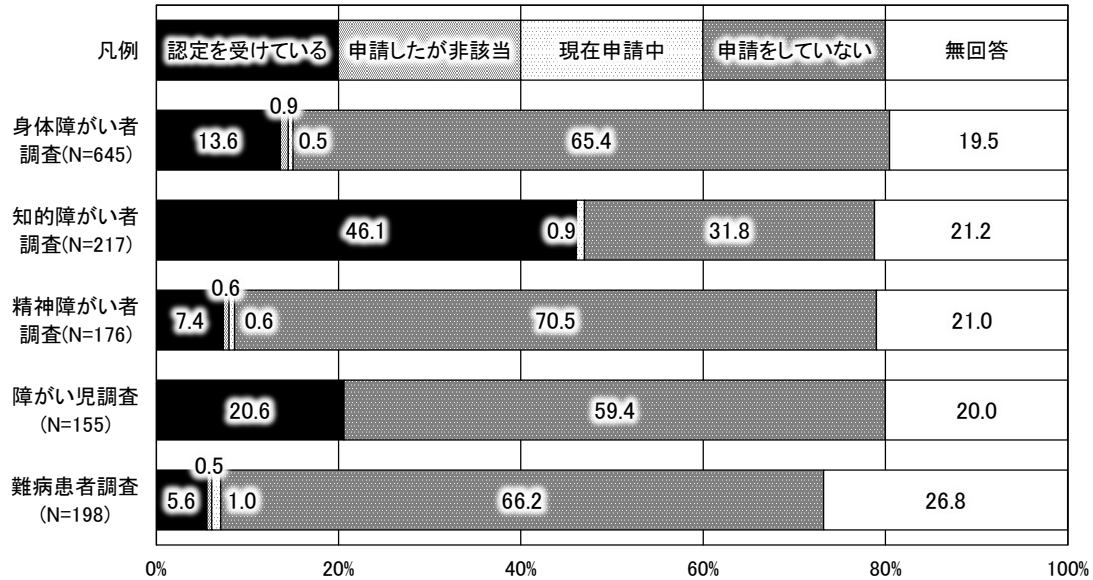
知的障がい者は「乳幼児期」(40.6%)が最も高く、「出生時から」(30.4%)も含めると全体の71.0%を占める。

(4) 障がい程度区分の認定状況

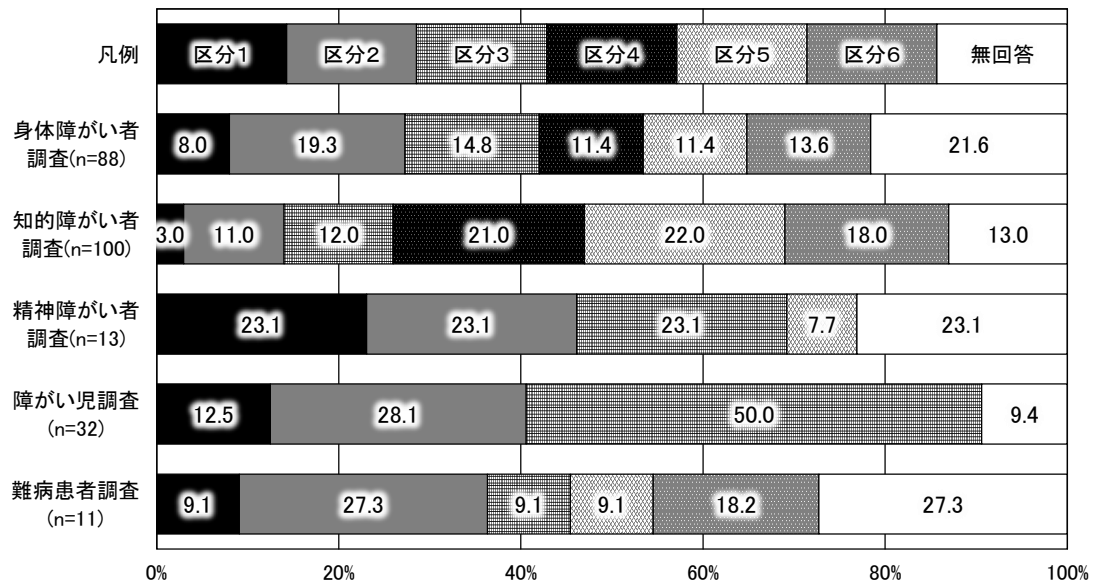
あなたは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても○をつけてください。

[身体障がい者:問6、知的障がい者:問7、精神障がい者:問7、障がい児:問5、難病患者:問7]

【図表 2-1-4 障がい程度区分の認定状況(全体・調査別)】



【図表 2-1-5 区分(全体・調査別)】



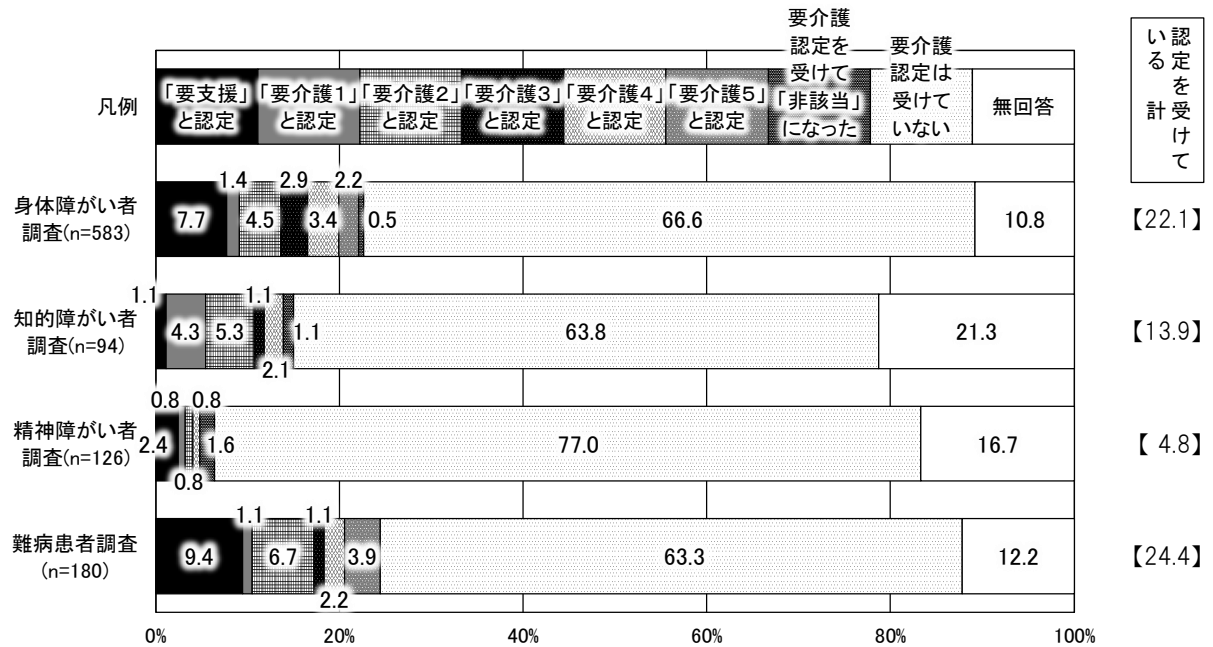
区分認定を受けているのは知的障がい者で5割弱程度、障がい児では2割、身体障がい者、精神障がい者、難病患者については1割程度に留まる。

認定を受けている人の区分については、身体障がい者と難病患者は「区分2」(身体障がい者:19.3%、難病患者:27.3%)、障がい児は「区分3」(50.0%)、知的障がい者は「区分5」(22.0%)がそれぞれ最も多い。精神障がい者は「区分1」「区分2」「区分3」が同じ割合(23.1%)となっている。

(5) 要介護認定の有無

【40歳以上の方のみお答えください】介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)
 [身体障がい者:問9、知的障がい者:問 10、精神障がい者:問 10、難病患者:問 10]

【図表 2-1-6 要介護認定の有無(全体・調査別)】

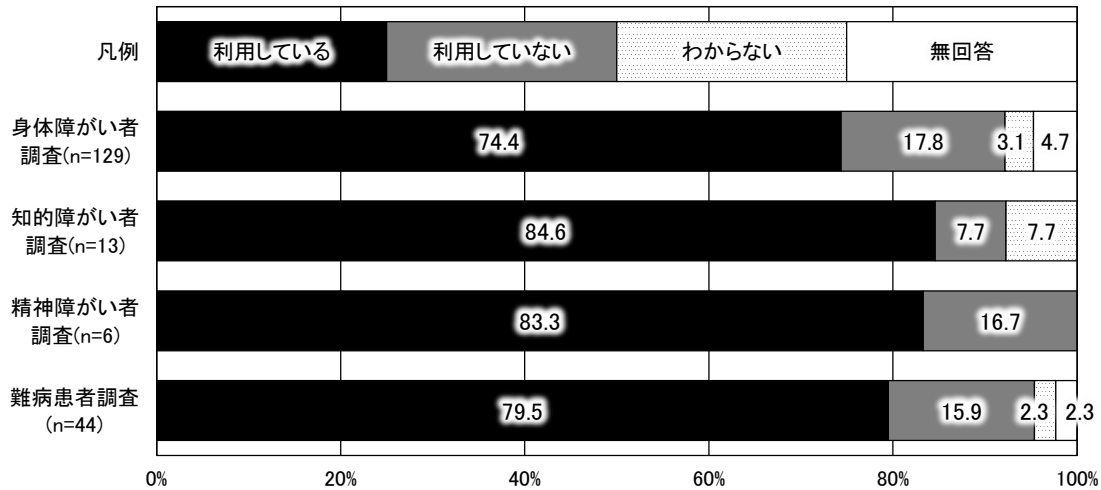


身体障がい者と難病患者は何かしらの「認定を受けている」人が2割強を占める。
 一方、知的障がい者は1割強、精神障がい者は約5%と認定を受けている人の割合は低い。

(6) 介護保険サービスの利用状況

(要介護認定を受けている方のみお答えください)あなたは介護保険のサービスを利用していますか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問9-1、知的障がい者:問10-1、精神障がい者:問10-1、難病患者:問10-1]

【図表 2-1-7 介護保険サービスの利用状況(全体・調査別)】



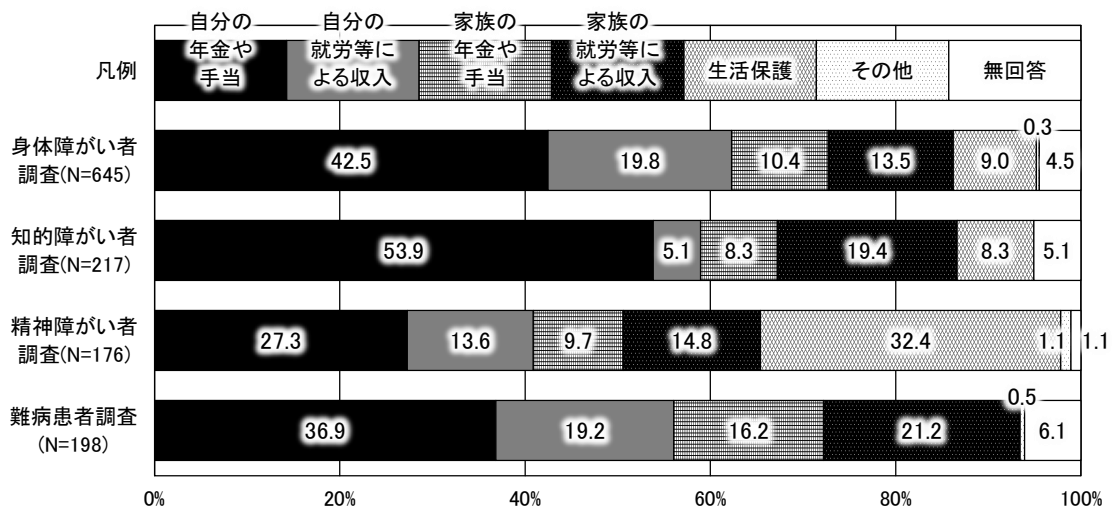
いずれも「利用している」が全体の7割以上を占めている。

(7) 生活費の状況

あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問7、知的障がい者:問8、精神障がい者:問8、難病患者:問8]

【図表 2-1-8 生活費の状況(全体・調査別)】



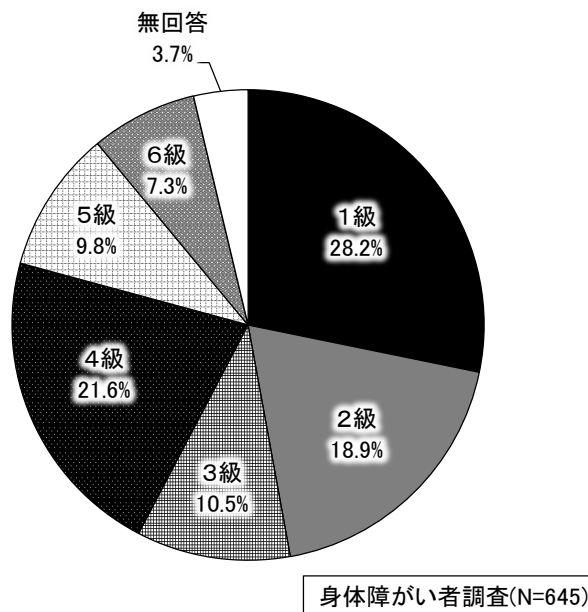
身体障がい者、知的障がい者、難病患者は「自分の年金や手当」でまかなっている割合が最も多い。一方、精神障がい者は「生活保護」が32.4%と最も割合が高い。

2. 身体障がい者の状況

(1) 身体障がいの程度(身体障がい者手帳の等級)

身体障がい者手帳に記載された総合等級は何級でしょうか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問2(1)]

【図表 2-1-9 身体障がいの程度(身体障がい者手帳の等級)(全体)】



「1級」が28.2%を占め最も多く、「1級」と「2級」(18.9%)の『重度』障がい者は47.1%となっている。

【図表 2-1-10 身体障がいの程度(身体障がい者手帳の等級)(全体・年齢別)】

		サンプル数	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
全体		645	28.2	18.9	10.5	21.6	9.8	7.3	3.7
年齢別	18~29歳	23	34.8	34.8	-	4.3	8.7	17.4	-
	30~39歳	35	54.3	17.1	2.9	5.7	5.7	11.4	2.9
	40~49歳	53	34.0	24.5	5.7	18.9	13.2	3.8	-
	50~59歳	147	29.9	21.1	8.8	21.8	9.5	6.8	2.0
	60~64歳	195	22.1	19.5	14.9	23.1	11.8	6.2	2.6
	65歳以上	179	25.7	14.0	11.2	26.3	8.4	8.4	6.1
	無回答	13	30.8	7.7	15.4	15.4	-	-	30.8

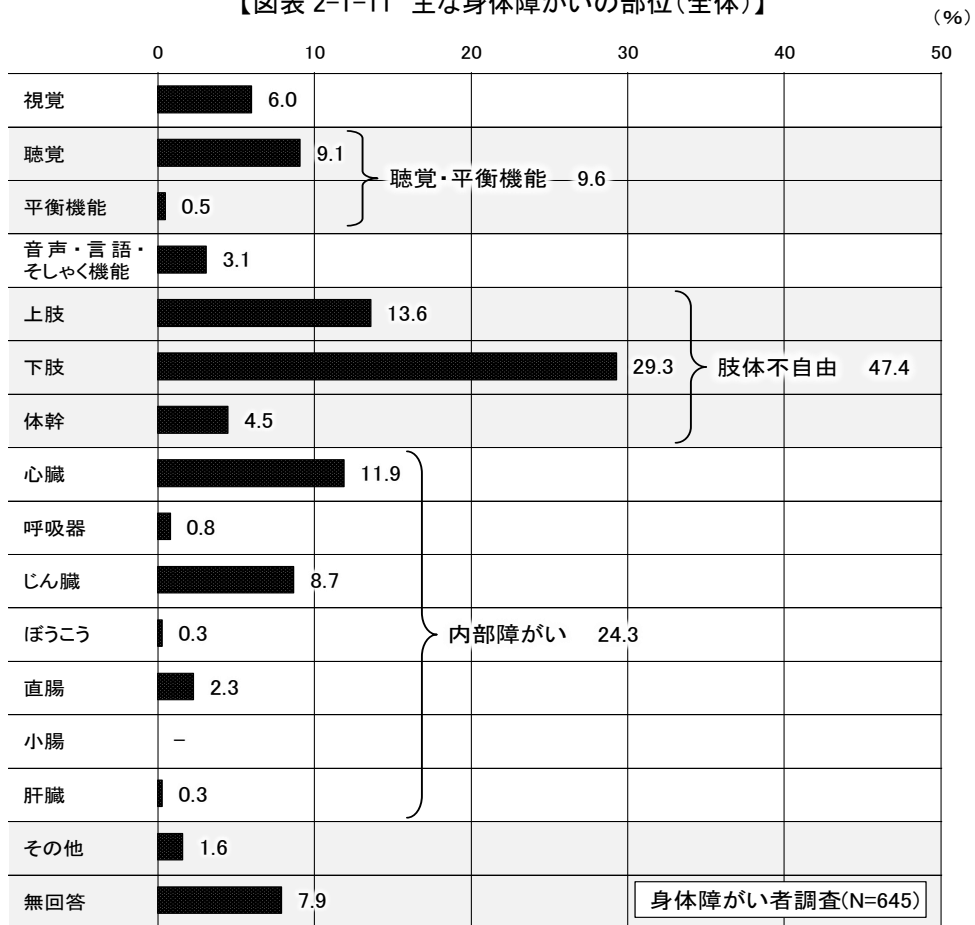
(数値: %)

(2) 主な身体障がいの部位

あなたの身体障がい者手帳に記載されたもののうち、主な障がいはどれですか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問2(2)]

【図表 2-1-11 主な身体障がいの部位(全体)】



身体障がい者の主な障がいの部位(大分類)は、『肢体不自由』(47.4%)が最も多く、次いで『内部障がい』(24.3%)、『聴覚・平衡機能』(9.6%)となっている。

【図表 2-1-12 主な身体障がいの部位(全体・障がいの程度別)】

障がいの程度別	サンプル数	視覚	聴覚・平衡機能	音声・言語・そしゃく機能	肢体不自由	内部障がい	その他	無回答
全体	645	6.0	9.6	3.1	47.4	24.3	1.6	7.9
障がいの程度別								
1級+2級(重度)	304	10.9	10.2	3.0	32.9	34.3	2.6	6.3
3級+4級(中度)	207	1.4	4.4	4.3	63.3	21.8	0.5	4.3
5級+6級(低度)	110	2.7	17.3	-	64.6	4.5	0.9	10.0
身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	8.0	10.0	10.0	50.0	10.0	-	12.0
無回答	24	-	12.5	8.3	16.7	12.5	-	50.0

(数値:%)

障がいの程度別にみると、1級と2級の『重度』障がいは「内部障がい」(34.3%)が最も多いが、2級～6級では「肢体不自由」が6割を超えて最も多い。

(3) 重複する身体障がいの部位

主な障がいのほかに、「重複する障がい」がありますか。(○はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問3]

【図表 2-1-13 重複する身体障がいの部位(全体)】



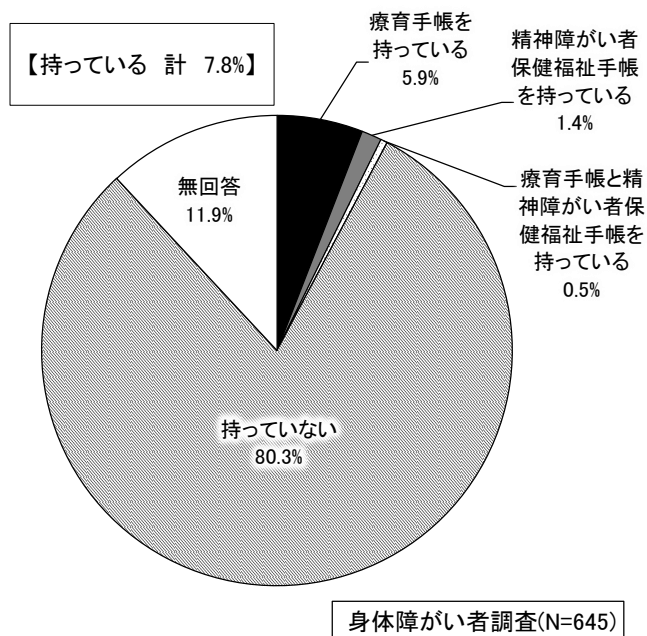
※この質問は複数回答であり、重複障がいの大分類は、小分類のいずれか1つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

重複する障がいの部位(大分類)は『肢体不自由』が16.3%で最も多い。小分類でみると、「下肢」(10.4%)、「上肢」(7.1%)、「音声・言語・そしゃく機能」(4.5%)の順となっている。

(4) 身体障がい者手帳以外の障がい者手帳の有無

あなたは、身体障がい者手帳以外の障がい者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問5]

【図表 2-1-14 身体障がい者手帳以外の障がい者手帳の有無(全体)】

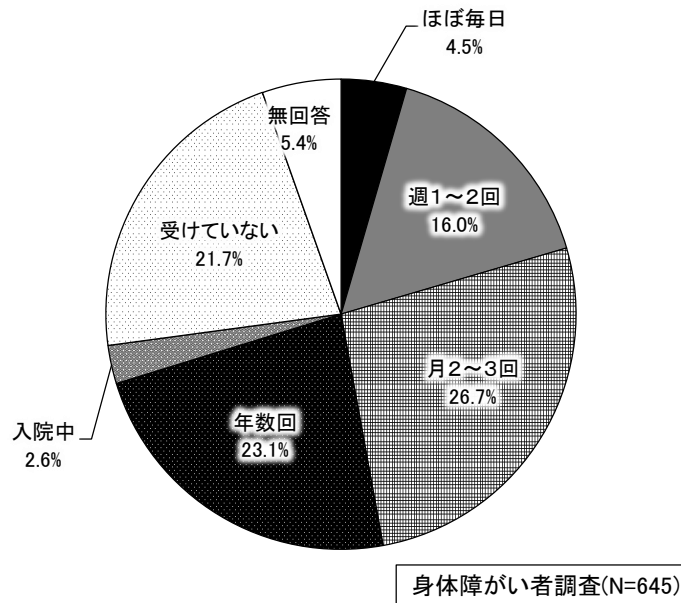


身体障がい者手帳以外の障がい者手帳を『持っている』割合は全体の 1 割未満であった。『持っている』人の中では、「療育手帳を持っている」(5.9%) 人が最も多かった。

(5) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況

あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(〇は1つだけ)[身体障がい者:問8]

【図表 2-1-15 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体)】



医師の診察の受診状況は、「月に 2~3 回」(26.7%)が最も多く、次いで「年数回」(23.1%)、「週に 1~2 回」(16.0%)となっている。なお、約 2 割は「受けていない」と回答している。

【図表 2-1-16 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体・障がいの部位別)】

		サンプル数	ほぼ毎日	週1~2回	月2~3回	年数回	入院中	受けていない	無回答
全体		645	4.5	16.0	26.7	23.1	2.6	21.7	5.4
障がいの部位別	視覚	39	7.7	12.8	23.1	33.3	5.1	15.4	2.6
	聴覚・平衡機能	62	1.6	6.5	27.4	17.7	1.6	41.9	3.2
	音声・言語・そしゃく	20	5.0	10.0	40.0	5.0	5.0	15.0	20.0
	肢体不自由	306	3.9	15.0	25.5	23.9	3.3	26.1	2.3
	内部障がい	157	5.7	21.0	29.3	28.0	0.6	8.3	7.0
	その他	10	10.0	30.0	20.0	20.0	-	10.0	10.0
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	6.0	12.0	32.0	24.0	4.0	14.0	8.0
無回答	51	3.9	19.6	23.5	9.8	3.9	21.6	17.6	

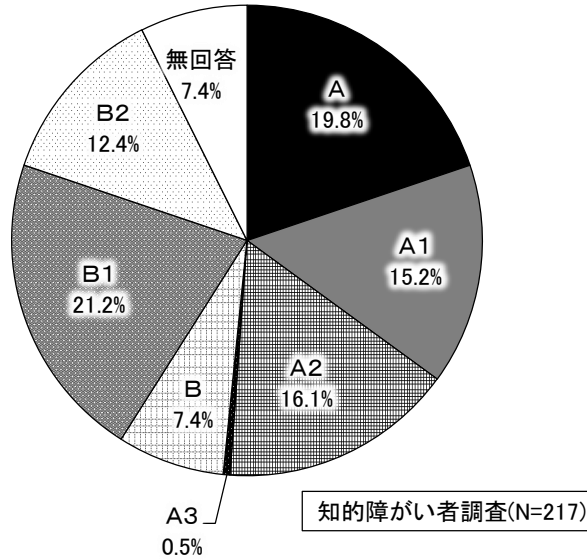
(数値:%)

3. 知的障がい者の状況

(1) 知的障がいの程度(療育手帳の判定)

あなたの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。(○は1つだけ)[知的障がい者:問2]

【図表 2-1-17 知的障がいの程度(療育手帳の判定)(全体)】



知的障がい者の障がいの程度(療育手帳の判定)は、療育手帳 A(A~A3)が 51.6%、療育手帳 B(B~B2)が 41.0%となっている。

【図表 2-1-18 知的障がいの程度(療育手帳の判定)(全体・年齢別)】

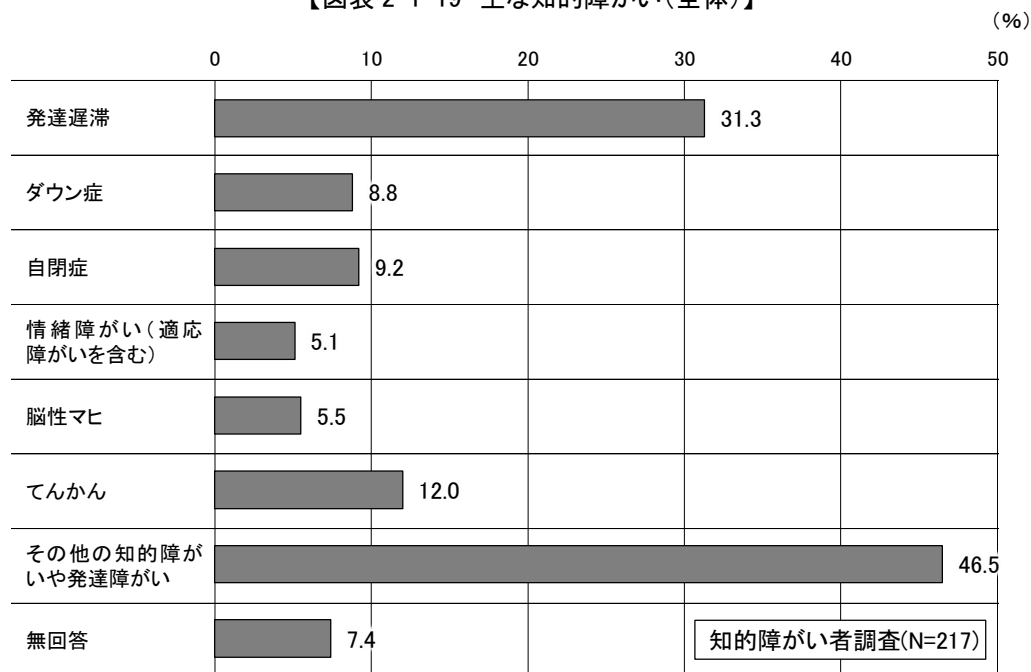
		サンプル数	A	A1	A2	A3	B	B1	B2	無回答
全体		217	19.8	15.2	16.1	0.5	7.4	21.2	12.4	7.4
年齢別	18~29歳	60	5.0	16.7	20.0	-	1.7	25.0	25.0	6.7
	30~39歳	59	16.9	23.7	13.6	1.7	8.5	22.0	11.9	1.7
	40~49歳	30	30.0	13.3	20.0	-	3.3	20.0	13.3	-
	50~59歳	21	28.6	4.8	9.5	-	4.8	42.9	-	9.5
	60~64歳	18	50.0	-	5.6	-	5.6	16.7	5.6	16.7
	65歳以上	25	24.0	8.0	20.0	-	28.0	-	-	20.0
	無回答	4	-	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0

(数値:%)

(2) 主な知的障がい

どのような診断を受けていますか(○はあてはまるものすべて)[知的障がい者:問3]

【図表 2-1-19 主な知的障がい(全体)】



主な障がいは「その他の知的障がいや発達障がい」(46.5%)が最も多く、次いで「発達遅滞」(31.3%)となっている。

【図表 2-1-20 主な知的障がい(全体・障がいの程度別)】

	サンプル数	発達遅滞	ダウン症	自閉症	情緒障がい(適応障がいを含む)	脳性マヒ	てんかん	その他の知的障がいや発達障がい	無回答	
全体	217	31.3	8.8	9.2	5.1	5.5	12.0	46.5	7.4	
障がいの程度別	療育手帳A	112	33.9	15.2	9.8	3.6	7.1	11.6	40.2	3.6
	療育手帳B	89	31.5	1.1	9.0	5.6	3.4	13.5	53.9	9.0
	知的障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	10.0	2.0	8.0	18.0	16.0	50.0	4.0
	無回答	16	12.5	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	50.0	25.0

(数値:%)

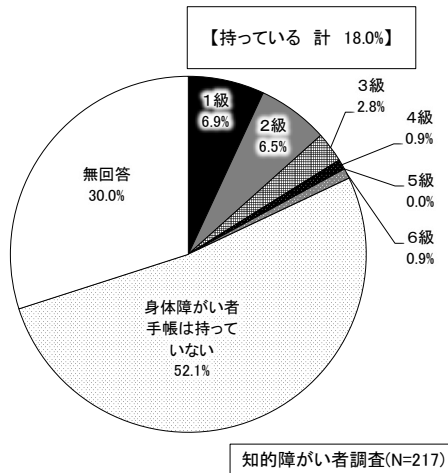
障がい程度別にみると、療育手帳 A・B とも「その他の知的障がいや発達障がい」が最も多いが、「発達遅滞」や「ダウン症」、「自閉症」や「脳性マヒ」については B より A が高く、「情緒障がい」や「てんかん」は A より B の方が高い。

(3) 身体障がい者手帳の有無等

あなたは「身体障がい者手帳」を持っていますか。持っている場合、手帳に記載された総合等級は何級ですか。(○は1つだけ)[知的:問5]

(身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください)どのような障がいですか。(○はあてはまるものすべて)
[知的障がい者:問5-1]

【図表 2-1-21 身体障がい者手帳の有無(全体)】



知的障がい者の 18.0%は身体障がい者手帳を持っている。身体障がい者手帳所持者の身体障がいの程度は「1級」(6.9%)、「2級」(6.5%)の重度層が多い。

【図表 2-1-22 身体障がいの部位(全体)】

	0	10	20	30	40	50	60
視覚			17.9				
聴覚			17.9				
平衡機能			12.8				
		} 聴覚・平衡機能		23.1			
音声・言語・そしゃく機能					38.5		
上肢					23.1		
下肢						38.5	
		} 肢体不自由			38.5		
体幹			12.8				
心臓		5.1					
呼吸器	-						
じん臓	-						
ぼうこう	-						
		} 内部障がい		5.1			
直腸	-						
小腸	-						
肝臓	-						
その他	-						
無回答				25.6			

知的障がい者調査(n=39)

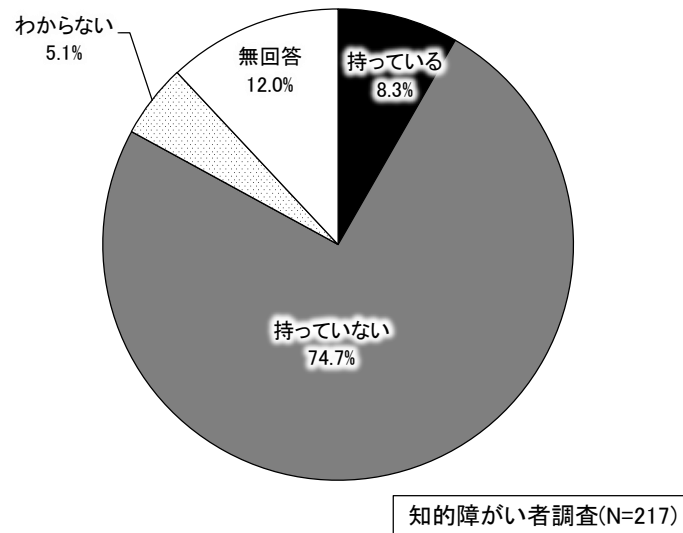
※この質問は複数回答であり、重複障がいの大分類は、小分類のいずれか1つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

身体障がい者手帳所持者の身体障がいの部位(大分類)は『肢体不自由』と『音声・言語・そしゃく機能』(ともに 38.5%)が最も多い。

(4)精神障がい者福祉手帳の有無

あなたは、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)[知的障がい者:問6]

【図表 2-1-23 精神障がい者福祉手帳の有無(全体)】

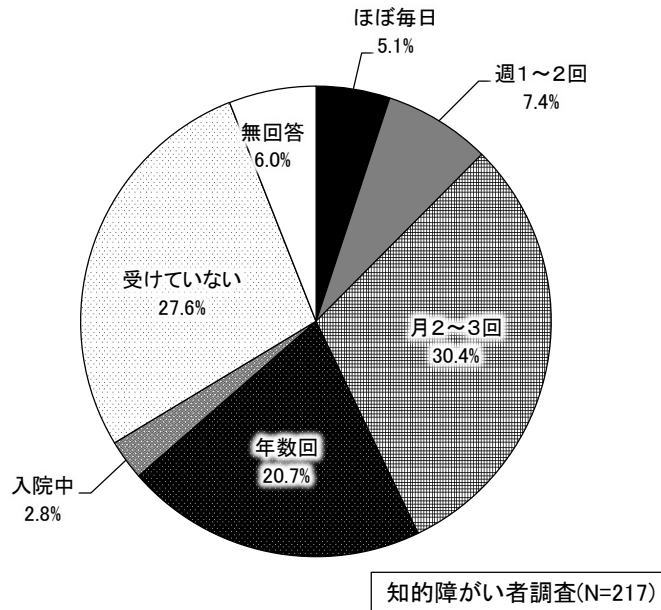


知的障がい者の1割弱(8.3%)は精神障がい者保健福祉手帳を持っている。

(5) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況

あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(〇は1つだけ)[知的障がい者:問9]

【図表 2-1-24 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体)】



知的障がい者の診察の受診状況は、「月2~3回」(30.4%)が最も多く、次いで「年数回」(20.7%)となっている。なお、3割弱は「受けていない」と回答しており、それを障がい別にみると「自閉症」(40.0%)、「情緒障がい」(45.5%)に比較的多くみられる。

【図表 2-1-25 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体・主な知的障がい別)】

	サンプル数	ほぼ毎日	週1~2回	月2~3回	年数回	入院中	受けていない	無回答	
全体	217	5.1	7.4	30.4	20.7	2.8	27.6	6.0	
主な知的障がい別	発達遅滞	68	5.9	4.4	36.8	16.2	4.4	26.5	5.9
	ダウン症	19	5.3	5.3	26.3	42.1	-	15.8	5.3
	自閉症	20	5.0	-	15.0	35.0	-	40.0	5.0
	情緒障がい(適応障がいを含む)	11	-	-	27.3	27.3	-	45.5	-
	脳性マヒ	12	8.3	8.3	41.7	8.3	8.3	16.7	8.3
	てんかん	26	7.7	7.7	46.2	19.2	-	19.2	-
	その他の知的障がいや発達障がい	101	5.0	7.9	25.7	20.8	3.0	32.7	5.0
	身体障がい以外の障がいと重複がある	50	10.0	18.0	32.0	24.0	4.0	10.0	2.0
	無回答	16	6.3	18.8	25.0	-	-	37.5	12.5

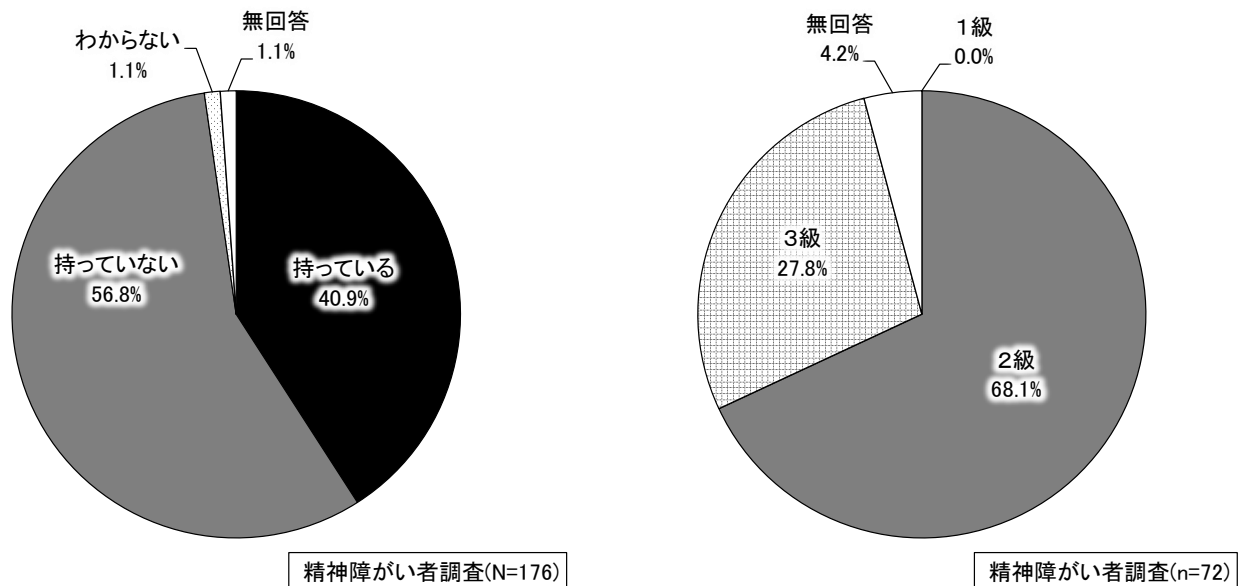
(数値:%)

4. 精神障がい者の状況

(1) 精神障がい者保健福祉手帳の有無

あなたは精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。[精神障がい者：問2]
 (精神障がい者保健福祉手帳を持っている方のみお答えください)あなたの「精神障がい者保健福祉手帳」の等級は次のどれですか。(○は1つだけ)[精神障がい者：問2-1]

【図表 2-1-26 精神障がい者保健福祉手帳の有無(全体)】 【図表 2-1-27 精神障がい者保健福祉手帳の等級(全体)】



精神障がい者の約4割(40.9%)は「精神障がい者保健福祉手帳」を持っており、所持者の等級は「2級」(68.1%)が約7割と最も多い。

【図表 2-1-28 精神障がい者保健福祉手帳の有無(全体・年齢別)】

		サンプル数	持っている	持っていない	わからない	無回答
全体		176	40.9	56.8	1.1	1.1
年齢別	18～29歳	14	28.6	71.4	-	-
	30～39歳	33	45.5	48.5	3.0	3.0
	40～49歳	38	52.6	44.7	-	2.6
	50～59歳	46	41.3	56.5	2.2	-
	60～64歳	24	29.2	70.8	-	-
	65歳以上	18	33.3	66.7	-	-
	無回答	3	33.3	66.7	-	-

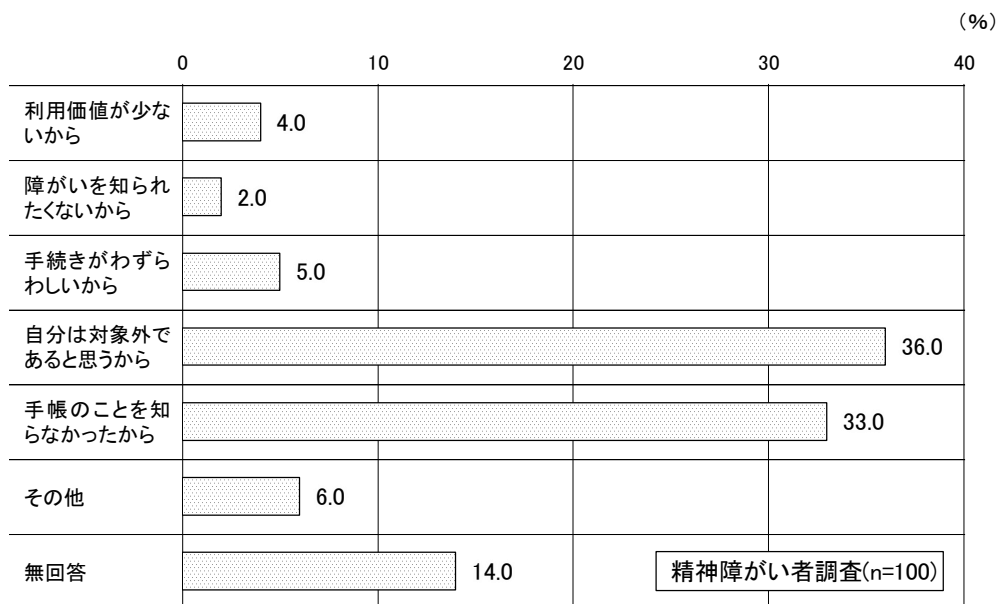
(数値：%)

年齢別にみると、所持者は30～50歳代で多く、「40歳代」(52.6%)は半数を超えている。

(2)精神障がい者保健福祉手帳を持っていない理由

(精神障がい者保健福祉手帳を持っていない方のみお答えください)精神障がい者保健福祉手帳を持っていない主な理由は何ですか。(〇は1つだけ)[精神障がい者:問2-2]

【図表 2-1-29 精神障がい者保健福祉手帳を持っていない理由(全体)】



精神障がい者保健福祉手帳を持っていない理由は、「自分に対象外であると思うから」(36.0%)、「手帳のことを知らなかったから」(33.0%)がともに3割強を占め、多くなっている。

(3) 主な精神障がい

あなたの受けている診断のうち、主なものは何ですか。(〇は1つだけ)[精神障がい者:問3]

【図表 2-1-30 主な精神障がい(全体)】



主な精神障がいでは、「そううつ病・うつ病」が42.0%で最も多く、次いで「統合失調症」(30.1%)となっている。

【図表 2-1-31 主な精神障がい(全体・年齢別)】

	サンプル数	統合失調症(非定型精神病を含む)	そううつ病・うつ病	アルコール依存症を含む)	認知症(高次脳機能障がい等を含む)	神経症(不安神経症、強迫神経症等)	てんかん	人格障がい(アルペルガー症候群、その他)	病名は知らない、聞いていない	無回答
全体	176	30.1	42.0	1.1	0.6	8.0	5.7	1.1	8.0	3.4
年齢別	18~29歳	14	7.1	50.0	-	-	14.3	28.6	-	-
	30~39歳	33	42.4	33.3	-	-	9.1	6.1	3.0	6.1
	40~49歳	38	34.2	50.0	-	-	5.3	2.6	2.6	5.3
	50~59歳	46	32.6	43.5	2.2	-	4.3	4.3	-	6.5
	60~64歳	24	25.0	41.7	-	-	8.3	4.2	-	8.3
	65歳以上	18	11.1	38.9	5.6	5.6	11.1	-	-	27.8
無回答	3	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-	

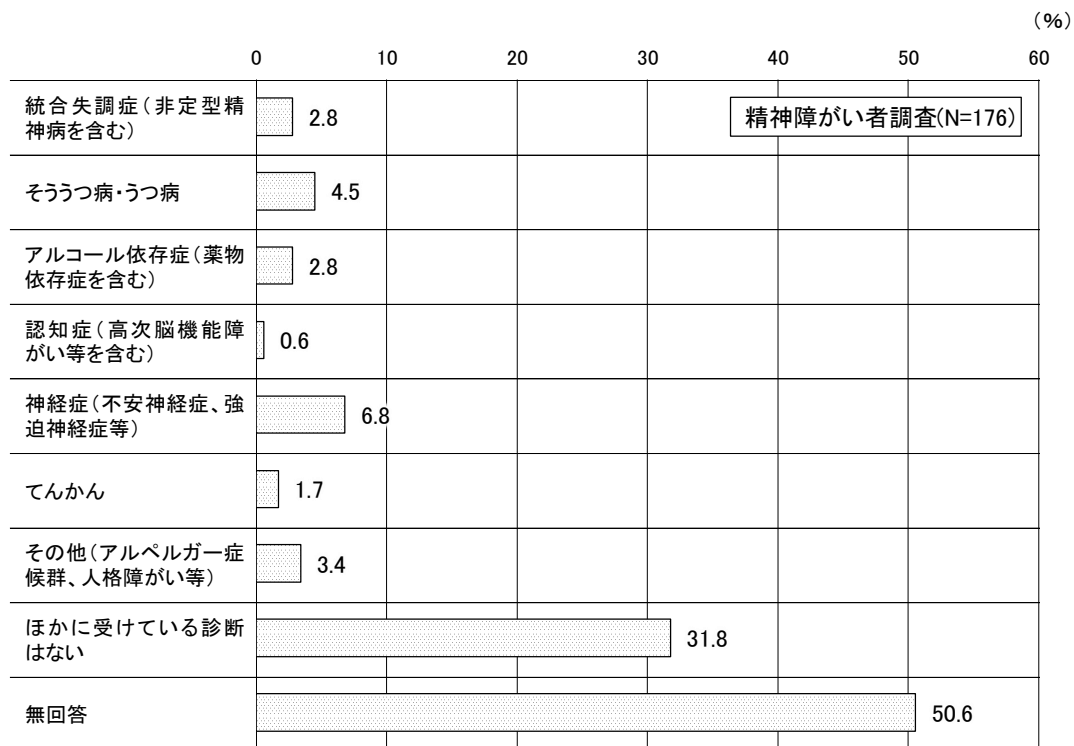
(数値:%)

年齢別にみると、40歳以上では「そううつ病・うつ病」が最も多くなっている。

(4) 主なもののほかに診断を受けている精神障がい

主な精神障がいのほかに受けている診断はありますか。(○はあてはまるものすべて)[精神障がい者:問4]

【図表 2-1-32 主なもののほかに診断を受けている精神障がい(全体)】



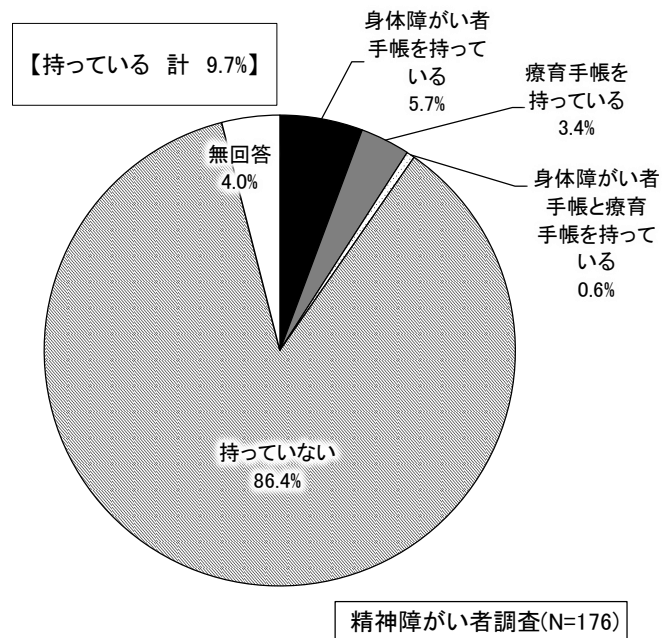
主なものの他に診断を受けている精神障がいについては、「ほかに受けている診断はない」が全体の約 3 割 (31.8%) を占めている。診断内容を見ると、「神経症」(6.8%)、「そううつ病・うつ病」(4.5%) の順が多い。

(5)精神障がい者保健福祉手帳以外の障がい者手帳の有無

あなたは、精神障がい者保健福祉手帳以外の障がい者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

[精神障がい者:問6]

【図表 2-1-33 精神障がい者保健福祉手帳以外の障がい者手帳の有無(全体)】

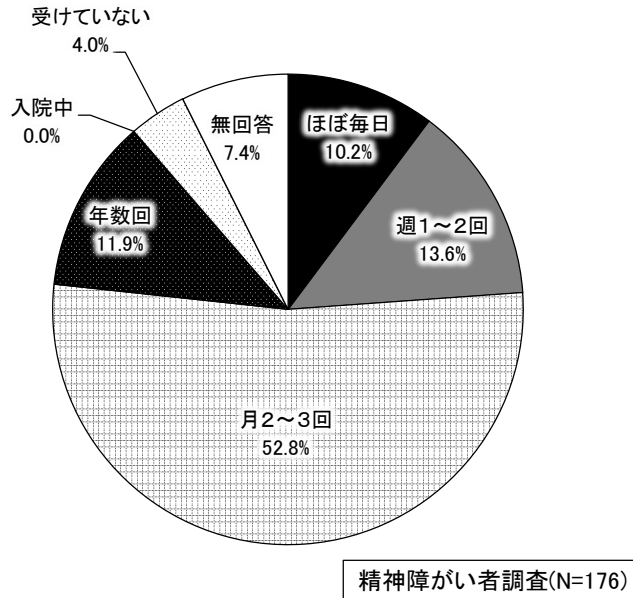


精神障がい者福祉手帳以外の障がい者手帳所持者は全体の約 1 割(9.7%)となっている。所持者の中では「身体障がい者手帳を持っている」(5.7%)人が最も多い。

(6) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況

あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(○は1つだけ)[精神障がい者:問9]

【図表 2-1-34 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体)】



精神障がい者の医師の診察頻度は「月2~3回」(52.8%)が過半数を占めている。
 主な精神障がい別にみると、「統合失調症」の受診頻度が高い結果となっている。

【図表 2-1-35 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体・主な精神障がい別)】

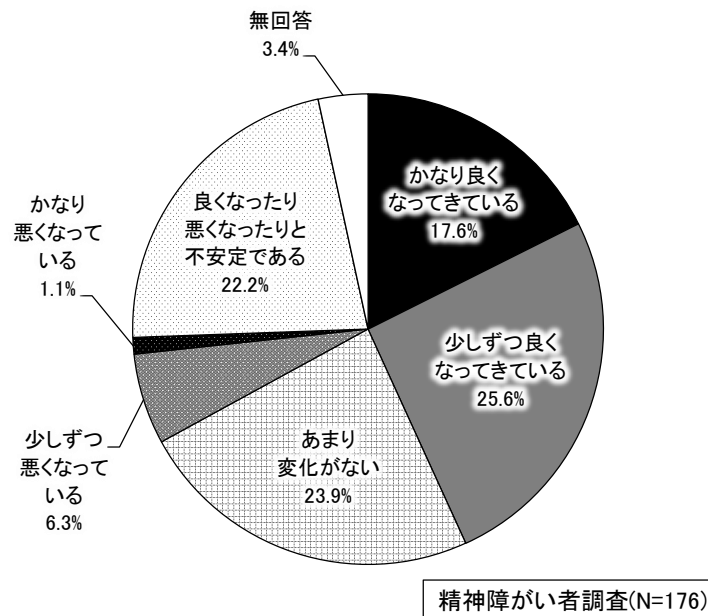
	サンプル数	ほぼ毎日	週1~2回	月2~3回	年数回	入院中	受けていない	無回答	
全体	176	10.2	13.6	52.8	11.9	-	4.0	7.4	
主な精神障がい別	統合失調症(非定型精神病を含む)	53	13.2	20.8	47.2	9.4	-	5.7	3.8
	そううつ病・うつ病	74	5.4	12.2	62.2	9.5	-	4.1	6.8
	アルコール依存症(薬物依存症を含む)	2	50.0	-	50.0	-	-	-	-
	認知症(高次脳機能障がい等を含む)	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	神経症(不安神経症、強迫神経症等)	14	7.1	7.1	57.1	14.3	-	-	14.3
	てんかん	10	-	-	50.0	40.0	-	-	10.0
	その他(アルペルガー症候群、人格障がい等)	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0
	病名は知らない、聞いていない	14	35.7	21.4	28.6	14.3	-	-	-
無回答	6	-	-	33.3	16.7	-	16.7	33.3	

(数値:%)

(7)現在の症状

あなたの今の症状はいかがですか。(○は1つだけ)[精神障がい者:問 13]

【図表 2-1-36 現在の症状(全体)】



精神障がい者の現在の症状について、『良くなってきている』(「かなり良くなってきている」+「少しずつ良くなってきている」と回答した人は 43.2%となっている。

主な精神障がい別にみると、「統合失調症」では『良くなってきている』(58.5%)が約 6 割を占める。

【図表 2-1-37 現在の症状(全体・主な精神障がい別)】

	サンプル数	かなり良くなってきている	少しずつ良くなってきている	あまり変化がない	少しずつ悪くなっている	かなり悪くなっている	良くなったり不安定である	無回答	
全体	176	17.6	25.6	23.9	6.3	1.1	22.2	3.4	
主な精神障がい別	統合失調症(非定型精神病を含む)	53	30.2	28.3	17.0	7.5	-	11.3	5.7
	そううつ病・うつ病	74	6.8	35.1	17.6	6.8	2.7	29.7	1.4
	アルコール依存症(薬物依存症を含む)	2	100.0	-	-	-	-	-	-
	認知症(高次脳機能障がい等を含む)	1	-	-	-	100.0	-	-	-
	神経症(不安神経症、強迫神経症等)	14	14.3	21.4	21.4	7.1	-	35.7	-
	てんかん	10	20.0	10.0	60.0	-	-	10.0	-
	その他(アルペルガー症候群、人格障がい等)	2	-	-	100.0	-	-	-	-
	病名は知らない、聞いていない	14	21.4	-	57.1	-	-	21.4	-
無回答	6	16.7	-	16.7	-	-	33.3	33.3	

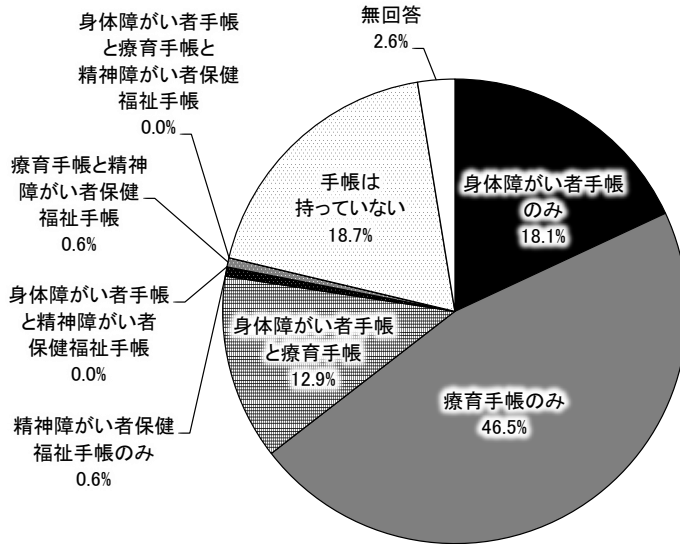
(数値:%)

5. 障がい児の状況

(1) 障がいの状況

あなたのお子さんがお持ちの障がい者手帳の種類は何ですか。(○は1つだけ)[障がい児:問2]

【図表 2-1-38 障がいの状況(全体)】



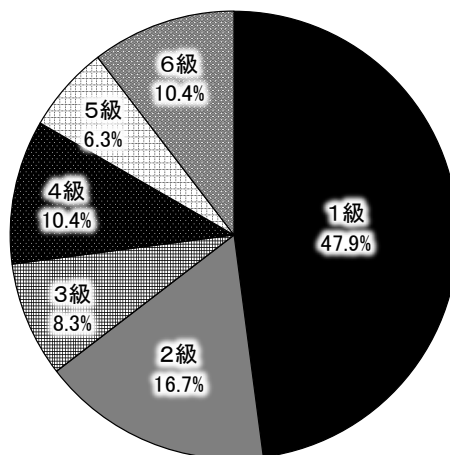
障がい児調査(N=155)

障がい児のうち、障がい者手帳を持っている児童は 78.7%で、そのうち「療育手帳のみ」が 46.5%で最も多い。次いで「身体障がい者手帳のみ」(18.1%)、「身体障がい者手帳と療育手帳」(12.9%)と続く。

(2) 身体障がいの程度(身体障がい者手帳の等級)

(お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください)お子さんの身体障がい者手帳に記載された総合等級は何級ですか。(○は1つだけ)[障がい児:問2-1]

【図表 2-1-38 身体障がいの程度(身体障がい者手帳の等級)(全体)】



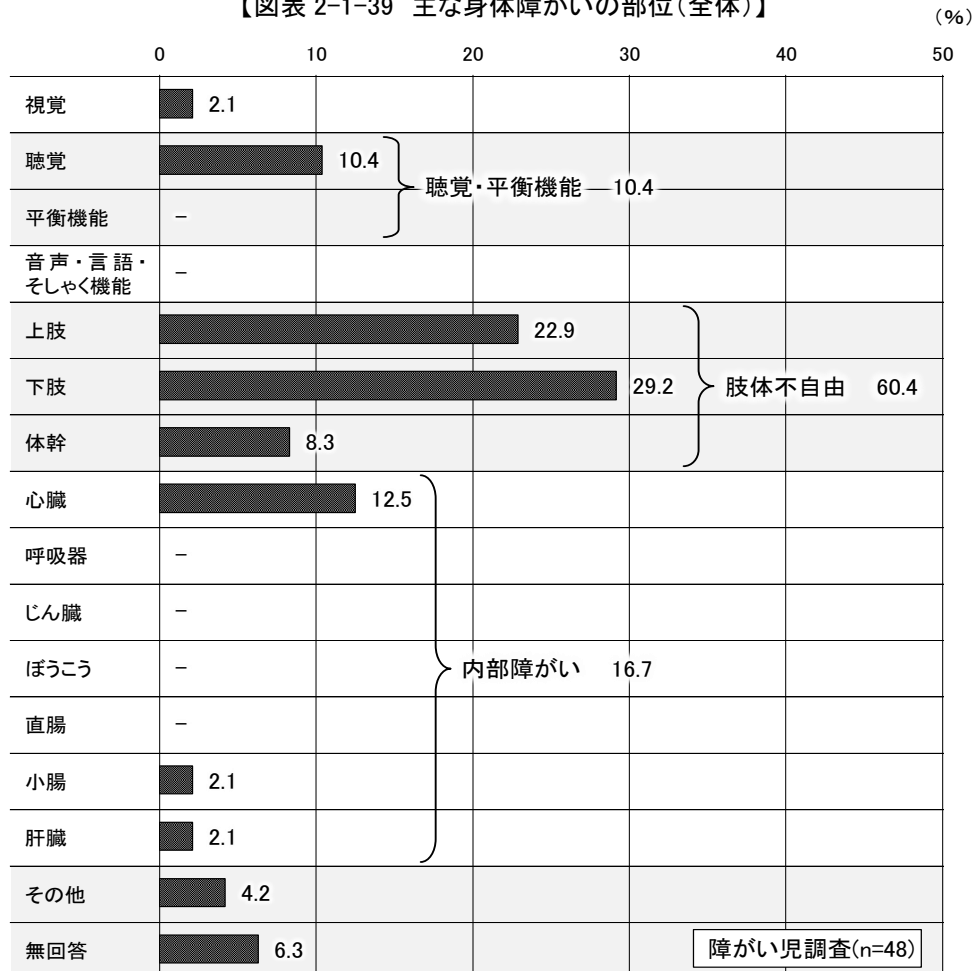
障がい児調査(n=48)

身体障がい者手帳所持者の程度は、「1級」が約半数を占め最も多く、1・2級の重度障がい児は 64.6%となっている。

(3) 主な身体障がいの部位

(お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください) お子さんの身体障がい者手帳に記載されたもののうち、主な障がいはどれですか。(〇は1つだけ)[障がい児:問2-2]

【図表 2-1-39 主な身体障がいの部位(全体)】

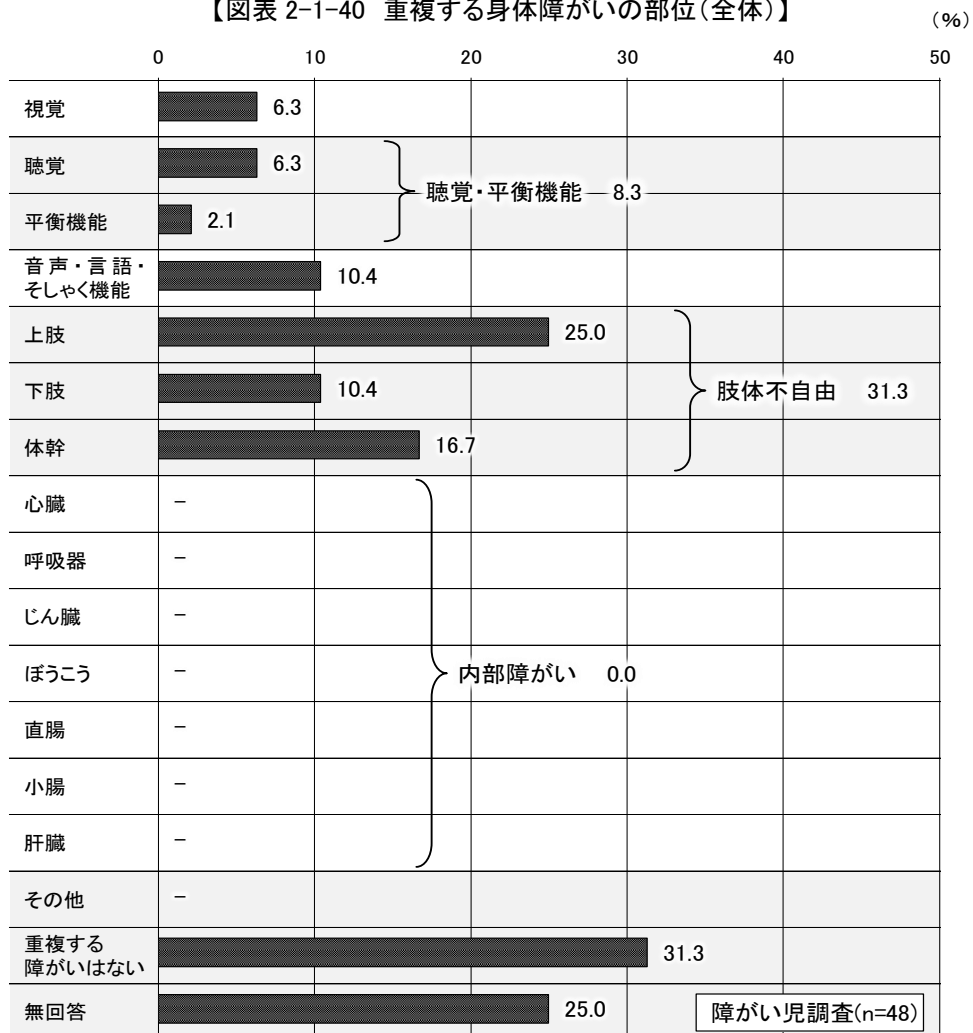


身体障がい児の主な身体障がいの部位(大分類)は、『肢体不自由』(60.4%)が最も多く、次いで『内部障がい』(16.7%)となっている。

(4) 重複する身体障がいの部位

(お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください) 主な障がいのほかに、「重複する障がい」がありますか。(○はあてはまるものすべて)[障がい児:問2-3]

【図表 2-1-40 重複する身体障がいの部位(全体)】



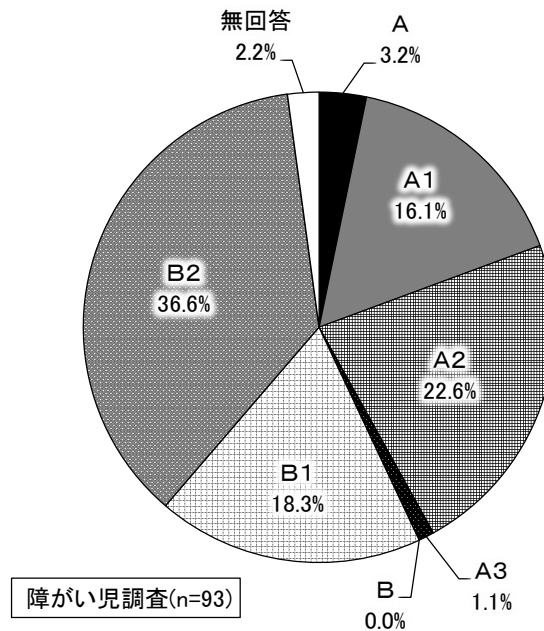
※この質問は複数回答であり、重複障がいの大分類は、小分類のいずれか1つ以上を選択している人の割合である。このため、小分類の合計は大分類の値を超える。

主な身体障がい以外に重複する身体障がいの部位については、『肢体不自由』と「重複する障がいはない」がともに 31.3% で最も多くなっている。

(5) 知的障がいの程度(療育手帳の判定)

(お子さんが療育手帳をお持ちの方のみお答えください)あなたのお子さんの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。(○は1つだけ)[障がい児:問2-4]

【図表 2-1-41 知的障がいの程度(療育手帳の判定)(全体)】

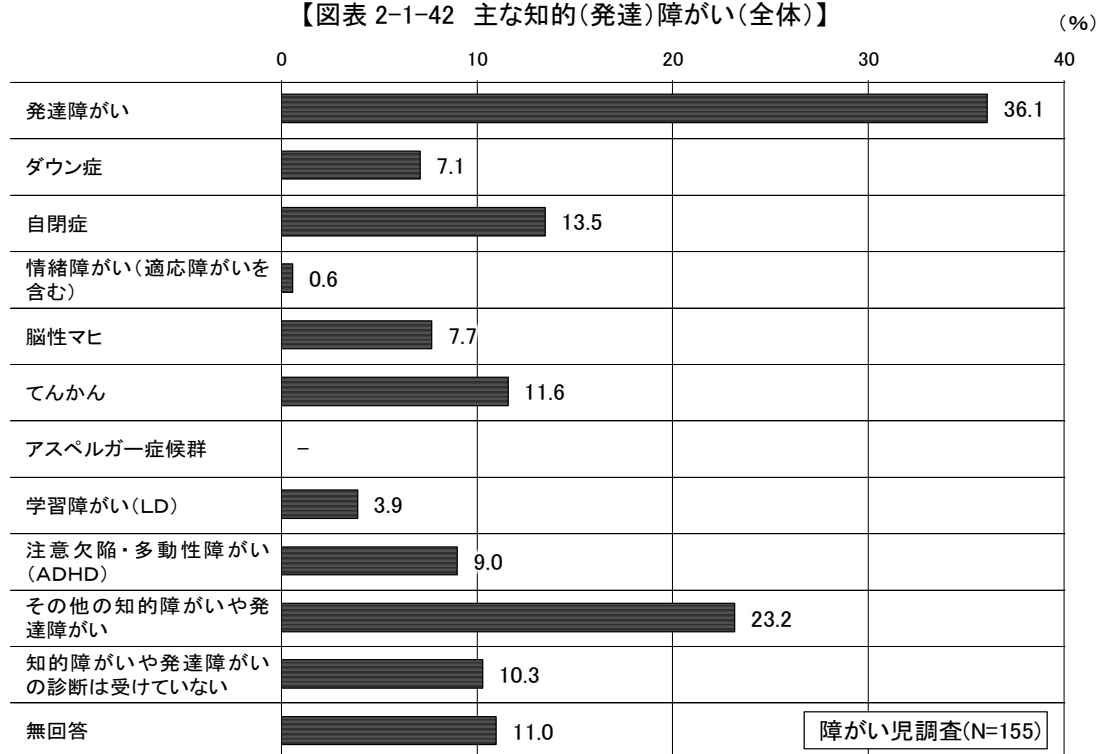


知的障がい児の障がいの程度(療育手帳の判定)は、療育手帳 A(A～A3)が43.0%、療育手帳 B(B～B2)が54.9%となっている。

(6) 主な知的(発達)障がい

あなたのお子さんは、以下のような診断を受けていますか。(○はあてはまるものすべて)[障がい児:問3]

【図表 2-1-42 主な知的(発達)障がい(全体)】

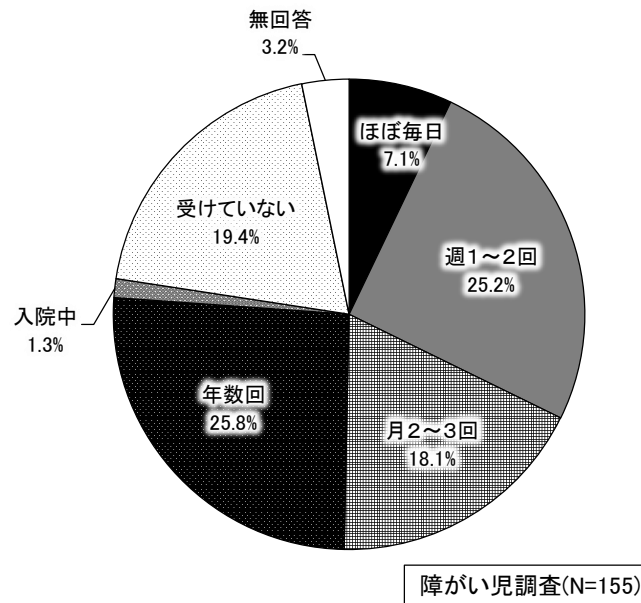


障がい児の主な知的(発達)障がいは、「発達障がい」が 36.1%でやや突出している。「その他の知的障がいや発達障がい」(23.2%)、「自閉症」(13.5%)、「てんかん」(11.6%)なども多い。

(7) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況

お子さんは、現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(○は1つだけ)[障がい児:問6]

【図表 2-1-43 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体)】



障がい児の医療機関や施設などで定期的に医師の診察を受けている状況については、「年数回」(25.8%)、「週1~2回」(25.2%)の順で多い。なお、「受けていない」児童も全体の約2割(19.4%)を占めている。

6. 難病患者の状況

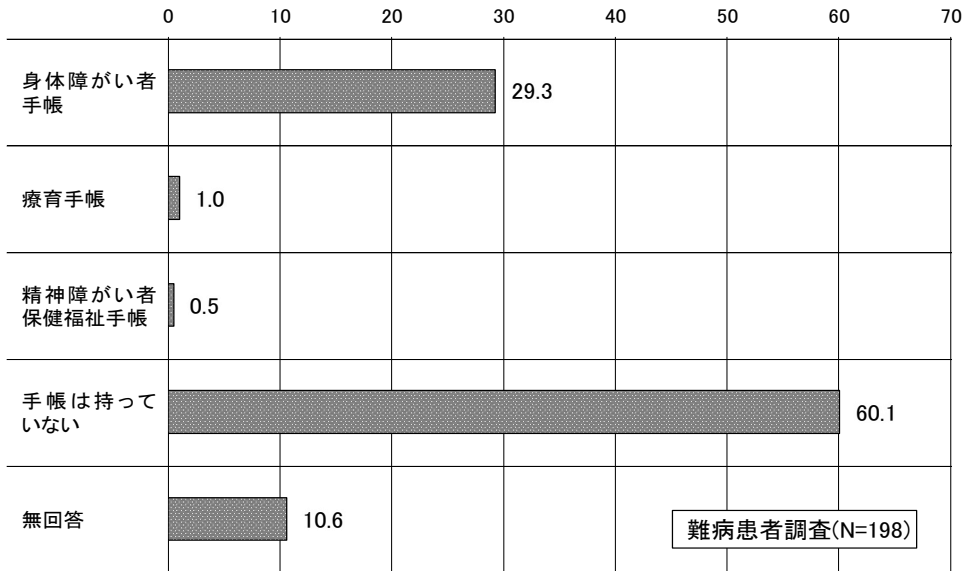
(1) 障がい者手帳の有無

あなたは障がい者手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級・判定もご記入下さい。(○はいくつでも)

[難病患者:問2]

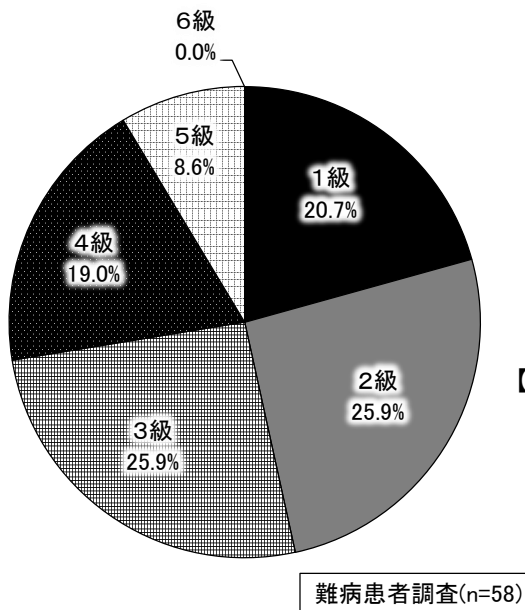
【図表 2-1-44 障がい者手帳の有無(全体)】

(%)



難病患者の障がい者手帳の有無は、「手帳は持っていない」が約 6 割を占め突出して多い。次いで「身体障がい者手帳」(29.3%)が約 3 割を占めている。

【図表 2-1-45 身体障がい者手帳の等級(全体)】



【図表 2-1-46 療育手帳の判定(全体)】

サンプル数	A	B
100.0	50.0	50.0
2	1	1

(数値 上段:%, 下段:件数)

【図表 2-1-47 精神障がい者保健福祉手帳の等級(全体)】

サンプル数	1級	2級	3級
100.0	-	100.0	-
1	-	1	-

(数値 上段:%, 下段:件数)

身体障がい者手帳所持者の等級をみると、「2級」と「3級」が 25.9%で最も多い。

(2) 特定疾患医療受給者証を受けている疾病

特定疾患医療受給者証を受けている疾病はどれですか。(〇はあてはまるものすべて)[難病患者:問4]

【図表 2-1-48 特定疾患医療受給者証を受けている疾病(全体)】

(%)

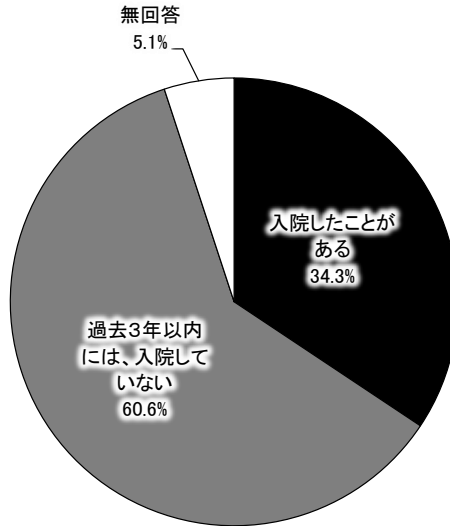
	0	5	10	15	20
ベーチェット病	2.5				
多発性硬化症	2.0				
重症筋無力症	1.5				
全身性エリテマトーデス	6.1				
再生不良性貧血	2.0				
サルコイドーシス	1.5				
筋萎縮性側索硬化症	1.5				
強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	5.1				
特発性血小板減少性紫斑病	2.5				
結節性動脈周囲炎	1.0				
潰瘍性大腸炎	16.7				
大動脈炎症候群	0.5				
天疱瘡	0.5				
脊髄小脳変性症	5.6				
クローン病	4.5				
悪性関節リュウマチ	1.0				
パーキンソン病	12.1				
後縦靭帯骨化症	6.1				
モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	3.0				
ウェゲナー肉芽腫症	1.0				
特発性拡張型(うっ血型)心筋症	2.0				
濃泡性乾癬	0.5				
広範脊柱管狭窄症	1.0				
原発性胆汁性肝硬変	2.0				
特発性大腿骨頭壊死症	3.0				
混合性結合組織病	1.5				
原発性免疫不全症候群	1.0				
特発性間質性肺炎	2.0				
網膜色素変性症	3.5				
肺動脈性肺高血圧症	1.0				
脊髄性筋萎縮症	1.0				
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	0.5				
肥大型心筋症	0.5				
ミトコンドリア病	0.5				
黄色靭帯骨化症	1.5				
間脳下垂体機能障害	2.5				
無回答	2.5				

特定疾患医療受給者証を受けている疾病は、「潰瘍性大腸炎」(16.7%)、「パーキンソン病」(12.1%)が 1 割強を占め多い。

(3) 特定疾患医療受給者証を受けている病気による入院の有無(過去3年以内)

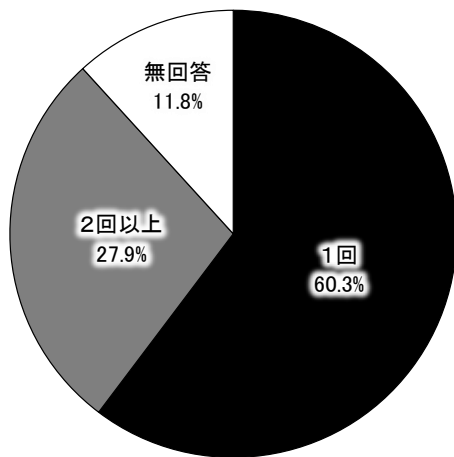
特定疾患医療受給者証を受けている病気のために、過去3年以内に入院しましたか。(○は1つ)[難病:問5]
 (入院したことがある方のみお答えください)過去3年以内の入院回数はどれくらいですか。[難病:問5-1]
 (入院したことがある方のみお答えください)過去3年以内の入院期間は通算どれくらいですか。(○は1つだけ)。
 [難病患者:問5-2]

【図表 2-1-49 入院の有無(過去3年以内)(全体)】



難病患者調査(N=198)

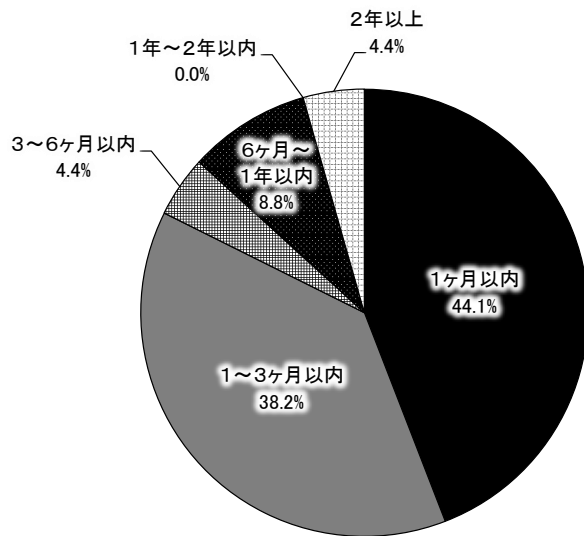
【図表 2-1-50 入院回数(過去3年以内)(全体)】



難病患者調査(n=68)

【平均 1.8回】

【図表 2-1-51 入院期間(過去3年以内の通算)(全体)】



難病患者調査(n=68)

特定疾患医療受給証を受けている病気のための入院について、「入院したことがある」と回答した人は全体の3割強であった。

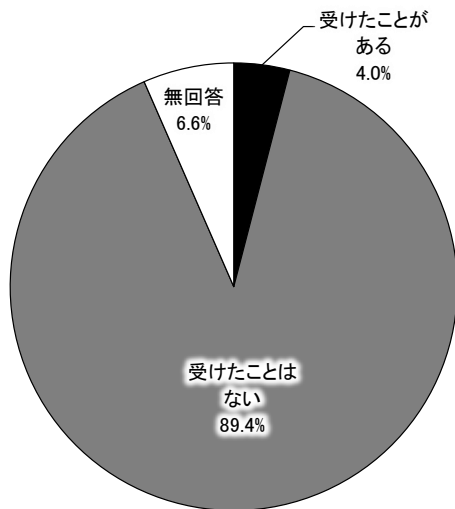
入院したことがある人の中で入院回数を尋ねると、「1回」(60.3%)が最も多く、入院期間では「1ヶ月以内」(44.1%)が全体の5割弱を占め最も多い。

(4) 健康保険のきかない治療の有無(過去3年以内)

過去3年以内に、特定疾患医療受給者証を受けている病気の治療で健康保険がきかない治療を受けたことがありますか。(○は1つだけ)[難病患者:問6]

(受けたことがある方のみお答えください)健康保険がきかなかった治療内容(治療費、差額ベッド代など)と過去3年間のおおよその費用総額を記入してください。[難病患者:問6-1]

【図表 2-1-52 健康保険のきかない治療の有無(過去3年以内)(全体)】



難病患者調査(N=198)

健康保険のきかない治療経験有無をきくと、「受けたことはない」(89.4%)が約9割を占める。

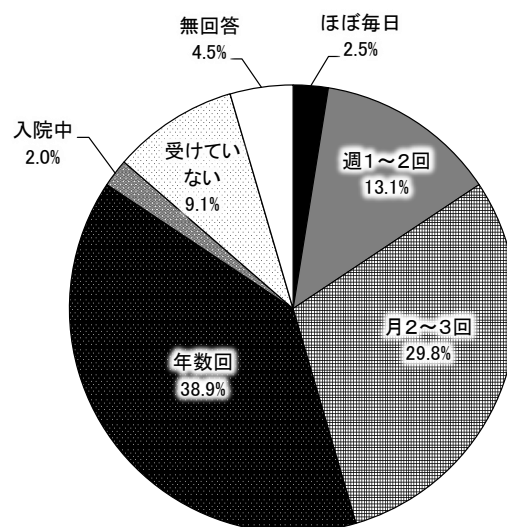
【図表 2-1-53 治療内容(全体)】

治療内容	過去3年間に支払ったおおよその費用総額
Lキャップ	約 80万円
IgGサブクラス分画	約 30万円
内科、整形外科、歯科	約 10万円
投薬	無回答
ひざ切開	無回答
化膿性胸椎炎	無回答

(5) 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況

あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(○は1つだけ)[難病患者:問9]

【図表 2-1-54 医療機関や施設などでの定期的な医師の診察の受診状況(全体)】



難病患者調査(N=198)

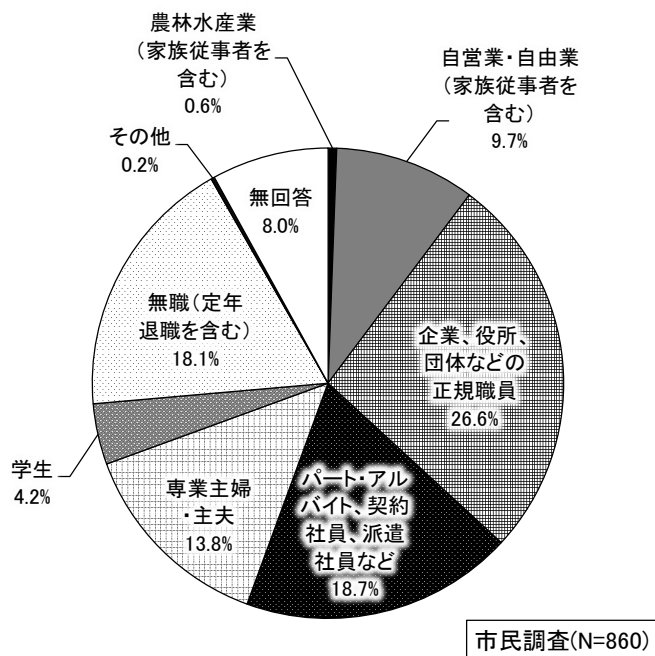
難病患者の診察の受診状況は、「年数回」が38.9%で最も多い。次いで、「月2~3回」(29.8%)、「週1~2回」(13.1%)となっている。

7. 市民の状況

(1) 職業

[市民:F3]

【図表 2-1-55 職業(全体)】



市民調査の対象者の職業は、「企業、役所、団体などの正規職員」(26.6%)が最も多く、続いて「パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など」(18.7%)、「無職(定年退職を含む)」(18.1%)となっている。

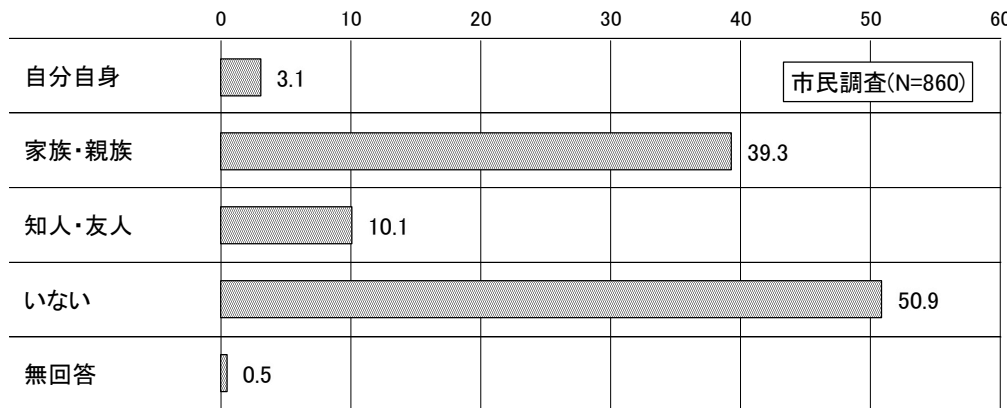
(2) 身近における要介護者の有無

あなたの身近に、身のまわりのお世話（介護）を必要とする方がいらっしゃいますか。（○はあてはまるものすべて）[市民:問4]

（問4で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）その方はどのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）[市民:問4-1]

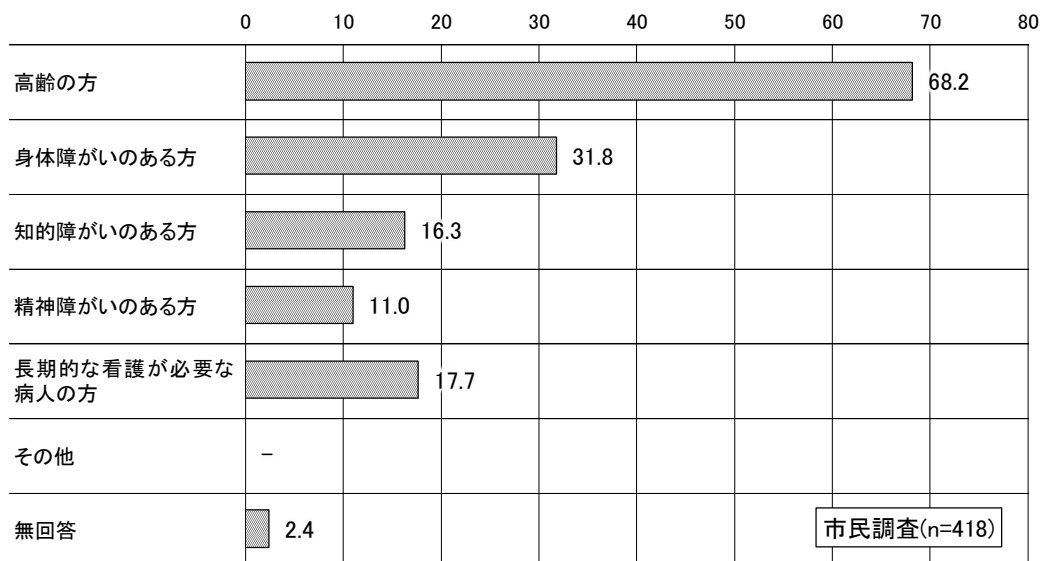
【図表 2-1-56 身近における要介護者の有無(全体)】

(%)



【図表 2-1-57 要介護者の属性(全体)】

(%)



市民に対して、身近における要介護者の有無を尋ねると「いない」(50.9%)が全体の半数を占める。一方で、「家族・親族」と回答した人も全体の約4割を占めている。

身近に要介護者有りと回答した人の中で、要介護者の属性をきくと「高齢の方」が68.2%を占め突出して高い。次いで、「身体障がいのある方」(31.8%)、「長期的な看護が必要な病人の方」(17.7%)、「知的障がいのある方」(16.3%)となっている。

第2節 日常生活について

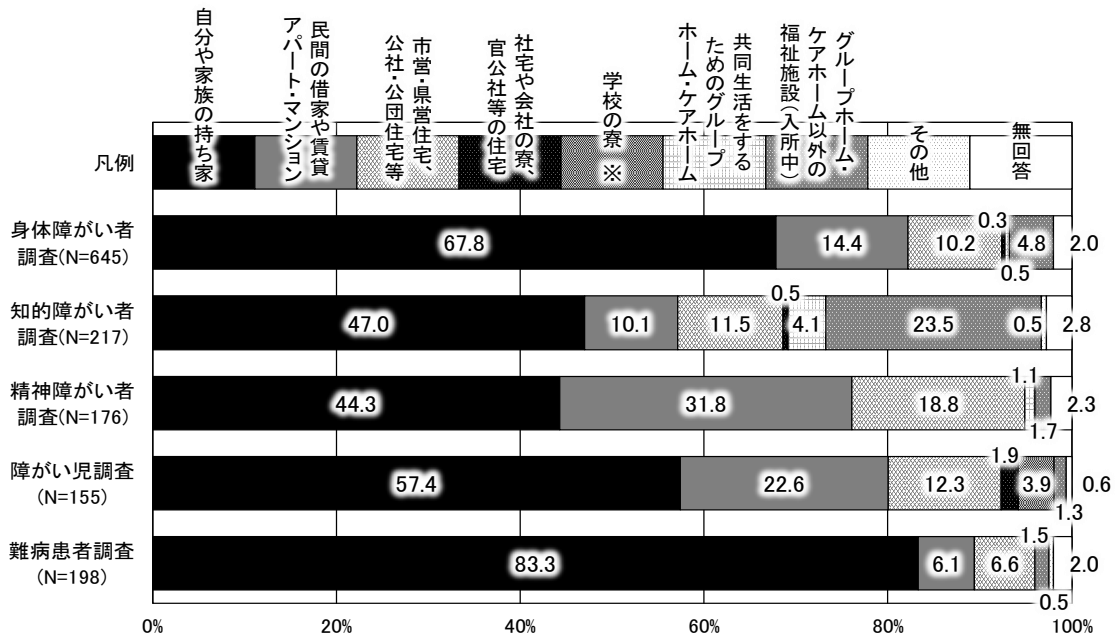
1. 生活状況

(1)現在の住まい

あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 10、知的障がい者:問 11、精神障がい者:問 11、障がい児:問7、難病患者:問 11]

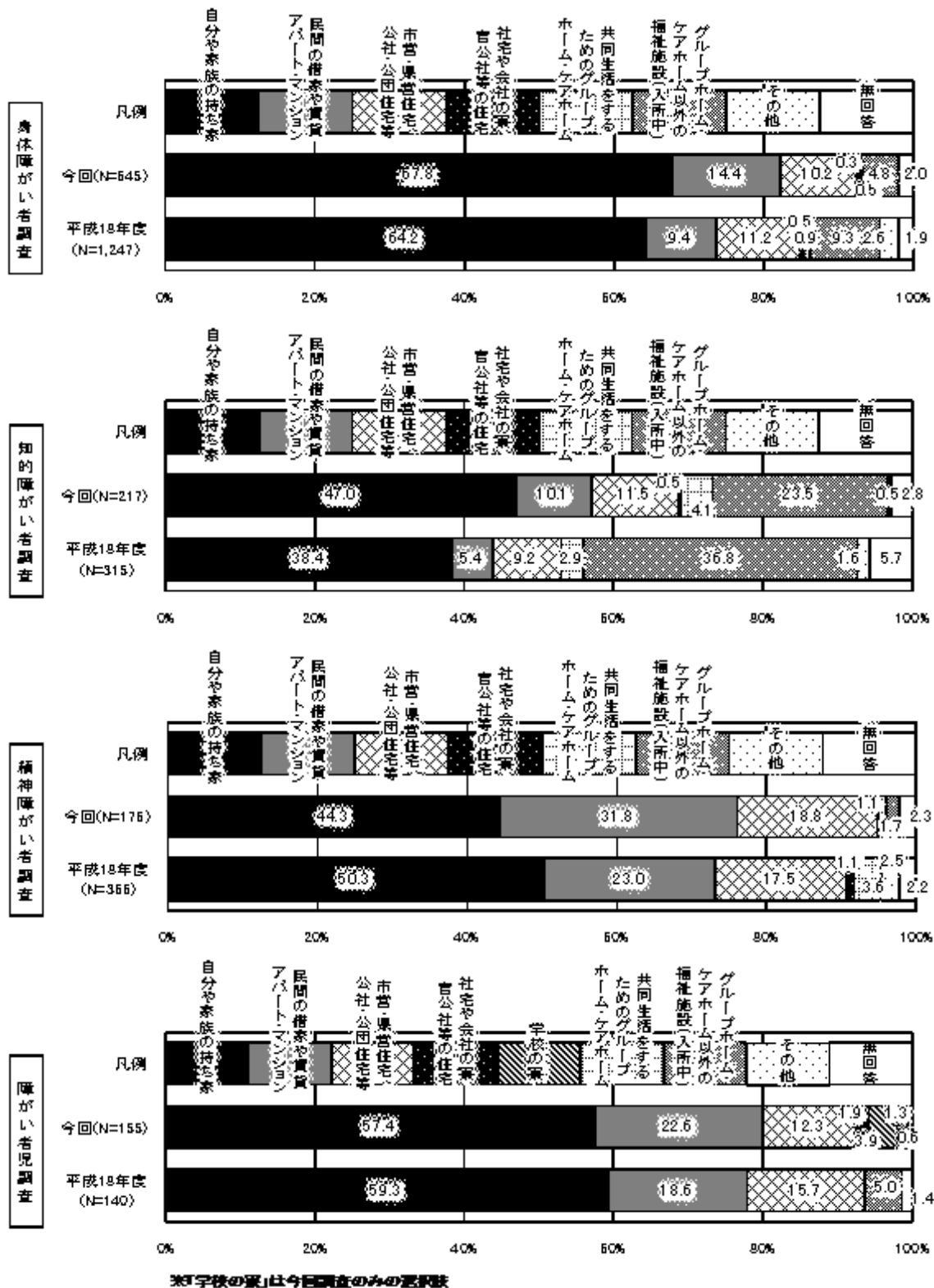
【図表 2-2-1 現在の住まい(全体・調査別)】



※「学校の寮」は、『障がい児調査』のみの質問項目。

現在の住まいは、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児・難病患者のいずれにおいても「自分や家族の持ち家」(身体障がい者:67.8%、知的障がい者:47.0%、精神障がい者:44.3%、障がい児:57.4%、難病患者:83.3%)が最も多い。

【図表 2-2-2 現在の住まい(全体・時系列)】



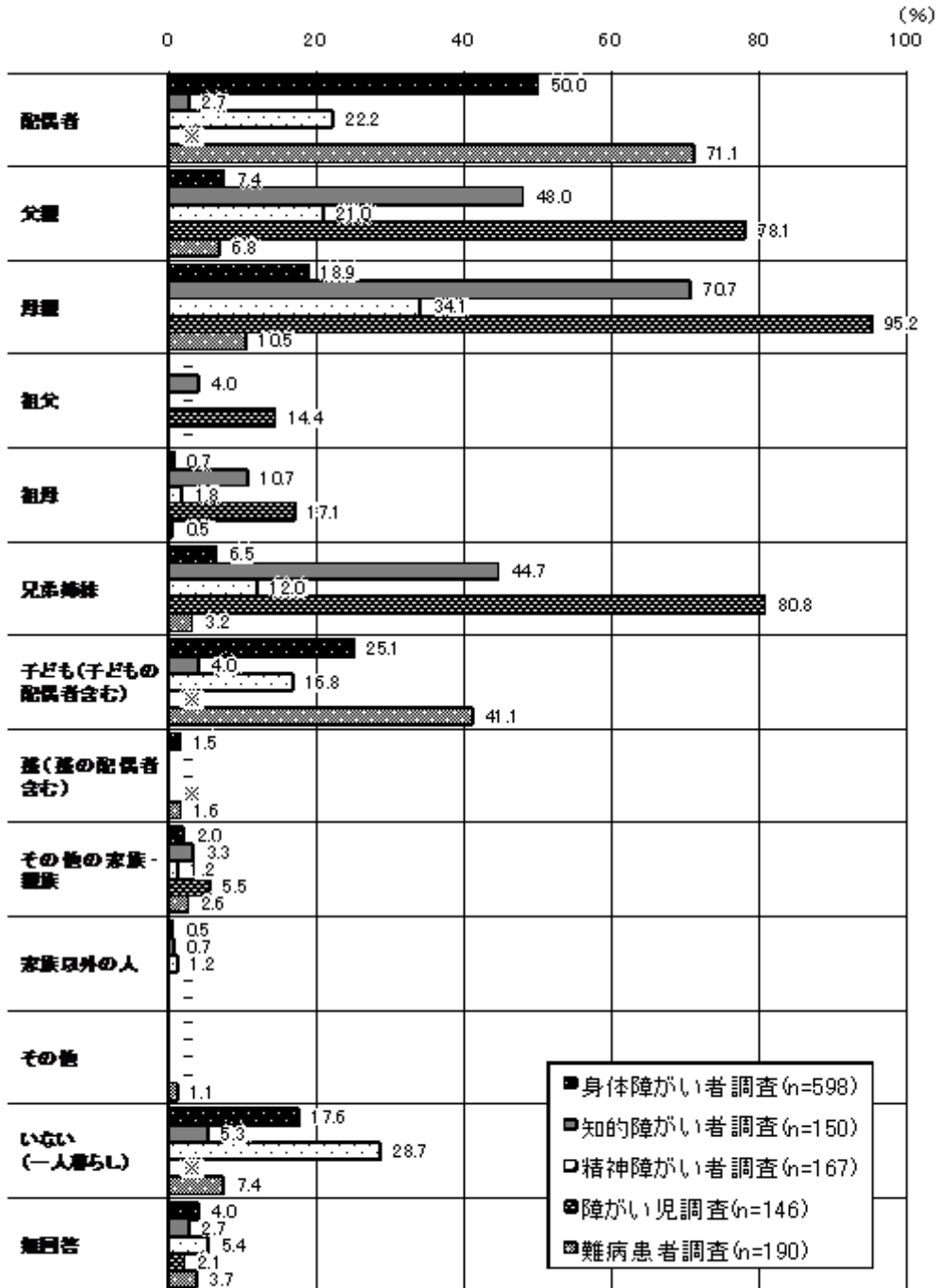
平成 18 年度調査結果と比べると、いずれも「持ち家」が最も多く、知的障がい者については「福祉施設」(平成 18 年度調査:36.8%、今回調査:23.5%)の割合が減少している。

※【全調査共通】…「共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム」の平成 18 年度の数値は平成 18 年度調査の選択肢「グループホーム等(地域)」と「グループホーム等(医療機関等の敷地内)」を合計したもの
 ※【障がい児調査】…「学校の寮」は今回調査のみの選択肢

(2) 在宅生活者の同居者

(在宅生活の方のみお答えください)あなたは、現在、どなたと同居していますか。(〇はあてはまるものすべて)
 [身体障がい者:問10-1、知的障がい者:問11-1、精神障がい者:問11-1、障がい児:問7-1、難病患者:問11-1]

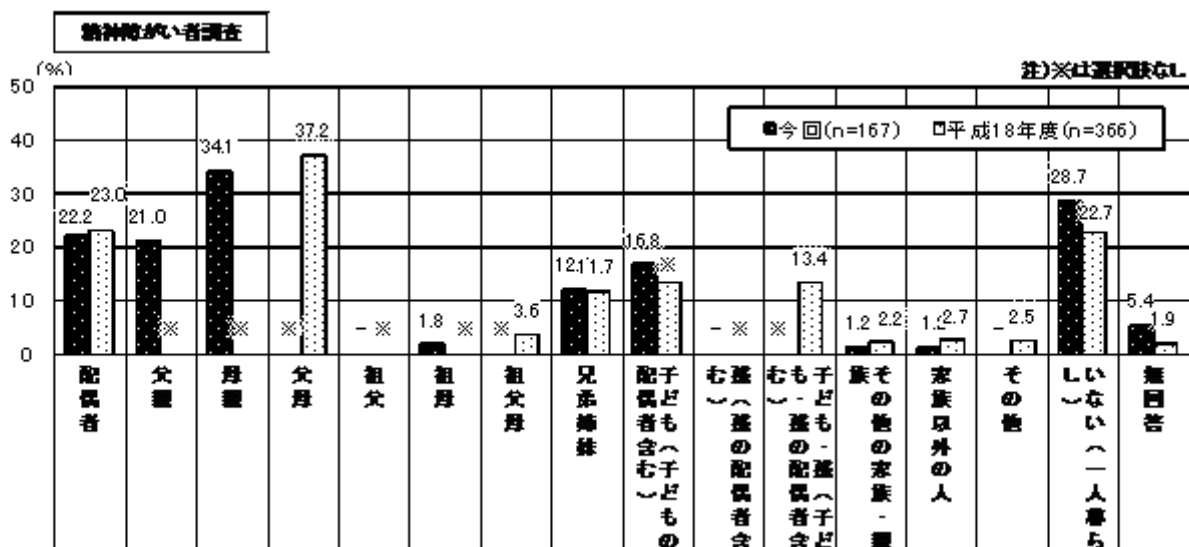
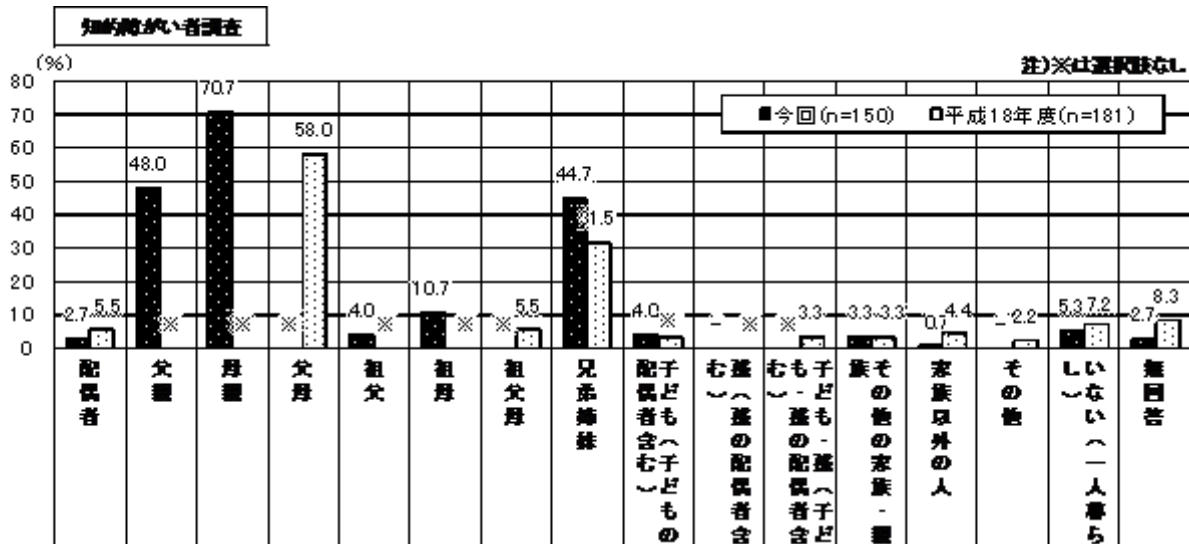
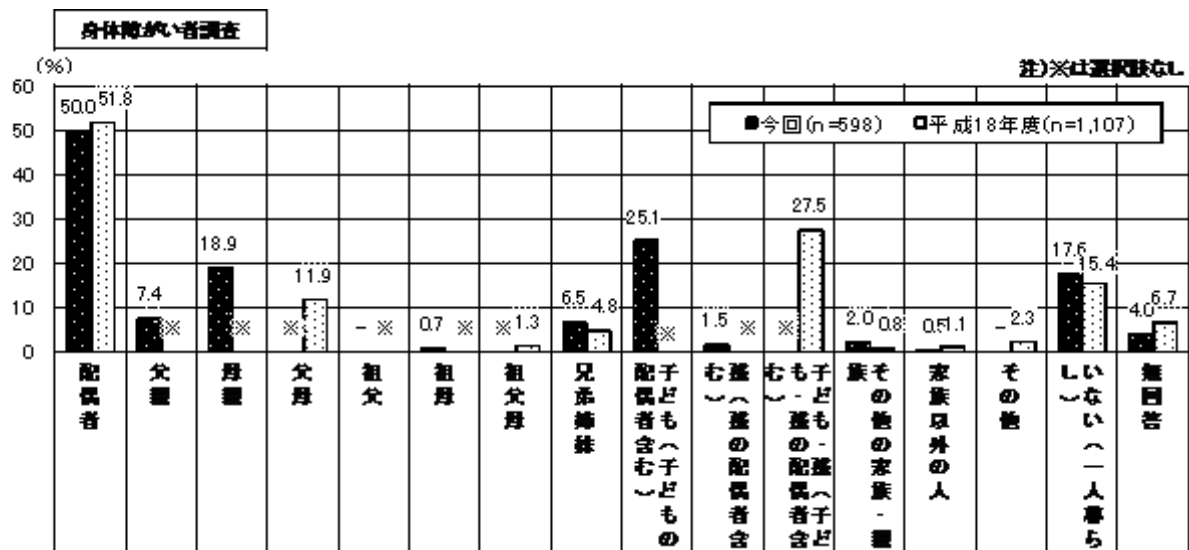
【図表 2-2-3 在宅生活者の同居者(全体・調査別)】

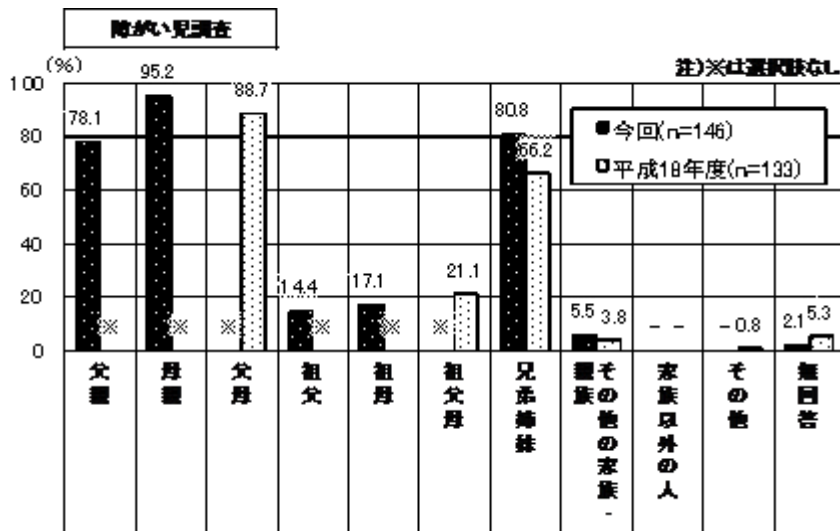


※障がい児調査は、「配偶者」「子ども(子どもの配偶者含む)」「孫(孫の配偶者含む)」「いない(一人暮らし)」を複数選択として設定していない。

在宅生活者の同居者は、身体障がい者及び難病患者では「配偶者」(身体:50.0%、難病:71.1%)、知的障がい者、精神障がい者及び障がい児では「母親」(知的:70.7%、精神:34.1%、障がい児:95.2%)がそれぞれ最も割合が高い。

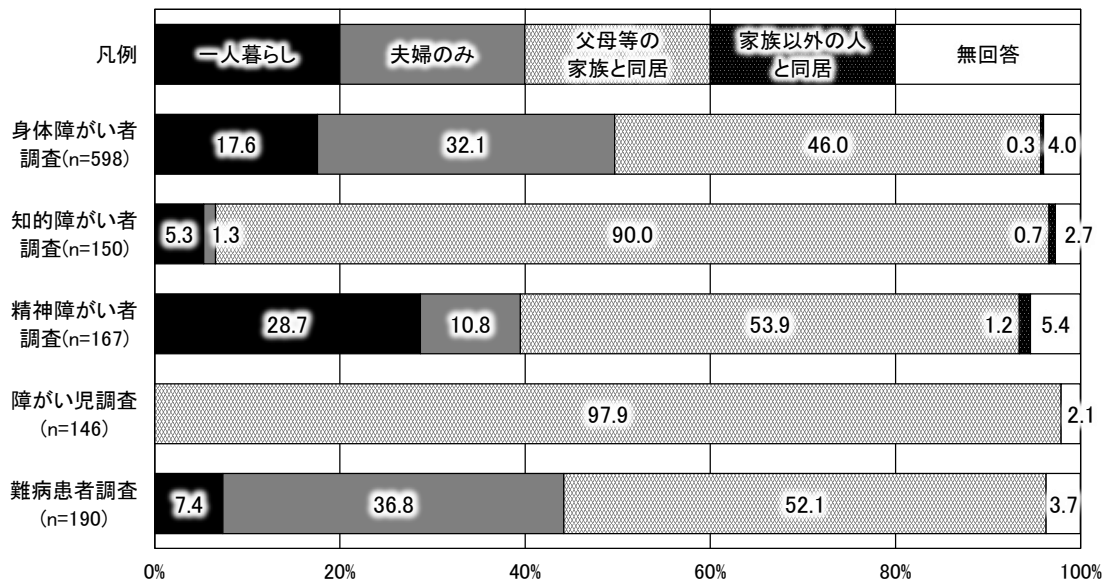
【図表 2-2-4 在宅生活者の同居者(全体・時系列)】





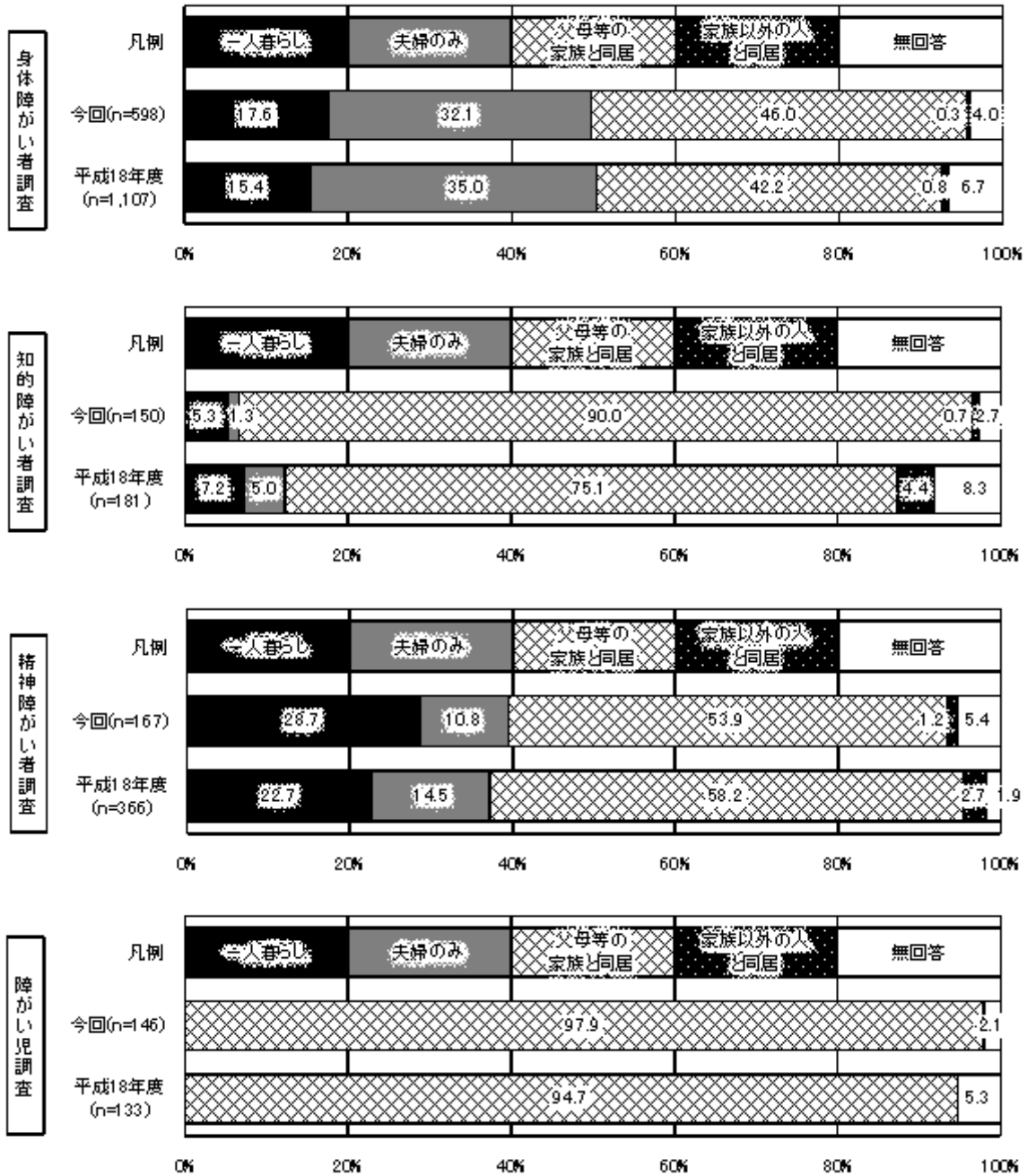
選択肢が異なるため正確な比較はできないが、平成 18 年度調査と比較すると、身体障がい者は「配偶者」、それ以外は「母親」(平成 18 年度調査では「父母」)が最も多く、大きな変化はみられない。

【図表 2-2-5 在宅生活者の家族構成(全体・調査別)】



同居家族の状況から家族構成をみると、いずれにおいても「父母等の家族と同居」(身体障がい者:46.0%、知的障がい者:90.0%、精神障がい者:53.9%、障がい児:97.9%、難病患者:52.1%)が最も多い。身体障がい者、難病患者では「夫婦のみ」(身体障がい者:32.1%、難病患者:36.8%)、精神障がい者では「一人暮らし」(28.7%)が他に比べて割合が高くなっている。

【図表 2-2-6 在宅生活者の家族構成(全体・時系列)】

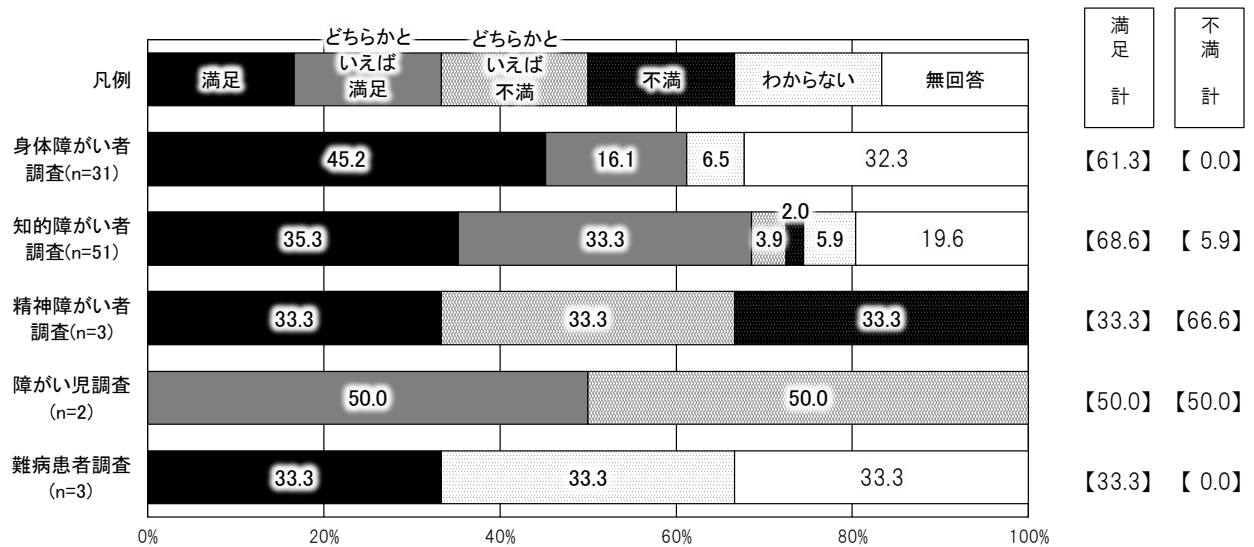


平成 18 年度調査と比較すると、いずれも大きな変化はみられない。

(3) 施設入所者の生活満足度

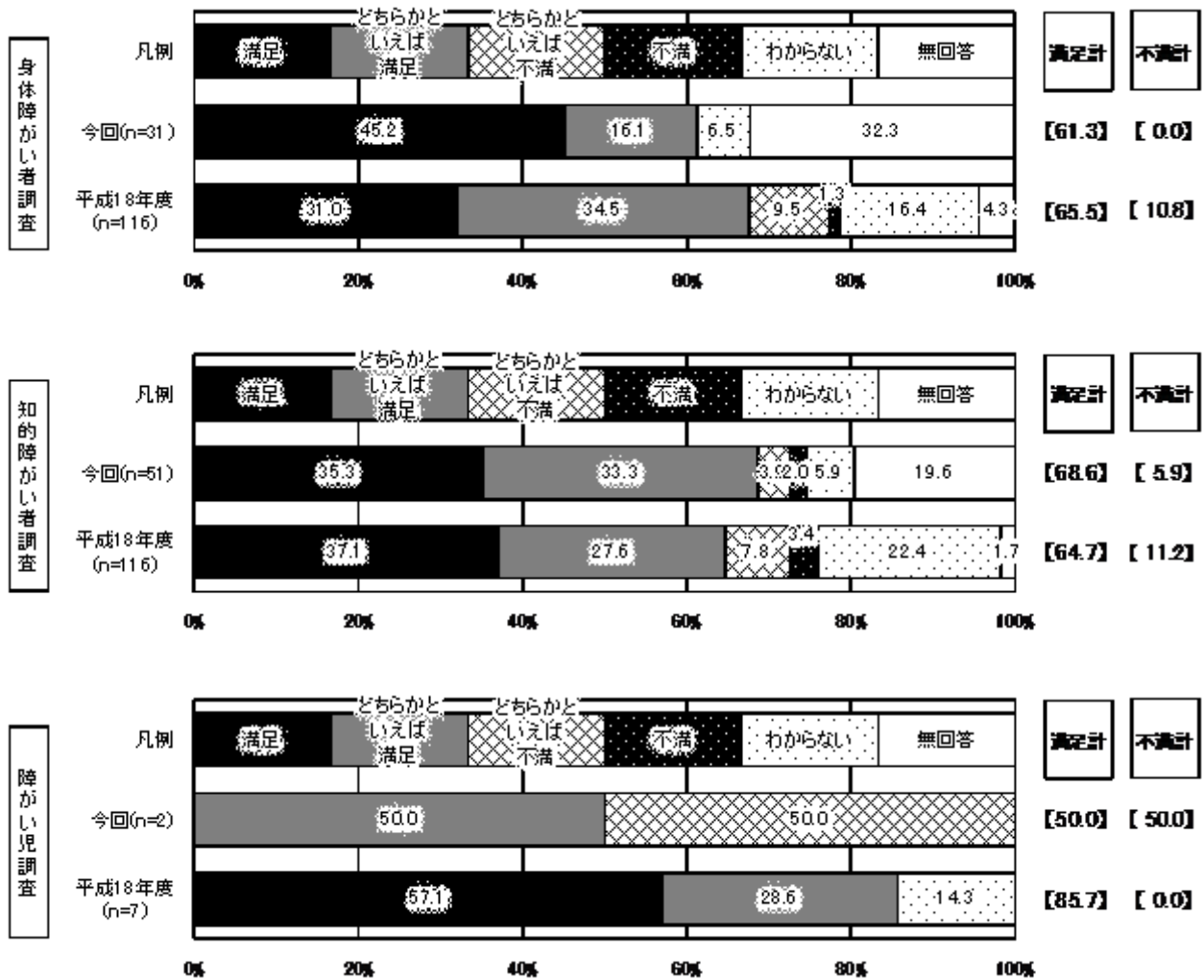
(施設入所の方のみお答えください) 現在入所している施設での生活に満足していますか。(○は1つだけ)
 [身体障がい者:問 10-2、知的障がい者:問 11-2、精神障がい者:問 11-2、障がい児:問7-2、難病患者:問 11-2]

【図表 2-2-7 施設入所者の生活満足度(全体・調査別)】



福祉施設入所者の入所施設に対する満足度をみると、『満足』(「満足」+「どちらかといえば満足」と回答した割合が多かったのは、身体障がい者(61.3%)、知的障がい者(68.6%)、難病患者(33.3%)であった。一方、精神障がい者は『不満』(「不満」+「どちらかといえば不満」と回答した割合が高い。

【図表 2-2-8 施設入所者の生活満足度(全体・時系列)】

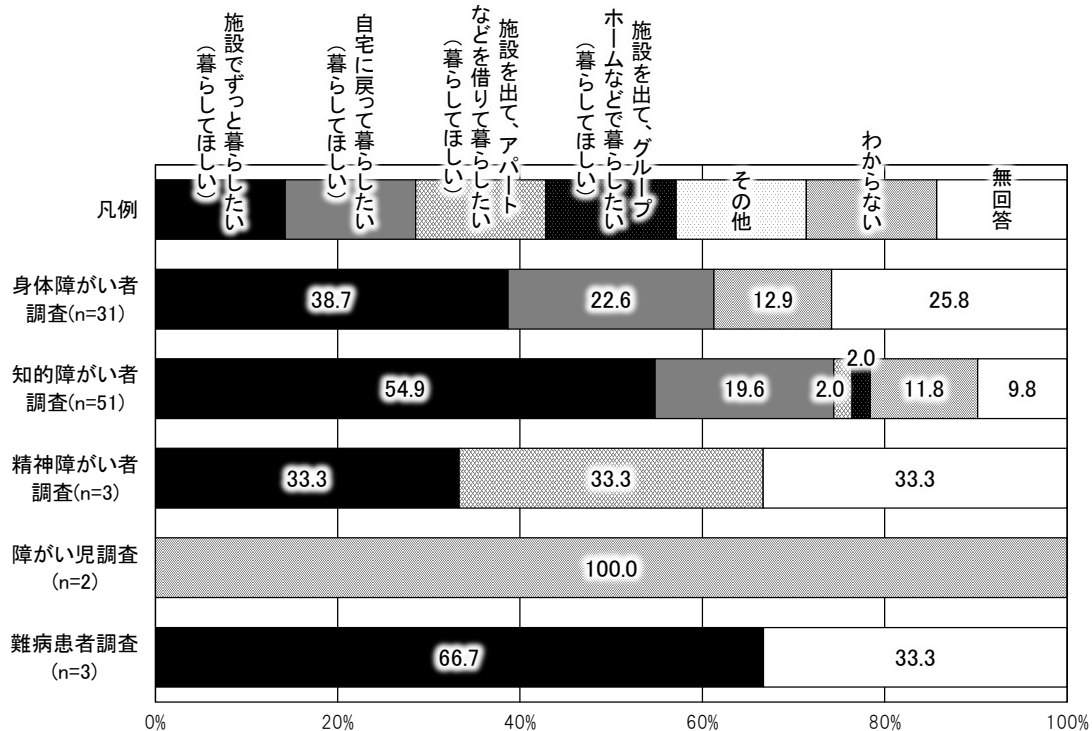


平成18年度調査と比較すると、障がい児の満足度がやや減少している。(平成18年度調査:85.7%、今回調査:50.0%)

(4) 施設入所者が希望する将来の暮らし方

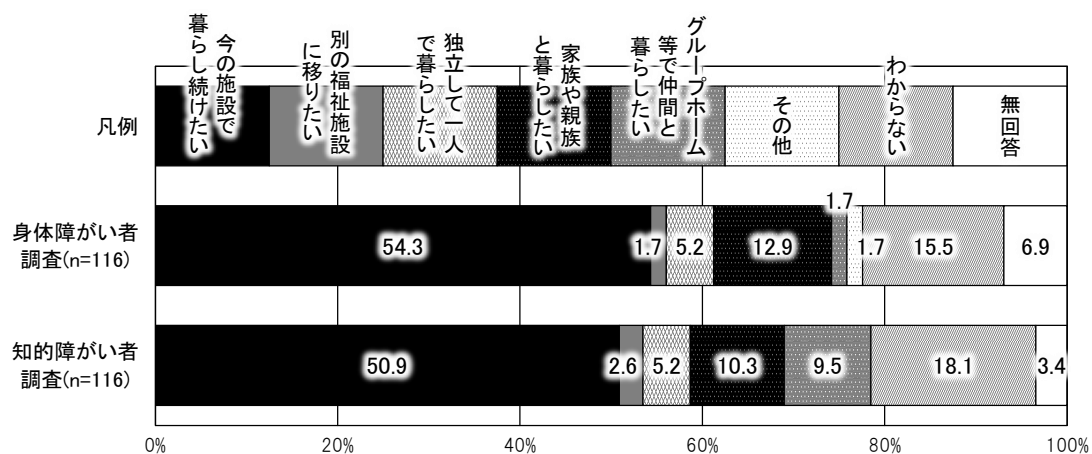
(施設入所の方のみお答えください)あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(○は1つだけ)
 [身体障がい者:問 10-3、知的障がい者:問 11-3、精神障がい者:問 11-3、障がい児:問7-3、難病患者:問 11-3]

【図表 2-2-9 施設入所者が希望する将来の暮らし方(全体・調査別)】



福祉施設入所者が希望する将来の暮らし方は、身体障がい者、知的障がい者、難病患者は「施設ですつと暮らしたい」(身体障がい者:38.7%、知的障がい者:54.9%、難病患者:66.7%)が最も多く、特に知的障がい者は半数以上が回答している。

【図表 2-2-10 施設入所者が希望する将来の暮らし方(平成 18 年度調査)】

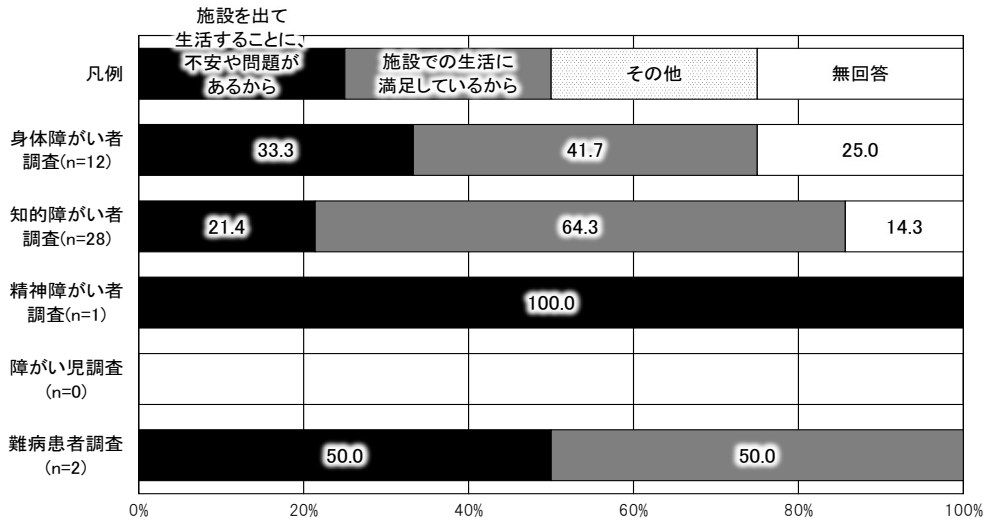


回答項目がやや異なるため参考値程度に留めるが、平成 18 年度調査と比べると、身体障がい者は施設で暮らしたいと考える方の割合が減少している。

(5) 施設入所者が施設ですっと暮らしたい理由

（「施設ですっと暮らしたい(暮らしてほしい)」を選んだ方のみお答えください)その理由はなぜですか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問 10-4、知的障がい者:問 11-4、精神障がい者:問 11-4、障がい児:問7-4、難病患者者:問 11-4]

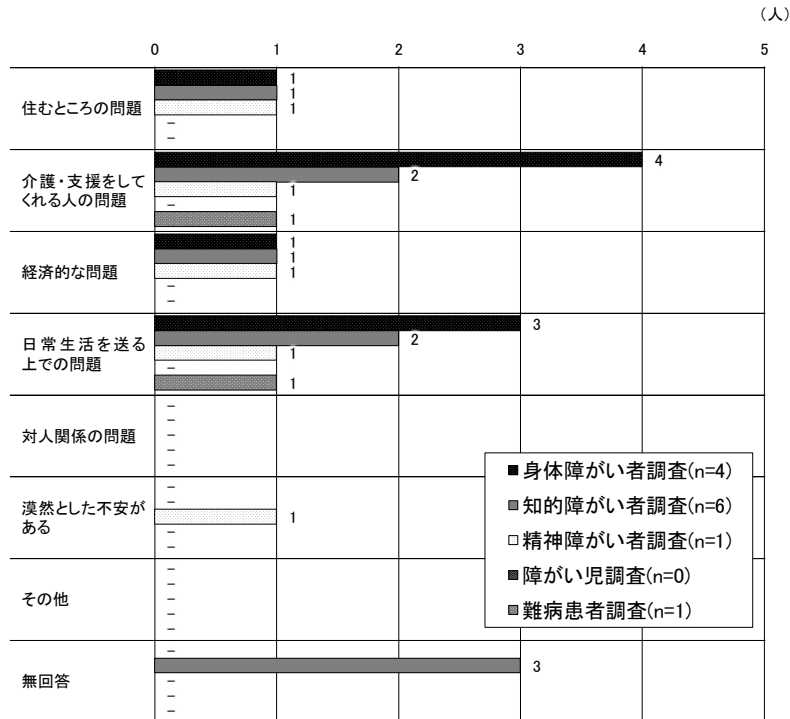
【図表 2-2-11 施設入所者が施設ですっと暮らしたい理由(全体・調査別)】



施設ですっと暮らしたいと回答した理由について、身体障がい者、知的障がい者は「施設での生活に満足しているから」(身体障がい者:41.7%、知的障がい者:64.3%)が最も多い。

（「施設を出て生活することによって不安や問題があるから」を選んだ方のみお答えください)どのような問題ですか。(○はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問 10-5、知的障がい者:問 11-5、精神障がい者:問 11-5、障がい児:問7-5、難病患者者:問 11-5]

【図表 2-2-12 施設を出た場合の問題点(全体・調査得別)】

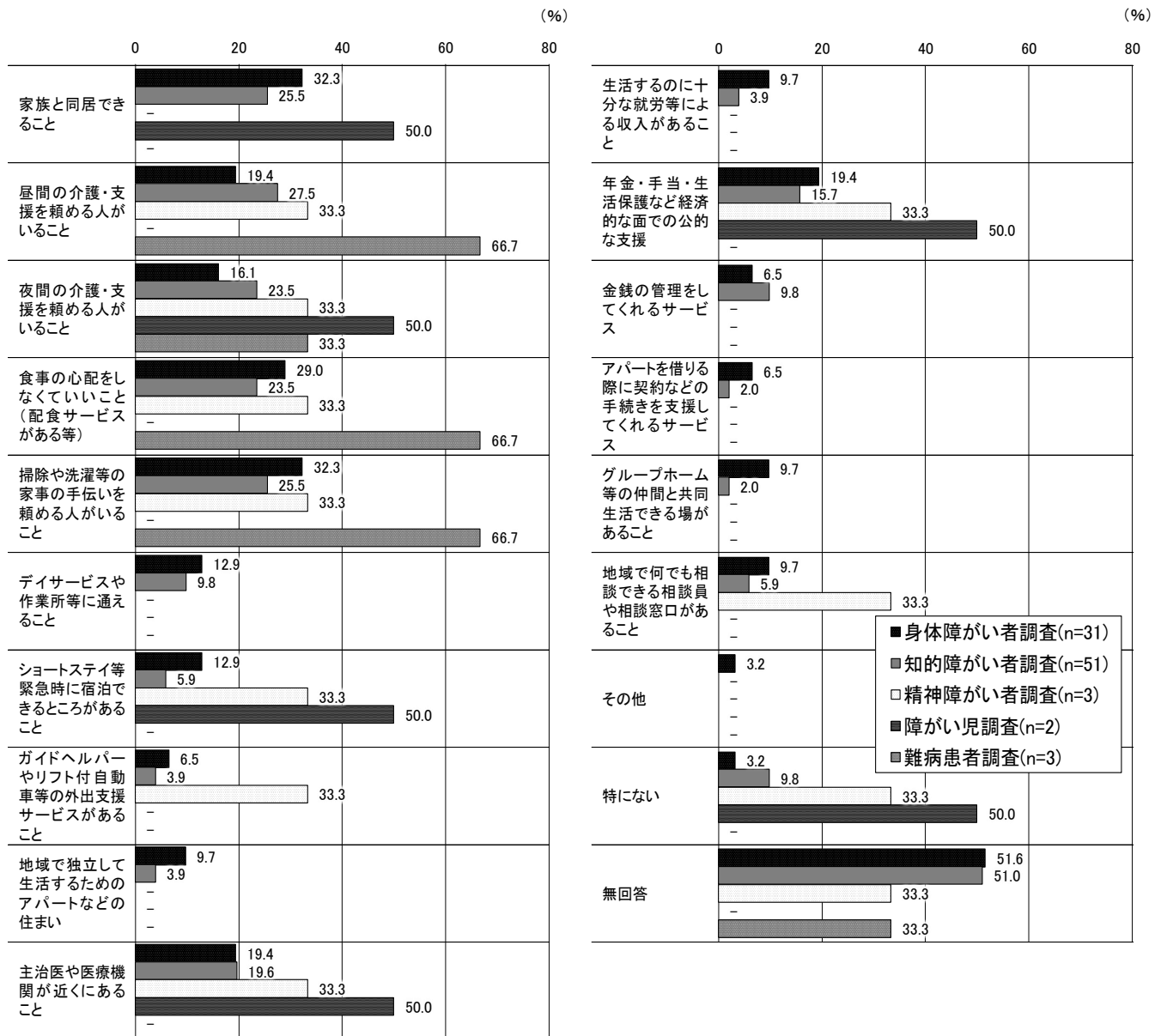


サンプル数が少ないため、参考値程度に留めるが、施設を出た場合の問題点として身体障がい者は「介護・支援をしてくれる人の問題」が最も多かった。

(6)施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件

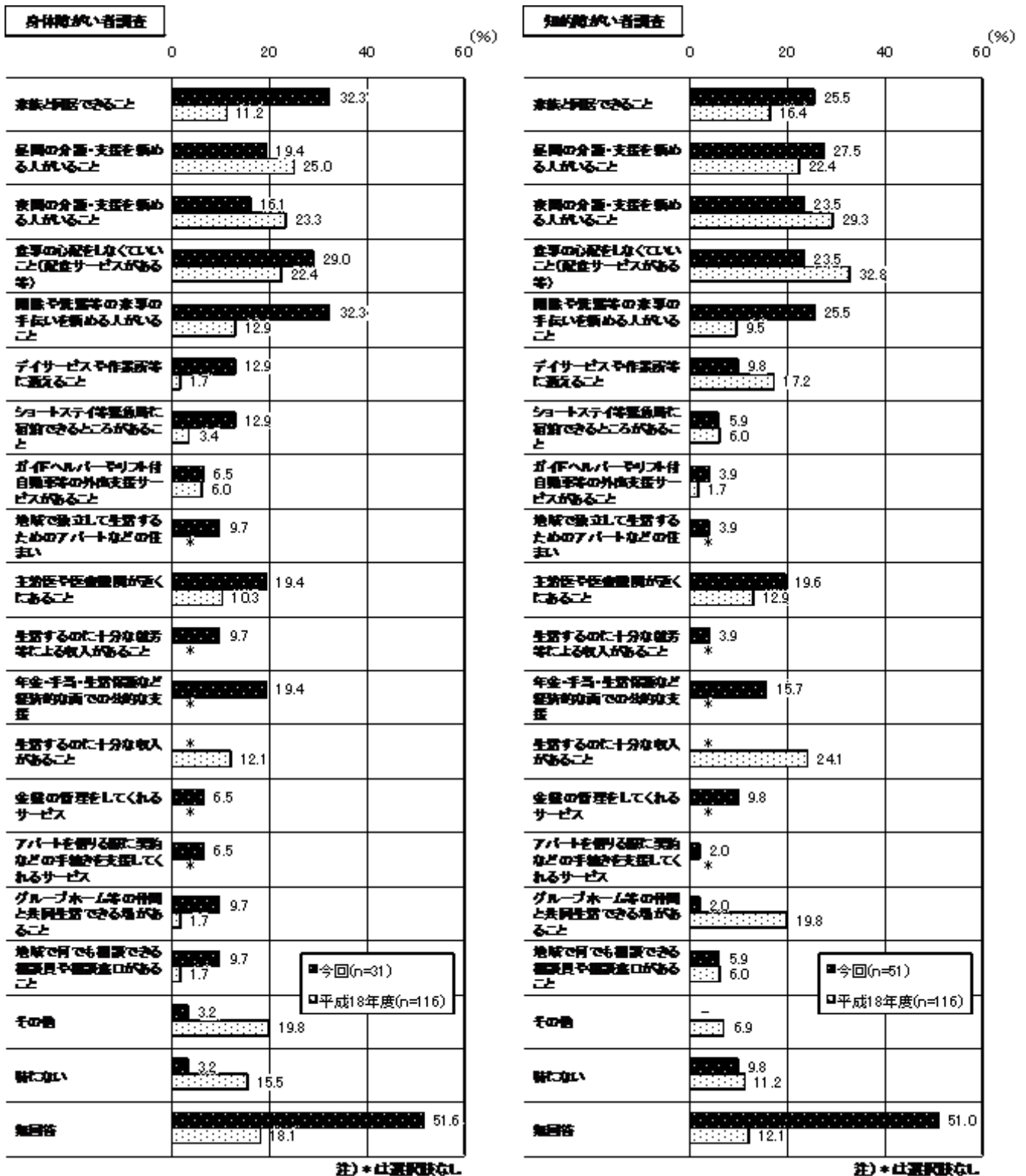
(施設入所の方のみお答えください)あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問 10-6、知的障がい者:問 11-6、精神障がい者:問 11-6、障がい児:問7-6、難病患者:問 11-6]

【図表 2-2-13 施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件(全体・調査別)】



福祉施設入所者が自宅や地域で生活するために必要な条件では、身体障がい者は「家族と同居できること」と「掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること」(それぞれ 32.3%)、知的障がい者では「昼間の介護・支援を頼める人がいること」(27.5%)の割合が最も高い。

【図表 2-2-14 施設入所者が地域生活に移行するために必要な条件(全体・時系列)】



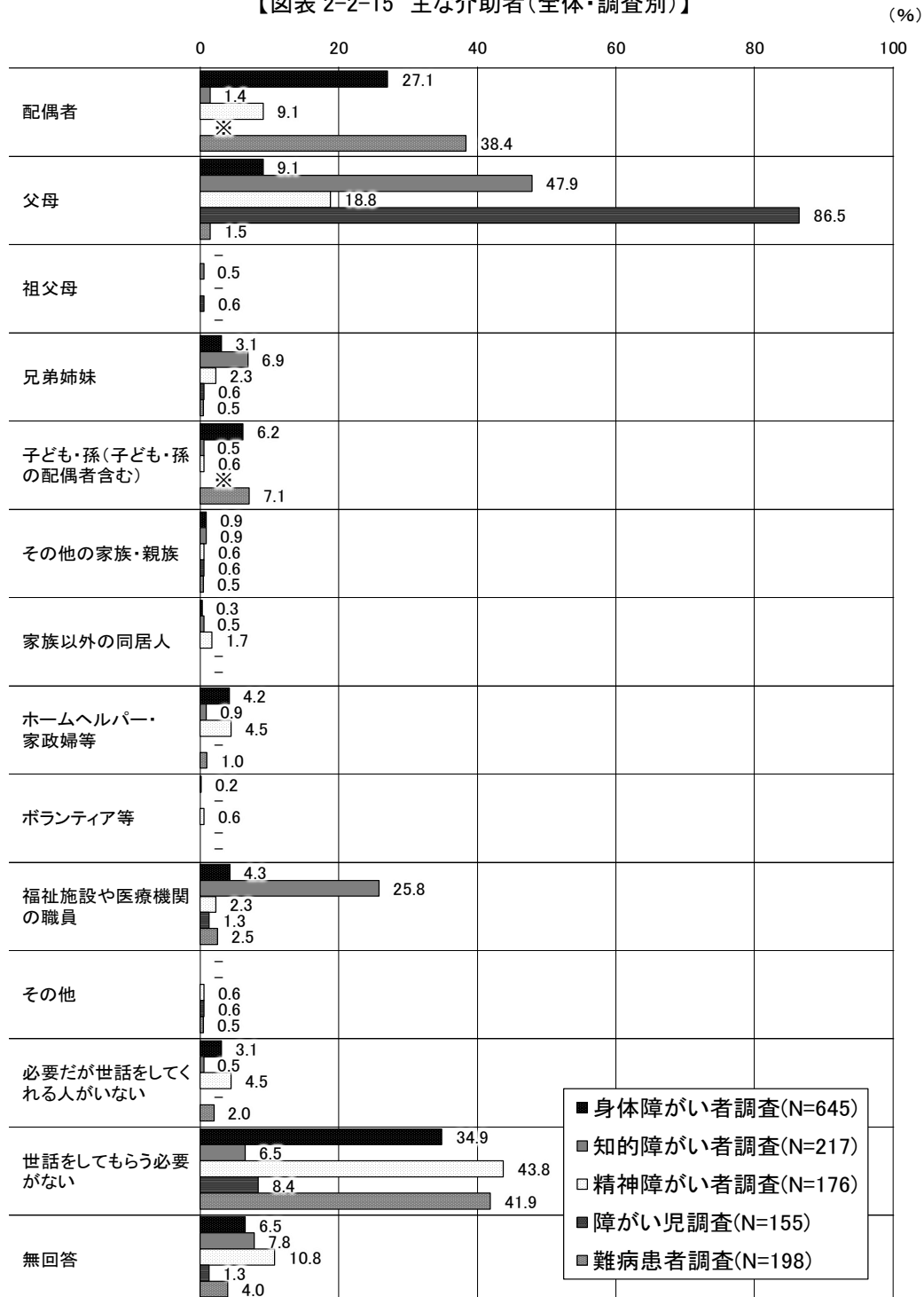
平成18年度調査と比較すると、身体障がい者、知的障がい者のいずれも「家族と同居できること」、「掃除や洗濯等の家事の手伝いをたのめる人がいること」、「主治医や医療機関が近くにあること」の割合が増加している。特に身体障がい者では「家族と同居できること」が11.2%から32.3%と大きく増加している。

(7) 主な介助者

あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 11、知的障がい者:問 12、精神障がい者:問 12、障がい児:問8、難病患者:問 12]

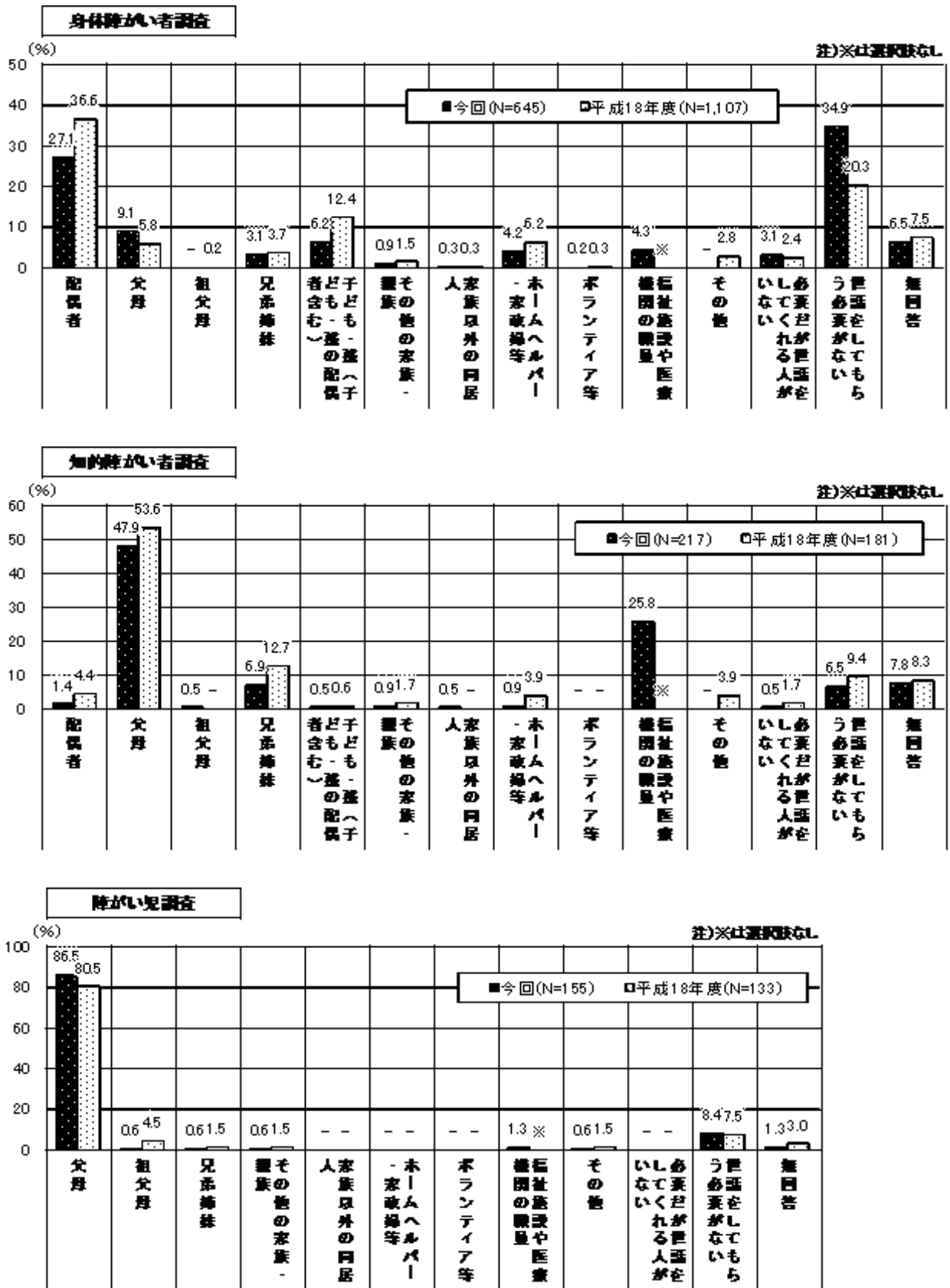
【図表 2-2-15 主な介助者(全体・調査別)】



※『障がい児調査』は、「配偶者」「子ども・孫(子ども・孫の配偶者含む)」を選択肢として設定していない。

在宅生活者の主な介助者は、身体障がい者、精神障がい者、難病患者では「世話をしてもらう必要がない」(身体障がい者:34.9%、精神障がい者:43.8%、難病患者:41.9%)が最も多い。知的障がい者、障がい児については「父母」(知的障がい者:47.9%、障がい児:86.5%)が最も割合が高い。

【図表 2-2-16 主な介助者(全体・時系列比較)】



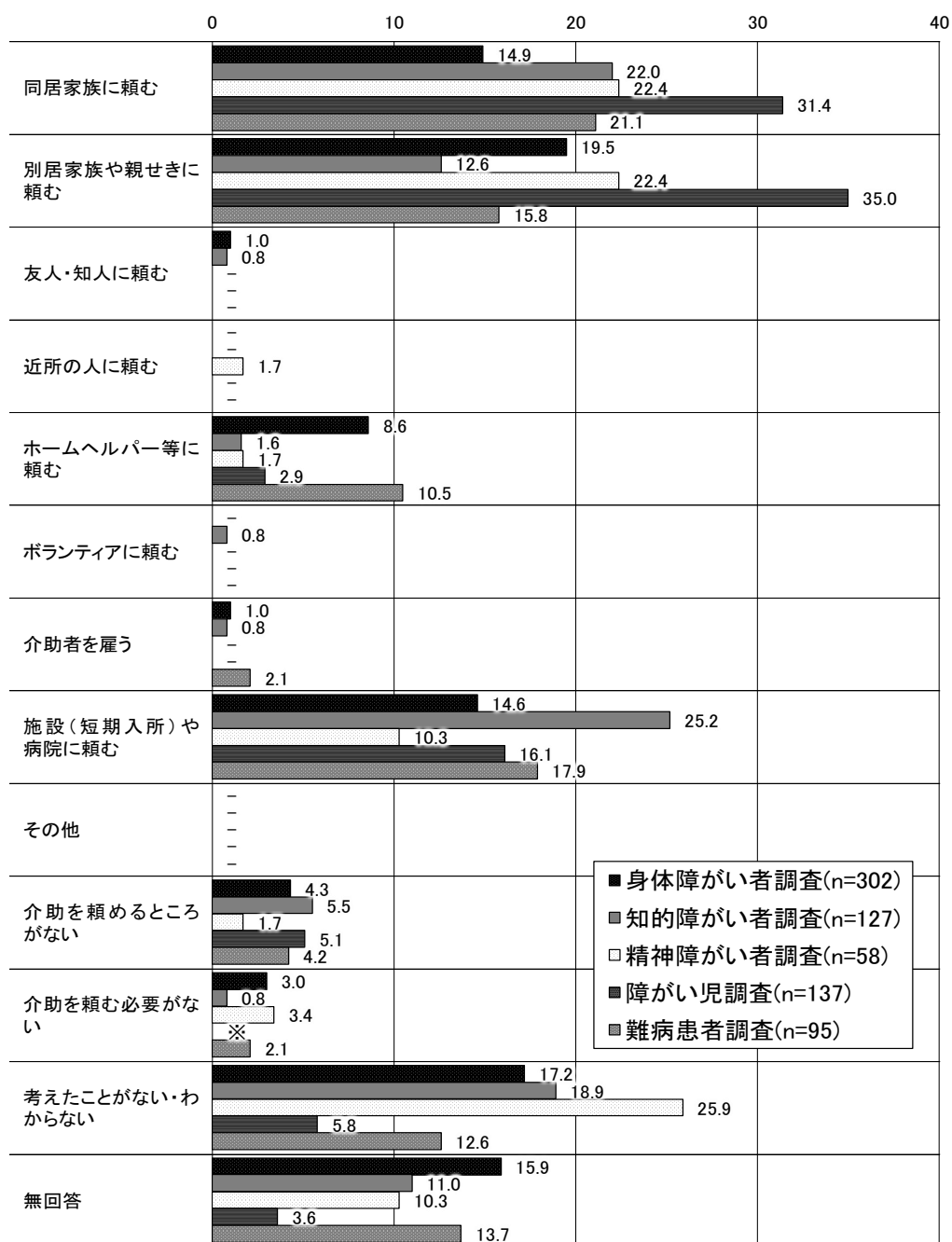
平成18年度調査と比較すると、身体障がい者について平成18年度は「配偶者」が最も多かったが、今回調査では割合が減少(平成18年度調査:36.6%、今回調査:27.1%)し、「世話をしてもらわなければならない」(平成18年度調査:20.3%、今回調査:34.9%)が増加したため、順位の変化がみられる。

(8) 主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法

(同居者が主な介助者の方のみお答えください)身の周りの世話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 11-1、知的障がい者:問 12-1、精神障がい者:問 12-1、障がい児:問8-1、難病患者:問 12-1]

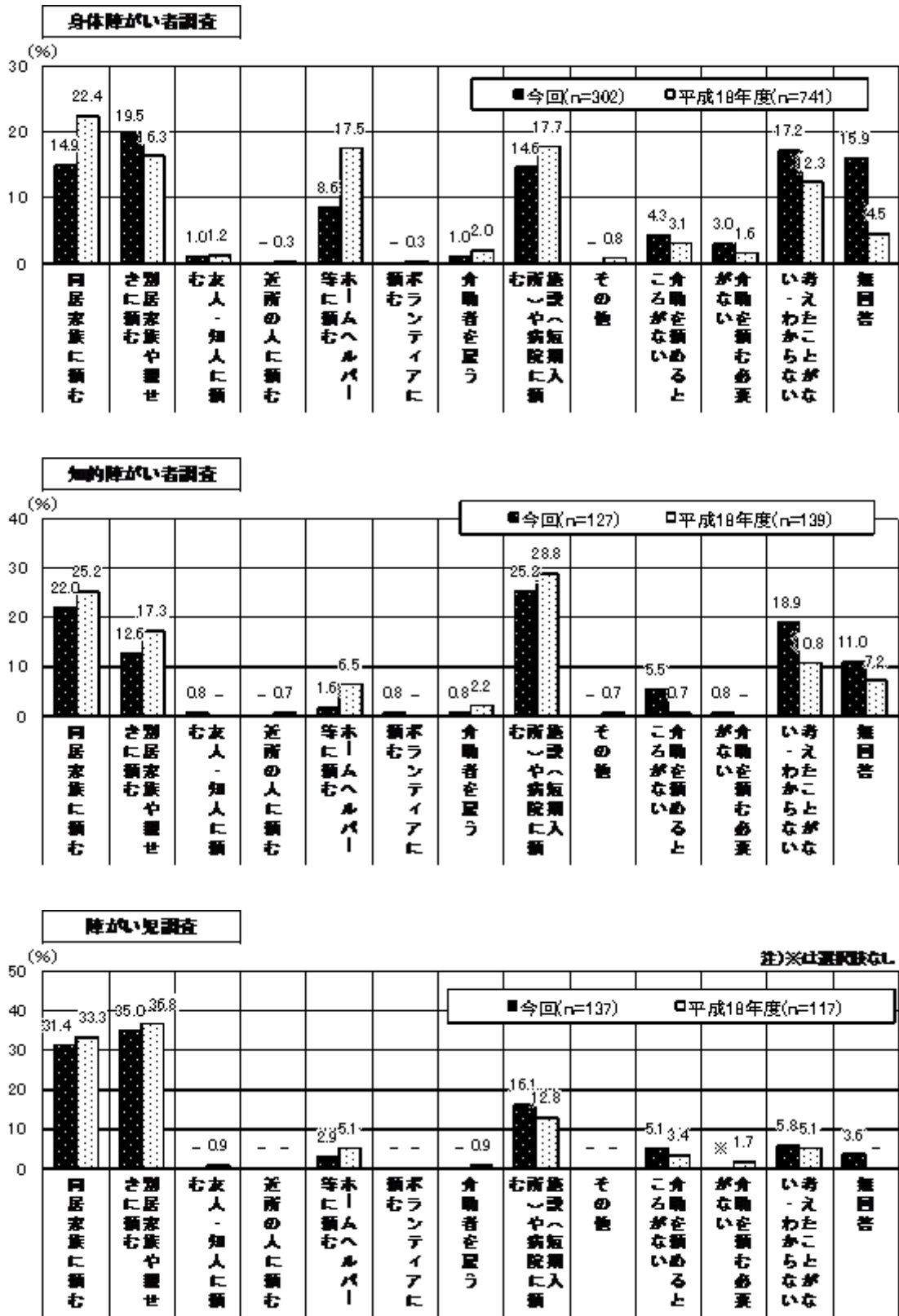
【図表 2-2-17 主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法(全体・調査別)】 (%)



※『障がい児調査』は、「介助を頼む必要がない」を選択肢として設定していない。

在宅生活者の主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法は、「同居家族に頼む」(身体障がい者:14.9%、知的障がい者:22.0%、精神障がい者:22.4%、障がい児:31.4%、難病患者:21.1%)や「別居家族や親せきに頼む」(身体障がい者:19.5%、知的障がい者:12.6%、精神障がい者:22.4%、障がい児:35.0%、難病患者:15.8%)等の他の家族・親族での対応のほか、「施設や病院に頼む」(身体障がい者:14.6%、知的障がい者:25.2%、精神障がい者:10.3%、障がい児:16.1%、難病患者:17.9%)等が共通して上位にあがっている。

【図表 2-2-18 主な介助者が介助できなくなった場合の対処方法(全体・時系列)】

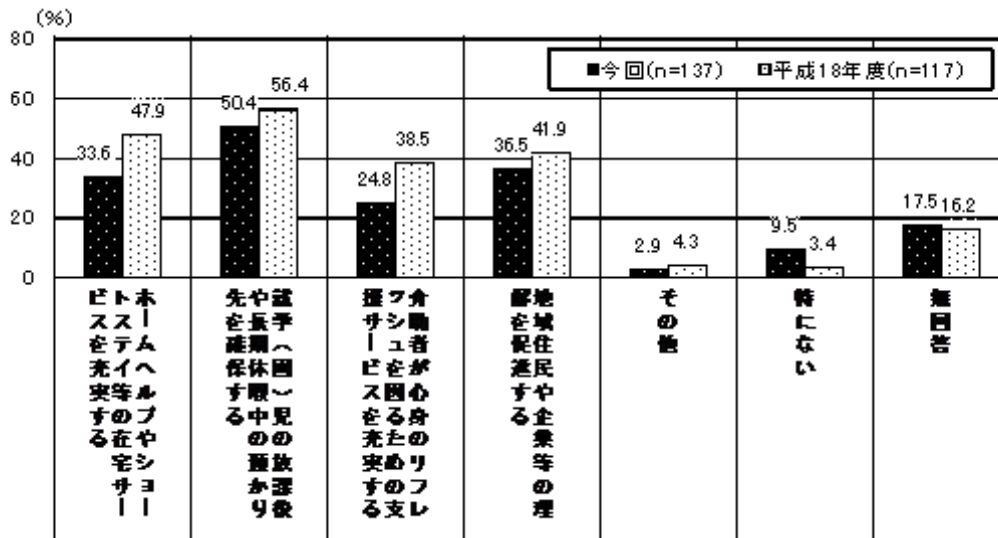


平成18年度調査と比較すると、今回調査結果と同様に「同居家族に頼む」、「別居家族や親せきに頼む」等の他の家族・親族での対応、「施設や病院に頼む」等の割合が高い。

(9) 障がい児の介助者支援として必要なこと

(同居人が主な介助者の方のみお答えください) お子さんの身の周りの世話をしている方が、お子さんの世話と仕事や余暇活動等の社会活動を両立しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)[障がい児:問8-2]

【図表 2-2-19 障がい児の介助者支援として必要なこと(全体・時系列)】



障がい児の介助者に対する支援として必要なことは、「就学(園)児の放課後や長期休暇中の預かり先を確保する」(50.4%)が最も多く、次いで「地域住民や企業等の理解を促進する」(36.5%)、「ホームヘルプやショートステイ等の在宅サービスを充実する」(33.6%)となっている。

平成 18 年度調査と比較すると、ほぼ同様の傾向となっているが、今回調査はいずれの項目も割合が低くなっている。

【図表 2-2-20 障がい児の介助者支援として必要なこと(全体・年齢別)】

	サンプル数	ホームヘルプやショートステイ等を充実する	先や長手(園)児の放課後や長期休暇中の預かり先を確保する	介護者が心身の充実をめざすためのサポート	地域住民や企業等の理解を促進する	その他	特にない	無回答	
全体	137	33.6	50.4	24.8	36.5	2.9	9.5	17.5	
年齢別	5歳以下	44	29.5	63.6	31.8	45.5	-	6.8	9.1
	6~11歳	38	21.1	57.9	13.2	31.6	5.3	5.3	23.7
	12~14歳	22	45.5	40.9	22.7	22.7	4.5	27.3	18.2
	15~17歳	30	43.3	30.0	30.0	43.3	3.3	6.7	20.0
	無回答	3	66.7	33.3	33.3	-	-	-	33.3

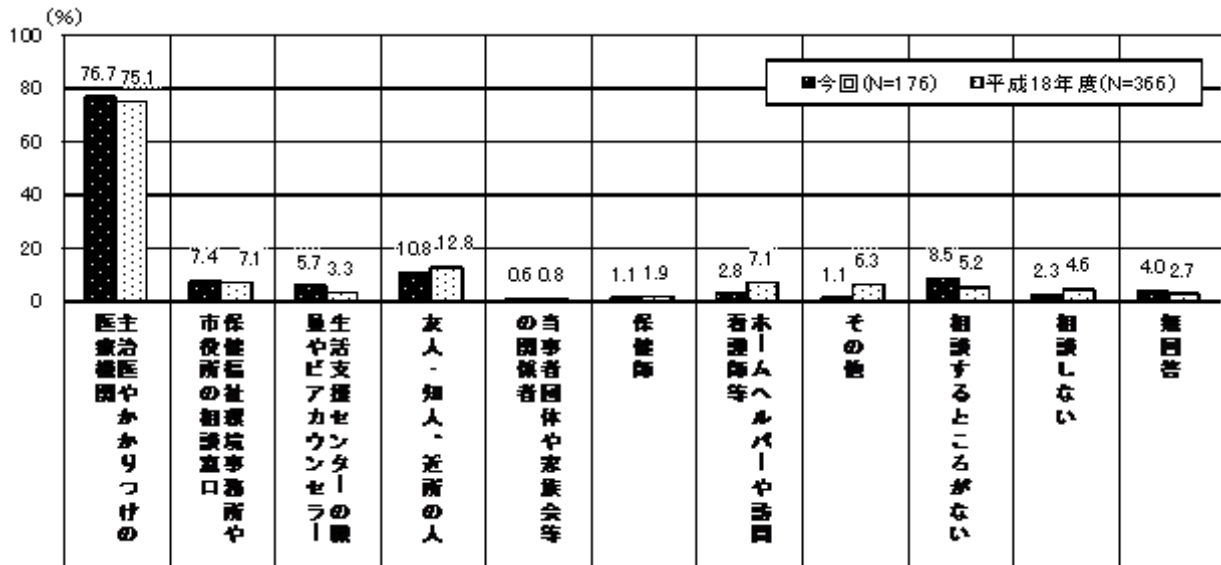
(数値:%)

障がい児の年齢別にみると、11 歳以下(小学生以下)では「就学(園)児の放課後や長期休暇中の預かり先を確保する」の割合が特に高く、5 割を超えている。

(10)精神障がい者の急に支援が必要になった場合の相談先

あなたは、精神的に急に具合が悪くなり、誰かの支援が必要になった場合、家族・親族以外では、誰(どこ)に相談しますか。(〇はあてはまるものすべて)[精神障がい者:問 11-1]

【図表 2-2-21 精神障がい者の急に支援が必要になった場合の相談先(全体・時系列)】



精神障がい者が急に具合が悪くなり、支援が必要になった場合の家族・親族以外の相談先では、「主治医やかかりつけの医療機関」(76.7%)が突出して高くなっている。

平成 18 年度調査と比較すると、同様の傾向で「主治医やかかりつけの医療機関」が主要な相談先となっている。

第3節 日中の過ごし方や就労について

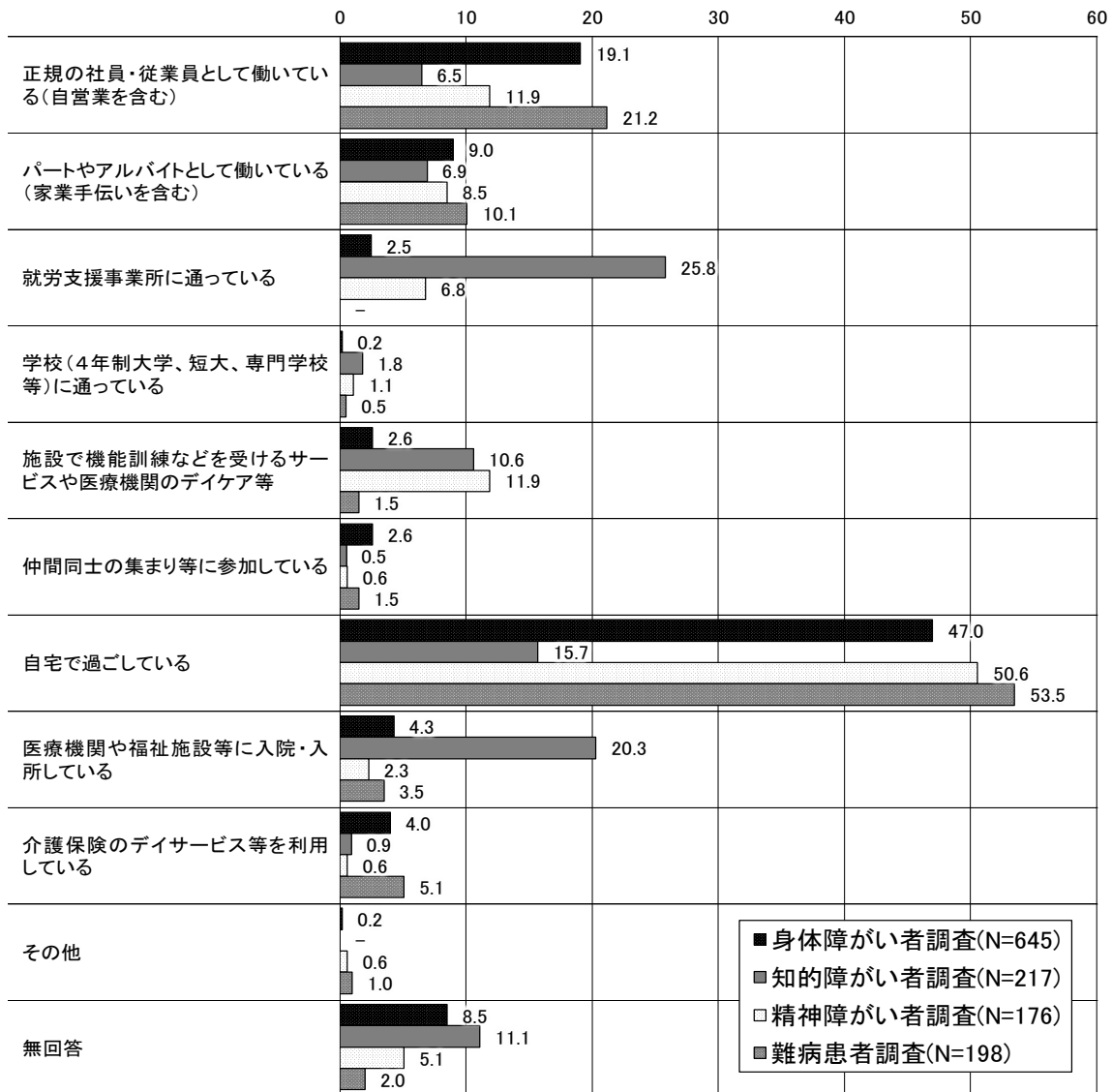
1. 日中の過ごし方

あなたは、日中(平日)、主に何をして過ごしていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 11-1、知的障がい者:問 12-1、精神障がい者:問 12-1、障がい児:問8-1、難病患者:問 12-1]

【図表 2-3-1 日中の過ごし方(全体・調査別)】

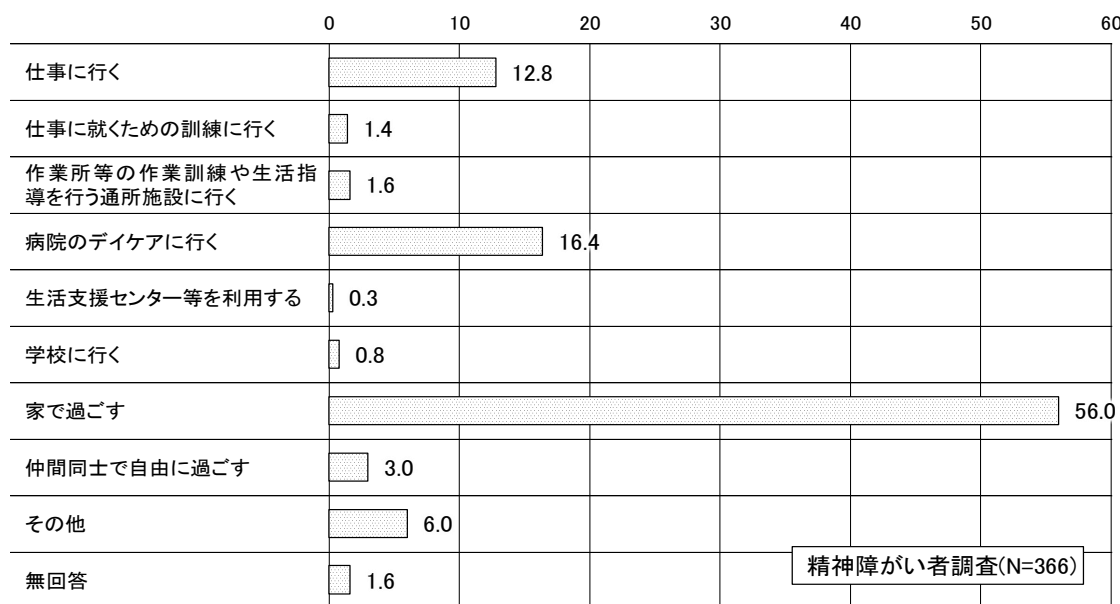
(%)



日中(平日)の過ごし方について、身体障がい者、精神障がい者、難病患者は「自宅で過ごしている」(身体障がい者:47.0%、精神障がい者:50.6%、難病患者:53.5%)が最も多く、いずれも5割前後が回答している。一方、知的障がい者においては「就労支援事業所に通っている」(25.8%)が最も多く、次いで「医療機関や福祉施設等に入院・入所している」(20.3%)となっている。

【図表 2-3-2 日中の過ごし方(平成 18 年度調査)】

(%)



選択肢が異なるため参考程度とするが、平成 18 年度調査(精神障がい者のみ)と比較すると、自宅で過ごす割合が最も高い傾向に変化はみられない。

【図表 2-3-3 身体障がい者の日中の過ごし方(全体・年齢別・障がいの程度別・障がいの部位別)】

		サンプル数	正規の社員・従業員として働いている(自営業を含む)	パートやアルバイトとして働いている(家業手伝いを含む)	就労支援事業所に通っている	大学、専門学校等に通っている	学校(4年制大学、短大、専門学校等)	施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等	参加している 仲間同士の集まり等に	自宅で過ごしている	医療機関や福祉施設等に入院・入所している	介護保険のデイサービス等を利用している	その他	無回答
全体		645	19.1	9.0	2.5	0.2	2.6	2.6	47.0	4.3	4.0	0.2	8.5	
年齢別	18~29歳	23	17.4	17.4	21.7	4.3	8.7	-	21.7	-	4.3	-	4.3	
	30~39歳	35	34.3	20.0	5.7	-	2.9	-	25.7	-	-	-	11.4	
	40~49歳	53	39.6	7.5	3.8	-	3.8	-	35.8	1.9	3.8	-	3.8	
	50~59歳	147	33.3	10.2	1.4	-	2.0	1.4	40.1	3.4	0.7	-	7.5	
	60~64歳	195	12.3	12.3	2.6	-	2.6	2.1	53.8	3.6	3.6	-	7.2	
	65歳以上	179	5.6	2.2	-	-	2.2	6.1	55.3	7.3	8.4	0.6	12.3	
	無回答	13	23.1	-	-	-	-	-	53.8	15.4	-	-	-	7.7
障がいの程度別	1級+2級(重度)	304	16.1	6.6	3.3	0.3	3.9	2.0	48.0	6.3	3.9	-	9.5	
	3級+4級(中度)	207	19.3	10.6	1.0	-	1.9	4.3	49.8	2.9	4.3	-	5.8	
	5級+6級(低度)	110	27.3	12.7	3.6	-	-	1.8	45.5	-	0.9	0.9	7.3	
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	2.0	4.0	20.0	-	10.0	4.0	30.0	12.0	6.0	-	12.0	
	無回答	24	16.7	8.3	-	-	4.2	-	16.7	12.5	16.7	-	25.0	
障がいの部位別	視覚	39	15.4	2.6	5.1	-	2.6	2.6	64.1	-	-	-	7.7	
	聴覚・平衡機能	62	17.7	9.7	1.6	-	3.2	4.8	46.8	1.6	6.5	-	8.1	
	音声・言語・そしゃく	20	15.0	10.0	15.0	-	5.0	-	20.0	20.0	-	-	15.0	
	肢体不自由	306	19.6	8.8	3.3	0.3	2.9	3.6	44.8	4.6	4.2	0.3	7.5	
	内部障がい	157	21.7	11.5	-	-	-	1.3	54.1	2.5	2.5	-	6.4	
	その他	10	-	10.0	-	-	10.0	-	50.0	-	20.0	-	10.0	
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	2.0	4.0	20.0	-	10.0	4.0	30.0	12.0	6.0	-	12.0	
	無回答	51	17.6	5.9	-	-	5.9	-	35.3	9.8	5.9	-	19.6	

(数値:%)

【図表 2-3-4 知的障がい者の日中の過ごし方(全体・年齢別・障がいの程度別)】

		サンプル数	正規の社員・従業員として働いている(自営業を含む)	パートやアルバイトとして働いている(家業手伝いを含む)	就労支援事業所に通っている	大学、専門学校等に通っている	学校(4年制大学、短大、専門学校等)	施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等	参加している 仲間同士の集まり等に	自宅で過ごしている	医療機関や福祉施設等に入院・入所している	介護保険のデイサービス等を利用している	その他	無回答
全体		217	6.5	6.9	25.8	1.8	10.6	0.5	15.7	20.3	0.9	-	11.1	
年齢別	18~29歳	60	6.7	10.0	38.3	6.7	13.3	-	8.3	6.7	-	-	10.0	
	30~39歳	59	8.5	5.1	33.9	-	18.6	1.7	5.1	15.3	-	-	11.9	
	40~49歳	30	6.7	10.0	16.7	-	3.3	-	26.7	26.7	-	-	10.0	
	50~59歳	21	14.3	9.5	19.0	-	-	-	28.6	14.3	-	-	14.3	
	60~64歳	18	-	-	16.7	-	-	5.6	-	27.8	44.4	-	-	5.6
	65歳以上	25	-	4.0	-	-	4.0	-	24.0	48.0	8.0	-	12.0	
	無回答	4	-	-	25.0	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	25.0
障がいの程度別	療育手帳A	112	1.8	0.9	23.2	1.8	17.9	-	12.5	28.6	0.9	-	12.5	
	療育手帳B	89	11.2	14.6	31.5	2.2	2.2	1.1	18.0	7.9	1.1	-	10.1	
	知的障がい以外の障がいとの重複がある	50	10.0	-	26.0	-	6.0	-	18.0	22.0	2.0	-	16.0	
	無回答	16	12.5	6.3	12.5	-	6.3	-	25.0	31.3	-	-	6.3	

(数値:%)

【図表 2-3-5 精神障がい者の日中の過ごし方(全体・年齢別・現在の症状別)】

	サンプル数	正規の社員・従業員として働いている(自営業を含む)	パートやアルバイトとして働いている(家業手伝いを含む)	就労支援事業所に通っている	大、専門学校等に通っている	学校(4年制大学、短大、専門学校等)	施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等	仲間同士の集まり等に参加している	自宅で過ごしている	医療機関や福祉施設等に入院・入所している	介護保険のデイサービス等を利用している	その他	無回答
全体	176	11.9	8.5	6.8	1.1	11.9	0.6	50.6	2.3	0.6	0.6	5.1	
年齢別	18~29歳	14	28.6	21.4	14.3	-	-	21.4	-	-	-	-	
	30~39歳	33	15.2	9.1	9.1	-	15.2	-	48.5	3.0	-	-	
	40~49歳	38	7.9	7.9	10.5	-	15.8	2.6	52.6	-	-	2.6	
	50~59歳	46	15.2	6.5	2.2	-	8.7	-	54.3	-	-	-	13.0
	60~64歳	24	4.2	12.5	4.2	-	16.7	-	50.0	-	-	-	12.5
	65歳以上	18	5.6	-	-	-	11.1	-	61.1	16.7	5.6	-	-
	無回答	3	-	-	33.3	-	-	-	66.7	-	-	-	-
現在の症状別	回復	76	17.1	7.9	11.8	1.3	14.5	1.3	42.1	-	-	1.3	2.6
	変化なし	42	14.3	7.1	4.8	2.4	16.7	-	40.5	4.8	-	-	9.5
	悪化	13	7.7	-	-	-	-	-	84.6	-	7.7	-	-
	症状不安定	39	2.6	12.8	2.6	-	7.7	-	64.1	5.1	-	-	5.1
	無回答	6	-	16.7	-	-	-	-	66.7	-	-	-	16.7

(数値:%)

【図表 2-3-6 難病患者の日中の過ごし方(全体・年齢別・障がいの状況別)】

	サンプル数	正規の社員・従業員として働いている(自営業を含む)	パートやアルバイトとして働いている(家業手伝いを含む)	就労支援事業所に通っている	大、専門学校等に通っている	学校(4年制大学、短大、専門学校等)	施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等	仲間同士の集まり等に参加している	自宅で過ごしている	医療機関や福祉施設等に入院・入所している	介護保険のデイサービス等を利用している	その他	無回答
全体	198	21.2	10.1	-	0.5	1.5	1.5	53.5	3.5	5.1	1.0	2.0	
年齢別	29歳以下	6	33.3	33.3	-	16.7	-	-	-	16.7	-	-	-
	30~39歳	8	37.5	12.5	-	-	-	-	37.5	-	-	-	12.5
	40~49歳	31	48.4	12.9	-	-	-	-	38.7	-	-	-	-
	50~59歳	29	27.6	24.1	-	-	-	-	41.4	-	-	3.4	3.4
	60~64歳	29	27.6	10.3	-	-	-	-	55.2	-	3.4	-	3.4
	65歳以上	91	4.4	3.3	-	-	3.3	2.2	68.1	6.6	9.9	1.1	1.1
	無回答	4	50.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	-
障がいの状況別	身体障がい	58	8.6	-	-	1.7	1.7	-	67.2	5.2	12.1	1.7	1.7
	知的障がい	2	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-
	精神障がい	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	30.3	15.1	-	-	1.7	1.7	42.9	3.4	2.5	0.8	1.7
	無回答	21	4.8	9.5	-	-	-	4.8	76.2	-	-	-	4.8

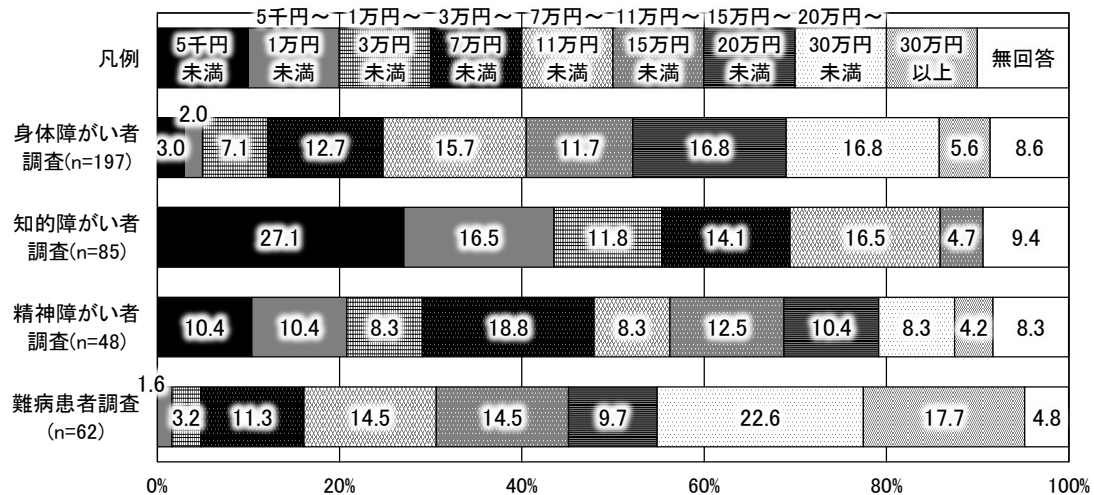
(数値:%)

2. 労働環境

(1) 月収

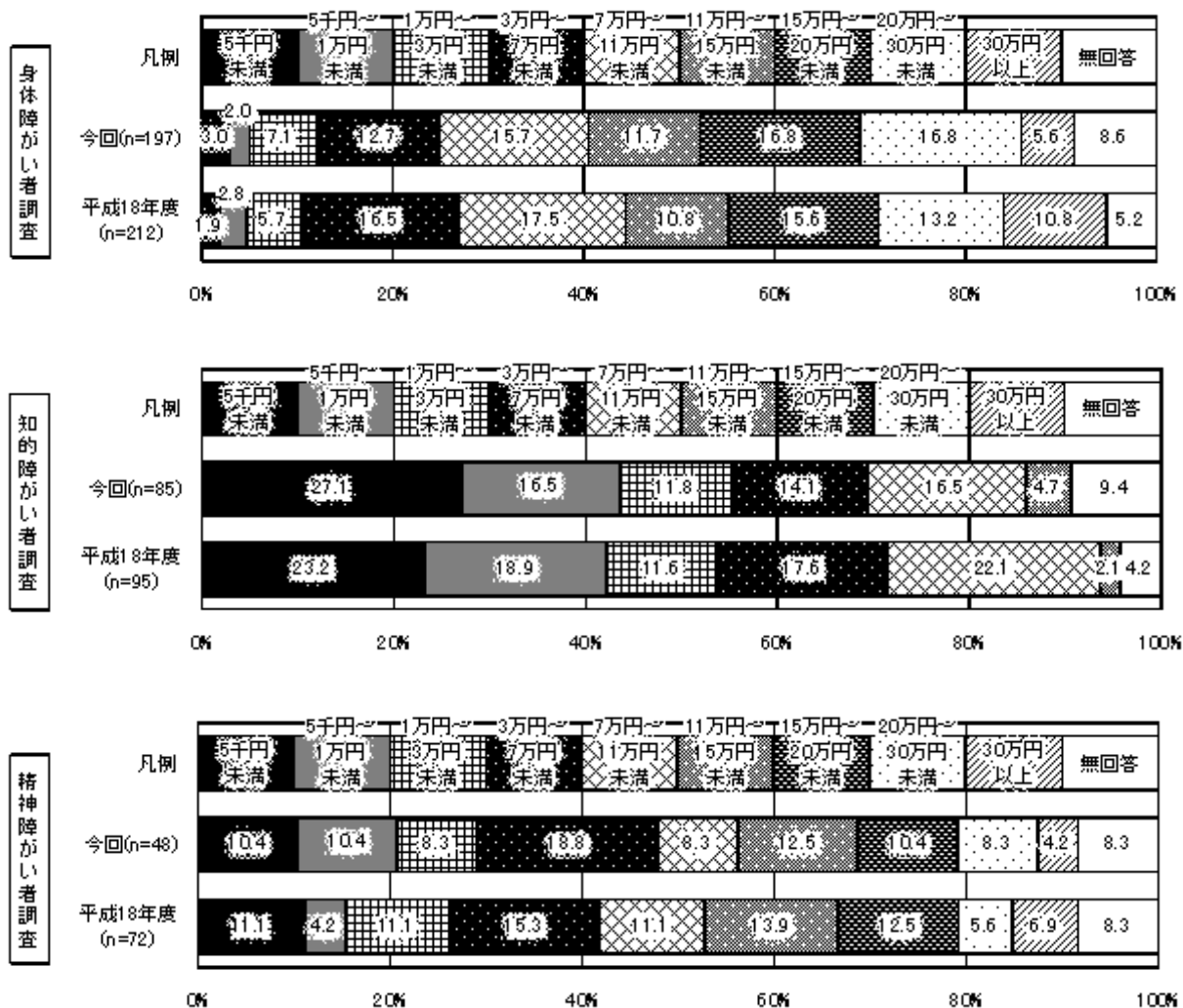
(就労している方のみお答えください)あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。(〇は1つだけ)[身体障がい者:問 12-1、知的障がい者:問 13-1、精神障がい者:問 15-1、難病患者:問 13-1]

【図表 2-3-7 月収(全体・調査別)】



仕事で得る月収は、身体障がい者、精神障がい者では3～20万円未満の層を中心に、各収入層が概ね1～2割程度で分散しているが、知的障がい者では「5千円未満」(27.1%)が最も高く、次いで「5千円～1万円未満」(16.5%)となっており、収入に差がみられる。また、難病患者では「20万円～30万円未満」(22.6%)、「30万円以上」(17.7%)が多く月収が高い。

【図表 2-3-8 月収(全体・時系列)】

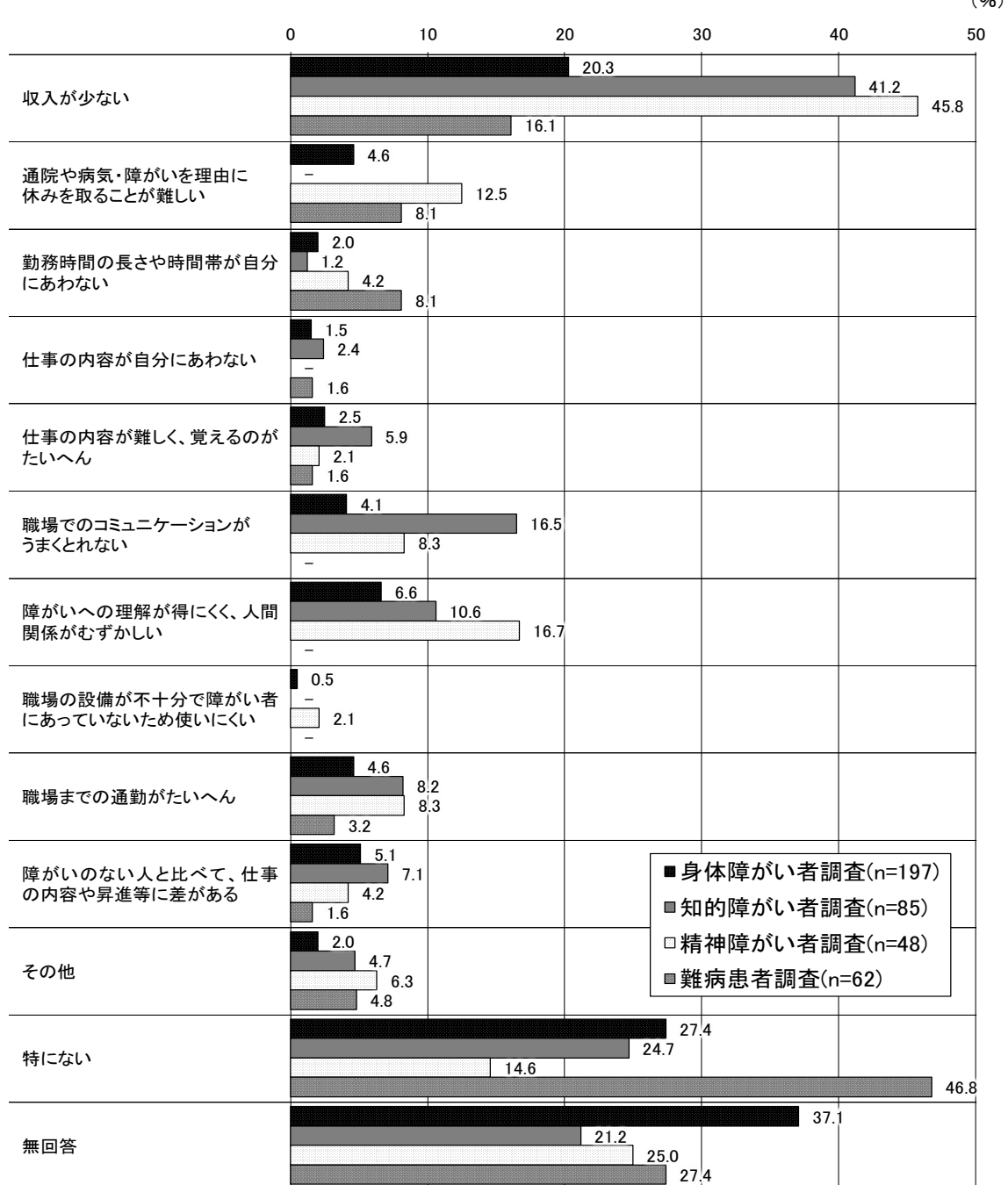


平成18年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はみられないが、知的障がい者の収入は低くなっている。

(2) 仕事上の悩みや困っていること

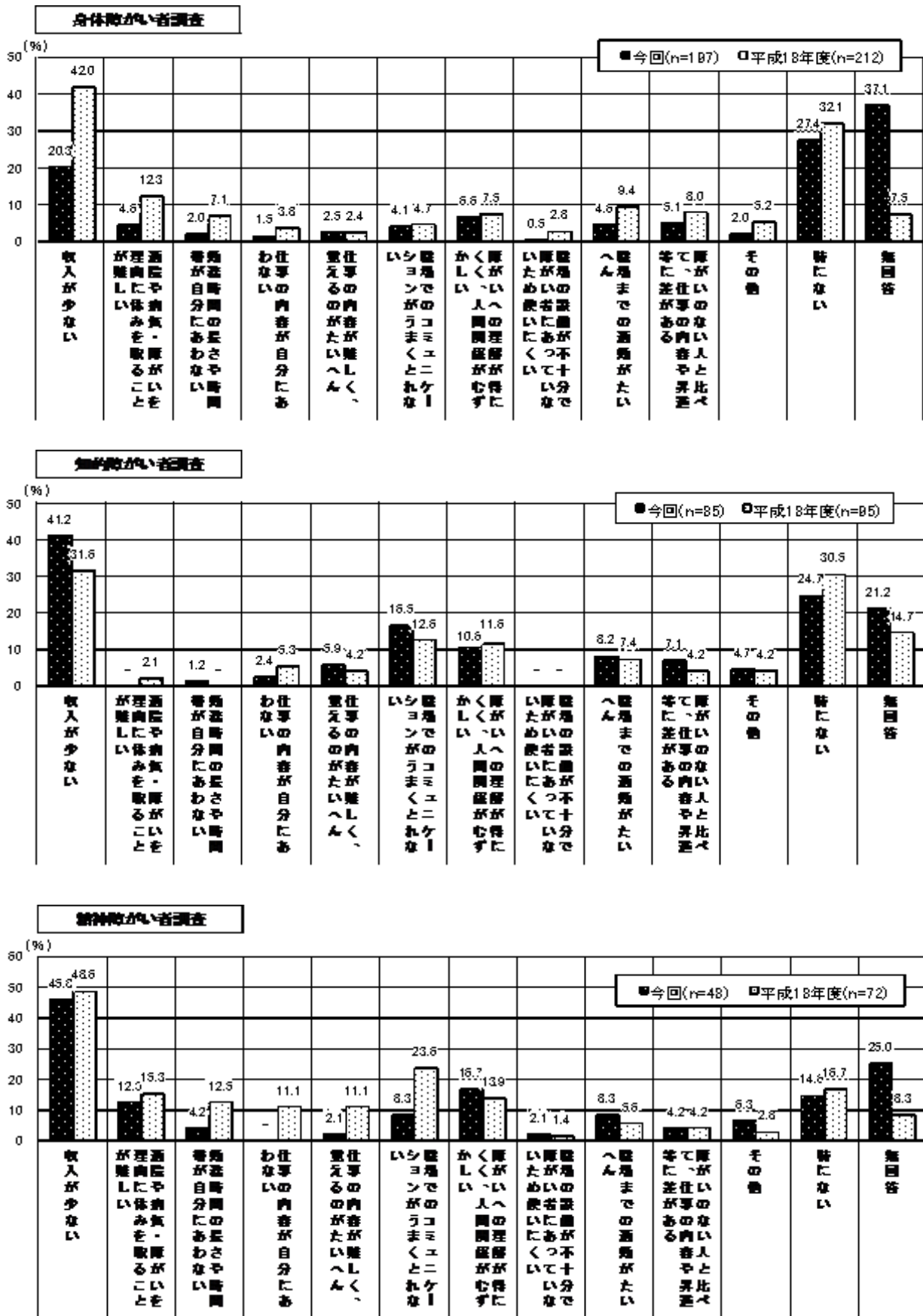
(就労している方のみお答えください) 仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。(○はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問 12-2、知的障がい者:問 13-2、精神障がい者:問 15-2、難病患者:問 13-2]

【図表 2-3-9 仕事上の悩みや困っていること(全体・調査別)】



仕事のことで悩んでいることや困っていることは、身体障がい者、難病患者では「特にない」(身体障がい者:27.4%、難病患者:46.8%)、知的障がい者、精神障がい者では「収入が少ない」(知的障がい者:41.2%、精神障がい者:45.8%)がそれぞれ最も高くなっている。

【図表 2-3-10 仕事上の悩みや困っていること(全体・時系列)】



平成18年度調査と比較すると、知的障がい者、精神障がい者については大きな変化はみられないものの、身体障がい者については「収入が少ない」の割合が半減し、順位に変化がみられる。

【図表 2-3-11 身体障がい者の仕事上の悩みや困っていること(全体・障がいの部位別)】

	サンプル数	収入が 少ない	が理由に 難しい 休みに 病気を 取る ことを	通院や 病気を 取る ことを	勤務時間 の長さ や時間 の あわ な い	仕事 の 内容 が 自 分 に あ わ な い	覚 え る の 内 容 が 難 し く 、 へ ん	い シ ョ ウ 場 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が う ま く と れ な い	か く 、 人 間 関 係 が む づ か し い	障 が い の 理 解 が 得 に あ ら ず	障 が い の 使 い に あ つ て い な い	職 場 の 設 備 が 不 十 分 な で	へ ん 職 場 ま で の 通 勤 が た い	等 に 差 が あ る	障 が い の 内 容 や 昇 進 の 不 均 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
全 体	197	20.3	4.6	2.0	1.5	2.5	4.1	6.6	0.5	4.6	5.1	2.0	27.4	37.1					
障 が い の 部 位 別	視覚	9	11.1	11.1	-	-	-	-	11.1	-	11.1	-	-	22.2	55.6				
	聴覚・平衡機能	18	33.3	5.6	-	-	-	16.7	16.7	-	-	16.7	-	22.2	33.3				
	音声・言語・そしゃく	8	25.0	12.5	-	-	12.5	-	-	-	-	-	-	25.0	37.5				
	肢体不自由	97	18.6	4.1	3.1	2.1	4.1	5.2	4.1	-	8.2	4.1	2.1	27.8	36.1				
	内部障がい	52	23.1	3.8	1.9	1.9	-	-	7.7	-	-	5.8	3.8	32.7	28.8				
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0			
	身体障がい以外の障がい との重複がある	13	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-	7.7	-	7.7	-	-	23.1	46.2				
	無回答	12	8.3	-	-	-	-	-	8.3	8.3	-	-	-	-	-	16.7	66.7		

(数値:%)

【図表 2-3-12 知的障がい者の仕事上の悩みや困っていること(全体・障がいの程度別)】

	サンプル数	収入が 少ない	が理由に 難しい 休みに 病気を 取る ことを	通院や 病気を 取る ことを	勤務時間 の長さ や時間 の あわ な い	仕事 の 内容 が 自 分 に あ わ な い	覚 え る の 内 容 が 難 し く 、 へ ん	い シ ョ ウ 場 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が う ま く と れ な い	か く 、 人 間 関 係 が む づ か し い	障 が い の 理 解 が 得 に あ ら ず	障 が い の 使 い に あ つ て い な い	職 場 の 設 備 が 不 十 分 な で	へ ん 職 場 ま で の 通 勤 が た い	等 に 差 が あ る	障 が い の 内 容 や 昇 進 の 不 均 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	85	41.2	-	1.2	2.4	5.9	16.5	10.6	-	8.2	7.1	4.7	24.7	21.2				
障 が い の 程 度 別	療育手帳A	29	44.8	-	3.4	6.9	3.4	10.3	6.9	-	-	-	-	27.6	20.7			
	療育手帳B	51	41.2	-	-	-	5.9	17.6	9.8	-	11.8	9.8	5.9	25.5	19.6			
	知的障がい以外の障がい との重複がある	18	22.2	-	5.6	5.6	5.6	11.1	5.6	-	-	11.1	5.6	50.0	16.7			
	無回答	5	20.0	-	-	-	20.0	40.0	40.0	-	20.0	20.0	20.0	-	40.0			

(数値:%)

【図表 2-3-13 精神障がい者の仕事上の悩みや困っていること(全体・現在の症状別)】

	サンプル数	収入が 少ない	が理由に 難しい 休みに 病気を 取る ことを	通院や 病気を 取る ことを	勤務時間 の長さ や時間 の あわ な い	仕事 の 内容 が 自 分 に あ わ な い	覚 え る の 内 容 が 難 し く 、 へ ん	い シ ョ ウ 場 で の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が う ま く と れ な い	か く 、 人 間 関 係 が む づ か し い	障 が い の 理 解 が 得 に あ ら ず	障 が い の 使 い に あ つ て い な い	職 場 の 設 備 が 不 十 分 な で	へ ん 職 場 ま で の 通 勤 が た い	等 に 差 が あ る	障 が い の 内 容 や 昇 進 の 不 均 等	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体	48	45.8	12.5	4.2	-	2.1	8.3	16.7	2.1	8.3	4.2	6.3	14.6	25.0				
現 在 の 症 状 別	回復	28	39.3	7.1	3.6	-	3.6	10.7	-	3.6	-	-	21.4	28.6				
	変化なし	11	72.7	27.3	9.1	-	9.1	27.3	27.3	-	9.1	18.2	18.2	-	9.1			
	悪化	1	100.0	-	-	-	-	-	-	100.0	100.0	-	100.0	-	-			
	症状不安定	7	14.3	14.3	-	-	-	-	14.3	-	14.3	-	-	14.3	42.9			
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-			

(数値:%)

【図表 2-3-14 難病患者の仕事上の悩みや困っていること(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	収入が少ない	が難しい理由	通院や病気を取ることを	勤務時間の長さや時間帯が自分に合わない	仕事の内容が自分にあわない	覚えるのがたいへん、	仕事の内容がたいへん、	いシヨンがうまくとれない	職場でのコミュニケーションがうまくとれない	かしく、人間関係がむずかしい	障がいへの理解が得にくい	障がいのためにあつていな	職場の設備が不十分で	職場までの通勤がたいへん	等に差がある	障がいのない人と比べ	その他	特にな	無回答
全 体	62	16.1	8.1	8.1	1.6	1.6	-	-	-	-	-	-	3.2	1.6	4.8	46.8	27.4			
障がいの状況別	身体障がい	5	60.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0		
	知的障がい	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	精神障がい	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	手帳は持っていない	54	13.0	9.3	9.3	1.9	1.9	-	-	-	-	-	-	3.7	1.9	5.6	48.1	27.8		
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7	33.3	

(数値:%)

知的障がい者の障がいの程度別にみると、療育手帳 A・B 所持者は「収入が少ない」がそれぞれ 4 割以上を占めている。

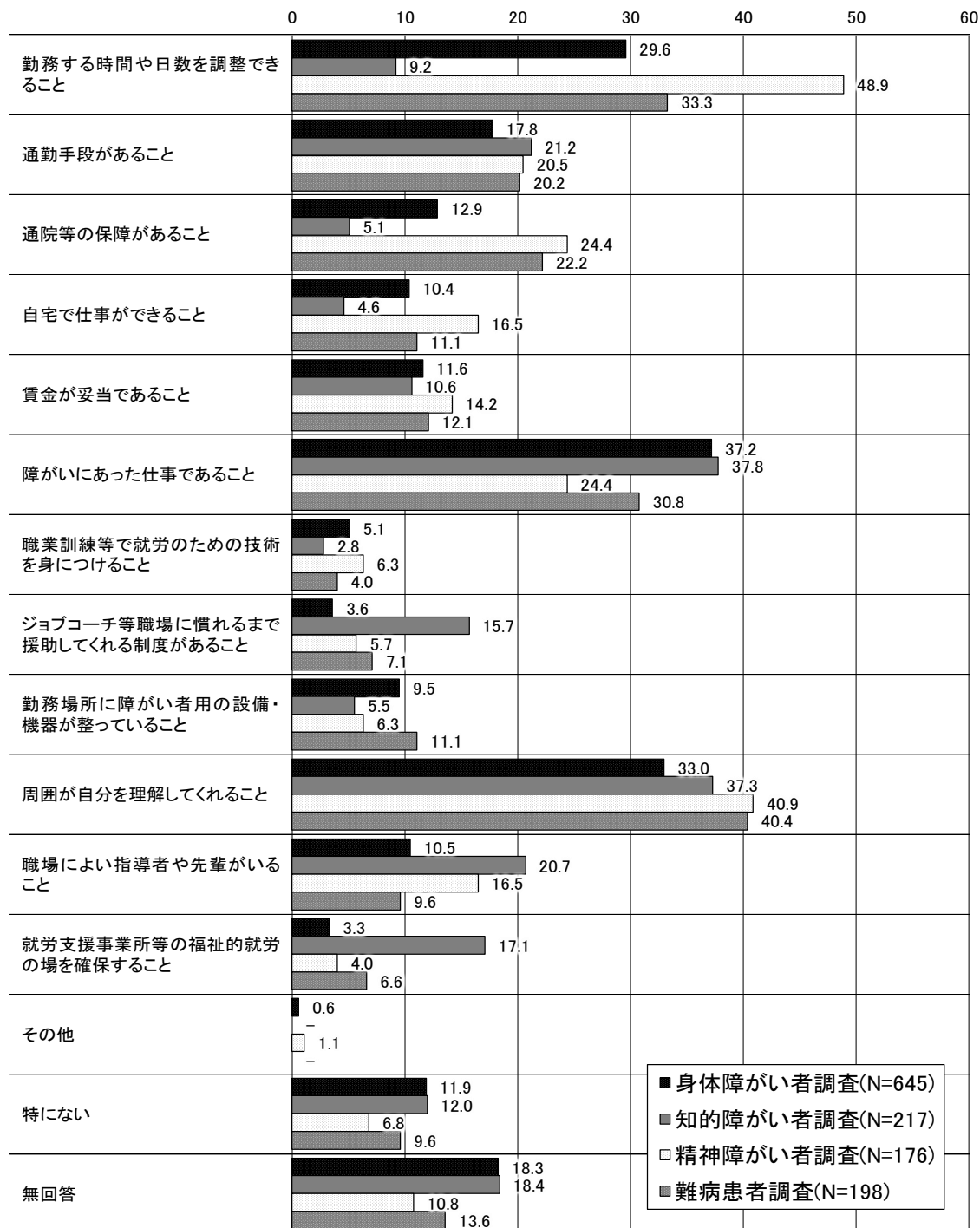
(3) 障がい者が働くために必要な条件

障がい者が働くために、必要な条件はどのようなものですか。(○は3つまで)

[身体障がい者:問 13、知的障がい者:問 14、精神障がい者:問 16、難病患者:問 14]

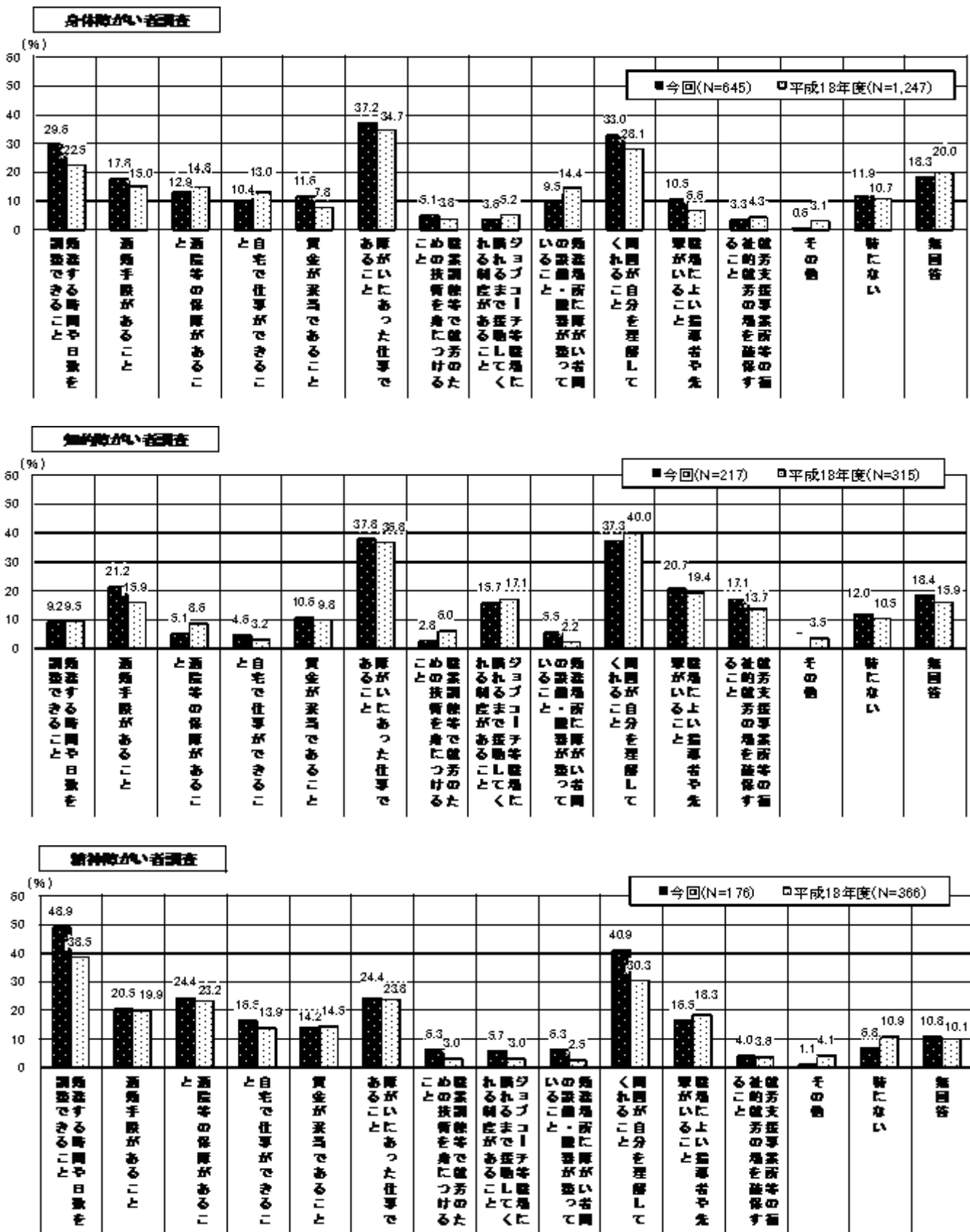
【図表 2-3-15 障がい者が働くために必要な条件(全体・調査別)】

(%)



障がい者が働くために必要な環境については、身体障がい者、知的障がい者は「障がいにあった仕事であること」(身体障がい者:37.2%、知的障がい者:37.8%)、精神障がい者は「勤務する時間や日数を調整できること」(48.9%)、難病患者は「周囲が自分を理解してくれること」(40.4%)がそれぞれ最も高い。

【図表 2-3-16 障がい者が働くために必要な条件(全体・時系列)】



平成18年度調査と比較すると、傾向に大きな変化はみられないが、精神障がい者で「勤務する時間や日数を調整できること」、「周囲が自分を理解してくれること」の割合がやや増加している。

【図表 2-3-17 身体障がい者が働くために必要な条件(全体・障がいの部位別)】

	サンプル数	勤務調整できる時間や日数を	通勤手段があること	と通院等の保障があること	と自宅で仕事ができること	賃金が妥当であること	障がいにあつた仕事であること	職業訓練等で就労のための技術を身につけること	慣れるまで援助していただく制度があること	ジョブコーチ等職場にいること	勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること	周囲が自分を理解してくれること	職場により指導者や先輩がいること	就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること	その他	特にな	無回答	
全体	645	29.6	17.8	12.9	10.4	11.6	37.2	5.1	3.6	9.5	33.0	10.5	3.3	0.6	11.9	18.3		
障がいの部位別	視覚	39	20.5	43.6	15.4	15.4	10.3	48.7	7.7	2.6	10.3	25.6	5.1	5.1	-	7.7	12.8	
	聴覚・平衡機能	62	24.2	16.1	9.7	9.7	9.7	43.5	4.8	4.8	6.5	43.5	17.7	3.2	-	9.7	12.9	
	音声・言語・そしゃく	20	25.0	20.0	10.0	15.0	5.0	50.0	-	20.0	5.0	40.0	20.0	-	5.0	5.0	15.0	
	肢体不自由	306	26.5	19.9	9.5	9.5	12.1	33.3	6.5	2.9	11.4	31.7	11.1	3.3	1.0	12.7	19.6	
	内部障がい	157	45.2	10.8	22.3	9.6	13.4	40.8	3.8	1.9	7.6	33.8	7.6	3.8	-	14.0	13.4	
	その他	10	30.0	20.0	10.0	20.0	10.0	40.0	10.0	10.0	-	20.0	-	-	-	-	-	40.0
	身体障がい以外の障がいの重複がある	50	16.0	26.0	12.0	6.0	6.0	38.0	2.0	8.0	8.0	30.0	10.0	6.0	-	8.0	32.0	
	無回答	51	15.7	7.8	7.8	11.8	9.8	27.5	-	3.9	9.8	31.4	9.8	2.0	-	11.8	33.3	

(数値:%)

【図表 2-3-18 知的障がい者が働くために必要な条件(全体・障がいの程度別)】

	サンプル数	勤務調整できる時間や日数を	通勤手段があること	と通院等の保障があること	と自宅で仕事ができること	賃金が妥当であること	障がいにあつた仕事であること	職業訓練等で就労のための技術を身につけること	慣れるまで援助していただく制度があること	ジョブコーチ等職場にいること	勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること	周囲が自分を理解してくれること	職場により指導者や先輩がいること	就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること	その他	特にな	無回答
全体	217	9.2	21.2	5.1	4.6	10.6	37.8	2.8	15.7	5.5	37.3	20.7	17.1	-	12.0	18.4	
障がいの程度別	療育手帳A	112	8.9	21.4	2.7	4.5	5.4	43.8	0.9	12.5	7.1	37.5	16.1	21.4	-	11.6	19.6
	療育手帳B	89	11.2	22.5	9.0	5.6	15.7	33.7	4.5	18.0	4.5	34.8	27.0	12.4	-	12.4	14.6
	知的障がい以外の障がいの重複がある	50	8.0	16.0	2.0	8.0	8.0	34.0	2.0	8.0	6.0	34.0	18.0	14.0	-	12.0	26.0
	無回答	16	-	12.5	-	-	18.8	18.8	6.3	25.0	-	50.0	18.8	12.5	-	12.5	31.3

(数値:%)

【図表 2-3-19 精神障がい者が働くために必要な条件(全体・現在の症状別)】

	サンプル数	勤務調整できる時間や日数を	通勤手段があること	と通院等の保障があること	と自宅で仕事ができること	賃金が妥当であること	障がいにあつた仕事であること	職業訓練等で就労のための技術を身につけること	慣れるまで援助していただく制度があること	ジョブコーチ等職場にいること	勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること	周囲が自分を理解してくれること	職場により指導者や先輩がいること	就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること	その他	特にな	無回答
全体	176	48.9	20.5	24.4	16.5	14.2	24.4	6.3	5.7	6.3	40.9	16.5	4.0	1.1	6.8	10.8	
現在の症状別	回復	76	50.0	23.7	31.6	13.2	18.4	19.7	7.9	6.6	5.3	34.2	21.1	6.6	1.3	2.6	9.2
	変化なし	42	50.0	26.2	19.0	16.7	16.7	28.6	2.4	4.8	7.1	40.5	14.3	2.4	2.4	16.7	4.8
	悪化	13	38.5	30.8	15.4	23.1	-	30.8	-	15.4	15.4	53.8	7.7	-	-	15.4	7.7
	症状不安定	39	48.7	7.7	23.1	20.5	7.7	25.6	10.3	-	5.1	53.8	12.8	2.6	-	2.6	17.9
	無回答	6	50.0	-	-	16.7	16.7	33.3	-	16.7	-	16.7	16.7	-	-	-	-

(数値:%)

【図表 2-3-20 難病患者が働くために必要な条件(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	勤務調整できる時間や日数を	通勤手段があること	と通院等の保障があること	と自宅で仕事ができること	賃金が妥当であること	障がいにあつた仕事であること	職業訓練等で就労のための技術を身につけること	慣れるまで援助していただくこと	ジョブコーチ等職場に	勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること	周囲が自分を理解してくれること	職場によい指導者や先輩がいること	就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること	その他	特にな	無回答
全 体	198	33.3	20.2	22.2	11.1	12.1	30.8	4.0	7.1	11.1	40.4	9.6	6.6	-	9.6	13.6	
障がいの状況別	身体障がい	58	22.4	20.7	15.5	8.6	10.3	39.7	1.7	1.7	12.1	25.9	8.6	3.4	-	13.8	19.0
	知的障がい	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-
	精神障がい	1	-	100.0	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	40.3	20.2	25.2	10.1	11.8	26.1	3.4	10.9	10.9	46.2	10.9	9.2	-	8.4	10.9
	無回答	21	23.8	19.0	23.8	23.8	19.0	33.3	14.3	-	9.5	47.6	4.8	-	-	4.8	14.3

(数値:%)

第4節 障がい児の療育や保育・教育について

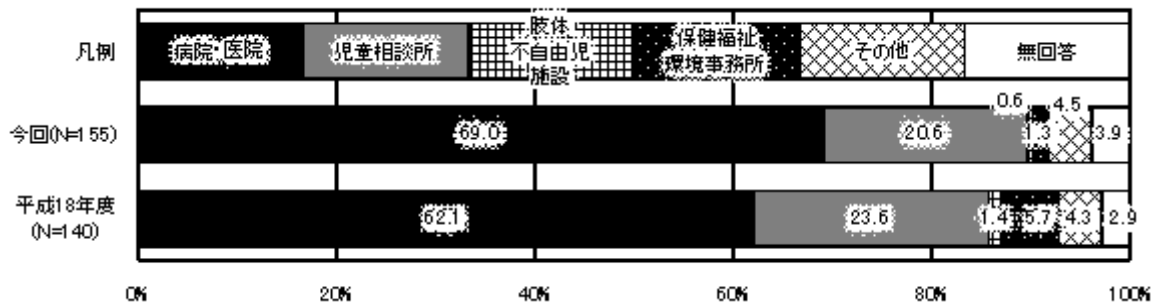
1. 療育等について

(1) 障がいの診断・判定を受けた場所

お子さんの障がいについて、どこで診断・判定を受けてはわかりましたか。(〇は1つだけ)

[障がい児:問9]

【図表 2-4-1 障がいの診断・判定を受けた場所(全体・時系列)】



障がい児が障がいの診断・判定を受けた場所は、「病院・医院」(69.0%)が最も高く、次いで「児童相談所」(20.6%)となっている。

平成18年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果であった。

【図表 2-4-2 障がいの診断・判定を受けた場所(全体・障がいの状況別・障がいの発生年齢別)】

		サンプル数	病院・医院	児童相談所	肢体不自由児施設	保健福祉環境事務所	その他	無回答
全体		155	69.0	20.6	0.6	1.3	4.5	3.9
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	89.3	-	-	-	3.6	7.1
	身体障がい・知的障がいの重複	20	85.0	10.0	5.0	-	-	-
	知的障がいのみ	72	52.8	38.9	-	2.8	4.2	1.4
	その他	2	100.0	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	29	79.3	-	-	-	10.3	10.3
無回答	4	50.0	50.0	-	-	-	-	
障がいの発生年齢別	出生時から	48	87.5	6.3	2.1	-	-	4.2
	0歳	19	89.5	10.5	-	-	-	-
	1~2歳	29	62.1	10.3	-	-	20.7	6.9
	3~5歳	35	54.3	34.3	-	5.7	2.9	2.9
	6~12歳	8	50.0	50.0	-	-	-	-
	13~17歳	1	100.0	-	-	-	-	-
	わからない	10	30.0	70.0	-	-	-	-
	無回答	5	60.0	20.0	-	-	-	20.0

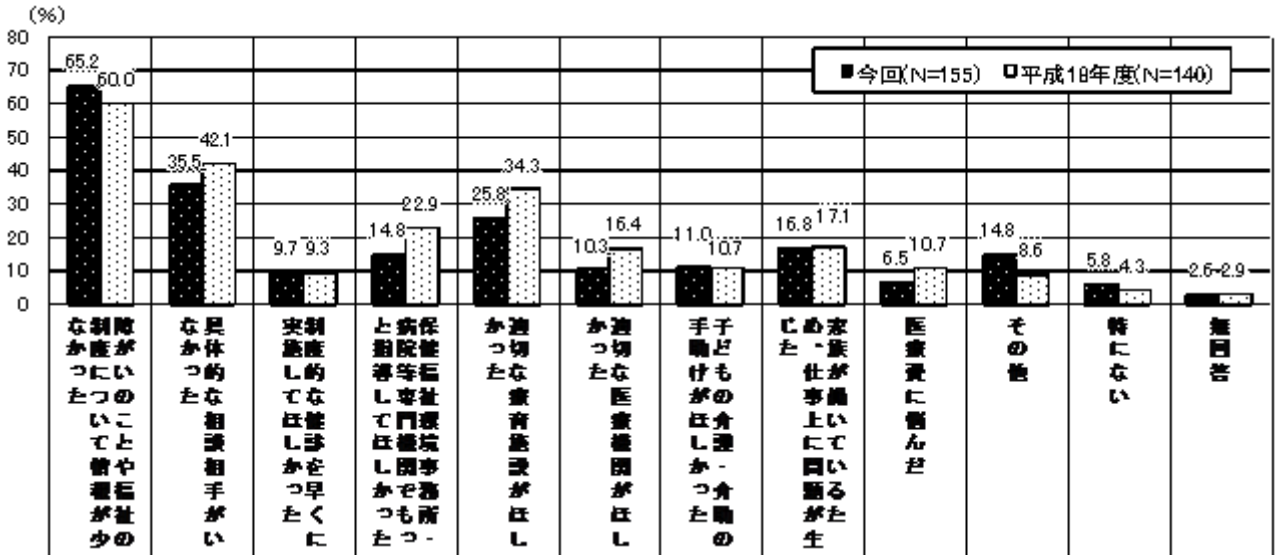
(数値:%)

障がいの発生年齢別にみると、0歳以下では「病院・医院」が9割近くを占め非常に多い。

(2) 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み

お子さんの障がいの状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。(〇は3つまで)[障がい児:問 10]

【図表 2-4-3 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み(全体・時系列)】



障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩みでは、「障がいのことや福祉の制度について情報が少なかった」(65.2%)が突出して高い。次いで、「具体的な相談相手がいなかった」(35.5%)、「適切な療育施設がほしかった」(25.8%)となっている。

平成 18 年度調査と比較すると、ほぼ同率か割合が減少している項目が多い中、「障がいのことや福祉の制度について情報が少なかった」のみ、やや割合が増加している。

【図表 2-4-4 障がいの診断・判定を受けた当時の苦労や悩み(全体・障がいの状況別・障がいの発生年齢別)】

	サンプル数	障がいのことや福祉情報の少なさ	具体的な相談相手がいなかった	制度的な健診を早くに実施してほしかった	保健福祉環境事務所・と指導してほしかった	適切な療育施設がほしかった	適切な医療機関がほしかった	子どもの介護・介助の手助けがほしかった	家族が働いているが生計が厳しい	医療費に悩んだ	その他	特になし	無回答	
全体	155	65.2	35.5	9.7	14.8	25.8	10.3	11.0	16.8	6.5	14.8	5.8	2.6	
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	82.1	42.9	14.3	14.3	3.6	14.3	10.7	14.3	10.7	14.3	-	3.6
	身体障がい・知的障がいの重複	20	55.0	45.0	15.0	25.0	15.0	5.0	20.0	10.0	5.0	15.0	-	5.0
	知的障がいのみ	72	66.7	26.4	4.2	18.1	36.1	9.7	11.1	22.2	6.9	13.9	11.1	1.4
	その他	2	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	29	55.2	37.9	17.2	3.4	31.0	13.8	6.9	13.8	3.4	17.2	-	-
	無回答	4	50.0	50.0	-	-	25.0	-	-	-	-	25.0	25.0	25.0
障がいの発生年齢別	出生時から	48	77.1	43.8	4.2	8.3	25.0	8.3	6.3	18.8	12.5	14.6	2.1	2.1
	0歳	19	63.2	36.8	15.8	36.8	31.6	10.5	31.6	26.3	10.5	26.3	-	5.3
	1～2歳	29	62.1	37.9	20.7	10.3	31.0	6.9	10.3	6.9	-	17.2	-	-
	3～5歳	35	60.0	28.6	8.6	17.1	28.6	14.3	11.4	17.1	2.9	8.6	8.6	2.9
	6～12歳	8	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	12.5	25.0	-	25.0	25.0	-
	13～17歳	1	100.0	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	わからない	10	70.0	20.0	-	10.0	20.0	10.0	-	20.0	10.0	10.0	20.0	-
	無回答	5	40.0	40.0	-	20.0	-	-	-	-	-	-	20.0	20.0

(数値: %)

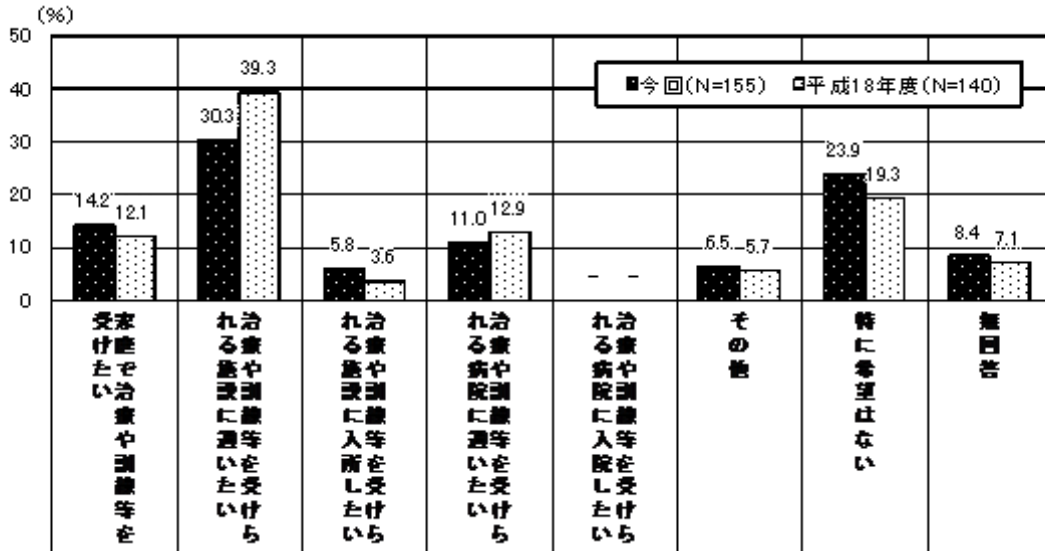
障がいの状況別にみると、身体障がいのみ、身体障がい・知的障がいの重複がある場合は「具体的な相談相手がいなかった」、「制度的な健診を早くに実施してほしかった」の割合が高くなっている。

障がいの発生年齢別にみると、「具体的な相談相手がいなかった」、「制度的な健診を早くに実施してほしかった」、「適切な療育施設がほしかった」等は0歳や1～2歳に多くなっている。

(3) 治療や療育、訓練等についての希望

お子さんの今後の治療や療育、訓練等について、どのような希望をお持ちですか。お子さん自身の希望に最も近いと思われるものを選んでください。(○は1つだけ)[障がい児:問 11]

【図表 2-4-5 治療や療育、訓練等についての希望(全体・時系列)】



今後の治療や療育、訓練等についての希望では、「治療や訓練等を受けられる施設に通いたい」(30.3%)が最も高く、次いで「特に希望はない」(23.9%)となっている。

平成 18 年度の調査結果と比較すると、「治療や訓練等を受けられる施設に通いたい」の割合がやや減少している。

【図表 2-4-6 治療や療育、訓練等についての希望(全体・年齢別・障がいの状況別)】

	サンプル数	家庭で治療や訓練等を受けたい	治療や訓練施設に通いたい	治療や訓練施設に入所したい	治療や訓練施設に通いたい	治療や訓練施設に入院したい	その他	特に希望はない	無回答	
全体	155	14.2	30.3	5.8	11.0	-	6.5	23.9	8.4	
年齢別	5歳以下	45	6.7	57.8	2.2	8.9	-	6.7	17.8	-
	6～11歳	43	27.9	16.3	-	14.0	-	14.0	18.6	9.3
	12～14歳	25	16.0	20.0	12.0	12.0	-	-	28.0	12.0
	15～17歳	39	7.7	23.1	10.3	10.3	-	2.6	33.3	12.8
	無回答	3	-	-	33.3	-	-	-	33.3	33.3
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	14.3	21.4	-	17.9	-	10.7	25.0	10.7
	身体障がい・知的障がいの重複	20	15.0	30.0	5.0	25.0	-	5.0	10.0	10.0
	知的障がいのみ	72	11.1	33.3	8.3	9.7	-	6.9	22.2	8.3
	その他	2	-	-	50.0	-	-	-	50.0	-
	手帳は持っていない	29	13.8	37.9	3.4	-	-	3.4	34.5	6.9
	無回答	4	75.0	-	-	-	-	-	25.0	-

(数値:%)

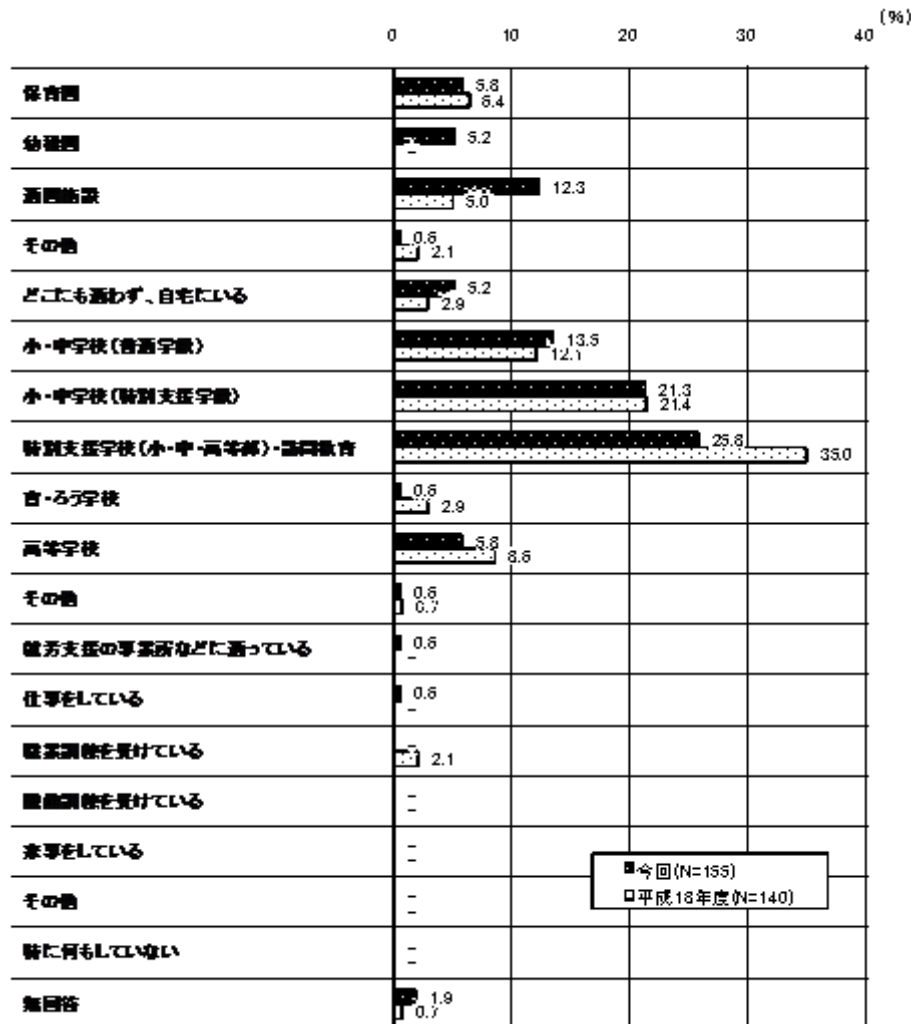
障がい児の年齢別にみると、5歳以下では「治療や訓練等を受けられる施設に通いたい」、6～11歳では「家庭で治療や訓練等を受けたい」の割合が高い。

2. 保育・教育について

(1) 日中の過ごし方

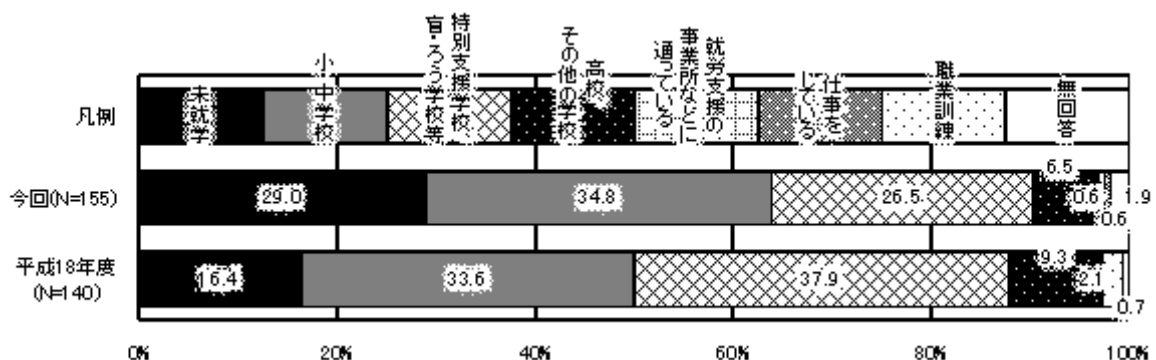
お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。(○は1つだけ)[障がい児:問 12]

【図表 2-4-10 日中の過ごし方(全体・時系列)】



障がい児の就学状況では、「特別支援学校・訪問教育」(25.8%)、「小・中学校(特別支援学級)」(21.3%)の順で高い。平成18年度調査と比較すると、「通園施設」の割合が増加し、「特別支援学校(小・中・高等部)・訪問教育」の割合が減少している。

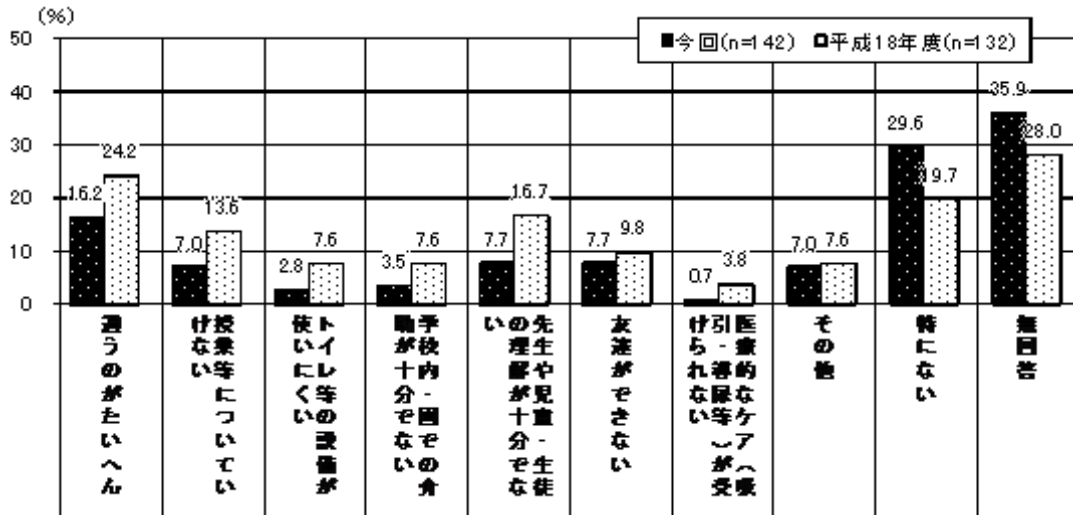
【図表 2-4-11 就学状況(全体・時系列)】



(2)通園・通学で困っていること

(お子さんが、保育園・幼稚園等や学校に通っている方のみお答えください) 通園や通学に関して困っていることがありますか。(○はあてはまるものすべて)(○は1つだけ)[障がい児:問 12-1]

【図表 2-4-12 通園・通学で困っていること(全体・時系列)】



通園・通学で困っていることは、「特にない」(29.6%)が最も高く、次いで「通うのがたいへん」(16.2%)となっている。平成18年度調査と比較すると、「特にない」を除いた、困っていることの項目の割合が減少している。

【図表 2-4-13 通園・通学で困っていること(全体・障がいの状況別・就学状況別)】

	サンプル数	通うのがたいへん	授業等についていけない	トイレ等の設備が使いにくい	学校内・園での介助が十分でない	先生や児童・生徒の理解が十分でない	友達ができない	医療的ケア(吸引・導尿等)が受けられない	その他	特にない	無回答	
全体	142	16.2	7.0	2.8	3.5	7.7	7.7	0.7	7.0	29.6	35.9	
障がいの状況別	身体障がいのみ	23	13.0	8.7	13.0	8.7	17.4	4.3	4.3	34.8	21.7	
	身体障がい・知的障がいの重複	19	36.8	5.3	5.3	-	-	5.3	5.3	5.3	47.4	
	知的障がいのみ	67	13.4	9.0	-	4.5	9.0	9.0	1.5	7.5	28.4	40.3
	その他	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	手帳は持っていない	27	11.1	3.7	-	-	3.7	7.4	-	11.1	48.1	25.9
	無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	50.0
就学状況別	未就学	37	10.8	8.1	5.4	2.7	5.4	8.1	-	5.4	43.2	27.0
	小・中学校	54	13.0	7.4	3.7	3.7	11.1	9.3	1.9	7.4	37.0	25.9
	特別支援学校、盲・ろう学校等	41	22.0	4.9	-	2.4	2.4	2.4	-	4.9	12.2	56.1
	高校、その他の学校	10	30.0	10.0	-	10.0	20.0	20.0	-	20.0	10.0	40.0

(数値:%)

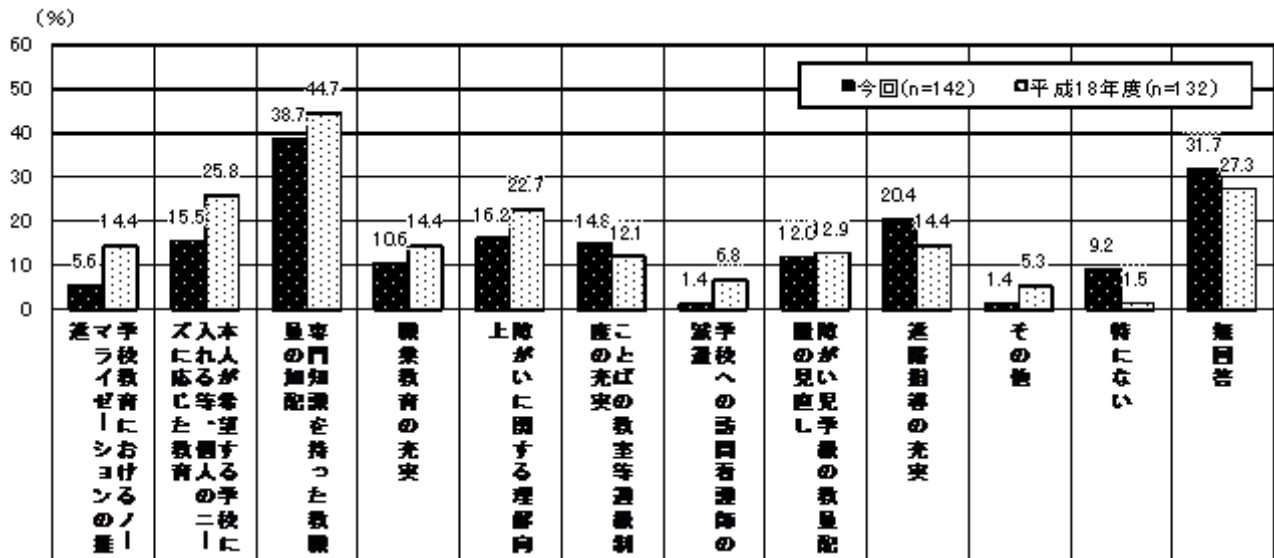
障がいの状況別にみると、身体障がい・知的障がいの重複障がいがある場合は、他に比べて「通うのが大変」(36.8%)の割合が高い他、「特にない」の割合が非常に低くなっている。

就学状況別にみると、特別支援学校、盲・ろう学校等や高校、その他の学校においては「通うのがたいへん」がやや高くなっている。

(3) 保育・教育に関する要望

(お子さんが、保育園・幼稚園等や学校に通っている方のみお答えください) 次のような保育・教育に関する要望がありますか。(○は3つまで)[障がい児:問 12-2]

【図表 2-4-14 保育・教育に関する要望(全体・時系列)】



保育・教育に関する要望は、「専門知識を持った教職員の加配」(38.7%)が突出して多い。

平成 18 年度調査と比較すると、「障がいに関する理解向上」の割合が減少したものの、「進路指導の充実」は割合が高くなっている。

【図表 2-4-15 保育・教育に関する要望(全体・障がいの状況別・就学状況別)】

	サンプル数	進路指導の充実	障がい児への訪問看護師の派遣	このほかの教室等通級	障がいに関する理解向上	職業教育の充実	専門知識を持った教職員の加配	本人が希望する学校に入れる等、個人のニーズに応じた教育	手帳教育におけるノウハウの共有	その他	特になし	無回答	
全体	142	20.4	12.0	14.8	16.2	10.6	38.7	15.5	5.6	1.4	9.2	31.7	
障がいの状況別	身体障がいのみ	21.7	4.3	8.7	34.8	13.0	47.8	21.7	8.7	4.3	8.7	21.7	
	身体障がい・知的障がいの重複	31.6	-	5.3	10.5	15.8	42.1	5.3	10.5	15.8	5.3	31.6	
	知的障がいのみ	34.3	-	16.4	14.9	10.4	38.8	13.4	3.0	-	6.0	34.3	
	その他	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	手帳は持っていない	29.6	14.8	3.7	25.9	11.1	33.3	22.2	7.4	3.7	11.1	14.8	29.6
無回答	50.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	50.0	
就学状況別	未就学	32.4	8.1	29.7	18.9	5.4	54.1	24.3	-	5.4	2.7	32.4	
	小・中学校	24.1	22.2	13.0	16.7	7.4	35.2	9.3	11.1	-	18.5	24.1	
	特別支援学校、盲・ろう学校等	41.5	22.0	7.3	14.6	14.6	34.1	12.2	4.9	-	2.4	41.5	
	高校、その他の学校	30.0	50.0	-	10.0	30.0	20.0	30.0	-	-	-	10.0	30.0

(数値:%)

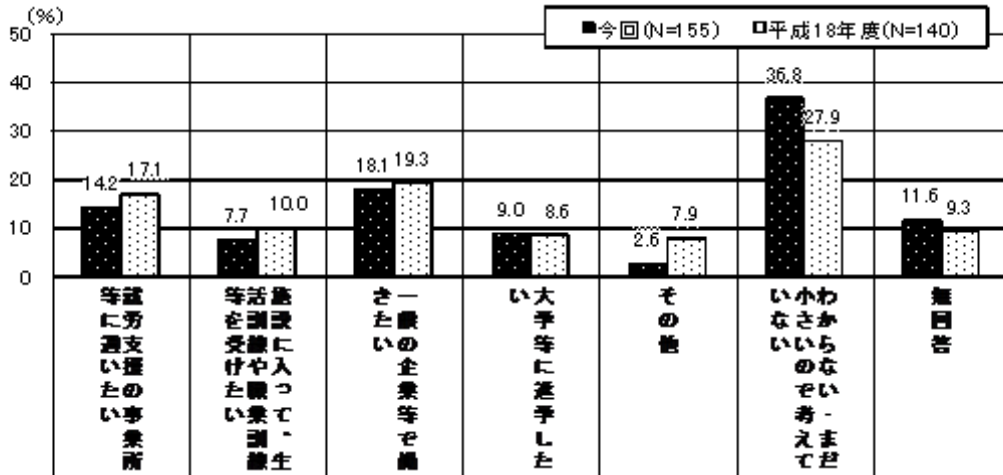
障がいの状況別にみると、身体障がいのみ、身体障がい・知的障がいの重複がある場合は「専門知識を持った教職員の加配」が4割以上と高くなっている。

就学状況別では、「本人が希望する学校に入れる等、個別のニーズに応じた教育」、「専門知識を持った教職員の加配」において未就学児の割合が他に比べて高くなっている。

(4) 学校卒業後の進路希望

お子さんが、学校(中学校または高等学校)を卒業した後の進路について、どのようにお考えですか。お子さん自身の希望に最も近いと思われるものを選んでください。(○は1つだけ)[障がい児:問 13]

【図表 2-4-16 学校卒業後の進路希望(全体・時系列)】



学校卒業後の進路希望については、「わからない・まだ小さいので考えていない」(36.8%)が最も多いが、具体的な項目では「一般の企業等で働きたい」(18.1%)、「就労支援の事業所等に通いたい」(14.2%)の順で多くなっている。

平成 18 年度調査と比較すると、「一般の企業等で働きたい」、「就労支援の事業所等に通いたい」は変わらず割合が高い。

【図表 2-4-17 学校卒業後の進路希望(全体・障がいの状況別・就学状況別)】

	サンプル数	就労支援の事業所等に通いたい	職業訓練等を受生活けたい	一般の企業等で働きたい	大学等に進学したい	その他	わからない・まだ小さい	無回答	
全体	155	14.2	7.7	18.1	9.0	2.6	36.8	11.6	
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	10.7	-	25.0	28.6	-	32.1	3.6
	身体障がい・知的障がいの重複	20	15.0	10.0	5.0	-	10.0	40.0	20.0
	知的障がいのみ	72	20.8	12.5	16.7	1.4	-	36.1	12.5
	その他	2	-	-	50.0	-	50.0	-	-
	手帳は持っていない	29	3.4	3.4	17.2	17.2	3.4	41.4	13.8
	無回答	4	-	-	50.0	-	-	50.0	-
就学状況別	未就学	45	8.9	2.2	8.9	11.1	-	51.1	17.8
	小・中学校	54	7.4	3.7	24.1	7.4	1.9	46.3	9.3
	特別支援学校、盲・ろう学校等	41	34.1	22.0	14.6	-	7.3	17.1	4.9
	高校、その他の学校	10	-	-	50.0	50.0	-	-	-
	就労支援の事業所などに通っている	1	-	-	-	-	-	-	100.0
	仕事をしている	1	-	-	-	-	-	-	100.0
無回答	3	-	-	-	-	-	66.7	33.3	

(数値:%)

第5節 外出について

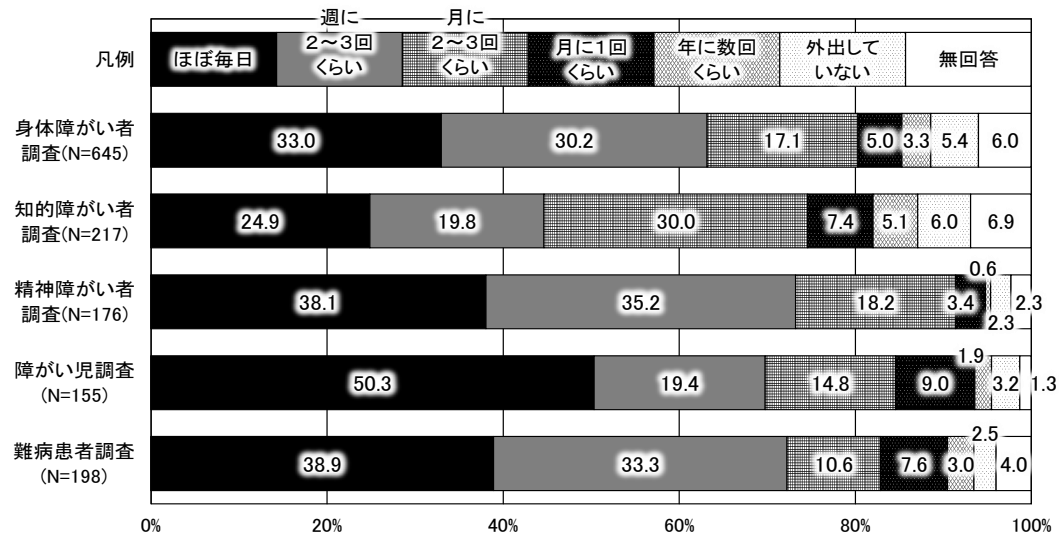
1. 外出の状況

(1) 外出の状況

あなたが外出する回数はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

[身体障がい者:問 14、知的障がい者:問 15、精神障がい者:問 17、障がい児:問 14、難病患者:問 15]

【図表 2-5-1 外出の状況(全体・調査別)】



外出する頻度について、知的障がい者以外では「ほぼ毎日」(身体障がい者:33.0%、精神障がい者:38.1%、障がい児:50.3%、難病患者:38.9%)が最も多い。一方、知的障がい者においては、「月に2~3回くらい」(30.0%)が最も多く、外出頻度に違いがみられる。

【図表 2-5-2 身体障がい者の外出の状況(全体・障がいの程度別・障がいの部位別)】

		サンプル数	ほぼ毎日	週に2〜3回	月に2〜3回	月に1回くらい	年に数回くらい	外出していない	無回答
全体		645	33.0	30.2	17.1	5.0	3.3	5.4	6.0
障がいの程度別	1級+2級(重度)	304	24.3	31.3	21.1	4.9	3.6	7.9	6.9
	3級+4級(中度)	207	39.6	34.3	10.6	5.3	2.4	2.9	4.8
	5級+6級(低度)	110	46.4	23.6	17.3	3.6	3.6	0.9	4.5
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	28.0	24.0	4.0	12.0	4.0	12.0
	無回答	24	25.0	12.5	20.8	8.3	4.2	16.7	12.5
障がいの部位別	視覚	39	28.2	25.6	25.6	10.3	2.6	2.6	5.1
	聴覚・平衡機能	62	24.2	33.9	29.0	-	4.8	4.8	3.2
	音声・言語・そしゃく	20	35.0	15.0	10.0	15.0	10.0	5.0	10.0
	肢体不自由	306	35.3	29.4	14.7	4.9	3.6	6.9	5.2
	内部障がい	157	33.8	36.9	16.6	3.8	1.3	2.5	5.1
	その他	10	10.0	20.0	30.0	20.0	-	10.0	10.0
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	28.0	24.0	4.0	12.0	4.0	12.0
	無回答	51	35.3	21.6	11.8	3.9	3.9	7.8	15.7

(数値:%)

【図表 2-5-3 知的障がい者の外出の状況(全体・障がいの程度別)】

		サンプル数	ほぼ毎日	週に2〜3回	月に2〜3回	月に1回くらい	年に数回くらい	外出していない	無回答
全体		217	24.9	19.8	30.0	7.4	5.1	6.0	6.9
障がいの程度別	療育手帳A	112	18.8	16.1	35.7	8.9	7.1	6.3	7.1
	療育手帳B	89	32.6	24.7	22.5	6.7	2.2	5.6	5.6
	知的障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	20.0	28.0	10.0	10.0	6.0	10.0
	無回答	16	25.0	18.8	31.3	-	6.3	6.3	12.5

(数値:%)

【図表 2-5-4 精神障がい者の外出の状況(全体・現在の症状別)】

		サンプル数	ほぼ毎日	週に2〜3回	月に2〜3回	月に1回くらい	年に数回くらい	外出していない	無回答
全体		176	38.1	35.2	18.2	3.4	0.6	2.3	2.3
現在の症状別	回復	76	59.2	23.7	10.5	1.3	-	-	5.3
	変化なし	42	28.6	40.5	21.4	4.8	2.4	2.4	-
	悪化	13	30.8	23.1	38.5	-	-	7.7	-
	症状不安定	39	10.3	59.0	23.1	7.7	-	-	-
	無回答	6	33.3	16.7	16.7	-	-	33.3	-

(数値:%)

【図表 2-5-5 障がい児の外出の状況(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	ほぼ毎日	週に2〜3回	月に2〜3回	月に1回くらい	年に数回くらい	外出していない	無回答	
全体	155	50.3	19.4	14.8	9.0	1.9	3.2	1.3	
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	60.7	14.3	14.3	10.7	-	-	
	身体障がい・知的障がいの重複	20	35.0	20.0	15.0	20.0	5.0	5.0	
	知的障がいのみ	72	47.2	19.4	15.3	9.7	2.8	5.6	
	その他	2	-	50.0	50.0	-	-	-	
	手帳は持っていない	29	62.1	20.7	10.3	-	-	-	6.9
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-	-

(数値:%)

【図表 2-5-6 難病患者の外出の状況(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	ほぼ毎日	週に2〜3回	月に2〜3回	月に1回くらい	年に数回くらい	外出していない	無回答	
全体	198	38.9	33.3	10.6	7.6	3.0	2.5	4.0	
障がいの状況別	身体障がい	58	19.0	43.1	12.1	15.5	1.7	3.4	5.2
	知的障がい	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	精神障がい	1	-	-	100.0	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	49.6	26.1	9.2	5.0	3.4	2.5	4.2
	無回答	21	33.3	47.6	14.3	-	4.8	-	-

(数値:%)

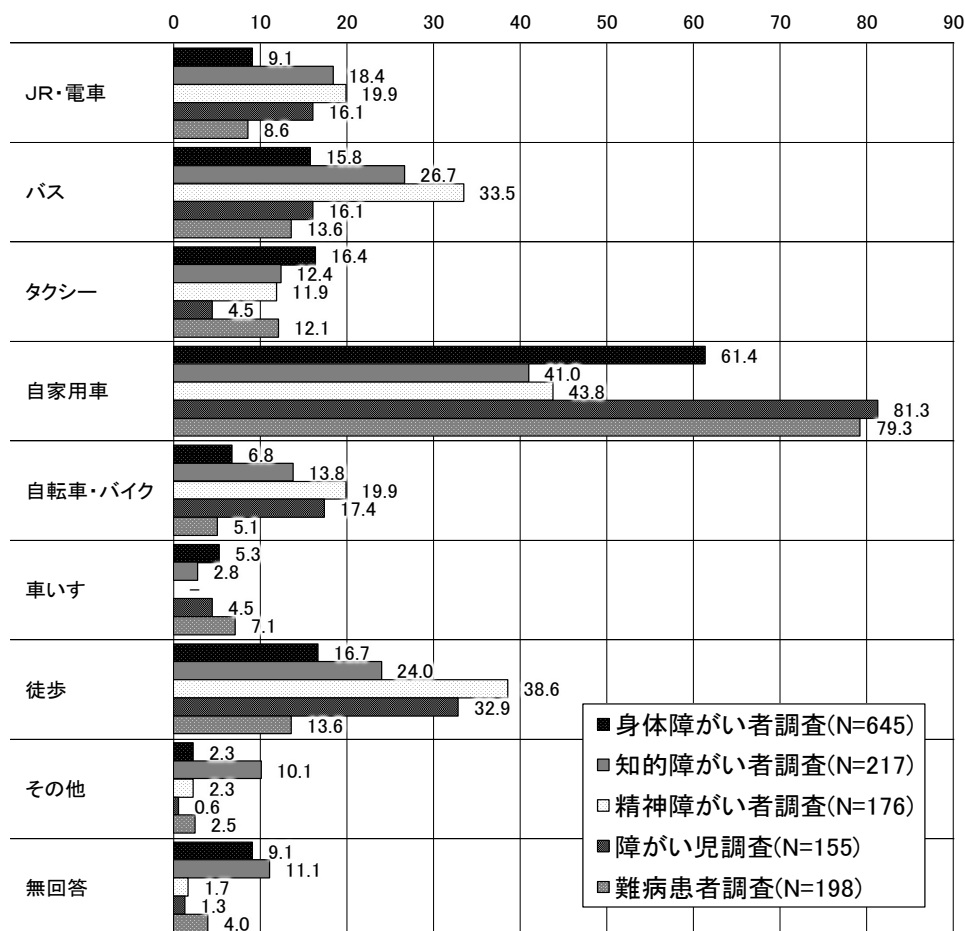
(2)外出時の移動手段

外出の時の移動手段は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 15、知的障がい者:問 16、精神障がい者:問 18、障がい児:問 15、難病患者:問 16]

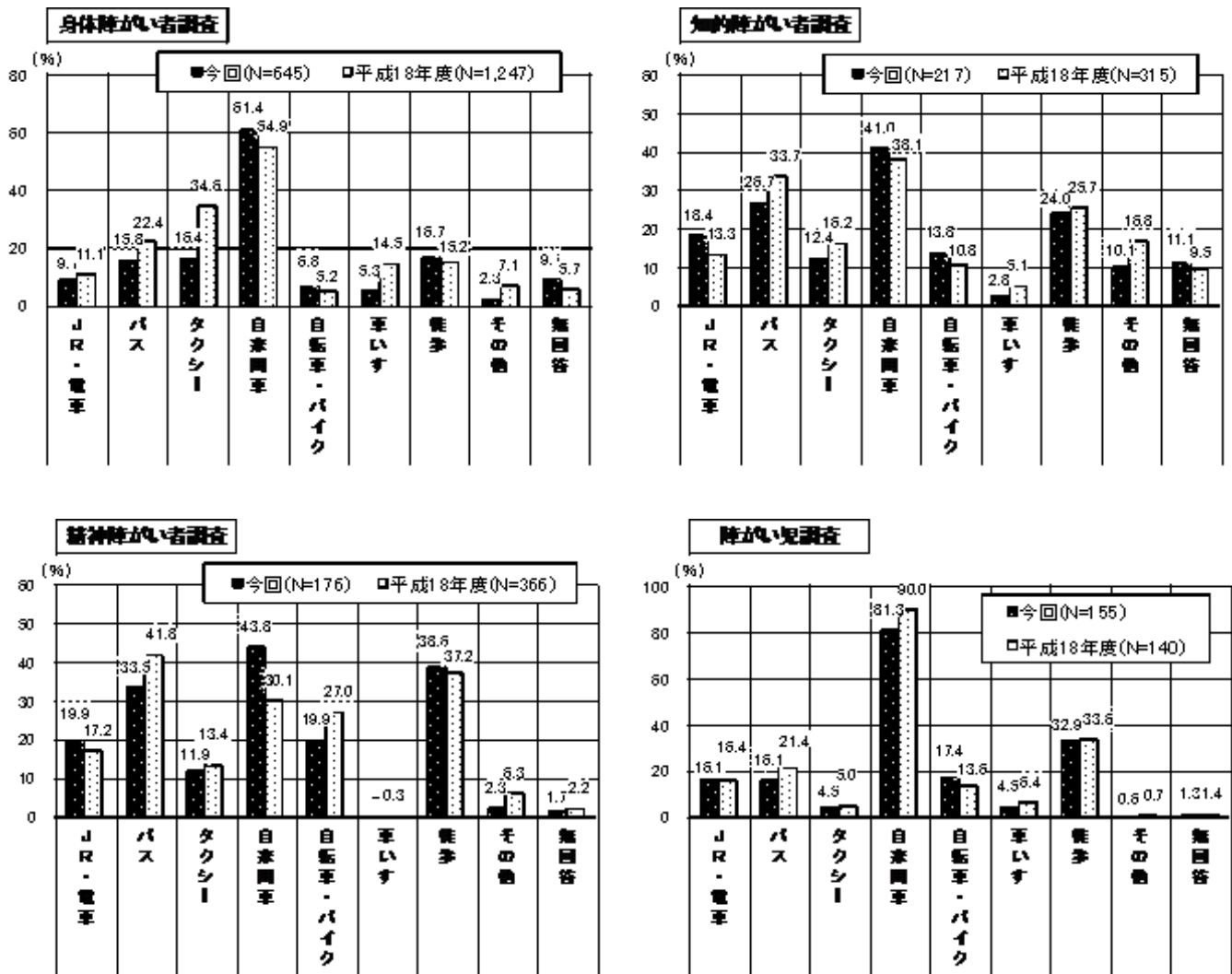
【図表 2-5-7 外出時の移動手段(全体・調査別)】

(%)



外出時の移動手段は、いずれも「自家用車」(身体障がい者:61.4%、知的障がい者:41.0%、精神障がい者:43.8%、障がい児:81.3%、難病患者:79.3%)が最も多い。

【図表 2-5-8 外出時の移動手段(全体・時系列)】



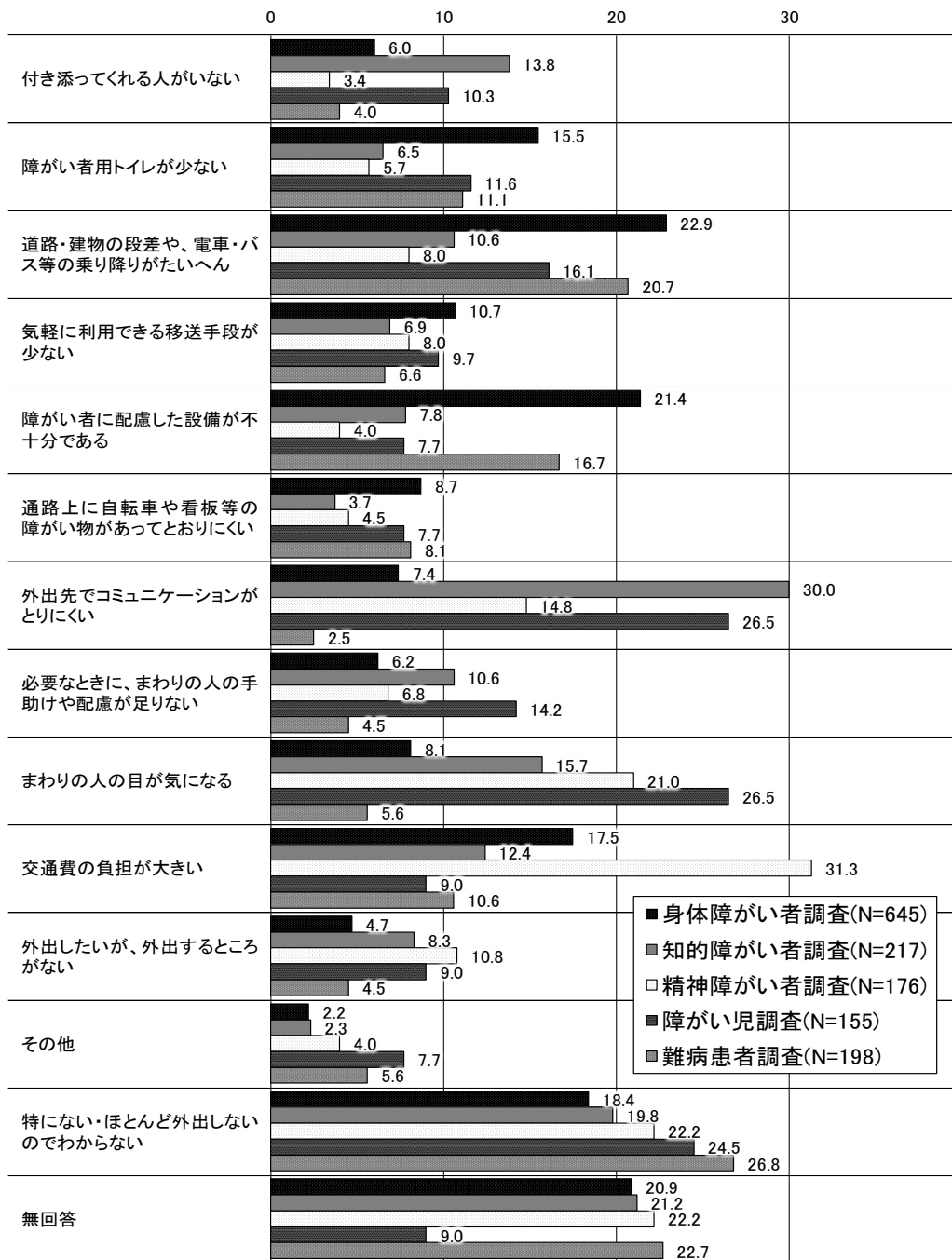
平成 18 年度結果と比較すると、身体・知的・障がい児は大きな傾向の変化は見られないものの、身体障がい者においてはタクシーの割合が半減している。精神障がい者については平成 18 年度調査は「バス」が最も多かったのが今回調査では「自家用車」となっており、若干変化がみられる。

(3)外出時に不便や困難を感じること

外出に関して、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)
 [身体障がい者:問 16、知的障がい者:問 17、精神障がい者:問 19、障がい児:問 16、難病患者:問 17]

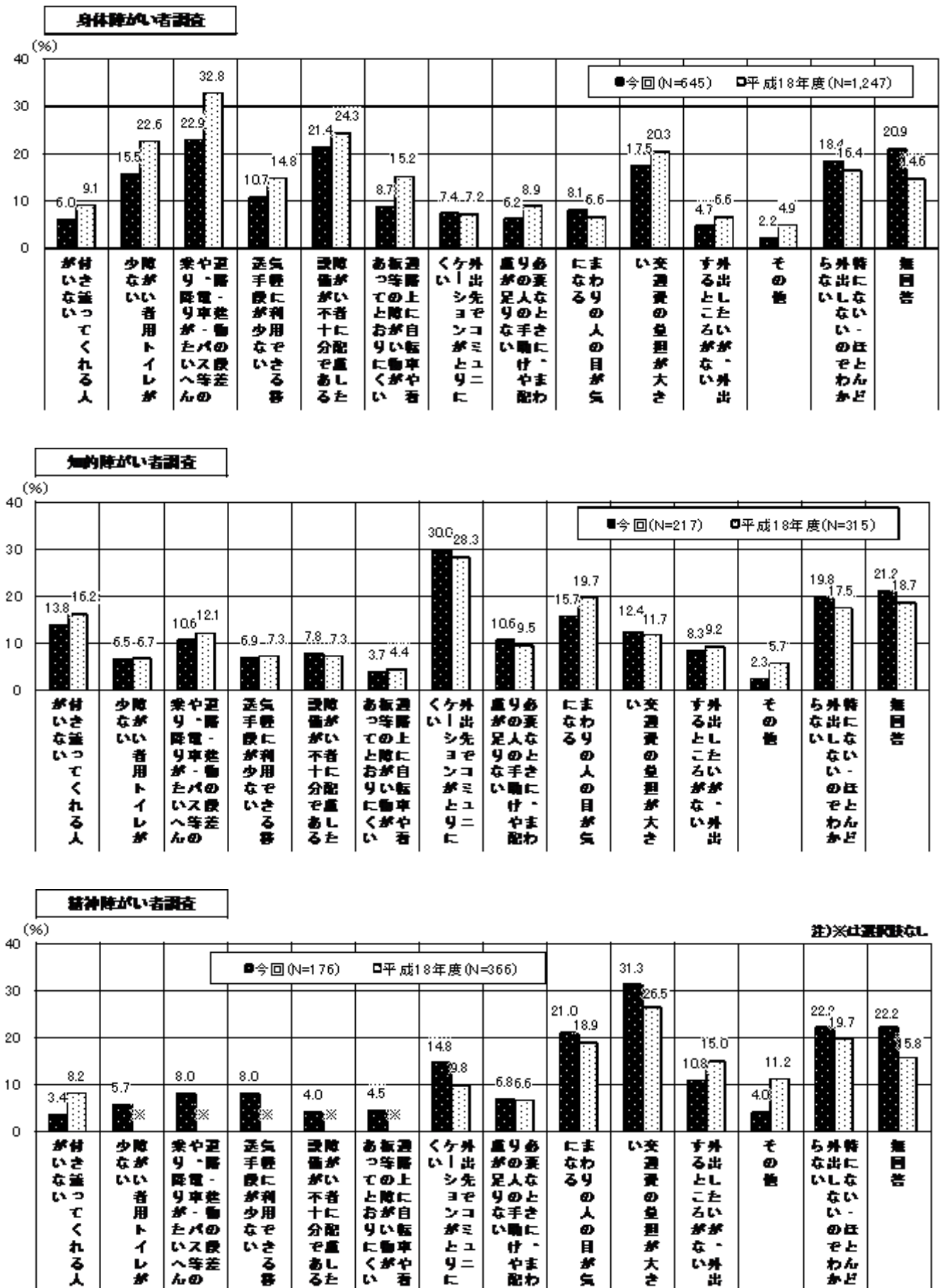
【図表 2-5-9 外出時に不便や困難を感じること(全体・調査別)】

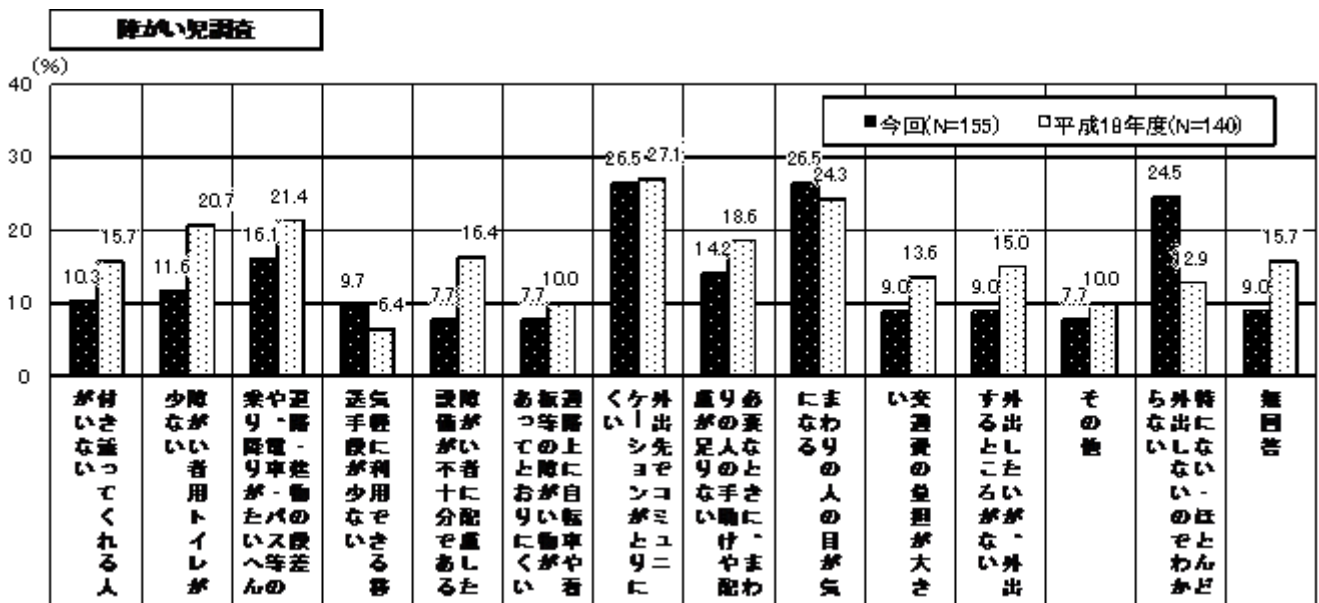
(%)



外出時に不便や困難を感じることは、身体障がい者と難病患者は「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」(身体障がい者:22.9%、難病患者:20.7%)、知的障がい者は「外出先でコミュニケーションがとりにくい」(30.0%)、精神障がい者は「交通費の負担が大きい」(31.3%)、障がい児は「外出先でコミュニケーションがとりにくい」、「まわりの人の目が気になる」(ともに26.5%)、難病患者は「特にない・ほとんど外出しないのでわからない」(26.8%)がそれぞれ最も多くなっている。

【図表 2-5-10 外出時に不便や困難を感じること(全体・時系列)】





平成18年度結果と比較すると、大きな変化はないが、身体障がい者で「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」、障がい児で「障がい児用トイレが少ない」、「障がい者に配慮した設備が不十分である」の割合がやや減少している。

【図表 2-5-11 身体障がい者の外出時に不便や困難を感じること(全体・障がいの程度別・障がいの部位別)】

	サンプル数	付き添ってくれる人がいない	障がい者用トイレが少ない	電車がバス等の乗り降りがたいへん	道路・建物の段差や、電車の段差が少ない	手荷物が少ない	気軽に利用できる移送手段が少ない	障がい者に配慮した設備が不十分である	等々の障がい物があつておりにくい	通路上に自転車や看板	シヨーンがとりにくい	外出先でコミュニケーションがとりにくい	必要の手助けや配慮が足りない	必要となる人々の目が気になる	まわりの人の目が気になる	交通費の負担が大きい	外出したいが、外出するところがない	その他	い出特にしない・ほとんどわからない	無回答
全体	645	6.0	15.5	22.9	10.7	21.4	8.7	7.4	6.2	8.1	17.5	4.7	2.2	18.4	20.9					
障がいの程度別	1級+2級(重度)	304	7.9	19.1	28.0	15.8	25.3	13.8	9.5	8.6	7.9	18.4	5.3	3.0	16.1	19.4				
	3級+4級(中度)	207	4.3	15.9	20.3	6.8	20.3	5.8	4.8	5.3	7.2	15.9	3.4	1.4	20.8	18.8				
	5級+6級(低度)	110	3.6	7.3	15.5	4.5	15.5	1.8	5.5	1.8	10.9	20.9	5.5	0.9	17.3	27.3				
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	18.0	18.0	14.0	22.0	12.0	8.0	10.0	8.0	20.0	10.0	2.0	10.0	24.0				
	無回答	24	8.3	4.2	16.7	8.3	8.3	-	12.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	33.3	29.2				
障がいの部位別	視覚	39	12.8	5.1	43.6	17.9	15.4	28.2	15.4	15.4	17.9	17.9	5.1	5.1	7.7	17.9				
	聴覚・平衡機能	62	6.5	6.5	14.5	11.3	9.7	1.6	40.3	11.3	11.3	19.4	4.8	3.2	11.3	19.4				
	音声・言語・そしゃく	20	-	5.0	15.0	10.0	5.0	10.0	35.0	5.0	15.0	15.0	-	-	15.0	20.0				
	肢体不自由	306	7.5	20.6	29.4	10.5	27.1	10.1	1.6	6.5	8.5	19.0	5.9	1.0	16.3	19.0				
	内部障がい	157	3.8	8.3	10.8	8.9	17.2	3.8	1.3	2.5	3.2	16.6	3.8	2.5	29.9	22.3				
	その他	10	10.0	60.0	40.0	30.0	40.0	10.0	-	-	20.0	-	10.0	-	-	10.0				
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	18.0	18.0	14.0	22.0	12.0	8.0	10.0	8.0	20.0	10.0	2.0	10.0	24.0				
	無回答	51	-	21.6	15.7	7.8	21.6	7.8	5.9	3.9	3.9	13.7	-	5.9	17.6	35.3				

(数値:%)

【図表 2-5-12 知的障がい者の外出時に不便や困難を感じること(全体・障がいの程度別)】

	サンプル数	付き添ってくれる人がいない	障がい者用トイレが少ない	電車がバス等の乗り降りがたいへん	道路・建物の段差や、電車の段差が少ない	手荷物が少ない	気軽に利用できる移送手段が少ない	障がい者に配慮した設備が不十分である	等々の障がい物があつておりにくい	通路上に自転車や看板	シヨーンがとりにくい	外出先でコミュニケーションがとりにくい	必要の手助けや配慮が足りない	必要となる人々の目が気になる	まわりの人の目が気になる	交通費の負担が大きい	外出したいが、外出するところがない	その他	い出特にしない・ほとんどわからない	無回答
全体	217	13.8	6.5	10.6	6.9	7.8	3.7	30.0	10.6	15.7	12.4	8.3	2.3	19.8	21.2					
障がいの程度別	療育手帳A	112	18.8	8.9	12.5	7.1	10.7	3.6	33.0	11.6	10.7	8.0	8.0	0.9	17.0	17.9				
	療育手帳B	89	7.9	2.2	4.5	6.7	3.4	3.4	29.2	7.9	21.3	18.0	10.1	4.5	23.6	25.8				
	知的障がい以外の障がいとの重複がある	50	16.0	16.0	12.0	10.0	16.0	6.0	24.0	6.0	12.0	14.0	6.0	2.0	12.0	18.0				
	無回答	16	12.5	12.5	31.3	6.3	12.5	6.3	12.5	18.8	18.8	12.5	-	-	18.8	18.8				

(数値:%)

【図表 2-5-13 精神障がい者の外出時に不便や困難を感じること(全体・現在の症状別)】

	サンプル数	付き添ってくれる人がいない	障がい者用トイレが少ない	電車がバス等の乗り降りがたいへん	道路・建物の段差や、電車の段差が少ない	手荷物が少ない	気軽に利用できる移送手段が少ない	障がい者に配慮した設備が不十分である	等々の障がい物があつておりにくい	通路上に自転車や看板	シヨーンがとりにくい	外出先でコミュニケーションがとりにくい	必要の手助けや配慮が足りない	必要となる人々の目が気になる	まわりの人の目が気になる	交通費の負担が大きい	外出したいが、外出するところがない	その他	い出特にしない・ほとんどわからない	無回答
全体	176	3.4	5.7	8.0	8.0	4.0	4.5	14.8	6.8	21.0	31.3	10.8	4.0	22.2	22.2					
現在の症状別	回復	76	2.6	2.6	1.3	7.9	1.3	1.3	11.8	6.6	15.8	28.9	10.5	3.9	25.0	27.6				
	変化なし	42	4.8	2.4	11.9	7.1	7.1	4.8	9.5	4.8	19.0	33.3	14.3	2.4	33.3	14.3				
	悪化	13	7.7	15.4	23.1	23.1	7.7	7.7	23.1	15.4	38.5	30.8	7.7	15.4	-	23.1				
	症状不安定	39	2.6	10.3	12.8	5.1	2.6	10.3	20.5	2.6	25.6	38.5	10.3	2.6	12.8	17.9				
	無回答	6	-	16.7	-	-	16.7	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	16.7	33.3				

(数値:%)

【図表 2-5-14 障がい児の外出時に不便や困難を感じること(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	付き添って くれる人 がない	障がい者 用トイレが 少ない	乗り降り がたいへん な電車・バス 等の段差や、 道路・建物の 段差	送手 段が利用 できない 少ない	気 軽に利用 できる 移動	障 がい者 に配 慮した 設備が 十分 である	あ つと めと お り に 物 が く い	通 路 上 に 自 転 車 や 看 板 等 の 障 が い 物 が あ つ て お り に く い	シ ョ ン が と り に く い	外 出 先 で コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が と り に く い	足 り な い 手 助 け や 配 慮 が あ ら ず	必 要 な 手 助 け や 配 慮 が あ ら ず	ま わ り の 人 の 目 が 気 に な る	交 通 費 の 負 担 が 大 き い	外 出 し た い が 、 外 出 す る こ ろ が な い	そ の 他	出 し た い が 、 外 出 す る こ ろ が な い	特 に な い の ほ と ん ど わ か ら な い	無 回 答	
全 体	155	10.3	11.6	16.1	9.7	7.7	7.7	7.7	26.5	14.2	26.5	9.0	9.0	7.7	24.5	9.0	7.7	24.5	9.0	9.0	
障 が い の 状 況 別	身体障がいのみ	28	10.7	14.3	28.6	10.7	17.9	10.7	7.1	7.1	10.7	10.7	7.1	3.6	28.6	3.6	3.6	28.6	3.6	3.6	
	身体障がい・知的障がいの重複	20	15.0	50.0	40.0	20.0	15.0	20.0	10.0	25.0	30.0	10.0	10.0	5.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0	5.0	
	知的障がいのみ	72	9.7	4.2	9.7	8.3	5.6	5.6	43.1	20.8	31.9	9.7	12.5	9.7	25.0	4.2	9.7	25.0	4.2	4.2	
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0
	手帳は持っていない	29	10.3	3.4	6.9	6.9	-	3.4	17.2	-	24.1	3.4	-	10.3	31.0	24.1	10.3	31.0	24.1	24.1	
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	25.0	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-	25.0	50.0

(数値:%)

【図表 2-5-15 難病患者の外出時に不便や困難を感じること(全体・障がいの状況別)】

	サンプル数	付き添って くれる人 がない	障がい者 用トイレが 少ない	乗り降り がたいへん な電車・バス 等の段差や、 道路・建物の 段差	送手 段が利用 できない 少ない	気 軽に利用 できる 移動	障 がい者 に配 慮した 設備が 十分 である	あ つと めと お り に 物 が く い	通 路 上 に 自 転 車 や 看 板 等 の 障 が い 物 が あ つ て お り に く い	シ ョ ン が と り に く い	外 出 先 で コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が と り に く い	足 り な い 手 助 け や 配 慮 が あ ら ず	必 要 な 手 助 け や 配 慮 が あ ら ず	ま わ り の 人 の 目 が 気 に な る	交 通 費 の 負 担 が 大 き い	外 出 し た い が 、 外 出 す る こ ろ が な い	そ の 他	出 し た い が 、 外 出 す る こ ろ が な い	特 に な い の ほ と ん ど わ か ら な い	無 回 答
全 体	198	4.0	11.1	20.7	6.6	16.7	8.1	2.5	4.5	5.6	10.6	4.5	5.6	26.8	22.7	4.5	5.6	26.8	22.7	22.7
障 が い の 状 況 別	身体障がい	58	10.3	25.9	32.8	12.1	34.5	15.5	6.9	10.3	12.1	8.6	5.2	12.1	17.2	8.6	5.2	12.1	17.2	17.2
	知的障がい	2	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	精神障がい	1	-	-	100.0	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	1.7	5.9	15.1	4.2	9.2	5.0	0.8	4.2	9.2	2.5	6.7	35.3	21.0	9.2	2.5	6.7	35.3	21.0
	無回答	21	-	-	19.0	4.8	9.5	4.8	-	-	-	14.3	4.8	-	47.6	14.3	4.8	-	19.0	47.6

(数値:%)

障がい別に詳細をみると、身体障がい者の障がいの程度別では1・2級の重度、3・4級の中度障がい者においては「道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん」の割合がやや高い。

知的障がい者の障がいの程度別では、療育手帳 A・B 所持者は「外出先でコミュニケーションがとりにくい」の割合が高くなっている。

第6節 福祉サービスについて

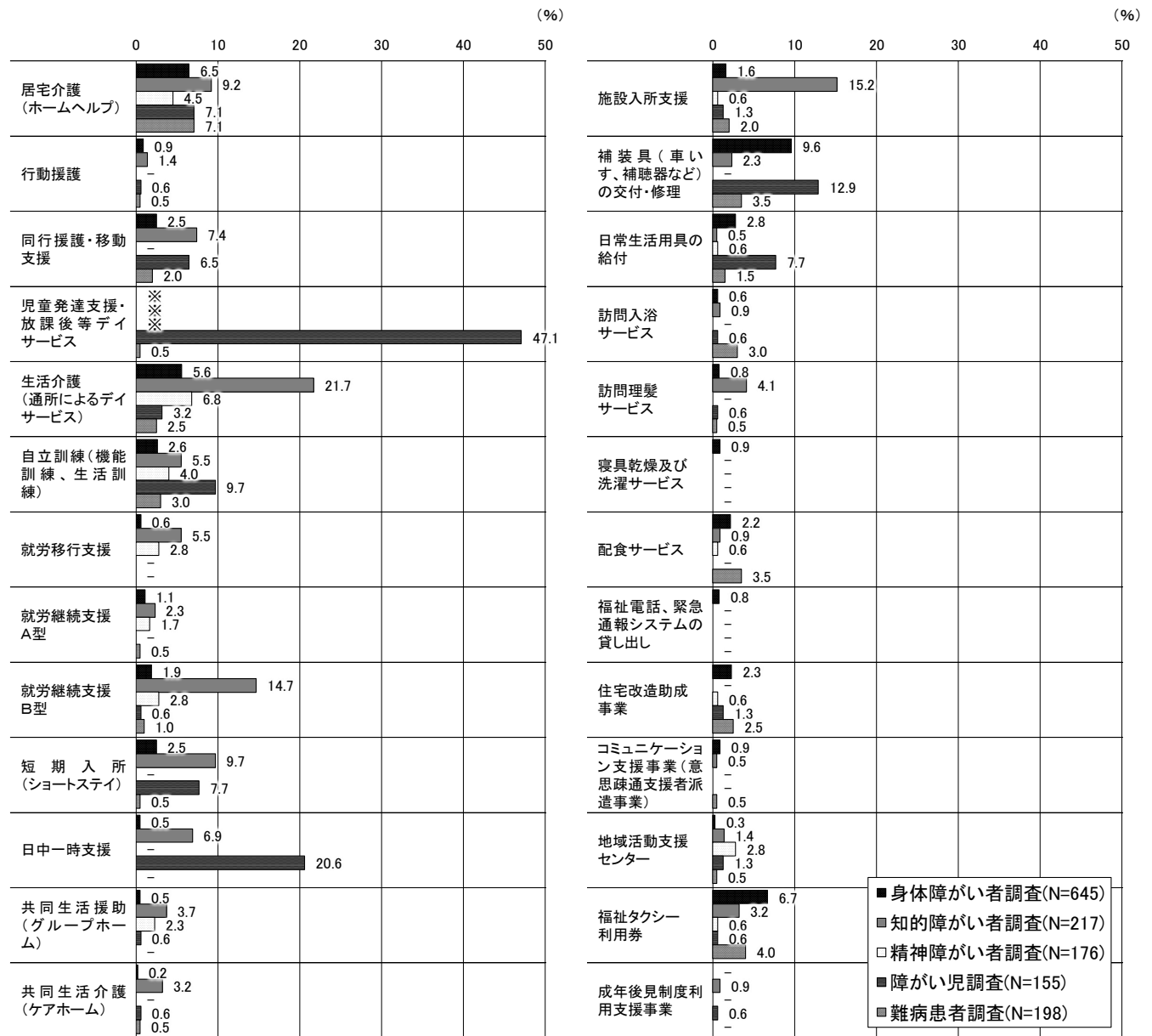
1. 福祉サービスの利用状況・利用意向

(1) 現在利用中の障がい福祉サービス

現在あなたがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(○はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 17、知的障がい者:問 18、精神障がい者:問 20、障がい児:問 17、難病患者:問 18]

【図表 2-6-1 現在利用中の障がい福祉サービス(全体・調査別)】



※「児童発達支援・放課後等デイサービス」は、『身体障がい者調査』『知的障がい者調査』『精神障がい者調査』では選択肢として設定していない。

現在利用中の障がい福祉サービスについて、全体として知的障がい者と障がい児の利用率が高い。知的障がい者は、「生活介護(通所によるデイサービス)」(21.7%)、「施設入所支援」(15.2%)、「就労継続支援B型」(14.7%)の順で利用率が高い。障がい児は「児童発達支援・放課後等デイサービス」(47.1%)の利用率が突出して高く、次いで「日中一時支援」(20.6%)となっている。

【図表 2-6-2 身体障がい者の現在利用中の障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの部位別)】

	サンプル数	居宅介護(ホームヘルプ)	行動援護	同行援護・移動支援	生活介護(通所によるデイサービス)	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労継続支援B型	短期入所(ショートステイ)	日中一時支援	共同生活援助(グループホーム)	共同生活介護(ケアホーム)	施設入所支援
全体	645	6.5	0.9	2.5	5.6	2.6	0.6	1.1	1.9	2.5	0.5	0.5	0.2	1.6	
年齢別	18~29歳	23	13.0	-	-	13.0	4.3	8.7	8.7	-	17.4	-	-	-	
	30~39歳	35	5.7	5.7	2.9	8.6	8.6	-	2.9	2.9	14.3	5.7	-	-	
	40~49歳	53	-	-	3.8	1.9	1.9	-	1.9	3.8	1.9	-	-	1.9	
	50~59歳	147	6.8	0.7	2.7	5.4	1.4	0.7	-	2.0	2.0	-	0.7	0.7	
	60~64歳	195	6.7	1.0	2.6	4.6	2.1	0.5	1.5	3.1	1.0	-	0.5	0.5	
	65歳以上	179	7.8	0.6	2.2	6.7	3.4	-	-	-	0.6	0.6	0.6	-	
	無回答	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
障がいの部位別	視覚	39	17.9	2.6	7.7	12.8	-	-	2.6	-	2.6	2.6	-	-	
	聴覚・平衡機能	62	4.8	-	1.6	-	-	-	-	3.2	-	1.6	3.2	3.2	
	音声・言語・そしゃく	20	5.0	5.0	5.0	-	5.0	-	-	-	-	-	-	5.0	
	肢体不自由	306	7.2	1.3	3.6	7.2	3.3	1.3	1.6	2.9	3.9	-	0.3	0.3	
	内部障がい	157	3.2	-	-	0.6	1.3	-	0.6	0.6	-	-	-	0.6	
	その他	10	40.0	-	-	40.0	10.0	-	-	-	10.0	-	-	-	
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	18.0	4.0	6.0	20.0	2.0	-	6.0	-	10.0	4.0	4.0	2.0	
	無回答	51	-	-	-	7.8	5.9	-	-	-	3.9	2.0	-	-	

	サンプル数	補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	福祉活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体	645	9.6	2.8	0.6	0.8	0.9	2.2	0.8	2.3	0.9	0.3	6.7	68.5
年齢別	18~29歳	23	17.4	4.3	-	-	-	-	-	-	4.3	-	47.8
	30~39歳	35	17.1	5.7	2.9	-	-	-	-	-	-	-	65.7
	40~49歳	53	17.0	1.9	-	-	-	-	1.9	-	-	5.7	67.9
	50~59歳	147	9.5	4.8	-	1.4	0.7	2.7	-	2.7	1.4	10.2	70.7
	60~64歳	195	5.6	2.1	0.5	0.5	-	2.1	1.0	2.6	1.5	0.5	72.3
	65歳以上	179	9.5	1.7	1.1	0.6	2.8	3.4	1.7	2.8	0.6	6.1	65.9
	無回答	13	7.7	-	-	7.7	-	-	-	-	-	23.1	69.2
障がいの部位別	視覚	39	5.1	-	-	2.6	-	2.6	-	2.6	-	12.8	59.0
	聴覚・平衡機能	62	19.4	1.6	-	-	1.6	3.2	1.6	6.5	6.5	11.3	56.5
	音声・言語・そしゃく	20	15.0	5.0	-	-	-	-	-	-	-	5.0	65.0
	肢体不自由	306	11.4	3.6	1.0	1.3	1.6	2.3	1.0	2.3	0.7	4.6	67.0
	内部障がい	157	1.9	2.5	-	-	-	1.3	0.6	1.3	-	8.9	80.3
	その他	10	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.0
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	12.0	6.0	6.0	2.0	6.0	2.0	2.0	2.0	2.0	8.0	40.0
	無回答	51	11.8	2.0	2.0	-	-	3.9	-	2.0	-	3.9	72.5

(数値:%)

【図表 2-6-3 知的障がい者の現在利用中の障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの程度別)】

		サンプル数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動 支援	同行 支援・移動 支援	生活 介護 (通所による デイサー ビス)	自立 訓練 (機能訓練、 生活訓 練)	就労 移行 支援	就労 継続 支援A型	就労 継続 支援B型	短期 入所 (ショート ステイ)	日中 一時 支援	共同 生活 援助 (グルーブ ホーム)	共同 生活 介護 (ケアホ ーム)	施設 入所 支援
全 体		217	9.2	1.4	7.4	21.7	5.5	5.5	2.3	14.7	9.7	6.9	3.7	3.2	15.2
年 齢 別	18～29歳	60	11.7	1.7	13.3	20.0	5.0	13.3	5.0	23.3	15.0	15.0	3.3	1.7	5.0
	30～39歳	59	10.2	1.7	8.5	37.3	11.9	1.7	3.4	18.6	13.6	6.8	3.4	1.7	15.3
	40～49歳	30	-	-	-	13.3	3.3	10.0	-	10.0	3.3	-	3.3	-	23.3
	50～59歳	21	14.3	-	4.8	4.8	-	-	-	9.5	4.8	-	9.5	-	14.3
	60～64歳	18	-	-	5.6	16.7	-	-	-	11.1	-	-	5.6	22.2	38.9
	65歳以上	25	12.0	4.0	-	12.0	4.0	-	-	-	4.0	4.0	-	4.0	16.0
	無回答	4	25.0	-	25.0	50.0	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-
障 が い の 程 度 別	療育手帳A	112	13.4	1.8	11.6	33.9	7.1	4.5	0.9	8.0	16.1	9.8	1.8	3.6	26.8
	療育手帳B	89	2.2	1.1	3.4	7.9	3.4	6.7	3.4	22.5	2.2	4.5	6.7	3.4	1.1
	知的障がい以外の障がい との重複がある	50	16.0	-	10.0	22.0	6.0	-	-	10.0	14.0	4.0	2.0	6.0	18.0
	無回答	16	18.8	-	-	12.5	6.3	6.3	6.3	18.8	6.3	-	-	-	12.5
		サンプル数	補 装 具 (車いす、 補聴器など) の 交 付 ・ 修 理	日 常 生 活 用 具 の 給 付	訪 問 入 浴 サ ー ビ ス	訪 問 理 髪 サ ー ビ ス	寝 具 乾 燥 及 び 洗 濯 サ ー ビ ス	配 食 サ ー ビ ス	福 祉 電 話 、 緊 急 通 報 シ ス テ ム の 貸 し 出 し	住 宅 改 造 助 成 事 業	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 支 援 事 業 (意 思 疎 通 支 援 者 派 遣 事 業)	地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー	福 祉 タ ク シ ー 利 用 券	成 年 後 見 制 度 利 用 支 援 事 業	無 回 答
全 体		217	2.3	0.5	0.9	4.1	-	0.9	-	-	0.5	1.4	3.2	0.9	35.5
年 齢 別	18～29歳	60	1.7	1.7	-	1.7	-	-	-	-	-	1.7	1.7	1.7	28.3
	30～39歳	59	1.7	-	-	5.1	-	1.7	-	-	-	-	3.4	1.7	23.7
	40～49歳	30	3.3	-	-	3.3	-	-	-	-	-	-	3.3	-	40.0
	50～59歳	21	9.5	-	-	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	47.6
	60～64歳	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5.6	11.1	-	33.3
	65歳以上	25	-	-	8.0	12.0	-	4.0	-	-	4.0	4.0	4.0	-	64.0
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
障 が い の 程 度 別	療育手帳A	112	4.5	0.9	0.9	6.3	-	-	-	-	-	0.9	4.5	-	23.2
	療育手帳B	89	-	-	-	-	-	2.2	-	-	1.1	2.2	2.2	2.2	48.3
	知的障がい以外の障がい との重複がある	50	8.0	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	6.0	-	36.0
	無回答	16	-	-	6.3	12.5	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

(数値:%)

【図表 2-6-4 精神障がい者の現在利用中の障がい福祉サービス(全体・年齢別)】

		サンプル数	居宅介護（ホームヘルプ）	行動援護	同行援護・移動支援	生活介護（通所によるデイサービス）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所（ショートステイ）	日中一時支援	共同生活援助（グループホーム）	共同生活介護（ケアホーム）	施設入所支援
全体		176	4.5	-	-	6.8	4.0	2.8	1.7	2.8	-	-	2.3	-	0.6
年齢別	18～29歳	14	-	-	-	-	-	14.3	-	7.1	-	-	-	-	-
	30～39歳	33	6.1	-	-	12.1	12.1	6.1	9.1	6.1	-	-	-	-	-
	40～49歳	38	5.3	-	-	10.5	2.6	2.6	-	5.3	-	-	7.9	-	2.6
	50～59歳	46	-	-	-	2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60～64歳	24	12.5	-	-	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	65歳以上	18	5.6	-	-	5.6	5.6	-	-	-	-	-	5.6	-	-
	無回答	3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
		サンプル数	補装具（車いす、補聴器など）の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	コミュニケーション支援事業（意思疎通支援者派遣事業）	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体		176	-	0.6	-	-	-	0.6	-	0.6	-	2.8	0.6	-	80.7
年齢別	18～29歳	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7.1	-	-	78.6
	30～39歳	33	-	3.0	-	-	-	3.0	-	-	-	9.1	-	-	72.7
	40～49歳	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	71.1
	50～59歳	46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2	-	-	95.7
	60～64歳	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83.3
	65歳以上	18	-	-	-	-	-	-	-	5.6	-	-	5.6	-	77.8
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7

(数値：%)

【図表 2-6-5 障がい児の現在利用中の障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの状況別)】

	サンプル数	居宅介護(ホームヘルプ)	行動援護	同行援護・移動支援	児童発達支援・放課後等デイサービス	生活介護(通所によるデイサービス)	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所(ショートステイ)	日中一時支援	共同生活援助(グループホーム)	共同生活介護(ケアホーム)	施設入所支援
全体	155	7.1	0.6	6.5	47.1	3.2	9.7	-	-	0.6	7.7	20.6	0.6	0.6	1.3
年齢別	5歳以下	45	4.4	-	-	71.1	-	13.3	-	-	-	6.7	-	-	-
	6~11歳	43	2.3	-	-	58.1	2.3	14.0	-	-	9.3	27.9	-	-	2.3
	12~14歳	25	16.0	-	16.0	40.0	8.0	8.0	-	-	16.0	20.0	4.0	4.0	4.0
	15~17歳	39	7.7	-	15.4	15.4	2.6	2.6	-	-	2.6	10.3	30.8	-	-
	無回答	3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	3.6	-	3.6	17.9	-	3.6	-	-	3.6	7.1	-	-	-
	身体障がい・知的障がいの重複	20	40.0	-	25.0	55.0	10.0	25.0	-	-	25.0	50.0	-	-	-
	知的障がいのみ	72	2.8	1.4	5.6	48.6	4.2	9.7	-	-	1.4	8.3	25.0	1.4	2.8
	その他	2	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-
	手帳は持っていない	29	-	-	-	65.5	-	6.9	-	-	-	3.4	-	-	-
	無回答	4	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	サンプル数	補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	コミュニケーション支援事業(意思疎通支援者派遣事業)	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体	155	12.9	7.7	0.6	0.6	-	-	-	1.3	-	1.3	0.6	0.6	32.3
年齢別	5歳以下	45	8.9	2.2	-	-	-	-	-	-	2.2	-	-	13.3
	6~11歳	43	16.3	9.3	2.3	-	-	-	2.3	-	2.3	-	2.3	18.6
	12~14歳	25	24.0	16.0	-	4.0	-	-	4.0	-	-	4.0	-	40.0
	15~17歳	39	7.7	7.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61.5
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	25.0	7.1	-	-	-	-	3.6	-	-	-	-	53.6
	身体障がい・知的障がいの重複	20	65.0	45.0	5.0	-	-	-	5.0	-	-	-	5.0	5.0
	知的障がいのみ	72	-	1.4	-	1.4	-	-	-	-	1.4	1.4	-	31.9
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	手帳は持っていない	29	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	-	-	27.6
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0

(数値:%)

【図表 2-6-6 難病患者の現在利用中の障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの状況別)】

		サンプル数	居宅介護（ホームヘルプ）	行動支援	同行支援・移動支援	児童発達支援・放課後等デイサービス	生活介護（通所によるデイサービス）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所（ショートステイ）	日中一時支援	共同生活援助（グループホーム）	共同生活介護（ケアホーム）	施設入所支援
全 体		198	7.1	0.5	2.0	0.5	2.5	3.0	-	0.5	1.0	0.5	-	-	0.5	2.0
年 齢 別	29歳以下	6	16.7	-	16.7	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7
	30～39歳	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	40～49歳	31	3.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50～59歳	29	10.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	60～64歳	29	3.4	-	-	-	3.4	-	-	-	3.4	-	-	-	-	-
	65歳以上	91	8.8	1.1	3.3	-	4.4	6.6	-	1.1	1.1	1.1	-	-	1.1	3.3
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
障がいの状況別	身体障がい	58	20.7	1.7	6.9	1.7	6.9	5.2	-	1.7	1.7	1.7	-	-	1.7	5.2
	知的障がい	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	精神障がい	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	-	-	-	-	0.8	2.5	-	-	0.8	-	-	-	-	0.8
	無回答	21	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

		サンプル数	補装具（車いす、補聴器など）の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成成事業	コミュニケーション支援事業（意思疎通支援者派遣事業）	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全 体		198	3.5	1.5	3.0	0.5	-	3.5	-	2.5	0.5	0.5	4.0	-	79.8
年 齢 別	29歳以下	6	16.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7
	30～39歳	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	40～49歳	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	96.8
	50～59歳	29	-	3.4	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	-	82.8
	60～64歳	29	3.4	-	10.3	3.4	-	-	-	3.4	-	-	-	-	86.2
	65歳以上	91	5.5	2.2	3.3	-	-	7.7	-	4.4	1.1	1.1	7.7	-	69.2
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
障がいの状況別	身体障がい	58	12.1	5.2	8.6	1.7	-	8.6	-	5.2	1.7	1.7	10.3	-	51.7
	知的障がい	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障がい	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	-	-	0.8	-	-	0.8	-	1.7	-	-	1.7	-	91.6
	無回答	21	-	-	-	-	-	4.8	-	-	-	-	-	-	90.5

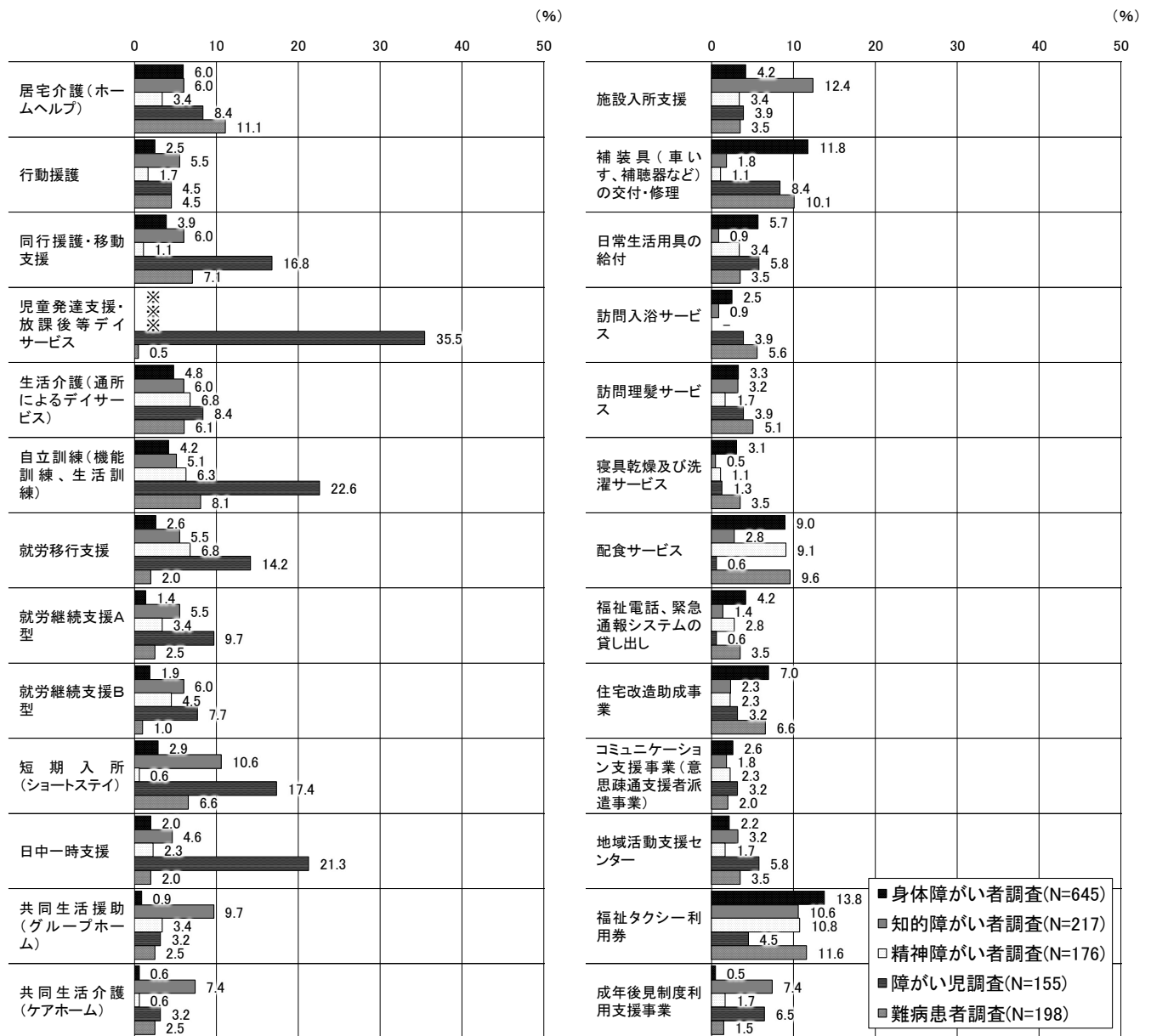
(数値:%)

(2) 今後利用してみたい障がい福祉サービス

では、今後あなたが利用してみたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(〇はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 18、知的障がい者:問 19、精神障がい者:問 21、障がい児:問 18、難病患者:問 19]

【図表 2-6-7 今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・調査別)】



※「児童発達支援・放課後等デイサービス」は、『身体障がい者調査』『知的障がい者調査』『精神障がい者調査』では選択肢として設定していない。

今後利用してみたい障がい福祉サービスについて、身体障がい者、精神障がい者、難病患者は「福祉タクシー利用券」(身体障がい者:13.8%、精神障がい者:10.8%、難病患者:11.6%)、知的障がい者は「施設入所支援」(12.4%)、障がい児は「児童発達支援・放課後等デイサービス」(35.5%)がそれぞれ最も多い。なお、障がい児は「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(22.6%)、「日中一時支援」(21.3%)の割合も高くなっている。

【図表 2-6-2 身体障がい者の今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの部位別)】

	サンプル数	居宅介護(ホームヘルプ)	行動援護	同行援護・移動支援	生活介護(通所によるデイサービス)	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労継続支援B型	短期入所(ショートステイ)	日中一時支援	共同生活援助(グループホーム)	共同生活介護(ケアホーム)	施設入所支援
全体	645	6.0	2.5	3.9	4.8	4.2	2.6	1.4	1.9	2.9	2.0	0.9	0.6	4.2	
年齢別	18~29歳	23	4.3	-	4.3	4.3	13.0	8.7	4.3	-	-	8.7	4.3	-	4.3
	30~39歳	35	5.7	-	5.7	2.9	2.9	8.6	5.7	5.7	2.9	-	-	-	2.9
	40~49歳	53	-	-	3.8	1.9	3.8	3.8	1.9	5.7	1.9	-	-	-	5.7
	50~59歳	147	6.1	2.0	0.7	4.8	2.7	4.8	0.7	2.7	2.7	1.4	-	1.4	4.8
	60~64歳	195	8.7	5.1	6.7	4.6	5.1	0.5	2.1	1.5	3.6	2.6	2.1	1.0	5.1
	65歳以上	179	5.0	1.1	2.8	5.6	3.9	1.1	-	-	3.4	1.7	0.6	-	2.8
	無回答	13	7.7	7.7	7.7	15.4	-	-	-	-	-	7.7	-	-	-
障がいの部位別	視覚	39	12.8	15.4	12.8	5.1	2.6	2.6	-	-	-	5.1	-	2.6	-
	聴覚・平衡機能	62	6.5	1.6	6.5	4.8	1.6	4.8	1.6	4.8	3.2	3.2	-	-	4.8
	音声・言語・そしゃく	20	5.0	5.0	5.0	10.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	肢体不自由	306	6.5	1.6	3.3	5.2	4.9	2.9	1.0	2.0	3.6	2.0	1.0	0.7	5.2
	内部障がい	157	5.1	1.9	1.3	3.2	2.5	1.9	3.2	1.9	1.9	1.9	1.3	0.6	1.9
	その他	10	-	-	10.0	10.0	20.0	-	-	-	10.0	-	-	-	-
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	18.0	6.0	16.0	10.0	6.0	-	2.0	-	2.0	4.0	4.0	2.0	8.0
	無回答	51	2.0	-	3.9	3.9	3.9	2.0	-	-	3.9	-	2.0	-	9.8

	サンプル数	補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答		
全体	645	11.8	5.7	2.5	3.3	3.1	9.0	4.2	7.0	2.6	2.2	13.8	0.5	54.3	
年齢別	18~29歳	23	13.0	-	-	-	-	4.3	4.3	4.3	8.7	8.7	4.3	-	39.1
	30~39歳	35	14.3	8.6	-	2.9	5.7	2.9	2.9	5.7	-	2.9	5.7	-	62.9
	40~49歳	53	15.1	7.5	1.9	3.8	3.8	5.7	3.8	5.7	3.8	3.8	26.4	-	45.3
	50~59歳	147	11.6	8.2	2.7	5.4	7.5	13.6	5.4	9.5	4.1	2.0	14.3	0.7	52.4
	60~64歳	195	12.8	6.2	4.1	4.1	2.1	10.3	4.1	8.2	3.1	2.6	13.3	1.0	54.4
	65歳以上	179	10.1	3.4	1.7	0.6	0.6	6.7	2.8	4.5	0.6	0.6	13.4	-	58.1
	無回答	13	-	-	-	7.7	-	7.7	15.4	7.7	-	-	7.7	-	61.5
障がいの部位別	視覚	39	10.3	12.8	-	12.8	10.3	15.4	12.8	10.3	2.6	2.6	25.6	2.6	38.5
	聴覚・平衡機能	62	29.0	4.8	1.6	1.6	1.6	8.1	9.7	8.1	17.7	6.5	19.4	-	32.3
	音声・言語・そしゃく	20	10.0	5.0	-	-	-	-	-	-	5.0	5.0	10.0	5.0	50.0
	肢体不自由	306	12.4	7.2	2.6	3.9	4.6	9.2	2.3	8.2	1.0	1.6	13.1	-	53.9
	内部障がい	157	7.0	2.5	3.2	0.6	0.6	8.9	5.1	3.8	-	1.3	11.5	0.6	65.6
	その他	10	20.0	-	-	-	-	10.0	-	10.0	-	-	10.0	-	40.0
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	12.0	2.0	6.0	2.0	4.0	12.0	6.0	10.0	4.0	2.0	18.0	2.0	34.0
	無回答	51	2.0	3.9	3.9	3.9	-	7.8	2.0	7.8	2.0	2.0	11.8	-	64.7

(数値:%)

【図表 2-6-3 知的障がい者の今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの程度別)】

		サンプル数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動支援	同行支援・移動支援	生活介護 (通所によるデイサービス)	自立訓練 (機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所 (ショートステイ)	日中一時支援	共同生活援助 (グループホーム)	共同生活介護 (ケアホーム)	施設入所支援
全体		217	6.0	5.5	6.0	6.0	5.1	5.5	5.5	6.0	10.6	4.6	9.7	7.4	12.4
年齢別	18～29歳	60	6.7	5.0	8.3	1.7	8.3	15.0	15.0	11.7	11.7	13.3	20.0	6.7	15.0
	30～39歳	59	5.1	8.5	8.5	6.8	6.8	1.7	1.7	3.4	18.6	3.4	6.8	10.2	11.9
	40～49歳	30	6.7	3.3	3.3	6.7	3.3	3.3	-	10.0	16.7	-	3.3	3.3	13.3
	50～59歳	21	4.8	-	4.8	9.5	-	-	-	4.8	-	-	4.8	4.8	9.5
	60～64歳	18	11.1	11.1	-	11.1	5.6	-	-	-	-	-	11.1	16.7	27.8
	65歳以上	25	4.0	4.0	4.0	8.0	-	-	4.0	-	-	-	-	4.0	-
	無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	25.0	-	-	-	25.0	-	-
障がいの程度別	療育手帳A	112	8.0	8.0	9.8	6.3	1.8	0.9	3.6	3.6	17.0	5.4	9.8	9.8	16.1
	療育手帳B	89	3.4	3.4	2.2	5.6	9.0	10.1	7.9	7.9	3.4	4.5	9.0	5.6	7.9
	知的障がい以外の障がいの重複がある	50	8.0	6.0	8.0	10.0	4.0	2.0	2.0	6.0	14.0	4.0	10.0	6.0	12.0
	無回答	16	6.3	-	-	6.3	6.3	12.5	6.3	12.5	6.3	-	12.5	-	12.5
		サンプル数	補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体		217	1.8	0.9	0.9	3.2	0.5	2.8	1.4	2.3	1.8	3.2	10.6	7.4	49.8
年齢別	18～29歳	60	1.7	1.7	-	1.7	1.7	1.7	3.3	3.3	3.3	6.7	10.0	16.7	30.0
	30～39歳	59	1.7	-	1.7	1.7	-	-	-	3.4	1.7	1.7	15.3	8.5	49.2
	40～49歳	30	-	-	-	-	-	10.0	-	3.3	-	6.7	10.0	-	50.0
	50～59歳	21	9.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	4.8	61.9
	60～64歳	18	-	-	-	5.6	-	5.6	5.6	-	-	-	11.1	-	50.0
	65歳以上	25	-	4.0	4.0	16.0	-	4.0	-	-	4.0	-	8.0	-	84.0
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0
障がいの程度別	療育手帳A	112	2.7	-	1.8	2.7	-	2.7	0.9	2.7	-	3.6	11.6	8.0	43.8
	療育手帳B	89	1.1	1.1	-	2.2	1.1	3.4	2.2	2.2	3.4	3.4	11.2	6.7	55.1
	知的障がい以外の障がいの重複がある	50	6.0	-	-	2.0	-	-	2.0	6.0	-	-	6.0	2.0	46.0
	無回答	16	-	6.3	-	12.5	-	-	-	-	6.3	-	-	6.3	62.5

(数値:%)

【図表 2-6-4 精神障がい者の今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・年齢別)】

		サンプル数	居宅介護（ホームヘルプ）	行動援護	同行援護・移動支援	生活介護（通所によるデイサービス）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所（ショートステイ）	日中一時支援	共同生活援助（グループホーム）	共同生活介護（ケアホーム）	施設入所支援
全体		176	3.4	1.7	1.1	6.8	6.3	6.8	3.4	4.5	0.6	2.3	3.4	0.6	3.4
年齢別	18～29歳	14	7.1	-	-	-	7.1	14.3	7.1	-	-	7.1	7.1	7.1	7.1
	30～39歳	33	3.0	6.1	3.0	3.0	15.2	15.2	12.1	15.2	-	6.1	3.0	-	-
	40～49歳	38	-	2.6	-	10.5	7.9	5.3	-	2.6	2.6	-	7.9	-	5.3
	50～59歳	46	2.2	-	-	8.7	-	4.3	2.2	2.2	-	-	2.2	-	-
	60～64歳	24	8.3	-	4.2	4.2	4.2	-	-	4.2	-	4.2	-	-	-
	65歳以上	18	5.6	-	-	11.1	5.6	-	-	-	-	-	-	-	16.7
	無回答	3	-	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-
		サンプル数	補装具（車いす、補聴器など）の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	コミュニケーション支援事業（意思疎通支援者派遣事業）	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体		176	1.1	3.4	-	1.7	1.1	9.1	2.8	2.3	2.3	1.7	10.8	1.7	56.8
年齢別	18～29歳	14	-	-	-	7.1	-	-	-	7.1	7.1	-	7.1	-	71.4
	30～39歳	33	-	6.1	-	3.0	-	6.1	3.0	6.1	3.0	-	3.0	3.0	42.4
	40～49歳	38	2.6	2.6	-	2.6	2.6	7.9	-	-	-	2.6	10.5	2.6	60.5
	50～59歳	46	2.2	2.2	-	-	-	8.7	6.5	2.2	2.2	2.2	13.0	2.2	60.9
	60～64歳	24	-	4.2	-	-	4.2	25.0	-	-	4.2	4.2	16.7	-	54.2
	65歳以上	18	-	5.6	-	-	-	5.6	5.6	-	-	-	16.7	-	55.6
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7

(数値:%)

【図表 2-6-5 障がい児の今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの状況別)】

		サンプル数	居宅介護 (ホームヘルプ)	行動支援	同行支援・移動支援	児童発達支援・放課後等デイサービス	生活介護(通所によるデイサービス)	自立訓練(機能訓練、生活訓練)	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所(ショートステイ)	日中一時支援	共同生活援助(グループホーム)	共同生活介護(ケアホーム)	施設入所支援
全体		155	8.4	4.5	16.8	35.5	8.4	22.6	14.2	9.7	7.7	17.4	21.3	3.2	3.2	3.9
年齢別	5歳以下	45	2.2	-	-	57.8	4.4	31.1	4.4	-	-	4.4	22.2	-	-	2.2
	6~11歳	43	2.3	2.3	9.3	41.9	2.3	18.6	14.0	14.0	4.7	20.9	14.0	4.7	2.3	-
	12~14歳	25	8.0	4.0	32.0	24.0	16.0	8.0	8.0	4.0	8.0	24.0	20.0	4.0	8.0	4.0
	15~17歳	39	20.5	10.3	35.9	12.8	15.4	28.2	30.8	20.5	20.5	23.1	28.2	5.1	2.6	10.3
	無回答	3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	7.1	-	10.7	14.3	10.7	7.1	10.7	7.1	3.6	7.1	17.9	-	-	-
	身体障がい・知的障がいの重複	20	20.0	-	25.0	30.0	20.0	10.0	15.0	10.0	5.0	50.0	35.0	-	-	-
	知的障がいのみ	72	8.3	8.3	22.2	40.3	8.3	34.7	18.1	12.5	13.9	18.1	23.6	6.9	6.9	6.9
	その他	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
	手帳は持っていない	29	3.4	3.4	3.4	48.3	-	17.2	10.3	3.4	-	3.4	10.3	-	-	-
	無回答	4	-	-	-	25.0	-	25.0	-	25.0	-	25.0	25.0	-	-	-

		サンプル数	補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成事業	コミュニケーション支援事業(意思疎通支援者派遣事業)	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答
全体		155	8.4	5.8	3.9	3.9	1.3	0.6	0.6	3.2	3.2	5.8	4.5	6.5	25.8
年齢別	5歳以下	45	6.7	4.4	-	2.2	-	-	2.2	6.7	2.2	6.7	2.2	2.2	15.6
	6~11歳	43	9.3	4.7	7.0	4.7	2.3	-	-	-	7.0	4.7	-	11.6	23.3
	12~14歳	25	12.0	8.0	8.0	8.0	-	-	-	4.0	4.0	8.0	16.0	8.0	28.0
	15~17歳	39	7.7	7.7	2.6	2.6	2.6	2.6	-	2.6	-	5.1	5.1	5.1	35.9
	無回答	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	66.7
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	14.3	3.6	7.1	-	3.6	-	3.6	7.1	-	10.7	7.1	-	46.4
	身体障がい・知的障がいの重複	20	35.0	30.0	10.0	10.0	5.0	-	-	10.0	-	5.0	5.0	5.0	10.0
	知的障がいのみ	72	2.8	2.8	2.8	5.6	-	1.4	-	1.4	4.2	5.6	4.2	9.7	20.8
	その他	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0
	手帳は持っていない	29	-	-	-	-	-	-	-	-	6.9	3.4	3.4	-	27.6
	無回答	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25.0	25.0

(数値:%)

【図表 2-6-6 難病患者の今後利用してみたい障がい福祉サービス(全体・年齢別・障がいの状況別)】

	サンプル数	居宅介護（ホームヘルプ）	行動支援	同行支援・移動支援	児童発達支援・放課後等デイサービス	生活介護（通所によるデイサービス）	自立訓練（機能訓練、生活訓練）	就労移行支援	就労継続支援A型	就労継続支援B型	短期入所（ショートステイ）	日中一時支援	共同生活援助（グループホーム）	共同生活介護（ケアホーム）	施設入所支援	
全体	198	11.1	4.5	7.1	0.5	6.1	8.1	2.0	2.5	1.0	6.6	2.0	2.5	2.5	3.5	
年齢別	29歳以下	6	33.3	16.7	33.3	16.7	-	16.7	16.7	16.7	-	-	-	16.7	16.7	16.7
	30～39歳	8	-	-	-	-	-	12.5	25.0	-	-	-	-	-	-	-
	40～49歳	31	6.5	3.2	3.2	-	-	6.5	-	-	3.2	3.2	-	-	-	-
	50～59歳	29	13.8	10.3	17.2	-	6.9	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9	3.4	6.9	6.9	6.9
	60～64歳	29	17.2	-	-	-	3.4	6.9	-	-	-	-	-	-	-	-
	65歳以上	91	9.9	4.4	6.6	-	9.9	9.9	-	-	-	11.0	2.2	2.2	2.2	4.4
	無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0	-	-	-	-	-
障がいの状況別	身体障がい	58	15.5	3.4	12.1	1.7	8.6	8.6	-	-	-	10.3	3.4	5.2	5.2	6.9
	知的障がい	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0
	精神障がい	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	手帳は持っていない	119	8.4	5.9	5.9	-	5.0	9.2	3.4	4.2	1.7	5.9	1.7	1.7	1.7	2.5
	無回答	21	14.3	-	-	-	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	サンプル数	補装具（車いす、補聴器など）の交付・修理	日常生活用具の給付	訪問入浴サービス	訪問理髪サービス	寝具乾燥及び洗濯サービス	配食サービス	福祉電話、緊急通報システムの貸し出し	住宅改造成成事業	コミュニケーション支援事業（意思疎通支援者派遣事業）	地域活動支援センター	福祉タクシー利用券	成年後見制度利用支援事業	無回答	
全体	198	10.1	3.5	5.6	5.1	3.5	9.6	3.5	6.6	2.0	3.5	11.6	1.5	57.6	
年齢別	29歳以下	6	33.3	33.3	16.7	16.7	-	33.3	16.7	16.7	16.7	16.7	-	33.3	
	30～39歳	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	75.0	
	40～49歳	31	3.2	6.5	-	-	3.2	3.2	-	6.5	-	6.5	3.2	77.4	
	50～59歳	29	10.3	6.9	6.9	3.4	3.4	13.8	6.9	6.9	3.4	3.4	20.7	3.4	62.1
	60～64歳	29	6.9	3.4	6.9	-	-	6.9	-	3.4	-	3.4	-	69.0	
	65歳以上	91	13.2	-	6.6	8.8	5.5	9.9	4.4	7.7	1.1	3.3	14.3	1.1	46.2
	無回答	4	-	-	-	-	-	25.0	-	-	25.0	50.0	-	-	50.0
障がいの状況別	身体障がい	58	19.0	5.2	12.1	6.9	3.4	12.1	6.9	5.2	1.7	3.4	17.2	-	36.2
	知的障がい	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障がい	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	
	手帳は持っていない	119	7.6	3.4	3.4	5.0	4.2	8.4	2.5	8.4	2.5	3.4	10.1	2.5	64.7
	無回答	21	-	-	-	-	-	9.5	-	-	-	4.8	4.8	-	76.2

(数値:%)

第7節 情報収集について

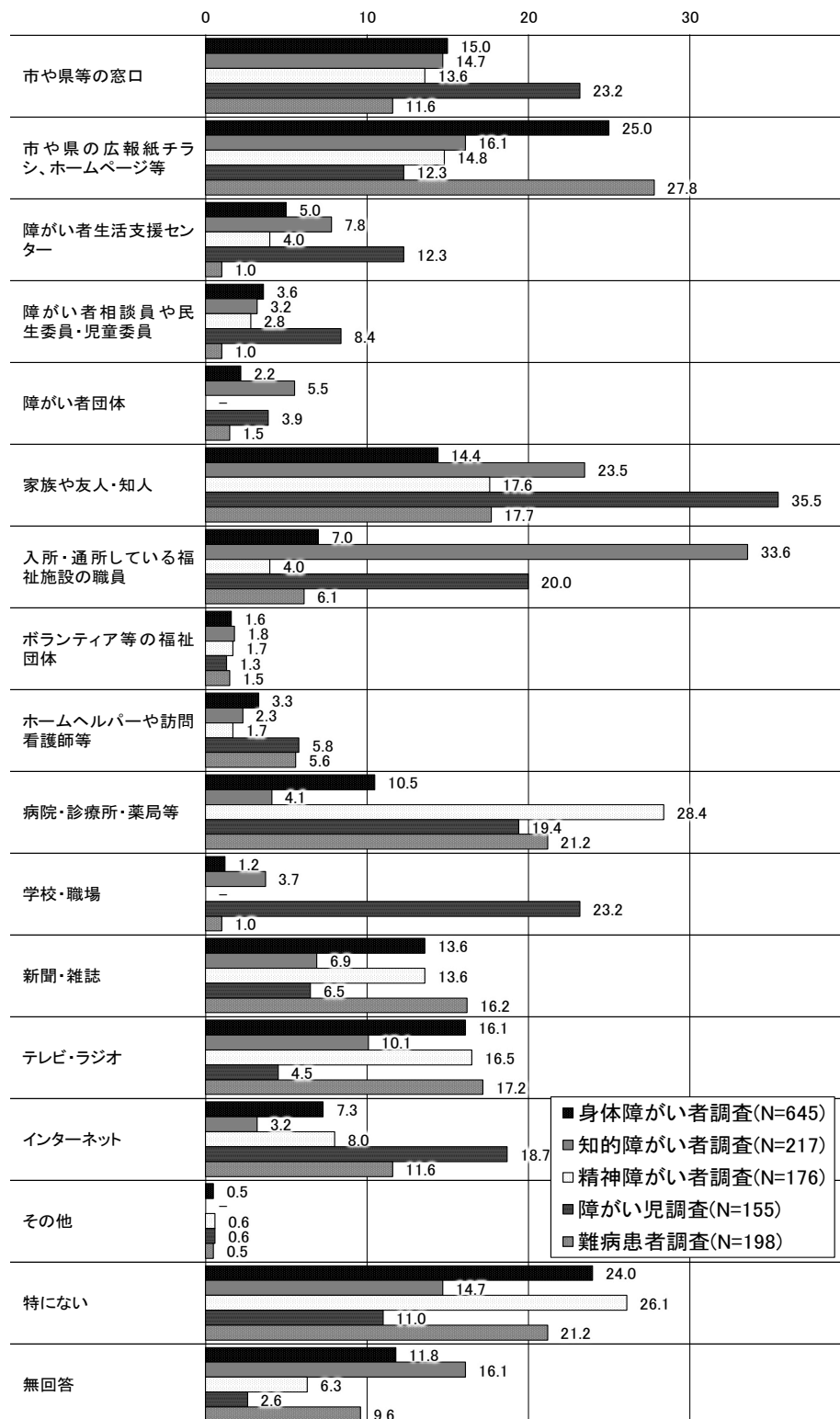
1. 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報について

(1) 生活に必要な情報の入手先

福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(○はあてはまるものすべて)
 [身体障がい者:問 19、知的障がい者:問 20、精神障がい者:問 22、障がい児:問 19、難病患者:問 20]

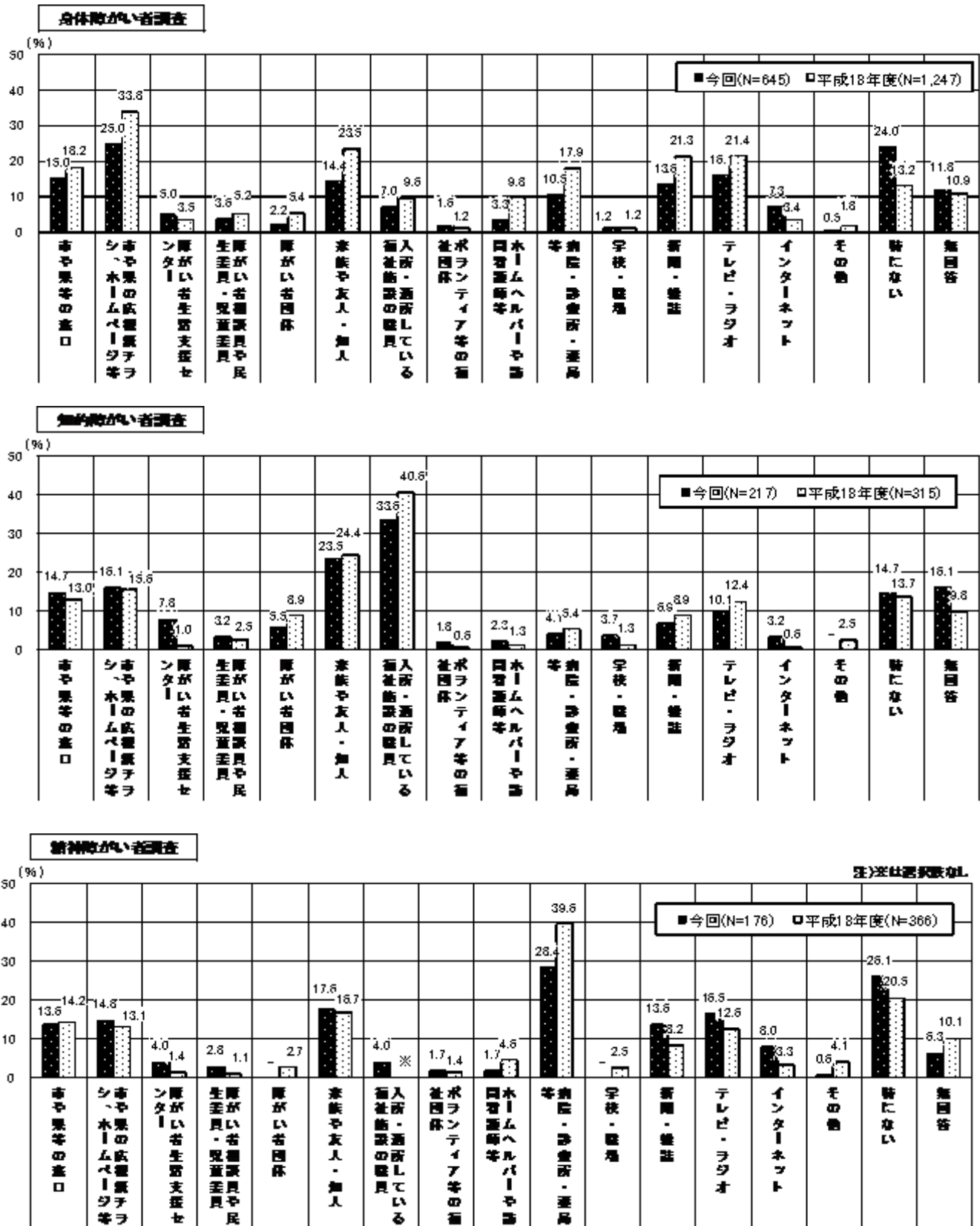
【図表 2-7-1 生活に必要な情報の入手先(全体・調査別)】

(%)



福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報の入手先は、身体障がい者は「特にない」(24.0%)、知的障がい者は「入所・通所している福祉施設の職員」(33.6%)、精神障がい者は「病院・診療所・薬局等」(28.4%)、障がい児は「家族や友人・知人」(35.5%)、難病患者は「市や県の広報紙チラシ、ホームページ等」(27.8%)がそれぞれ最も高く、障がいによって情報源が異なっている。

【図表 2-7-2 生活に必要な情報の入手先(全体・時系列)】

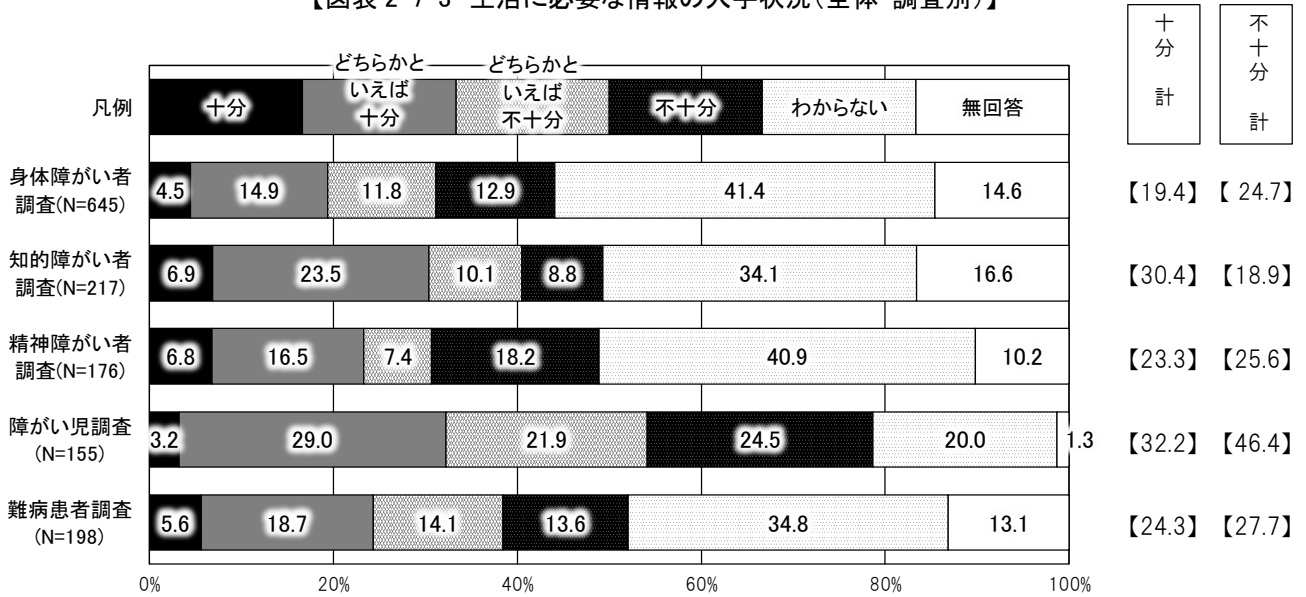


平成18年度調査と比較すると、身体障がい者は平成18年度調査における上位項目の割合の減少が目立ち、順位も変化している。知的障がい者、精神障がい者については傾向の大きな変化はないものの、精神障がい者において「病院・診療所・薬局等」の割合がやや減少している。

(2)生活に必要な情報の入手状況

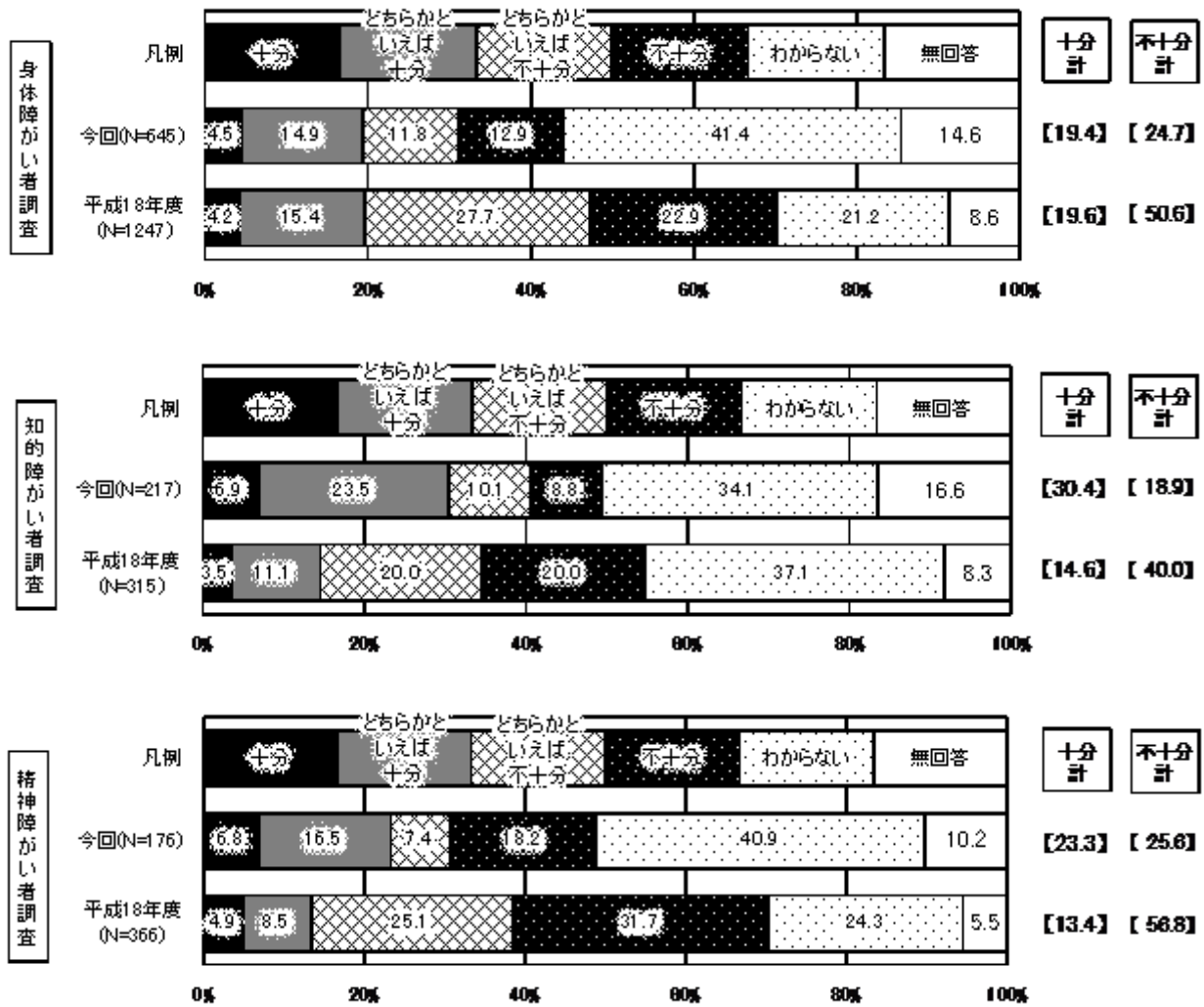
福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(○は1つだけ)
 [身体障がい者:問 20、知的障がい者:問 21、精神障がい者:問 23、障がい児:問 20、難病患者:問 21]

【図表 2-7-3 生活に必要な情報の入手状況(全体・調査別)】



生活に必要な情報の入手先について、『十分』(「十分」+「どちらかといえ十分」)が『不十分』(「不十分」+「どちらかといえ不十分」)より多かったのは知的障がい者のみ(30.4%)であった。特に障がい児については『不十分』が他を大きく上回っている。

【図表 2-7-4 生活に必要な情報の入手状況(全体・時系列)】



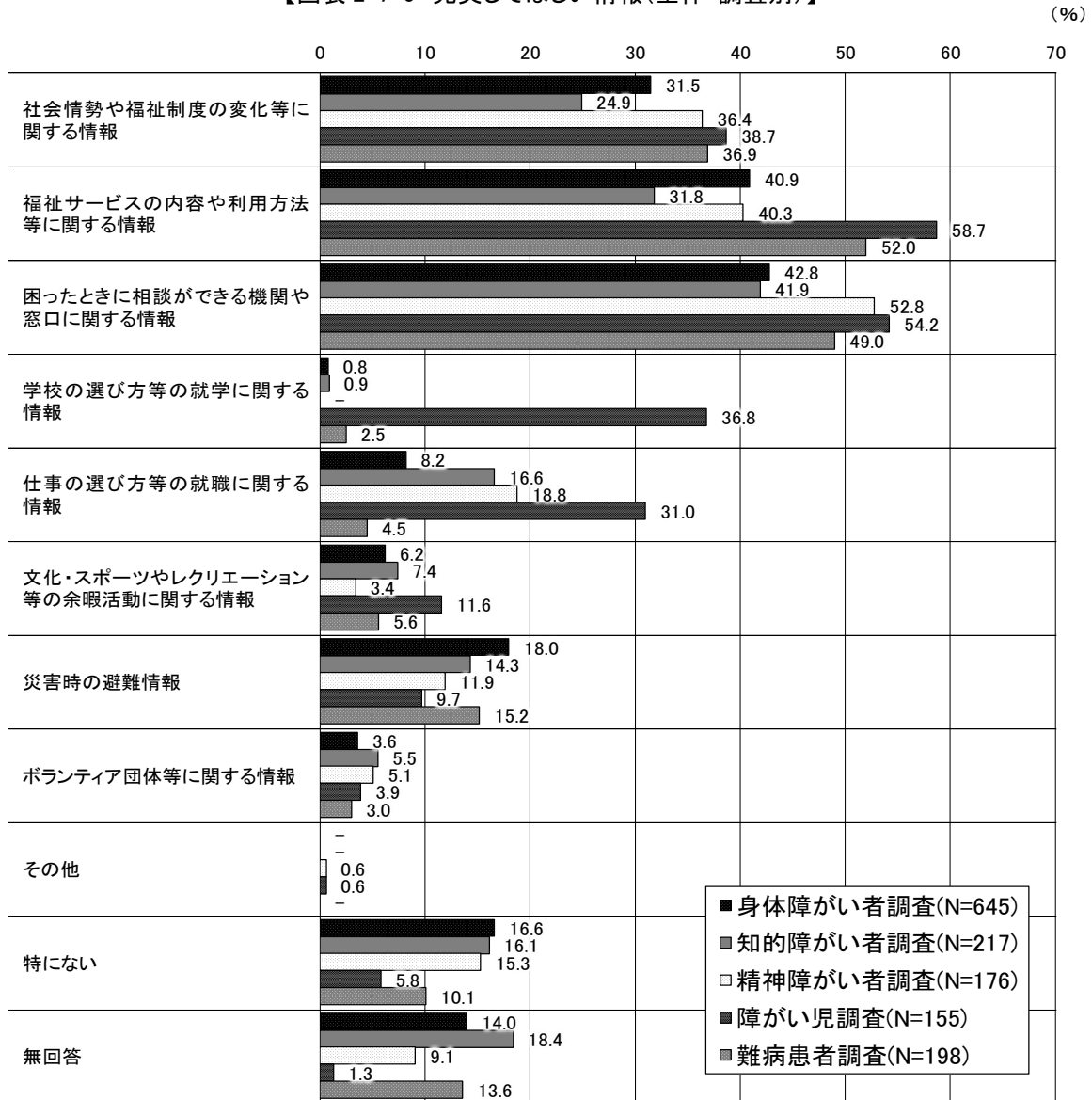
平成18年度調査においては、いずれも『不十分』が『十分』を大きく上回っていたが、今回調査では『不十分』の割合が減少し、知的障がい者においては『十分』が『不十分』を上回る結果となっている。

(3) 充実してほしい情報

あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何か。(○は3つまで)

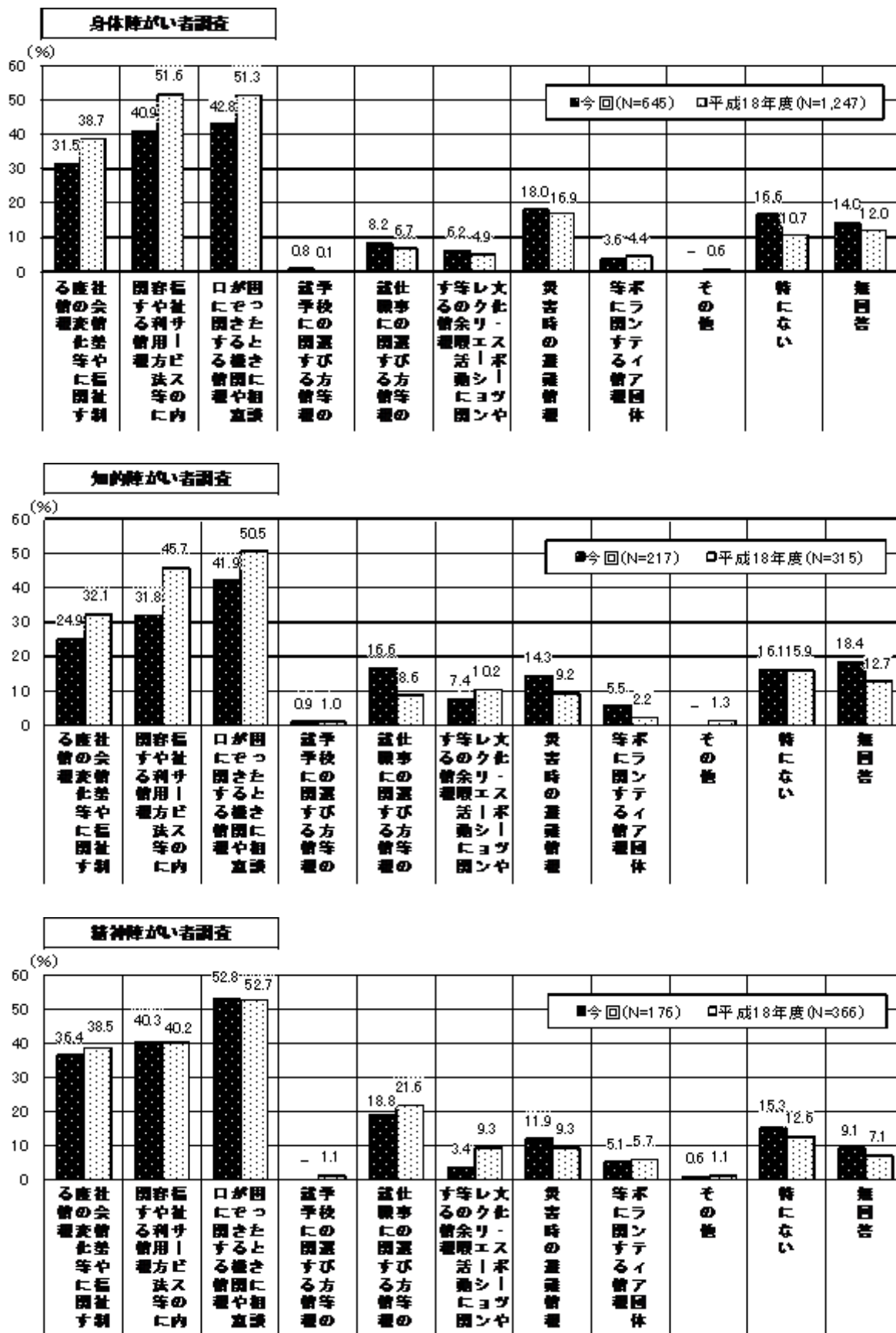
[身体障がい者:問 21、知的障がい者:問 22、精神障がい者:問 24、障がい児:問 21、難病患者:問 22]

【図表 2-7-5 充実してほしい情報(全体・調査別)】



特に充実してほしい情報として、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病患者は「困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報」(身体障がい者:42.8%、知的障がい者:41.9%、精神障がい者:52.8%、難病患者:49.0%)が最も多く、障がい児では「福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報」(58.7%)が最も多くなっている。

【図表 2-7-6 充実してほしい情報(全体・時系列)】



平成18年度調査と比較すると、特に大きな変化はみられない。

第8節 災害対策について

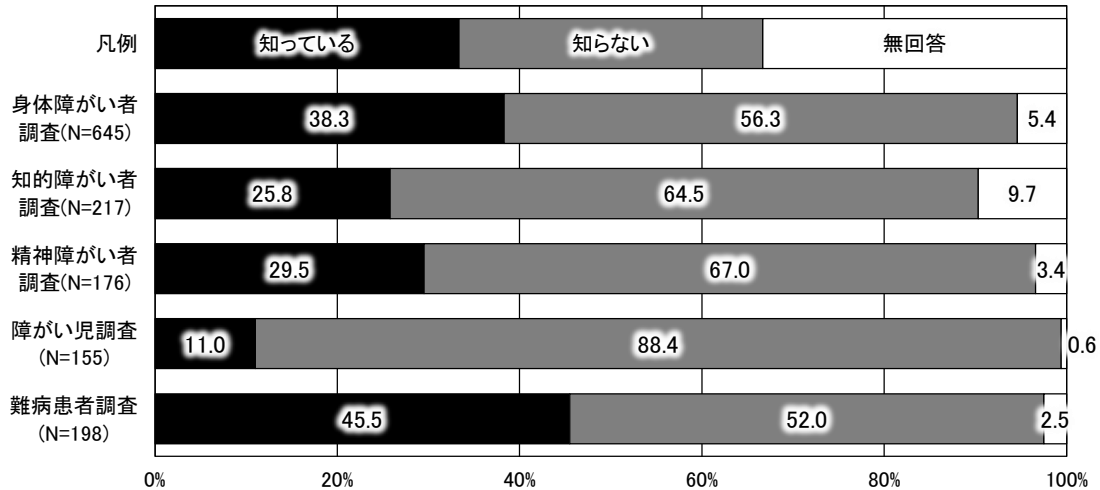
1. 災害対策について

(1) 自宅近くの災害時の避難先の認知状況

あなたは、自宅近くの災害時の避難先を知っていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 22、知的障がい者:問 23、精神障がい者:問 25、障がい児:問 22、難病患者:問 23]

【図表 2-8-1 自宅近くの災害時の避難先の認知状況(全体・調査別)】



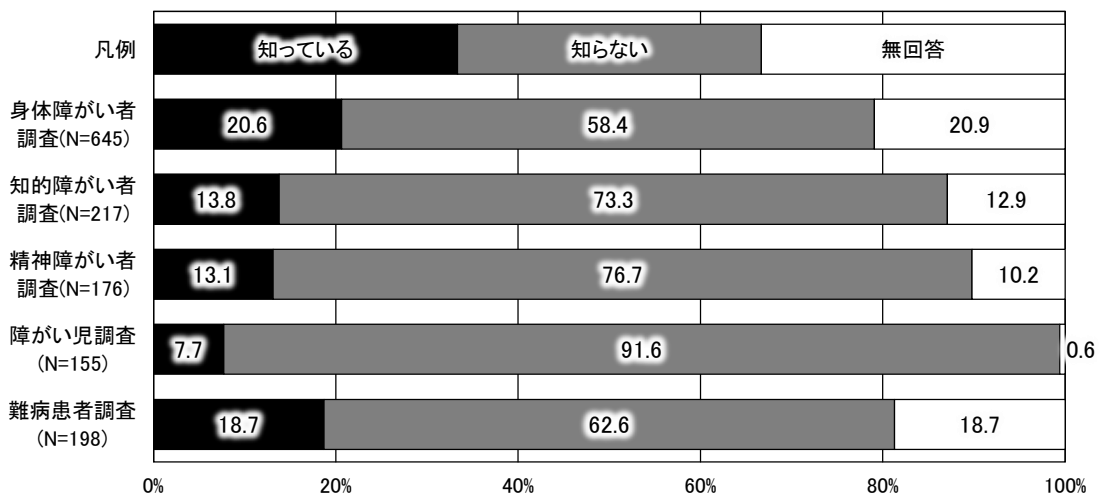
自宅近くの災害時の避難先について、いずれも「知らない」(身体障がい者:56.3%、知的障がい者:64.5%、精神障がい者:67.0%、障がい児:88.4%、難病患者:52.0%)が多く、特に障がい児は約9割にのぼる。

(2) 職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先の認知状況

あなたは、職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先を知っていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 23、知的障がい者:問 24、精神障がい者:問 26、障がい児:問 23、難病患者:問 24]

【図表 2-8-2 職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先の認知状況(全体・調査別)】



職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先について、いずれも「知らない」(身体障がい者:58.4%、知的障がい者:73.3%、精神障がい者:76.7%、障がい児:91.6%、難病患者:62.6%)が最も多い。

(3) 災害時の対策

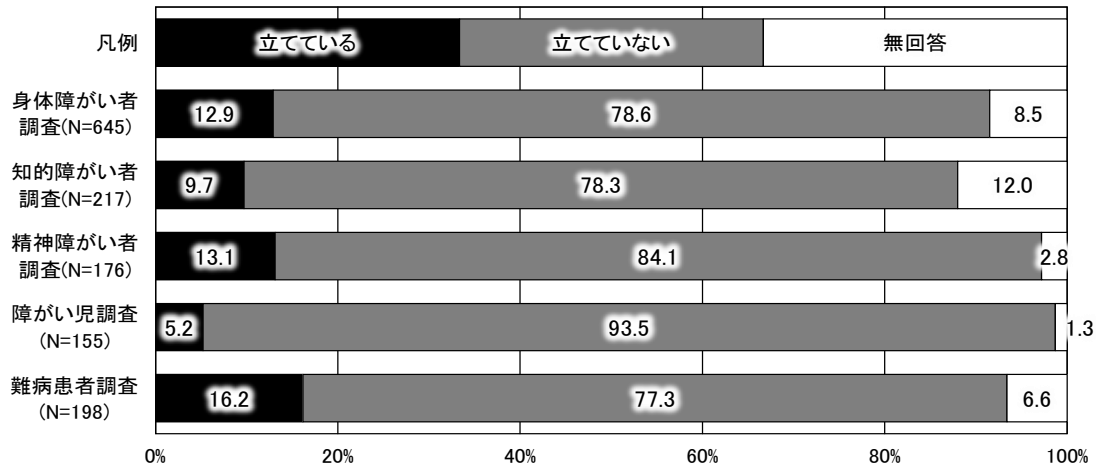
あなたは、災害時の対策を立てていますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 24、知的障がい者:問 25、精神障がい者:問 27、障がい児:問 24、難病患者:問 25]

(問24で1を選んだ方のみお答えください)それはどのような内容のものですか。(○はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 24-1、知的障がい者:問 25-1、精神障がい者:問 27-1、障がい児:問 24-1、難病患者:問 25-1]

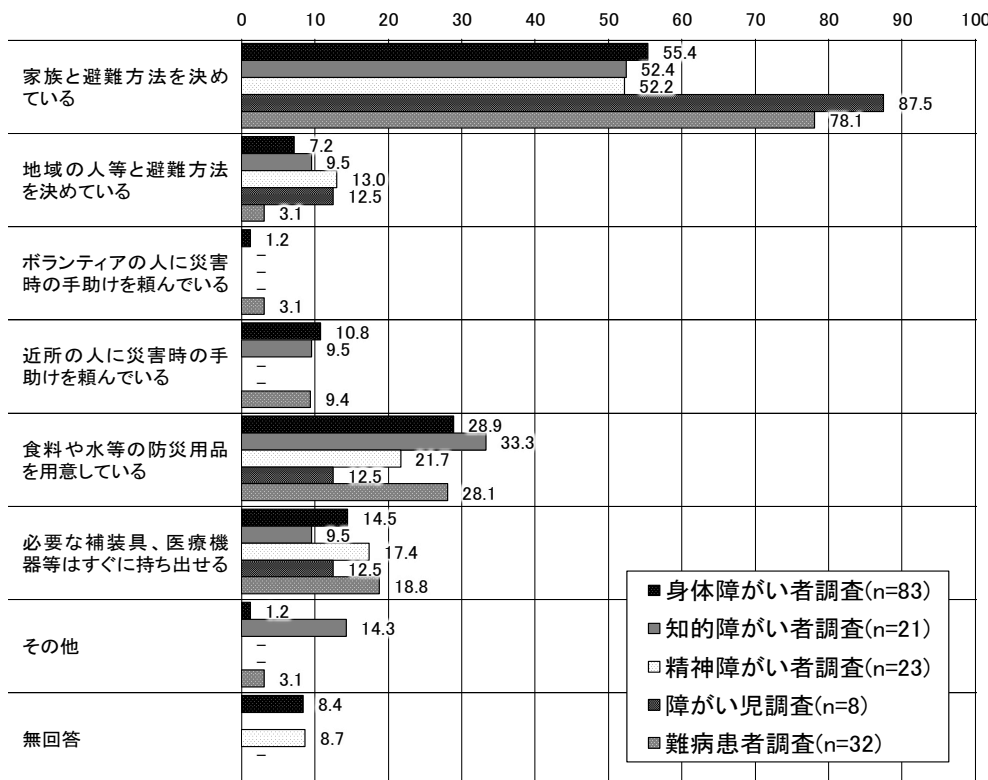
【図表 2-8-3 災害時の対策(全体・調査別)】



災害時の対策について、いずれも「立てていない」(身体:78.6%、知的:78.3%、精神:84.1%、障がい児:93.5%、難病:77.3%)が最も多い。

【図表 2-8-4 災害時の対策内容(全体・調査別)】

(%)



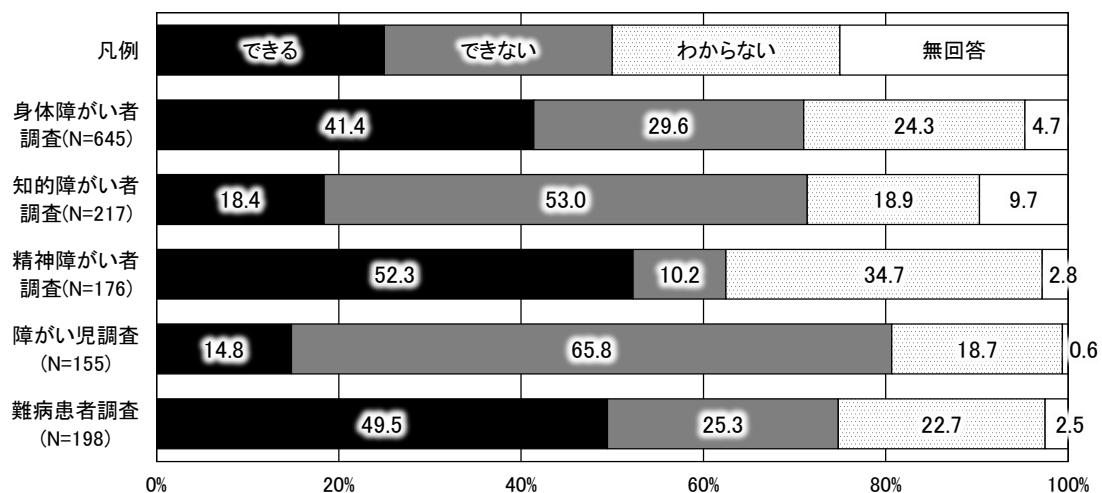
災害時の対策内容については、いずれも「家族と避難方法を決めている」(身体障がい者:55.4%、知的障がい者:52.4%、精神障がい者:52.2%、障がい児:87.5%、難病患者:78.1%)が最も多い。また、「食料や水等の防災用品を用意している」(身体障がい者:28.9%、知的障がい者:33.3%、精神障がい者:21.7%、障がい児:12.5%、難病患者:28.1%)も割合が高い。

(4)災害時の自力による避難

あなたは、災害時にひとりで避難ができますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 25、知的障がい者:問 26、精神障がい者:問 28、障がい児:問 25、難病患者:問 26]

【図表 2-8-5 災害時の自力による避難(全体・調査別)】



災害時の自力による避難について、身体障がい者、精神障がい者、難病患者は「できる」(身体障がい者:41.4%、精神障がい者:52.3%、難病患者:49.5%)が多くなっているが、知的障がい者、障がい児においては「できない」(知的障がい者:53.0%、障がい児:65.8%)の方が多くなっている。

【図表 2-8-6 身体障がい者の災害時の自力による避難】

＜全体・年齢別・障がいの程度別・障がいの部位別＞

		サンプル数	できる	できない	わからない	無回答
全体		645	41.4	29.6	24.3	4.7
年齢別	18～29歳	23	26.1	39.1	34.8	-
	30～39歳	35	42.9	28.6	25.7	2.9
	40～49歳	53	50.9	18.9	28.3	1.9
	50～59歳	147	49.0	19.7	26.5	4.8
	60～64歳	195	44.6	25.1	26.7	3.6
	65歳以上	179	31.3	44.1	17.9	6.7
	無回答	13	30.8	38.5	15.4	15.4
	障がいの程度別	1級+2級(重度)	304	29.6	40.8	24.0
3級+4級(中度)		207	48.3	20.8	28.5	2.4
5級+6級(低度)		110	65.5	13.6	20.0	0.9
身体障がい以外の障がいとの重複がある		50	14.0	52.0	30.0	4.0
無回答		24	20.8	37.5	12.5	29.2
障がいの部位別	視覚	39	28.2	56.4	10.3	5.1
	聴覚・平衡機能	62	32.3	29.0	35.5	3.2
	音声・言語・そしゃく	20	30.0	30.0	25.0	15.0
	肢体不自由	306	39.5	31.0	26.1	3.3
	内部障がい	157	58.0	14.6	22.9	4.5
	その他	10	10.0	60.0	30.0	-
	身体障がい以外の障がいとの重複がある	50	14.0	52.0	30.0	4.0
	無回答	51	33.3	41.2	13.7	11.8

(数値:%)

【図表 2-8-7 知的障がい者の災害時の自力による避難】

＜全体・年齢別・障がいの程度別＞

		サンプル数	できる	できない	わからない	無回答
全体		217	18.4	53.0	18.9	9.7
年齢別	18～29歳	60	16.7	58.3	20.0	5.0
	30～39歳	59	16.9	55.9	22.0	5.1
	40～49歳	30	20.0	56.7	20.0	3.3
	50～59歳	21	38.1	28.6	14.3	19.0
	60～64歳	18	5.6	66.7	22.2	5.6
	65歳以上	25	20.0	36.0	12.0	32.0
	無回答	4	-	75.0	-	25.0
障がいの程度別	療育手帳A	112	4.5	77.7	8.9	8.9
	療育手帳B	89	32.6	25.8	31.5	10.1
	知的障がい以外の障がいとの重複がある	50	14.0	58.0	16.0	12.0
	無回答	16	37.5	31.3	18.8	12.5

(数値:%)

【図表 2-8-8 精神障がい者の災害時の自力による避難】

＜全体・年齢別・現在の症状別＞

		サンプル数	できる	できない	わからない	無回答
全体		176	52.3	10.2	34.7	2.8
年齢別	18～29歳	14	64.3	-	35.7	-
	30～39歳	33	36.4	24.2	39.4	-
	40～49歳	38	57.9	5.3	31.6	5.3
	50～59歳	46	60.9	4.3	32.6	2.2
	60～64歳	24	45.8	12.5	37.5	4.2
	65歳以上	18	44.4	16.7	33.3	5.6
	無回答	3	66.7	-	33.3	-
現在の症状別	回復	76	68.4	3.9	23.7	3.9
	変化なし	42	50.0	14.3	35.7	-
	悪化	13	30.8	30.8	38.5	-
	症状不安定	39	30.8	10.3	53.8	5.1
	無回答	6	50.0	16.7	33.3	-

(数値:%)

【図表 2-8-9 障がい児の災害時の自力による避難】

＜全体・年齢別・障がいの状況別＞

		サンプル数	できる	できない	わからない	無回答
全体		155	14.8	65.8	18.7	0.6
年齢別	5歳以下	45	2.2	91.1	4.4	2.2
	6～11歳	43	18.6	72.1	9.3	-
	12～14歳	25	16.0	44.0	40.0	-
	15～17歳	39	25.6	43.6	30.8	-
	無回答	3	-	66.7	33.3	-
障がいの状況別	身体障がいのみ	28	28.6	57.1	14.3	-
	身体障がい・知的障がいの重複	20	5.0	85.0	10.0	-
	知的障がいのみ	72	8.3	69.4	22.2	-
	その他	2	-	50.0	50.0	-
	手帳は持っていない	29	24.1	58.6	13.8	3.4
無回答	4	25.0	25.0	50.0	-	

(数値:%)

【図表 2-8-10 難病患者の災害時の自力による避難】

＜全体・年齢別・障がいの状況別＞

		サンプル数	できる	できない	わからない	無回答
全 体		198	49.5	25.3	22.7	2.5
年 齢 別	29歳以下	6	50.0	33.3	16.7	-
	30～39歳	8	87.5	-	12.5	-
	40～49歳	31	71.0	3.2	25.8	-
	50～59歳	29	65.5	13.8	20.7	-
	60～64歳	29	62.1	6.9	27.6	3.4
	65歳以上	91	29.7	45.1	20.9	4.4
	無回答	4	50.0	-	50.0	-
障 が い の 状 況 別	身体障がい	58	17.2	62.1	13.8	6.9
	知的障がい	2	-	100.0	-	-
	精神障がい	1	-	-	100.0	-
	手帳は持っていない	119	62.2	10.1	27.7	-
	無回答	21	66.7	9.5	19.0	4.8

(数値:%)

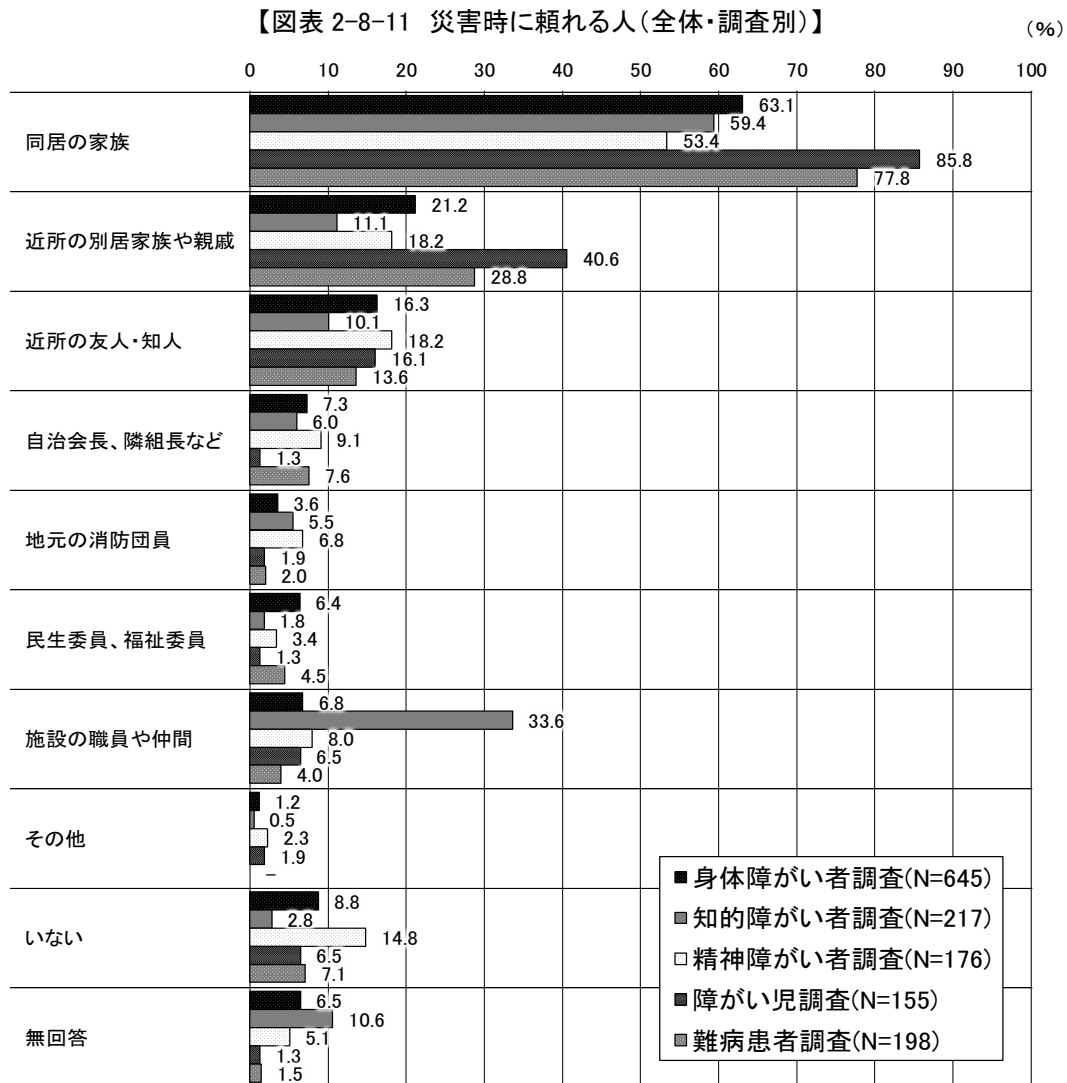
身体障がい者の障がいの程度別にみると、1・2級の重度障がい者は「できない」(40.8%)が多く、3～6級の中
度・低度障がい者は「できる」(中度:48.3%、低度:65.5%)が多くなっている。

知的障がい者の障がいの程度別にみると、療育手帳 A 所持者及び重複障がいのある方は「できない」の割合
が高い。

障がい児の年齢別にみると、年齢に関わらず「できない」の割合が高くなっている。

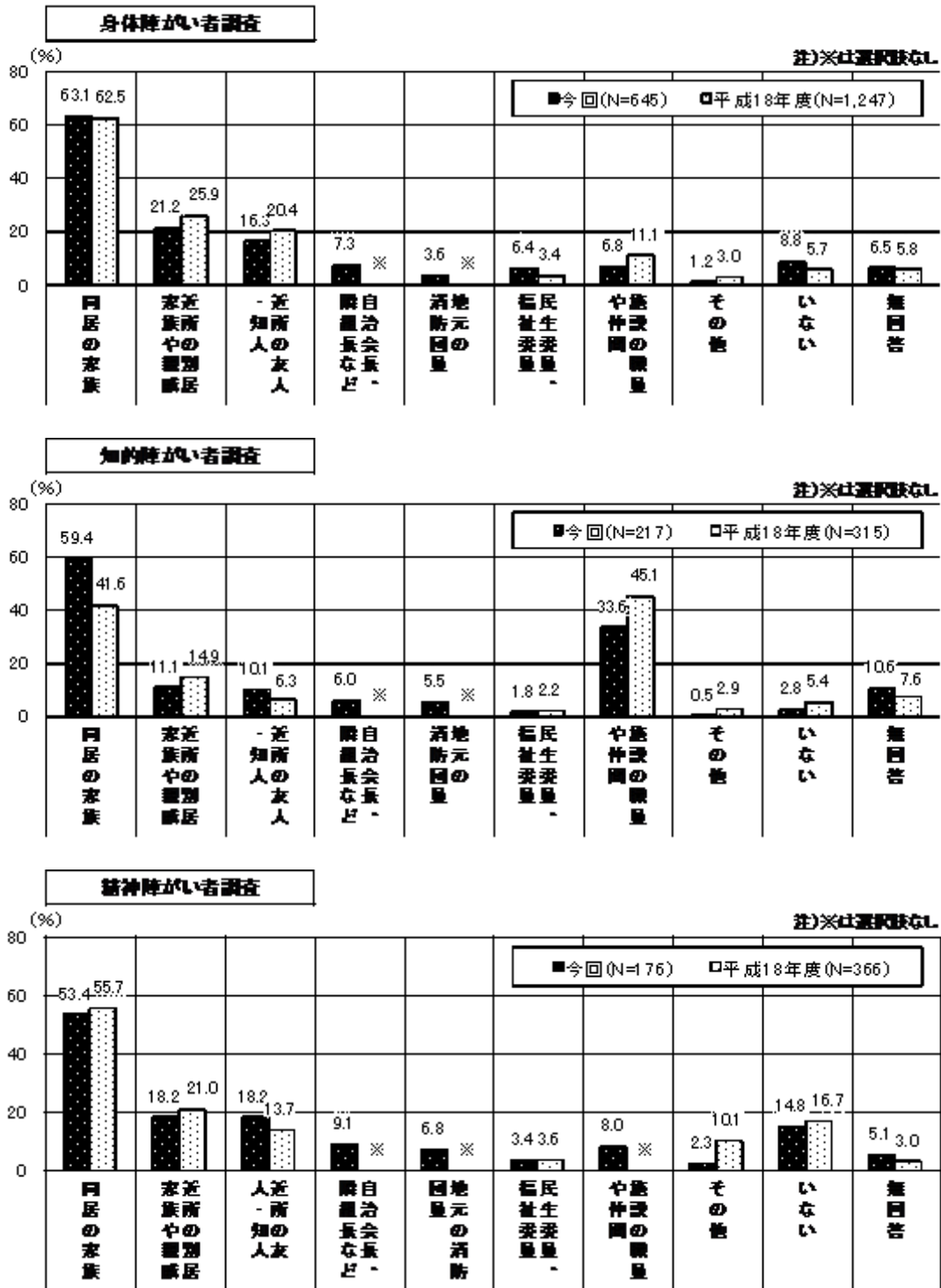
(5) 災害時に頼れる人

地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保等で頼れる人は誰ですか。(○はあてはまるものすべて)
 [身体障がい者:問 26、知的障がい者:問 27、精神障がい者:問 29、障がい児:問 26、難病患者:問 27]



災害時に頼れる人は、いずれも「同居の家族」(身体障がい者:63.1%、知的障がい者:59.4%、精神障がい者:53.4%、障がい児:85.8%、難病患者:77.8%)が最も多い。また、知的障がい者は「施設の職員や仲間」(33.6%)、障がい児は「近所の別居家族や親戚」(40.6%)も多くなっている。

【図表 2-8-12 災害時に頼れる人(全体・時系列)】



平成 18 年度調査と比較すると、身体障がい者、精神障がい者では大きな変化はみられない。知的障がい者は、今回調査で「同居の家族」と「施設の職員や仲間」の順位が平成 18 年度調査と逆転している。

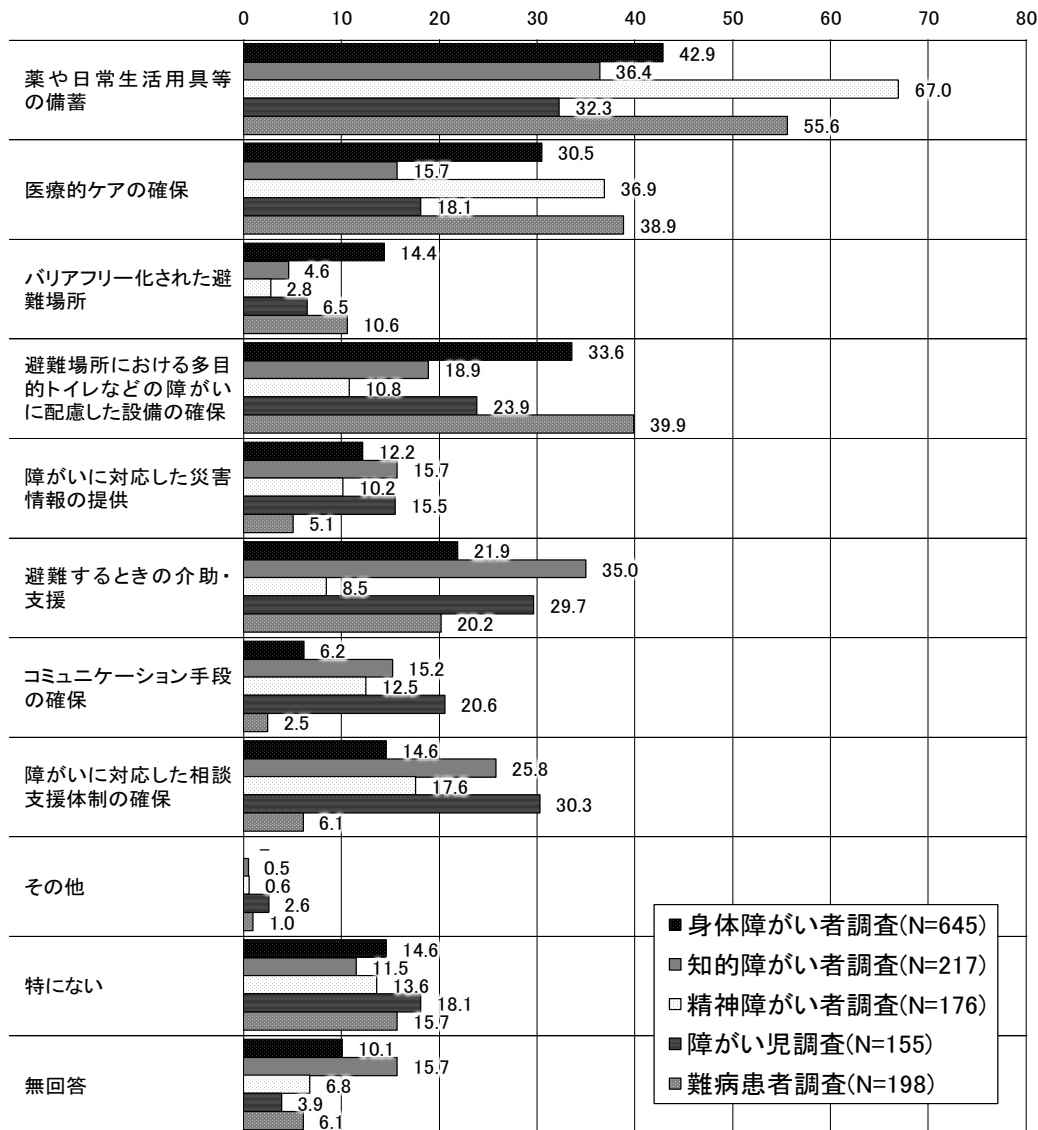
(6) 大きな災害が起きた場合に必要な支援

地震や台風等の大きな災害が起きた場合、あなたはどのような支援が必要ですか。(○は3つまで)

[身体障がい者:問 27、知的障がい者:問 28、精神障がい者:問 30、障がい児:問 27、難病患者:問 28]

【図表 2-8-13 大きな災害が起きた場合に必要な支援(全体・調査別)】

(%)



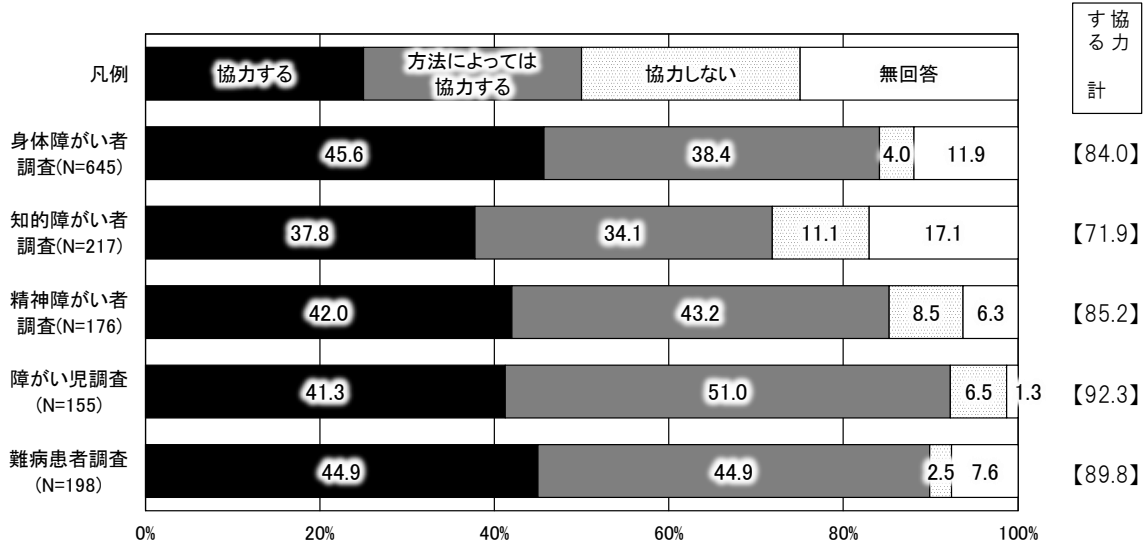
大きな災害が起きた場合の必要な支援は、いずれも「薬や日常生活用具等の備蓄」(身体障がい者:42.9%、知的障がい者:36.4%、精神障がい者:67.0%、障がい児:32.3%、難病患者:55.6%)が最も多い。他にも、身体障がい者と難病患者は「避難場所における多目的トイレなどの障がいに配慮した設備の確保」(身体障がい者:33.6%、難病患者:39.9%)、知的障がい者は「避難するときの介助・支援」(35.0%)、精神障がい者は「医療的ケアの確保」(36.9%)、障がい児は「障がいに対応した相談支援体制の確保」(30.3%)においても要望が高い。

(7)災害時の避難支援体制について

災害時にひとりで避難ができない方々の情報を、地域の防災組織にあらかじめ知らせておき、避難支援体制を整えておくことについて、あなたはどうかお考えになりますか。(○は1つだけ)

[身体障がい者:問 28、知的障がい者:問 29、精神障がい者:問 31、障がい児:問 28、難病患者:問 29]

【図表 2-8-14 協力意向(全体・調査別)】



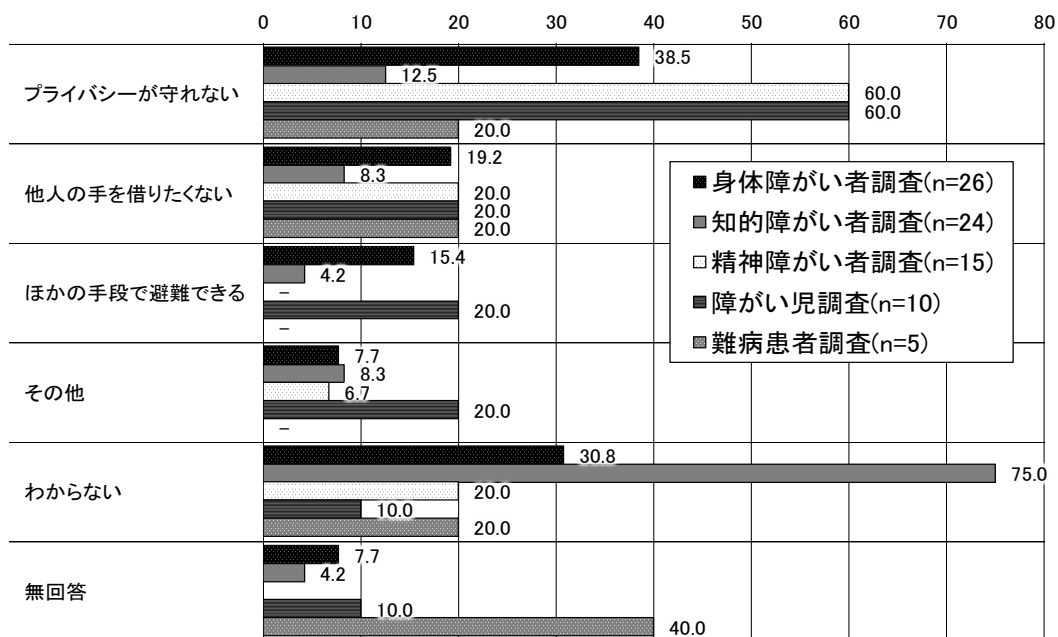
避難支援体制を整えておくことについて、いずれも『協力する』(「協力する」+「方法によっては協力する」)の割合が高く、特に障がい児は9割以上にのぼる。

(問28で3を選んだ方のみお答えください)それはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 28-1、知的障がい者:問 29-1、精神障がい者:問 31-1、障がい児:問 28-1、難病患者:問 29-1]

【図表 2-8-15 協力しない理由(全体・調査別)】

(%)



協力しない理由では、「プライバシーが守れない」が主な理由となっている。

第9節 社会参加や地域での生活について

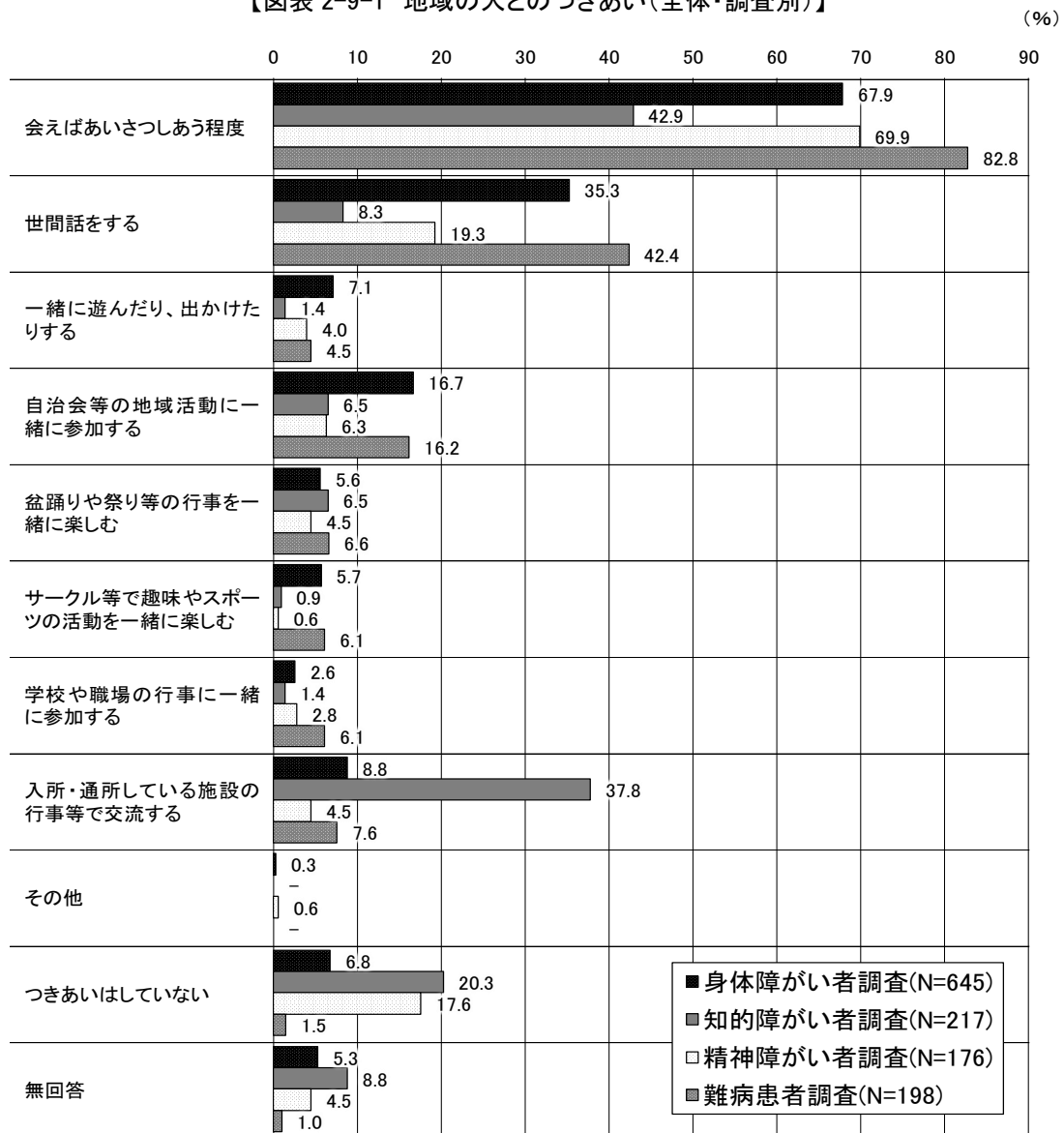
1. 地域活動について

(1) 地域の人とのつきあい

あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(○はあてはまるものすべて)

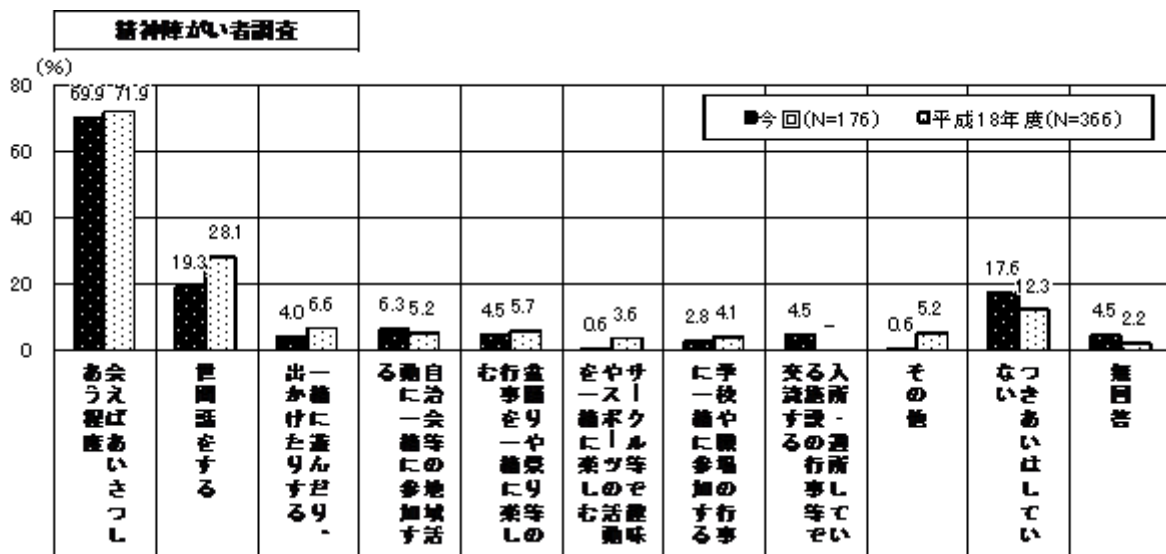
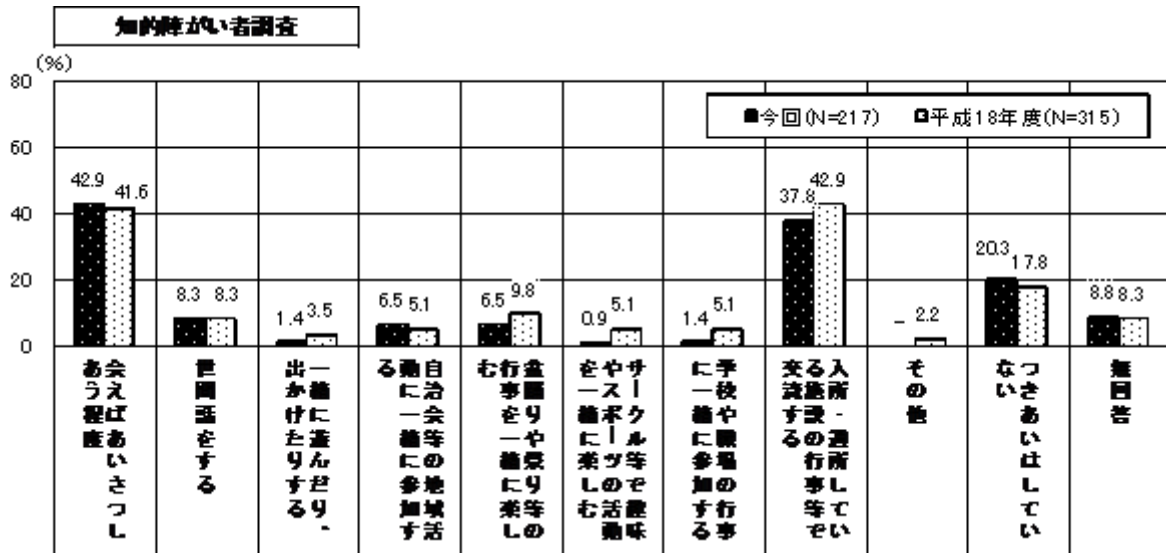
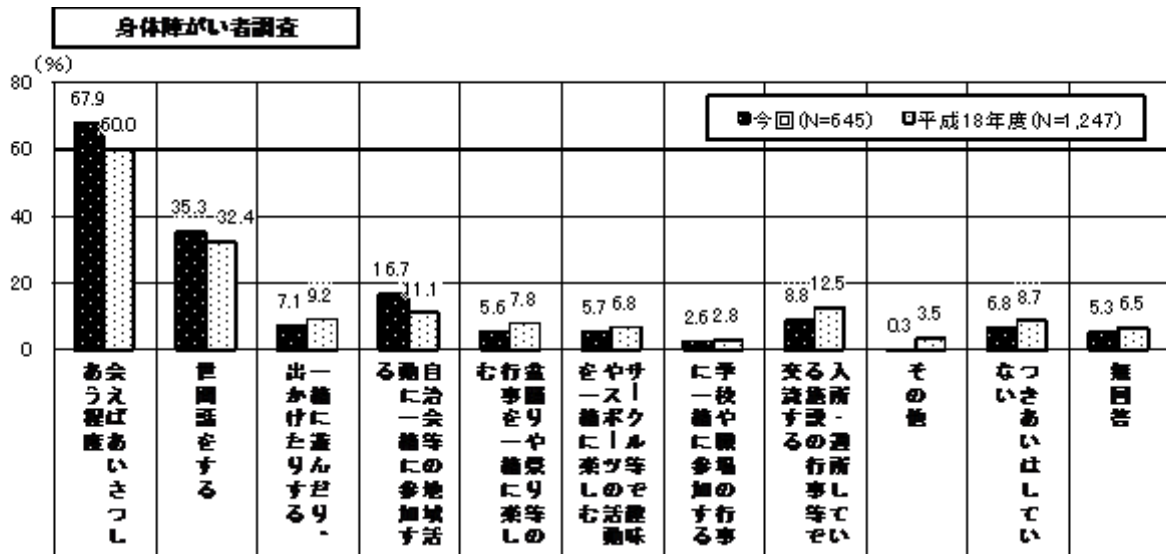
[身体障がい者:問 29、知的障がい者:問 30、精神障がい者:問 32、難病患者:問 30]

【図表 2-9-1 地域の人とのつきあい(全体・調査別)】



地域の人とのつきあいについて、いずれも「会えばあいさつしあう程度」(身体障がい者:67.9%、知的障がい者:42.9%、精神障がい者:69.9%、難病患者:82.8%)が最も多い。また、知的障がい者では「入所・通所している施設の行事等で交流する」(37.8%)、難病患者では「世間話をする」(42.4%)の割合も高くなっている。

【図表 2-9-2 地域の人とのつきあい(全体・時系列)】



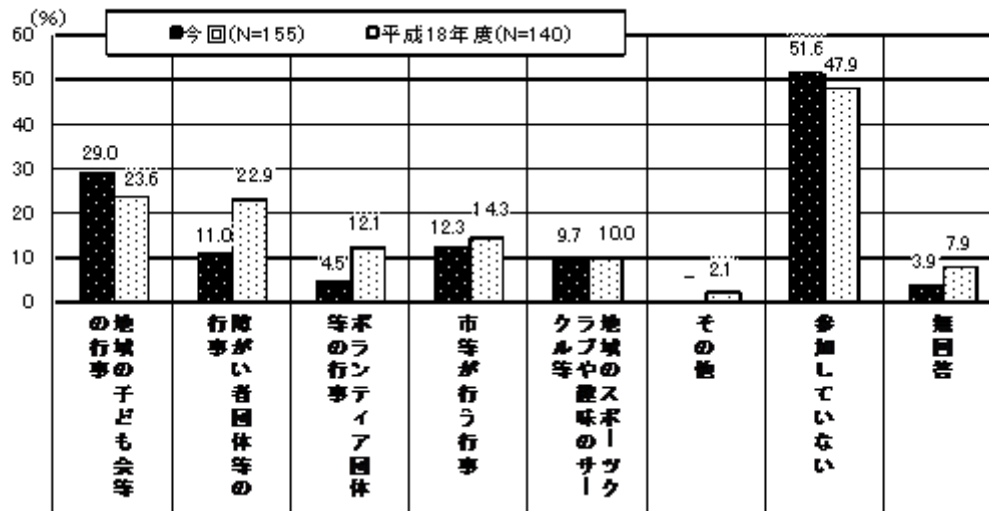
平成18年度調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

(2) 障がい児の地域活動等への参加状況

お子さんは、下記のような地域の行事や活動に参加していますか。(○はあてはまるものすべて)

[障がい児:問 29]

【図表 2-9-3 障がい児の地域活動等への参加状況(全体・時系列)】



障がい児の半数以上(51.6%)は地域の行事や活動等に参加していない。参加している活動では、「地域の子ども会等の行事」(29.0%)が最も多く、次いで「市等が行う行事」(12.3%)となっている。

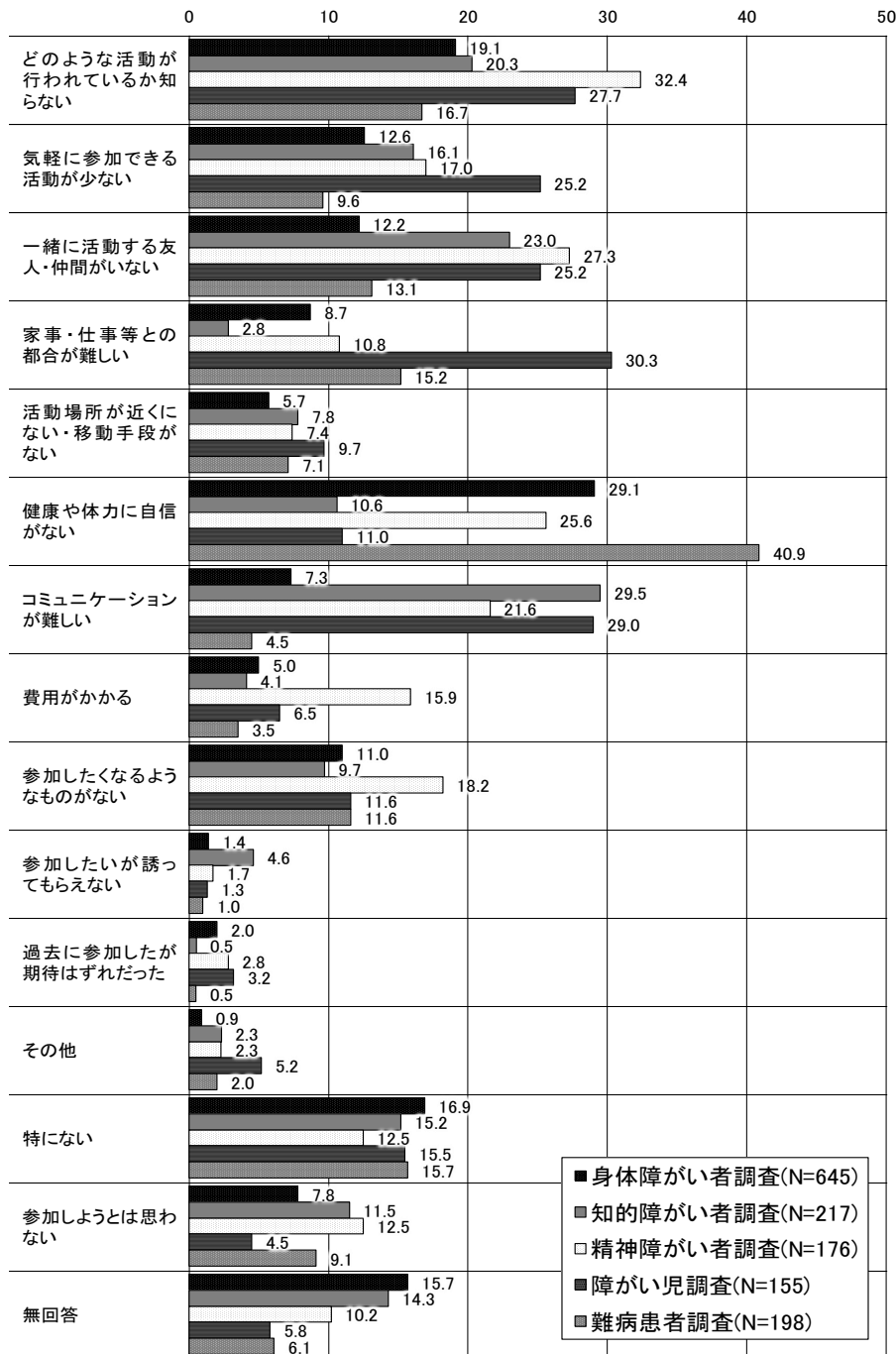
平成18年度調査と比較すると、「参加していない」の割合(平成18年度調査:47.9%、今回調査:51.6%)がやや増加し、逆に、「地域の子ども会等の行事」以外の活動はいずれも減少している。

(3) 地域活動に参加するときにさまたげとなること

あなたが地域で行われる行事や余暇活動(文化・スポーツ・レクリエーション活動等)に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(○はあてはまるものすべて)

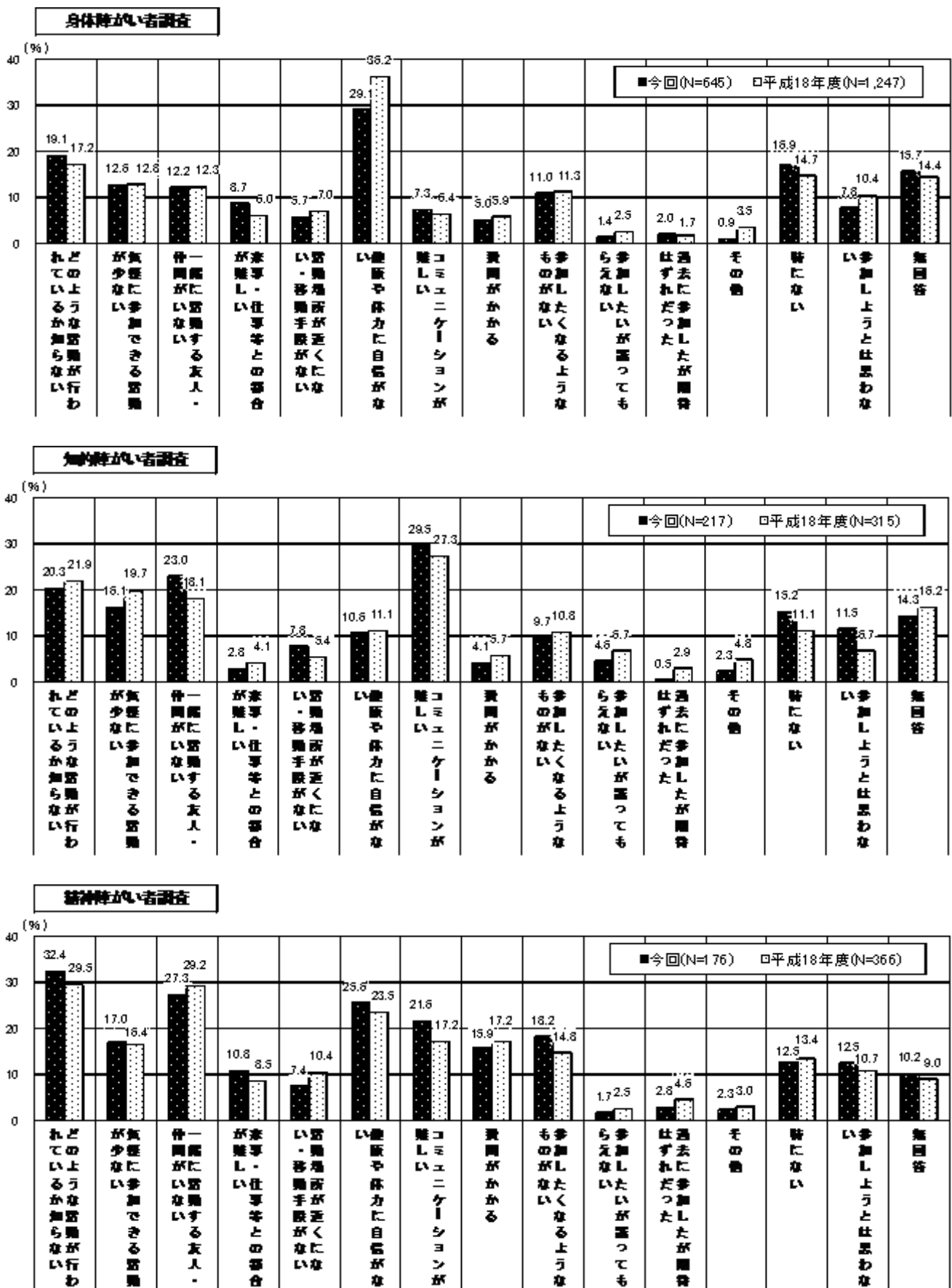
[身体障がい者:問 30、知的障がい者:問 31、精神障がい者:問 33、障がい児:問 30、難病患者:問 31]

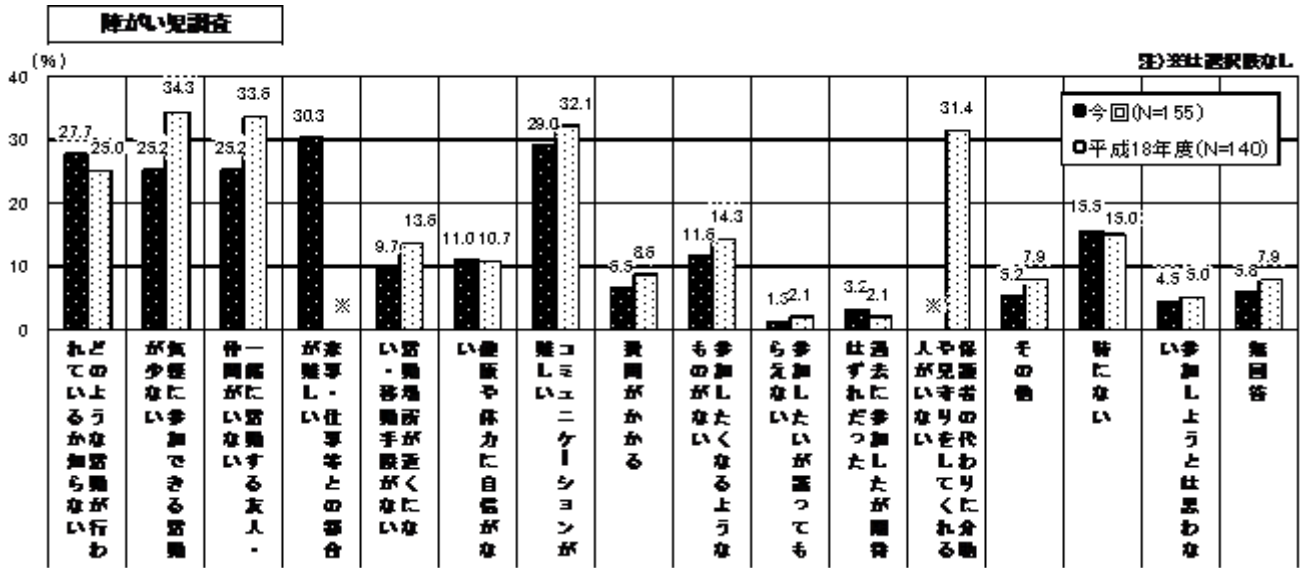
【図表 2-9-5 地域活動に参加するときにさまたげとなること(全体・調査別)】(%)



地域の行事や活動に参加する時にさまたげとなることは、身体障がい者、難病患者は「健康や体力に自信がない」(身体障がい者:29.1%、難病患者:40.9%)、知的障がい者は「コミュニケーションが難しい」(29.5%)、精神障がい者は「どのような活動が行われているか知らない」(32.4%)、障がい児は「家事・仕事等との都合が難しい」(30.3%)がそれぞれ多くなっている。

【図表 2-9-6 地域活動に参加するときにさまたげとなること(全体・時系列)】





平成18年度調査と比較すると、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者は大きな変化はみられない。障がい児については選択肢が同一でないため参考程度とするが、平成18年度は「気軽に参加できる活動が少ない」、「一緒に活動する友人・仲間がいらない」の割合が高かったのが、今回は「コミュニケーションが難しい」、「どのような活動が行われているか知らない」が高く、若干の順位の変化がみられる。

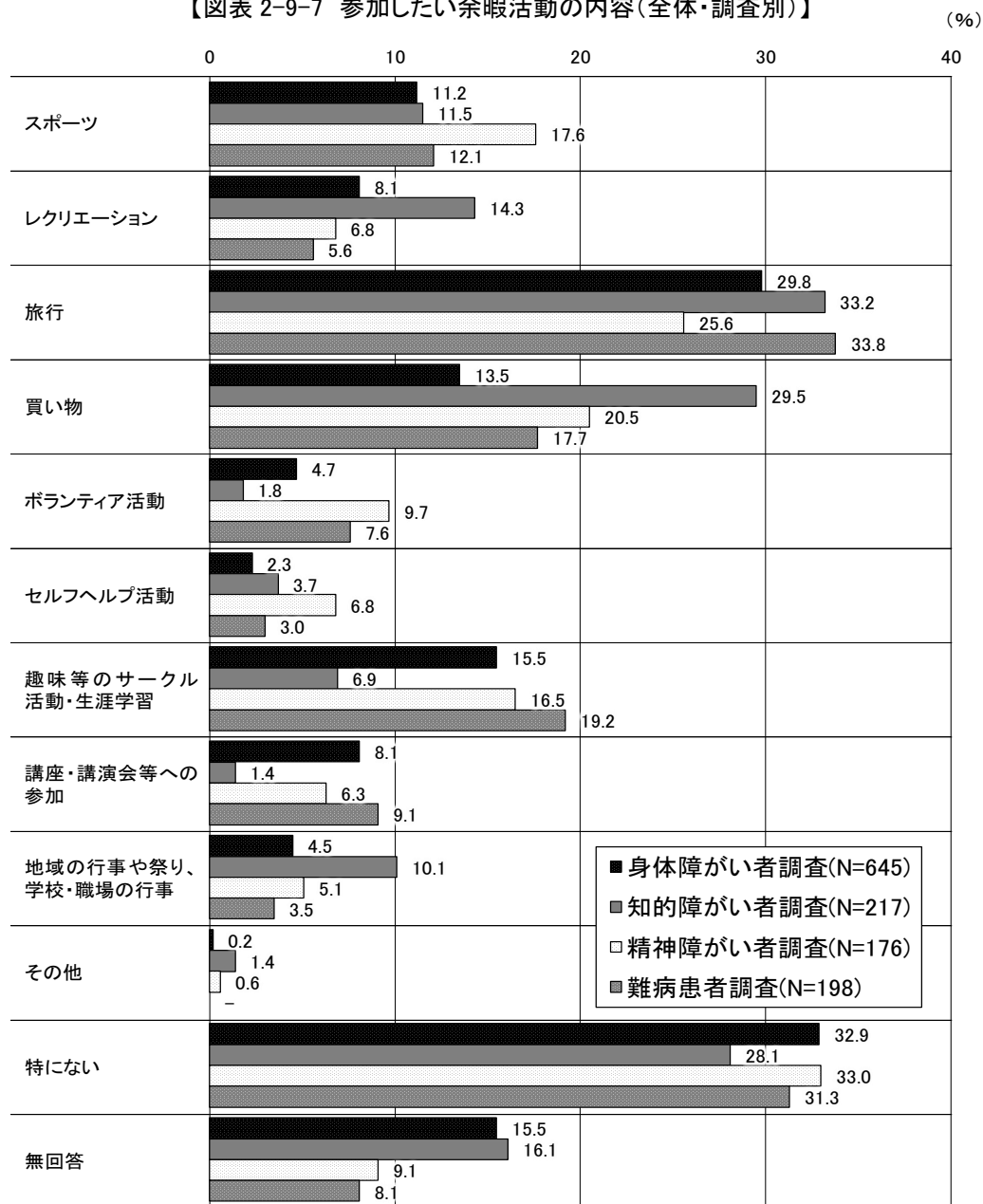
2. 余暇活動について

(1) 参加したい余暇活動の内容

今後、余暇活動として、どのような活動をしたいと思えますか。(○はあてはまるものすべて)

[身体障がい者:問 31、知的障がい者:問 32、精神障がい者:問 34、難病患者:問 32]

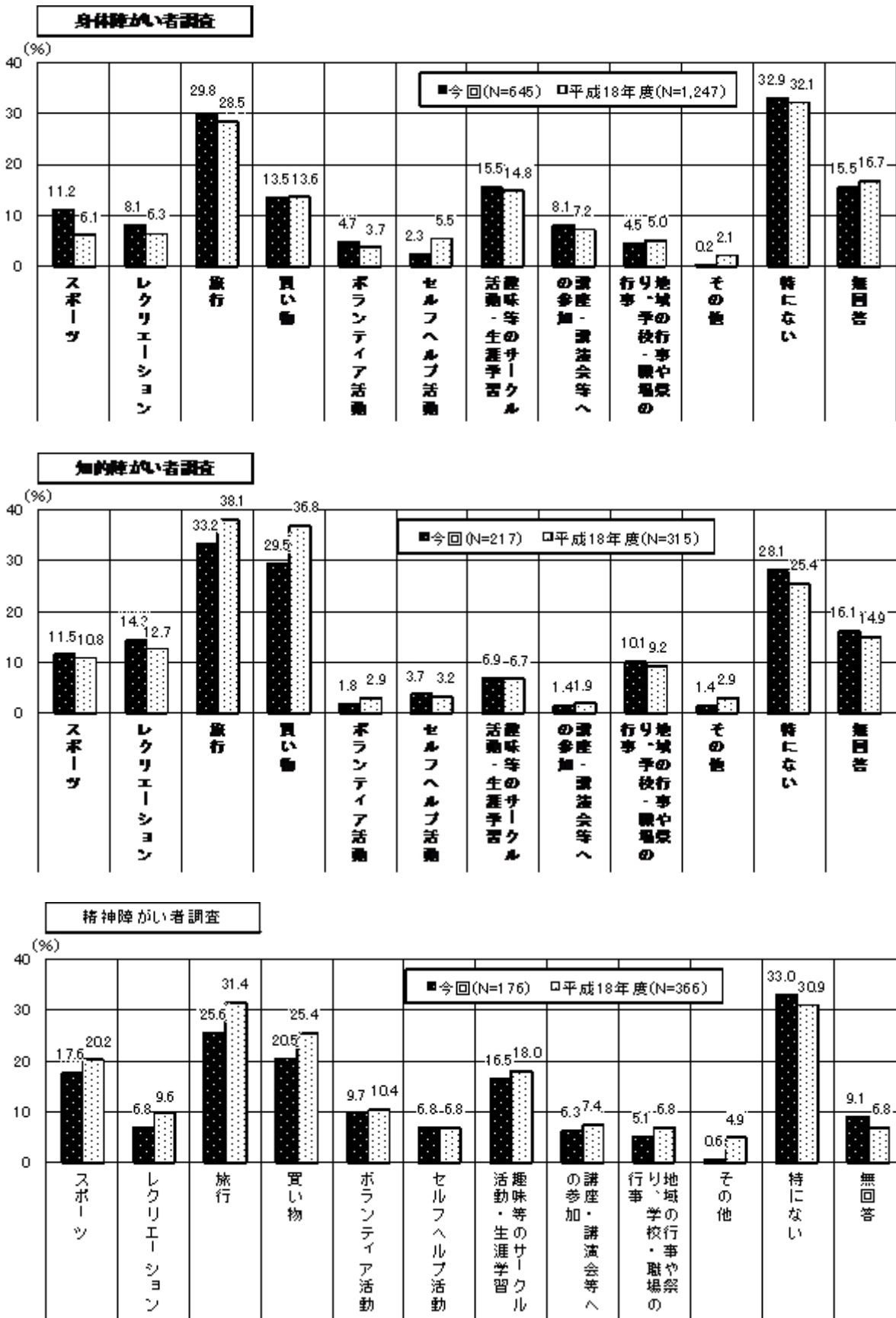
【図表 2-9-7 参加したい余暇活動の内容(全体・調査別)】



今後参加したい余暇活動は、いずれも「旅行」(身体障がい者:29.8%、知的障がい者:33.2%、精神障がい者:25.6%、難病患者:33.8%)や「買い物」(身体障がい者:13.5%、知的障がい者:29.5%、精神障がい者:20.5%、難病患者:17.7%)が上位にあがっている。精神障がい者では「スポーツ」(17.6%)、難病患者では「趣味等のサークル活動・生涯学習」(19.2%)も割合が高くなっている。

また、「特にない」との回答もそれぞれ2~3割程度となっている(身体障がい者:32.9%、知的障がい者:28.1%、精神障がい者:33.0%、難病患者:31.3%)。

【図表 2-9-8 参加したい余暇活動の内容(全体・時系列)】



平成18年度調査と比較すると、大きな変化はみられない。

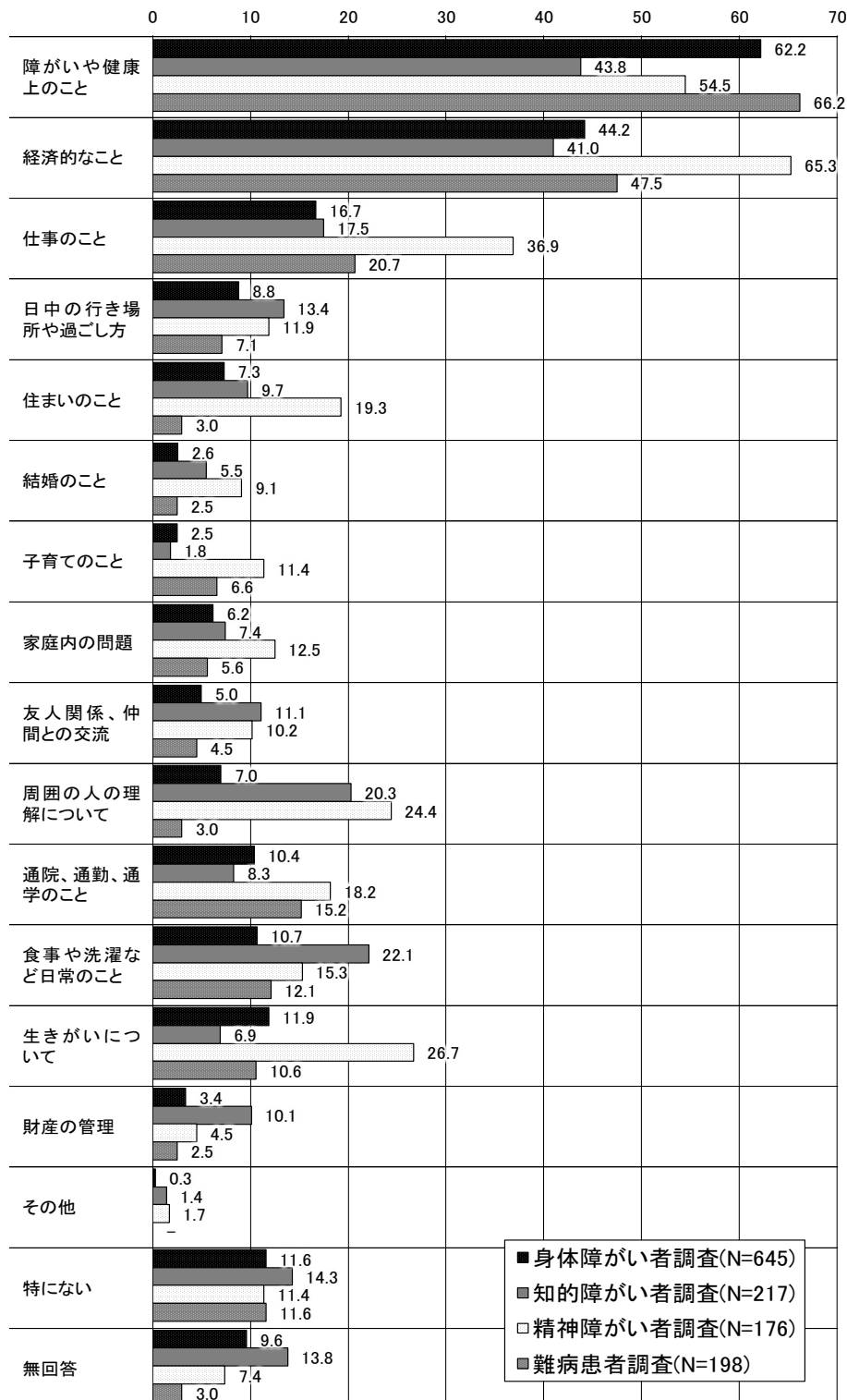
第10節 生活全般について

1. 生活上の不安・悩みや相談先について

(1) 困っていることや将来に対する不安・悩み

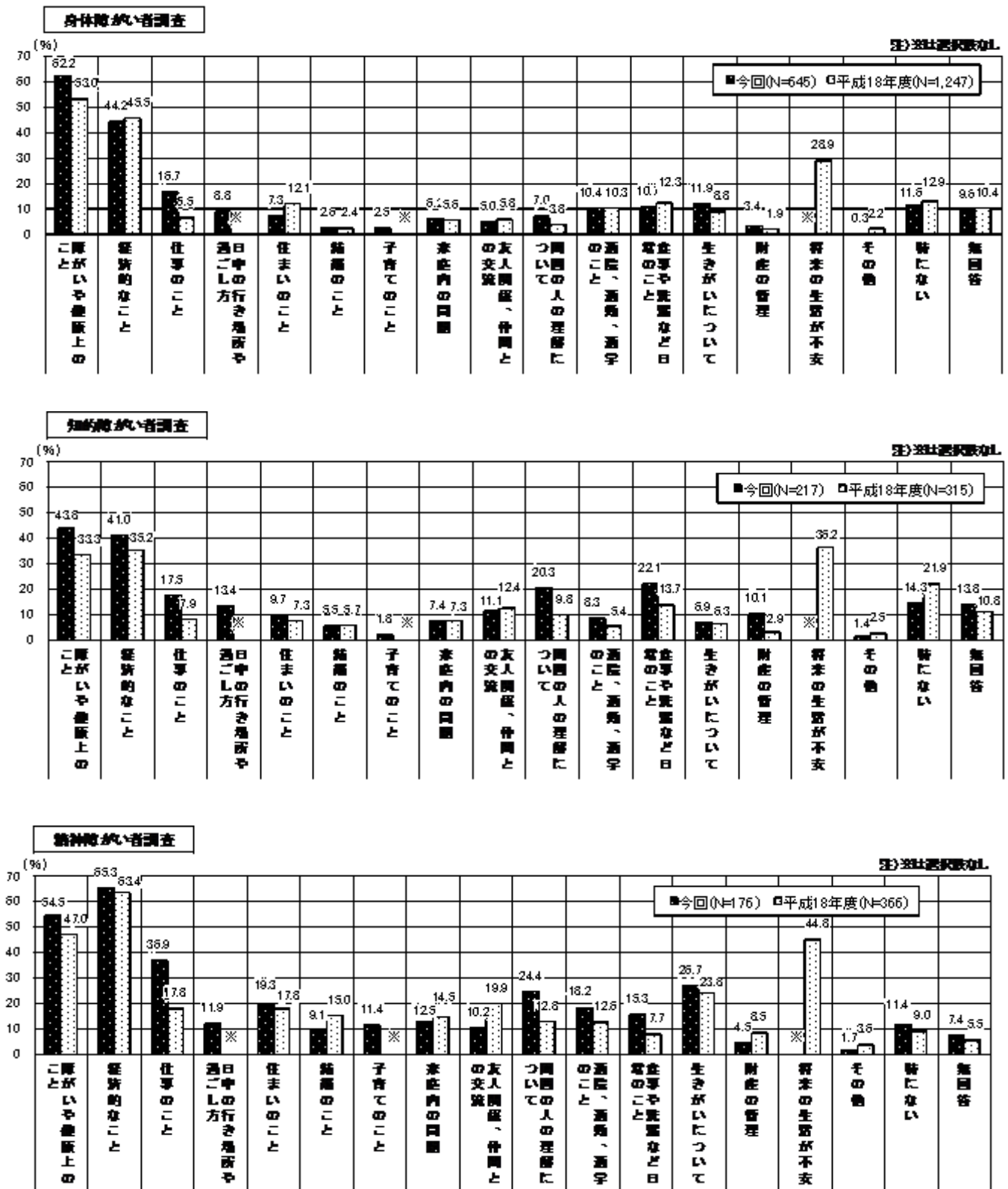
今後、あなたが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(○はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問 32、知的障がい者:問 33、精神障がい者:問 35、難病患者:問 33]

【図表 2-10-1 困っていることや将来に対する不安・悩み(全体・調査別)】_(%)



障がい者が現在の生活で困っていることや将来に対する不安・悩みでは、「障がいや健康上のこと」(身体障がい者:62.2%、知的障がい者:43.8%、精神障がい者:54.5%、難病患者:66.2%)、「経済的なこと」(身体障がい者:44.2%、知的障がい者:41.0%、精神障がい者:65.3%、難病患者:47.5%)が共通して上位にあがっている。

【図表 2-10-2 困っていることや将来に対する不安・悩み(全体・時系列)】

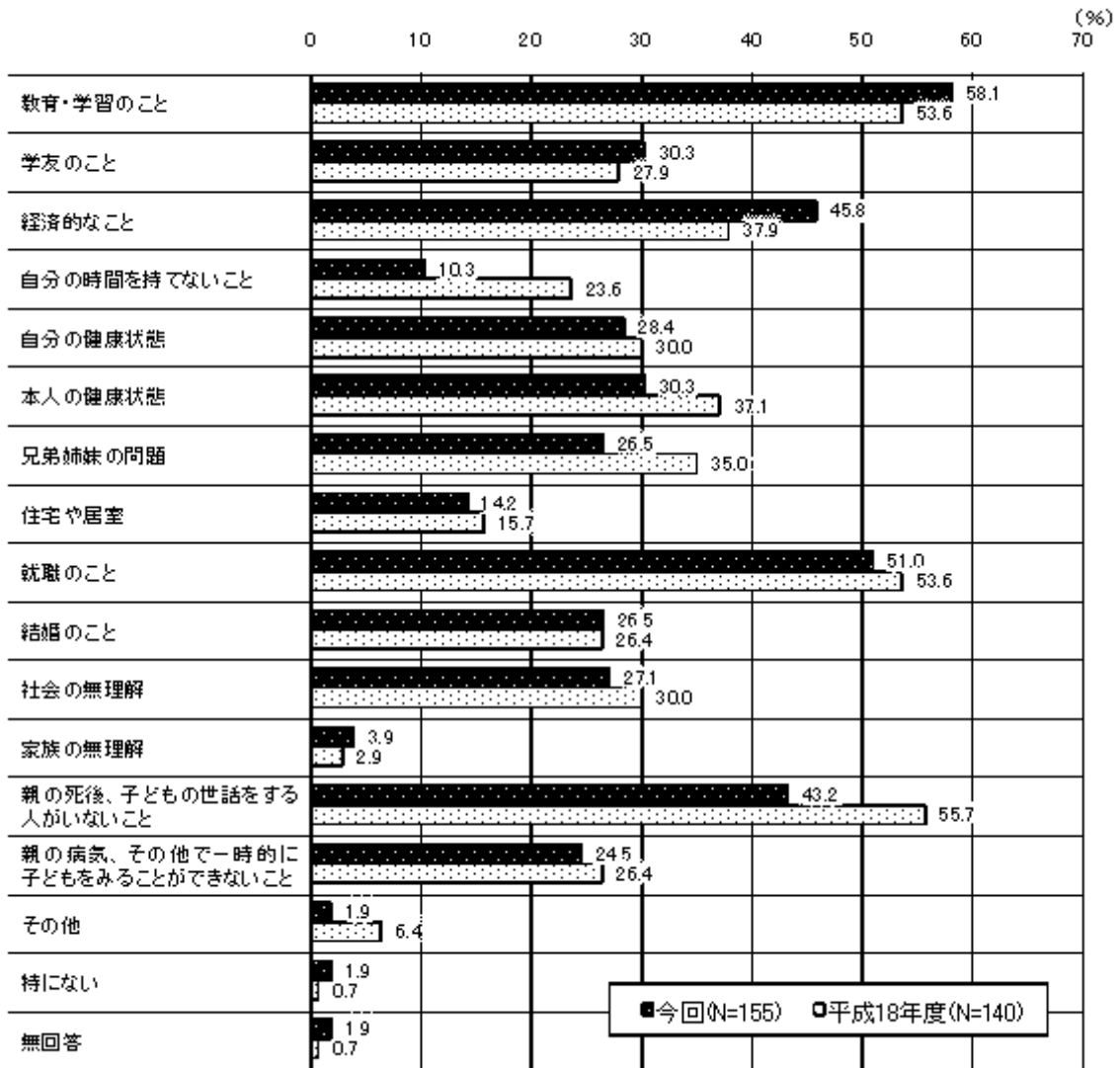


平成18年度調査と比較すると、「障がいや健康上のこと」、「経済的なこと」に対する不安は依然として高い。また、「仕事のこと」、「周囲の人の理解について」、は共通して割合が大きく増加している。

(2)障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩み

今後、お子さんが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)[障がい児:問 31]

【図表 2-10-3 障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩み(全体・時系列)】



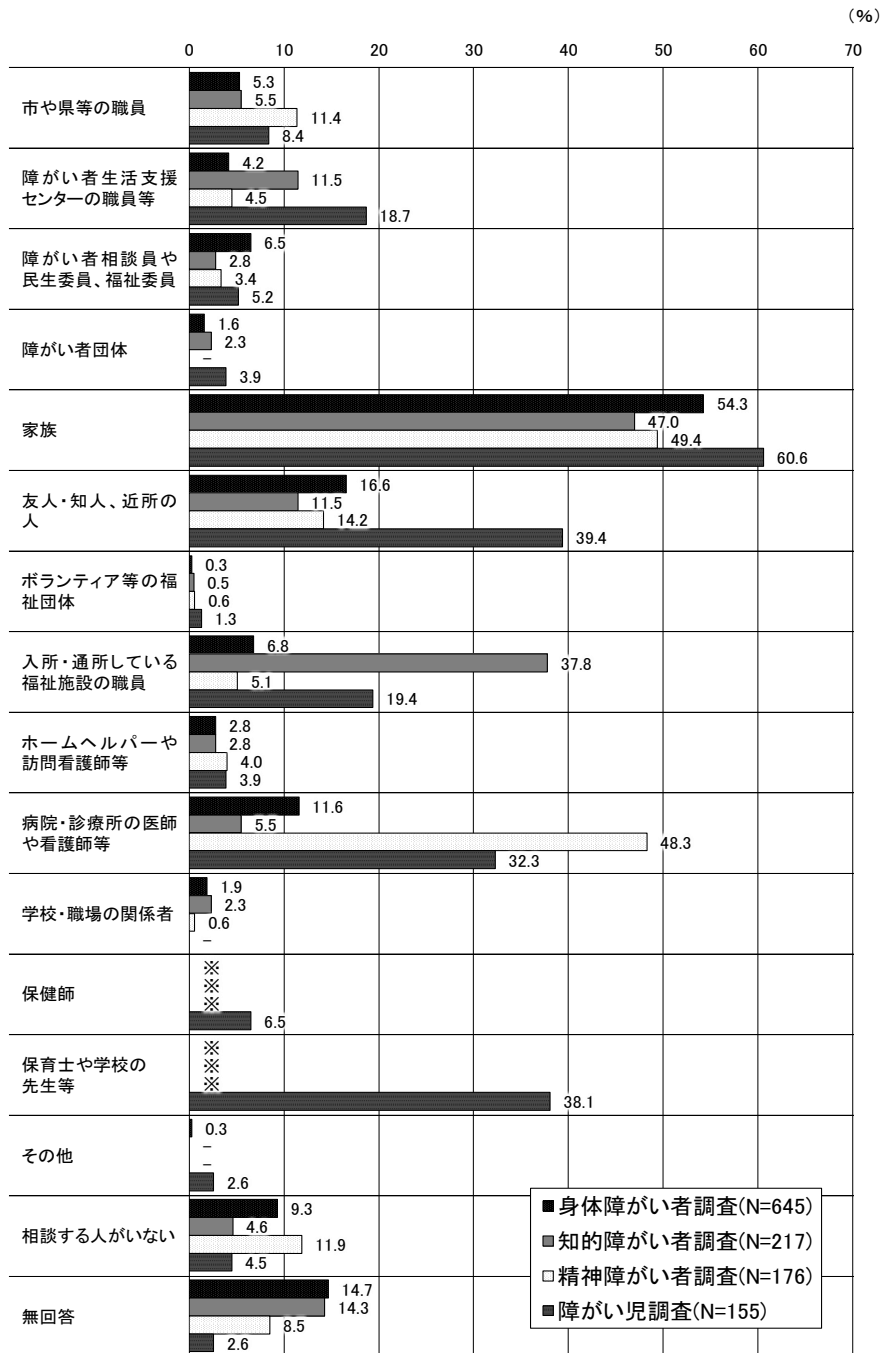
障がい児を育てていく上で困っていることや将来に対する不安・悩みでは、「教育・学習のこと」(58.1%)が最も高く、次いで「就職のこと」(51.0%)、「経済的なこと」(45.8%)となっている。

平成 18 年度調査と比較すると、「親の死後、子どもの世話をする人がいないこと」について割合が減少している(平成 18 年度調査:55.7%、今回調査:43.2%)。

(3) 困っていることや不安・悩みの相談先

生活の中で困っていることや不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(○はあてはまるものすべて)
 [身体障がい者:問 33、知的障がい者:問 34、精神障がい者:問 36、障がい児:問 32]

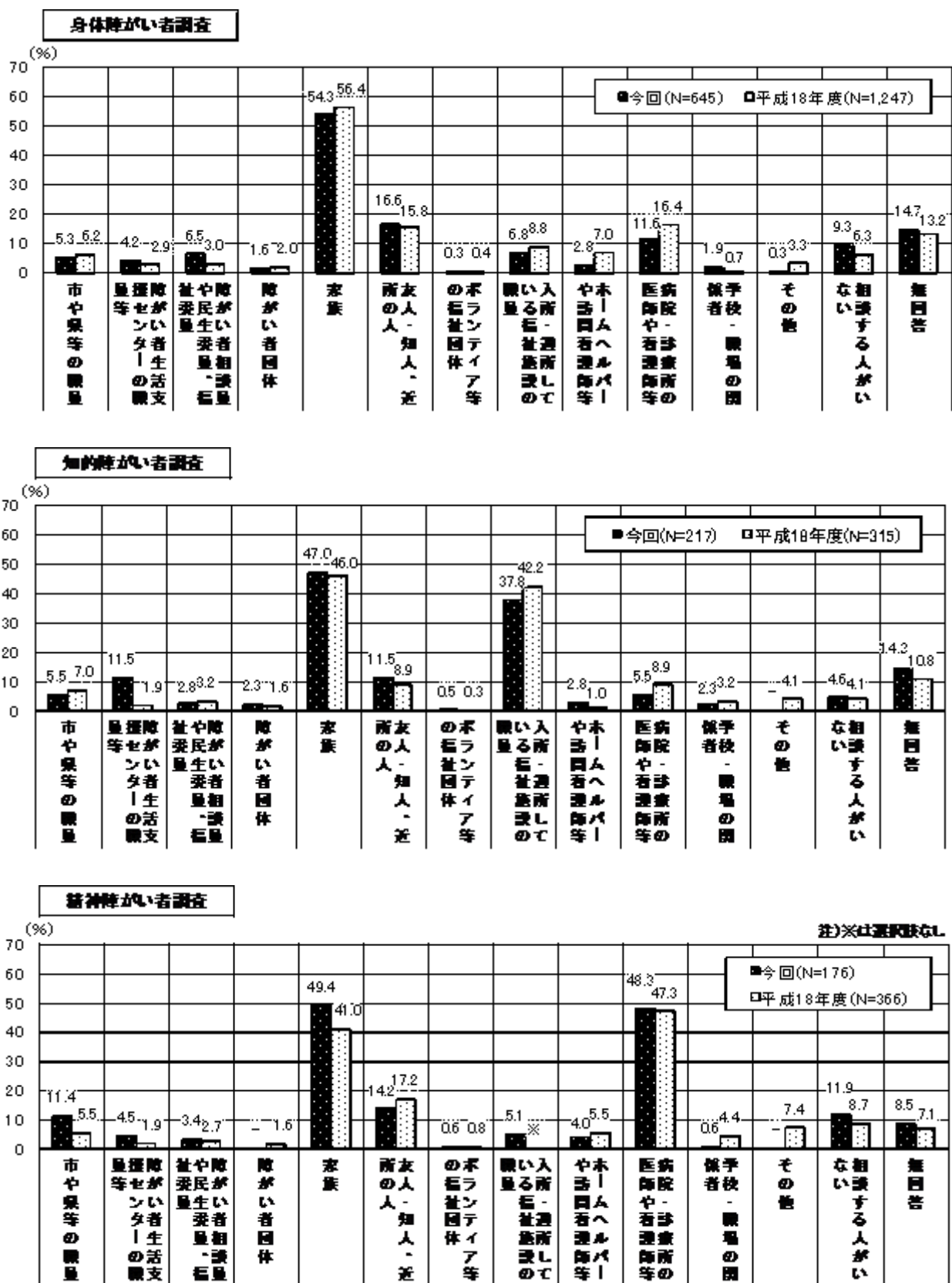
【図表 2-10-5 困っていることや不安・悩みの相談先(全体・調査別)】

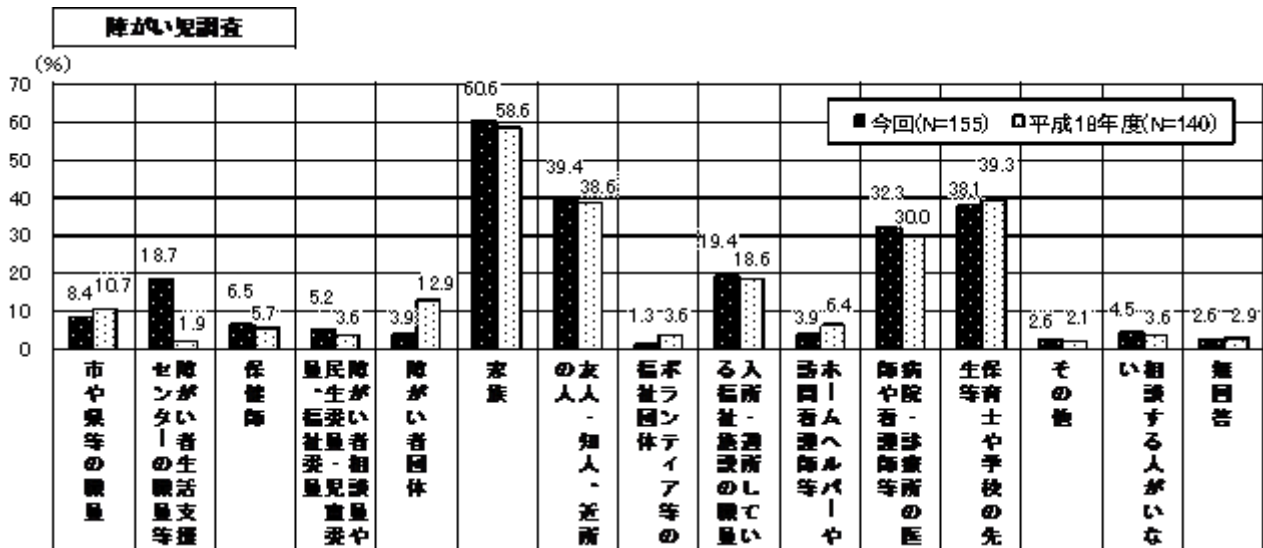


※『障がい児調査』は「障がい者相談員や民生委員・児童委員、福祉委員」の数値結果を、他の障がい者調査の「障がい者相談員や民生委員、福祉委員」と比較している。
 『障がい児調査』では「学校・職場の関係者」を選択肢として設定していない。また、「保健師」「保育士や学校の先生等」は『障がい児調査』のみの選択肢。

困っていることや不安・悩みの相談先は、いずれも「家族」(身体障がい者:54.3%、知的障がい者:47.0%、精神障がい者:49.4%、障がい児:60.6%)が最も多い。また、知的障がい者は「入所・通所している福祉施設の職員」(37.8%)、精神障がい者は「病院・診療所の医師や看護師等」(48.3%)、障がい児は「友人・知人、近所の人」(39.4%)、「保育士や学校の先生等」(38.1%)の割合も高くなっている。

【図表 2-10-6 困っていることや不安・悩みの相談先(全体・時系列)】



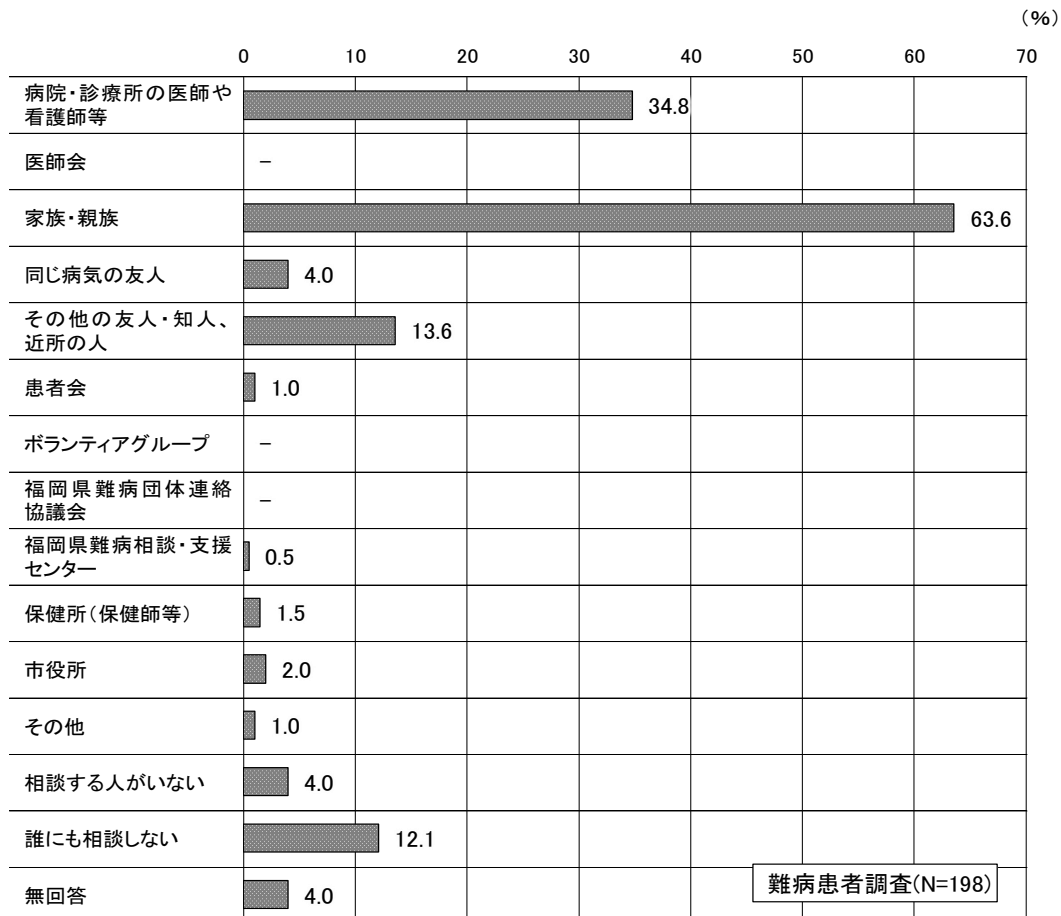


平成 18 年度調査と比較すると、いずれもほぼ同様の傾向となっている。

(4) 日常生活についての不安・悩みの相談先(難病患者)

日常生活についての不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(〇はあてはまるものすべて)[難病患者:問 34]

【図表 2-10-7 日常生活についての不安・悩みの相談先(全体)】

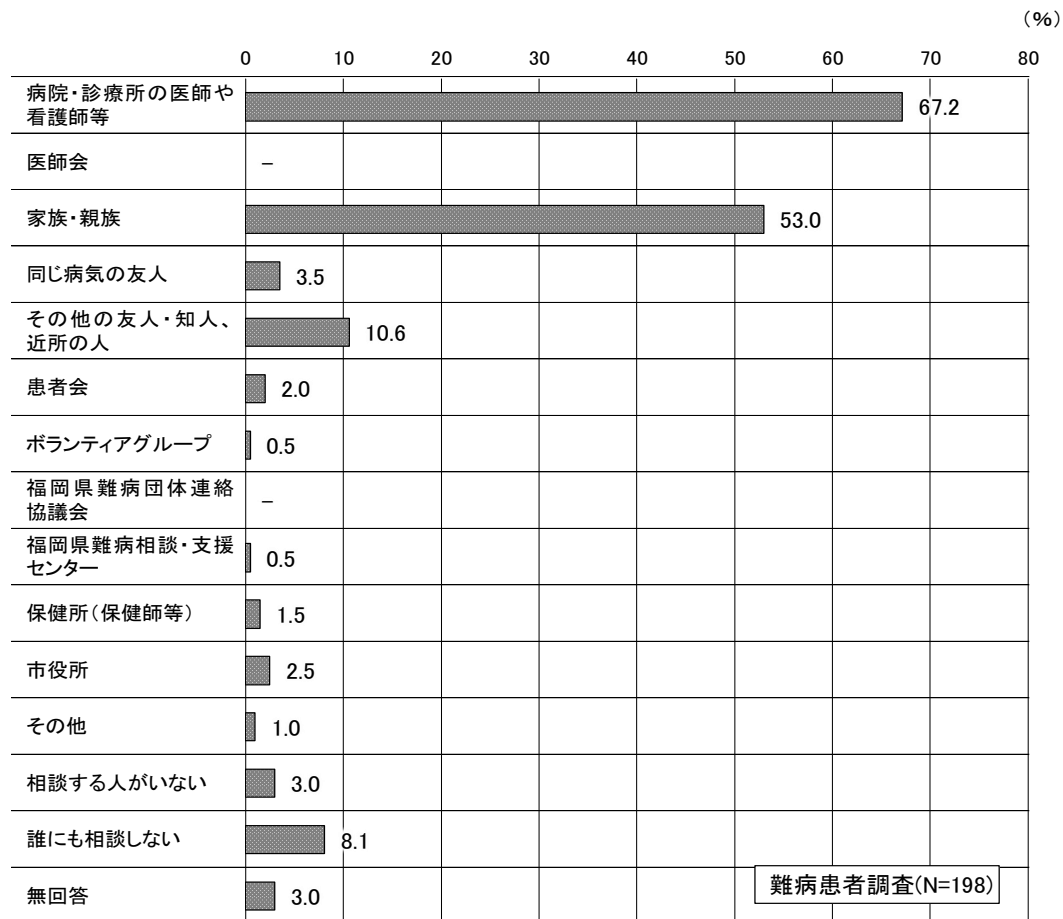


難病患者の日常生活についての不安・悩みの相談先は、「家族・親族」(63.6%)が突出して多くなっている。次いで、「病院・診療所の医師や看護師等」(34.8%)となっている。

(5) 特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みの相談先(難病患者)

特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(〇はあてはまるものすべて)[難病患者:問 35]

【図表 2-10-8 特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みの相談先(全体)】



特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みの相談先は、「病院・診療所の医師や看護師等」(67.2%)、「家族・親族」(53.0%)の2項目が突出して多くなっている。

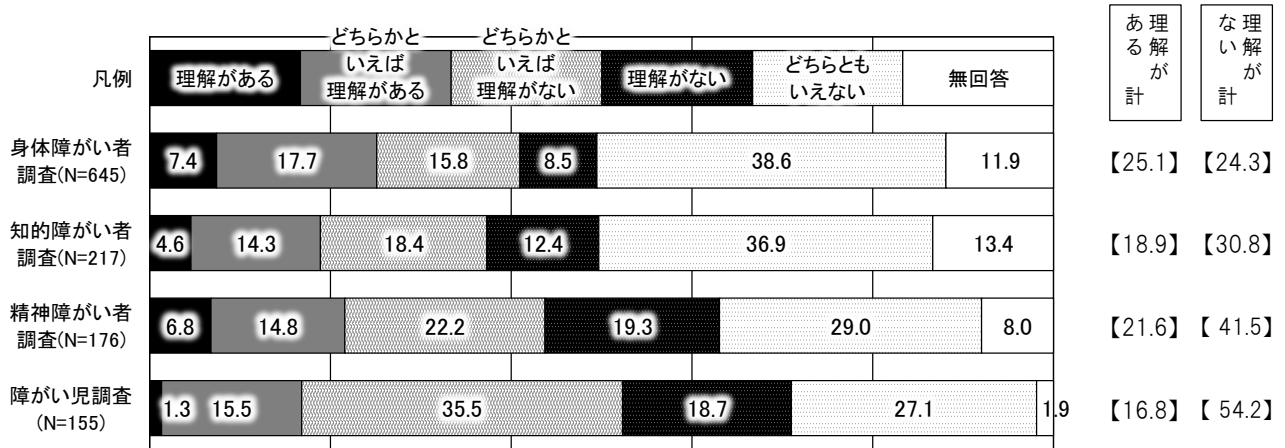
2. 障がい者に対する市民の理解について

(1) 障がい者に対する市民の理解について

障がい者に対する市民の理解について、どのように感じていますか。(○は1つだけ)

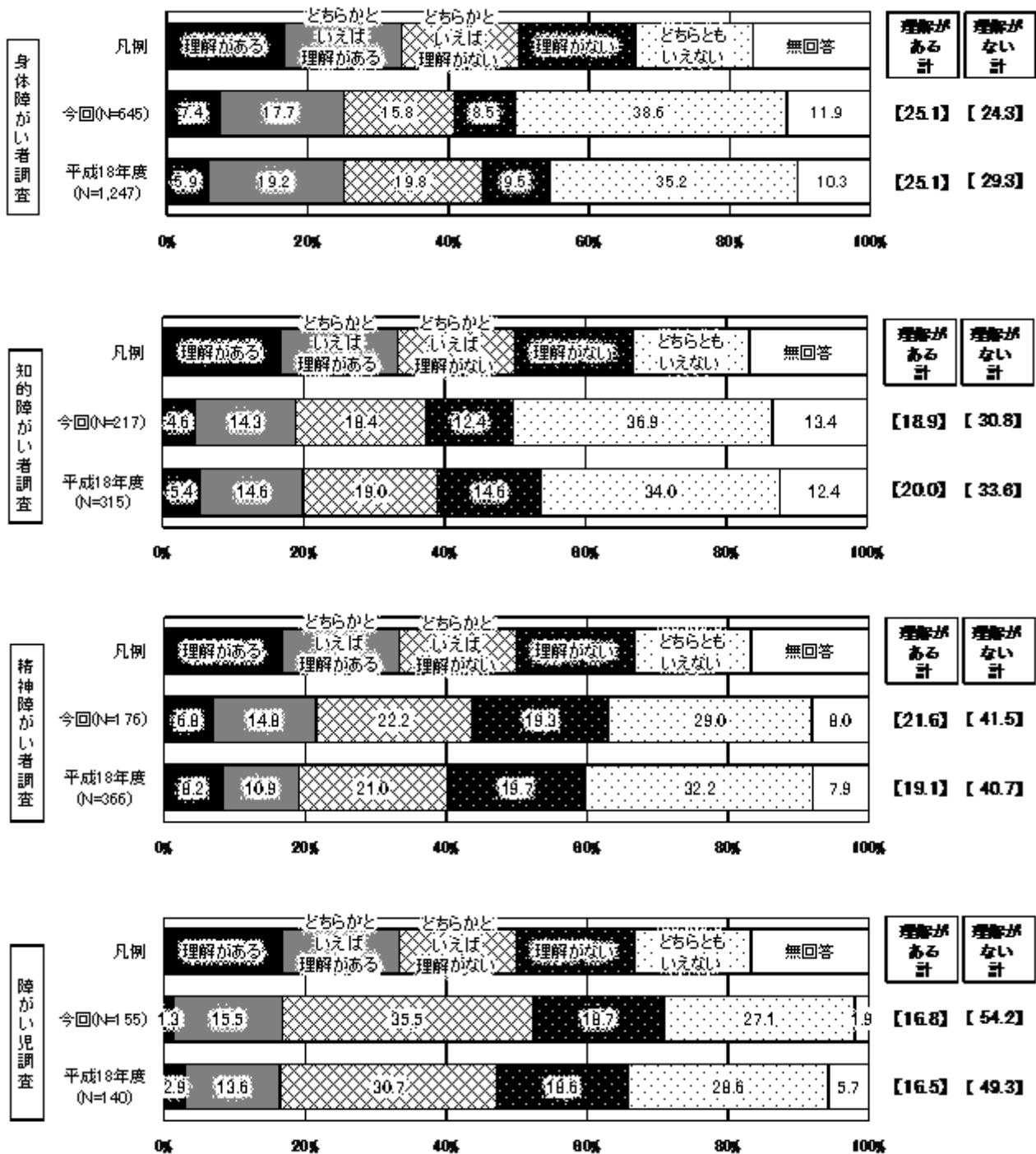
[身体障がい者:問 34、知的障がい者:問 35、精神障がい者:問 37、障がい児:問 34]

【図表 2-10-9 障がい者に対する市民の理解について(全体・調査別)】



障がい者に対する市民の理解については、『理解がある』(「理解がある」+「どちらかといえば理解がある」)が『理解がない』(「理解がない」+「どちらかといえば理解がない」)を上回ったのは身体障がい者のみ(理解がある: 25.1%、理解がない: 24.3%)であった。知的・精神・障がい児は『理解がない』の割合が高くなっている(知的障がい者: 30.8%、精神障がい者: 41.5%、障がい児: 54.2%)。

【図表 2-10-10 障がい者に対する市民の理解について(全体・時系列)】

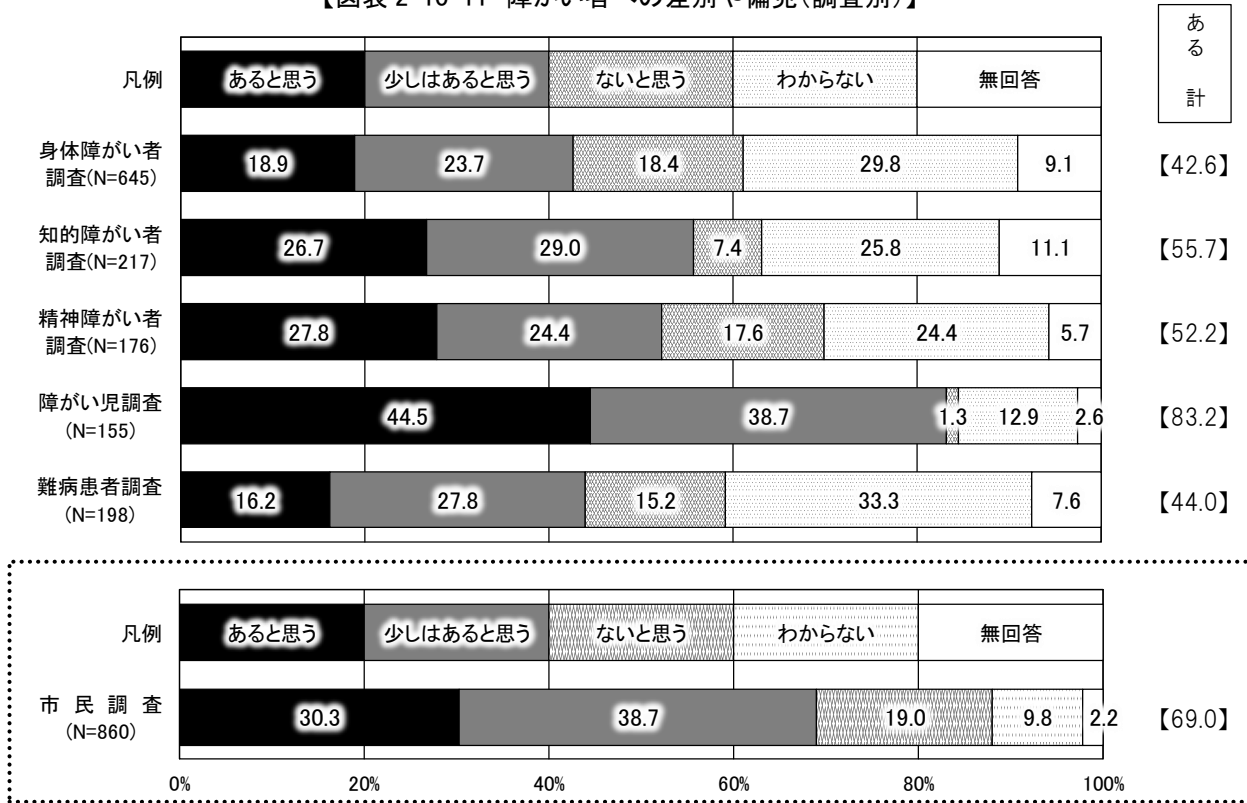


平成18年度結果と比較すると、身体障がい者と知的障がい者では『理解がない』が減少している。一方、精神障がい者と障がい児については『理解がない』の割合が依然として高い。

(2) 障がい者への差別や偏見

あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問 35、知的障がい者:問 36、精神障がい者:問 38、障がい児:問 34、難病患者:問 36、市民:問 10]

【図表 2-10-11 障がい者への差別や偏見(調査別)】

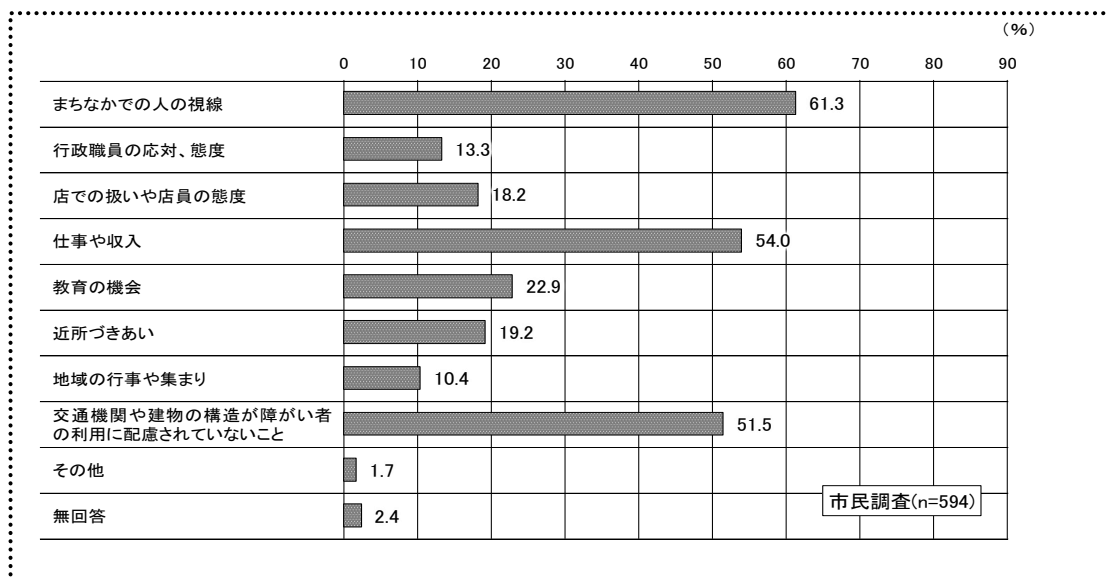
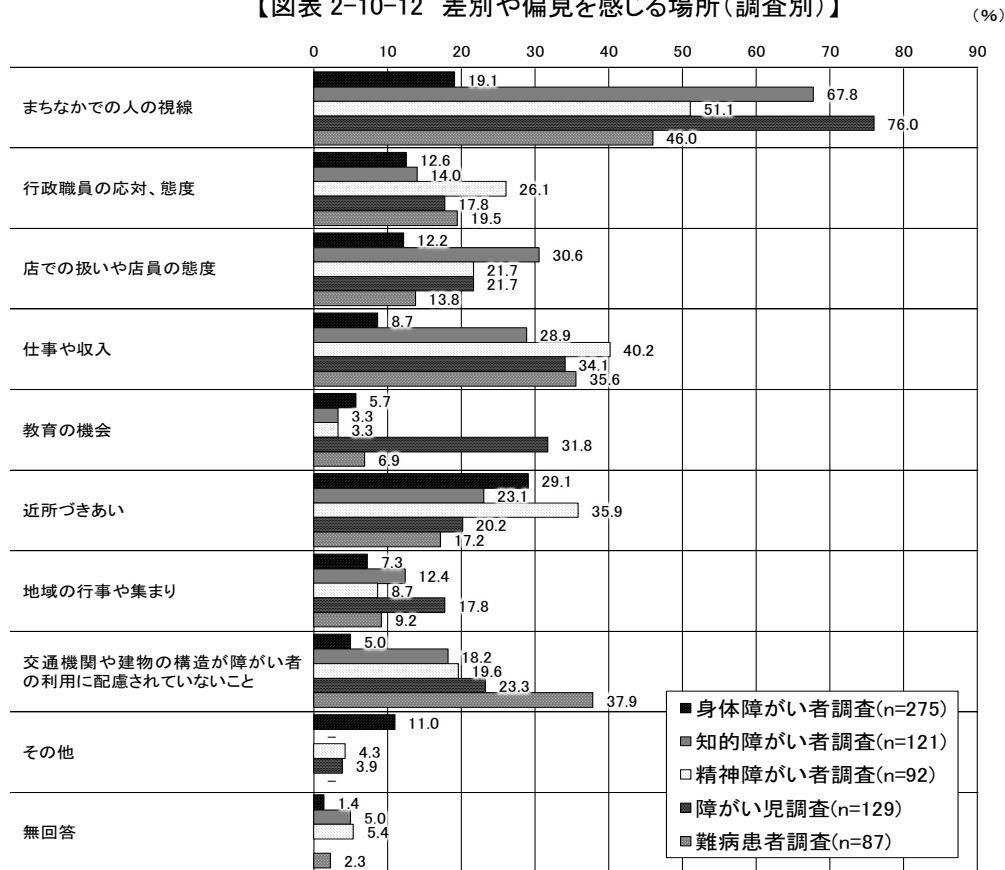


普段の暮らしの中での差別や偏見について、いずれも『ある』(「あると思う」+「少しはあると思う」)が「ないと思う」を上回っている。特に、障がい児で顕著である。一方、市民の回答結果も『ある』(69.0%)が「ないと思う」(19.0%)を大きく上回っている。

(3) 差別や偏見を感じる場所

(問35で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください) 差別や偏見をどのような場所で感じますか。(〇はあてはまるものすべて)[身体障がい者:問 35-1、知的障がい者:問 36-1、精神障がい者:問 38-1、障がい児:問 34-1、難病患者:問 36-1、市民:問 10-1]

【図表 2-10-12 差別や偏見を感じる場所(調査別)】

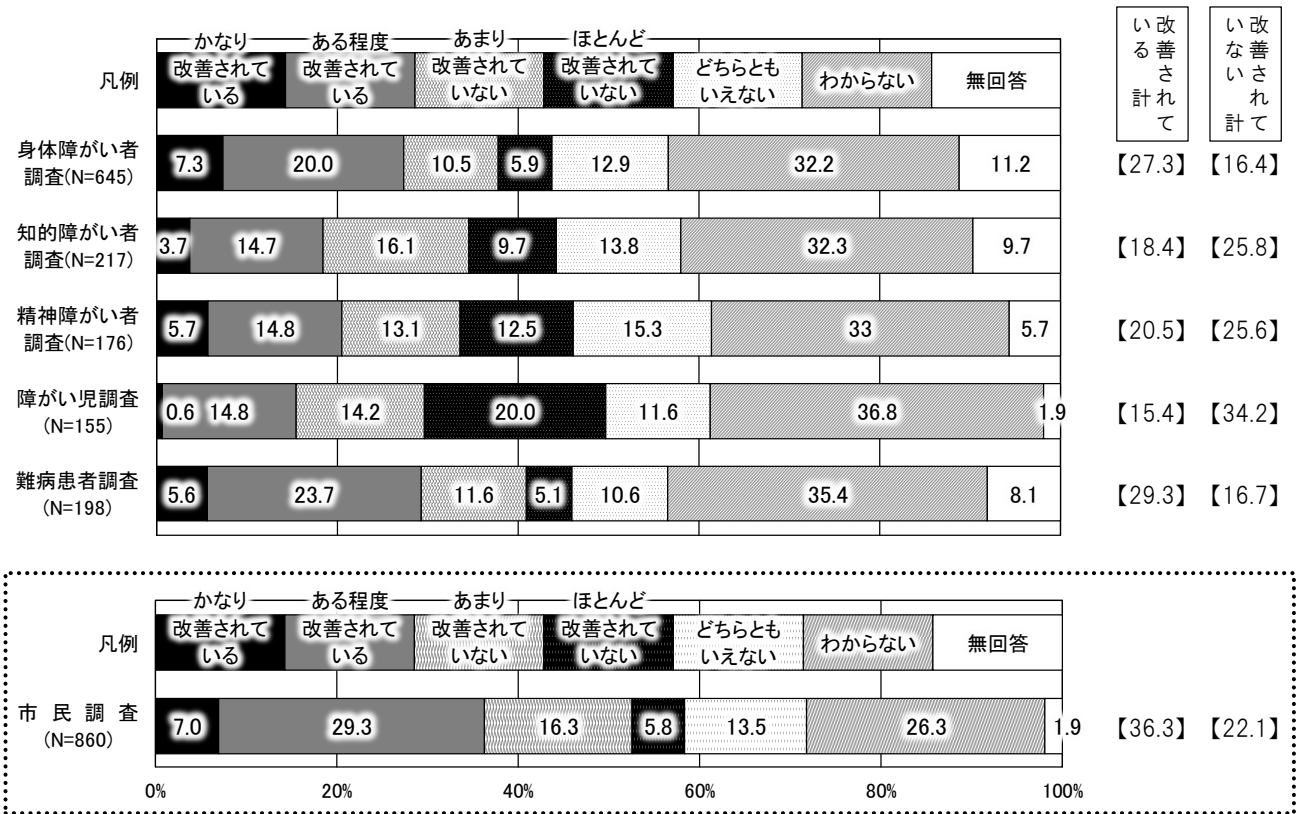


差別や偏見を感じる場所は、身体障がい者は「近所づきあい」(29.1%)、他は「まちなかでの人の視線」(知的障がい者:67.8%、精神障がい者:51.1%、障がい児:76.0%、難病患者:46.0%)が最も多い。市民調査結果では「まちなかでの人の視線」(61.3%)、「仕事や収入」(54.0%)、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」(51.5%)が高く、やや障がい者の意識と異なる結果であった。

(4)5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況

5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問 36、知的障がい者:問 37、精神障がい者:問 39、障がい児:問 35、難病患者:問 37、市民:問 11]

【図表 2-10-13 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況(全体・調査別)】



5年前と比べた障がい者への差別や偏見について、『改善されている』(「かなり改善されている」+「ある程度改善されている」)が多かったのは身体障がい者(27.3%)と難病患者(29.3%)であった。それ以外の知的・精神・障がい児では『改善されていない』(「あまり改善されていない」+「ほとんど改善されていない」)の割合が高い(知的障がい者:25.8%、精神障がい者:25.6%、障がい児:34.2%)。市民調査では、『改善されている』(36.3%)が『改善されていない』(22.1%)を上回る結果となっている。

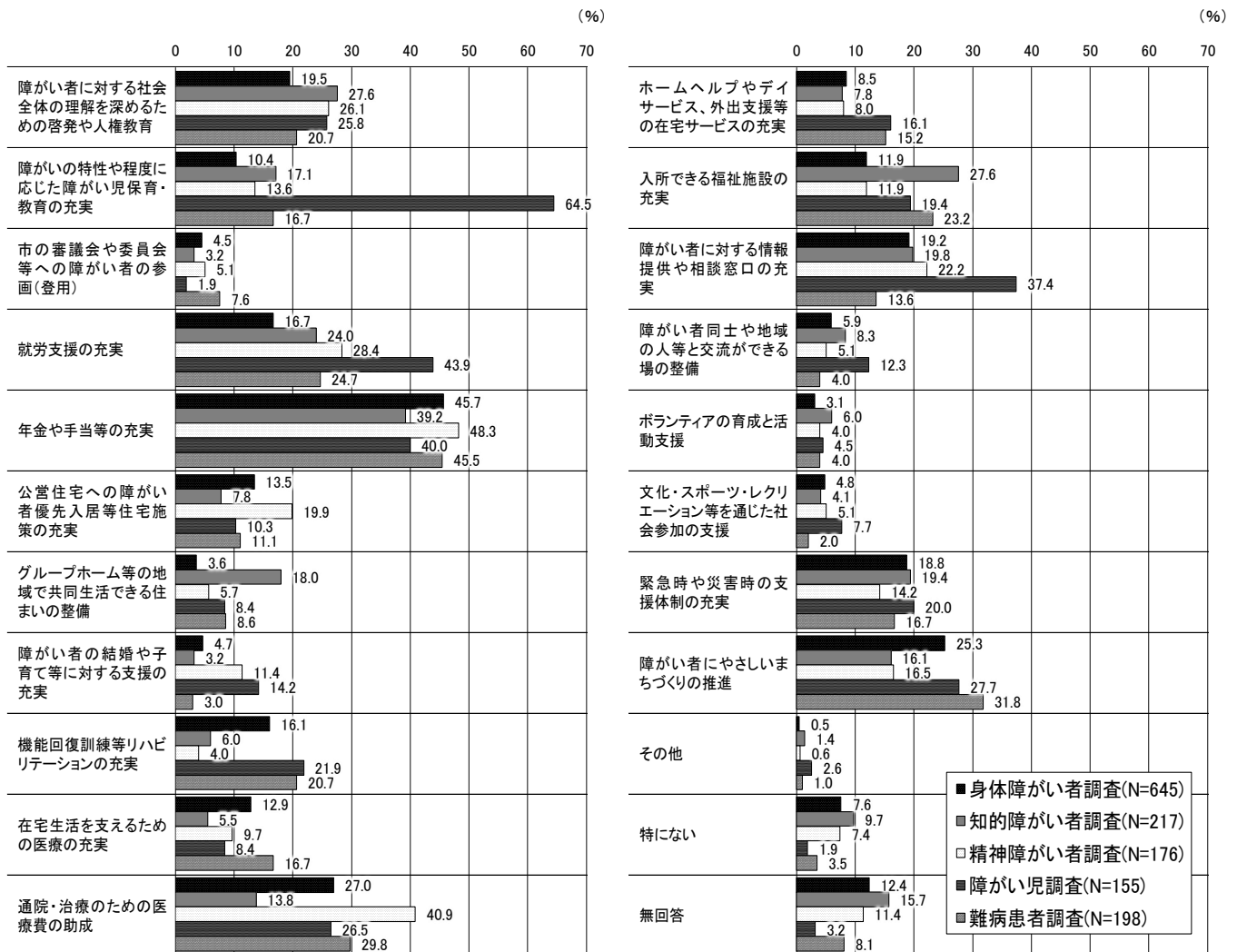
第11節 福祉全般について

1. 障がい者福祉施策について

(1) 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと

障がいがある人に対する支援として、行政(国・県・市)はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(○は5つまで)[身体障がい者:問 37、知的障がい者:問 38、精神障がい者:問 40、障がい児:問 36、難病患者:問 38]

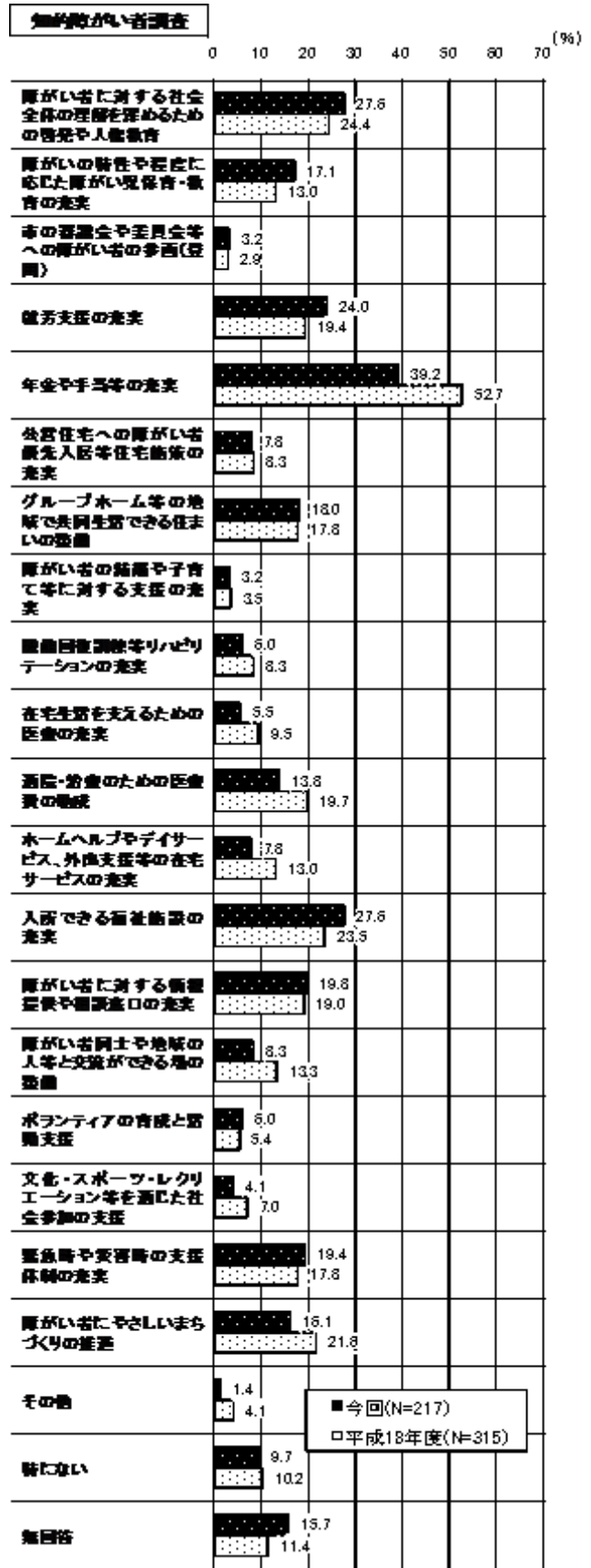
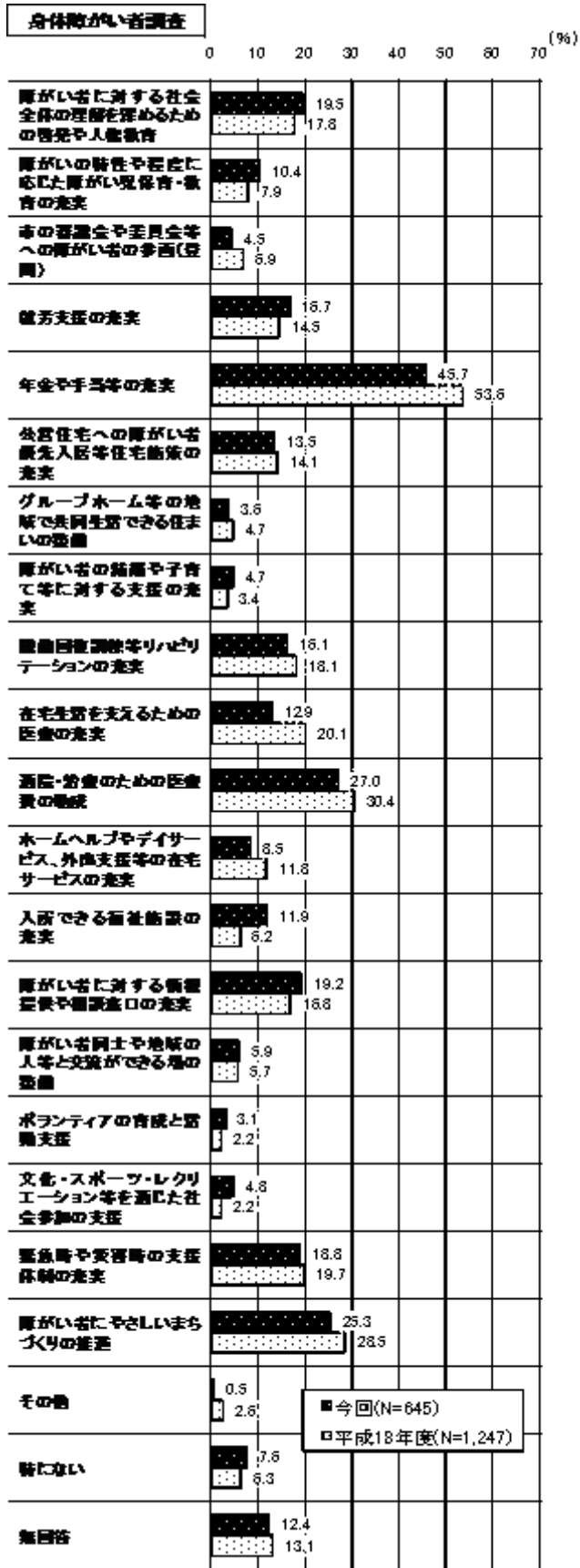
【図表 2-11-1 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと(全体・調査別)】

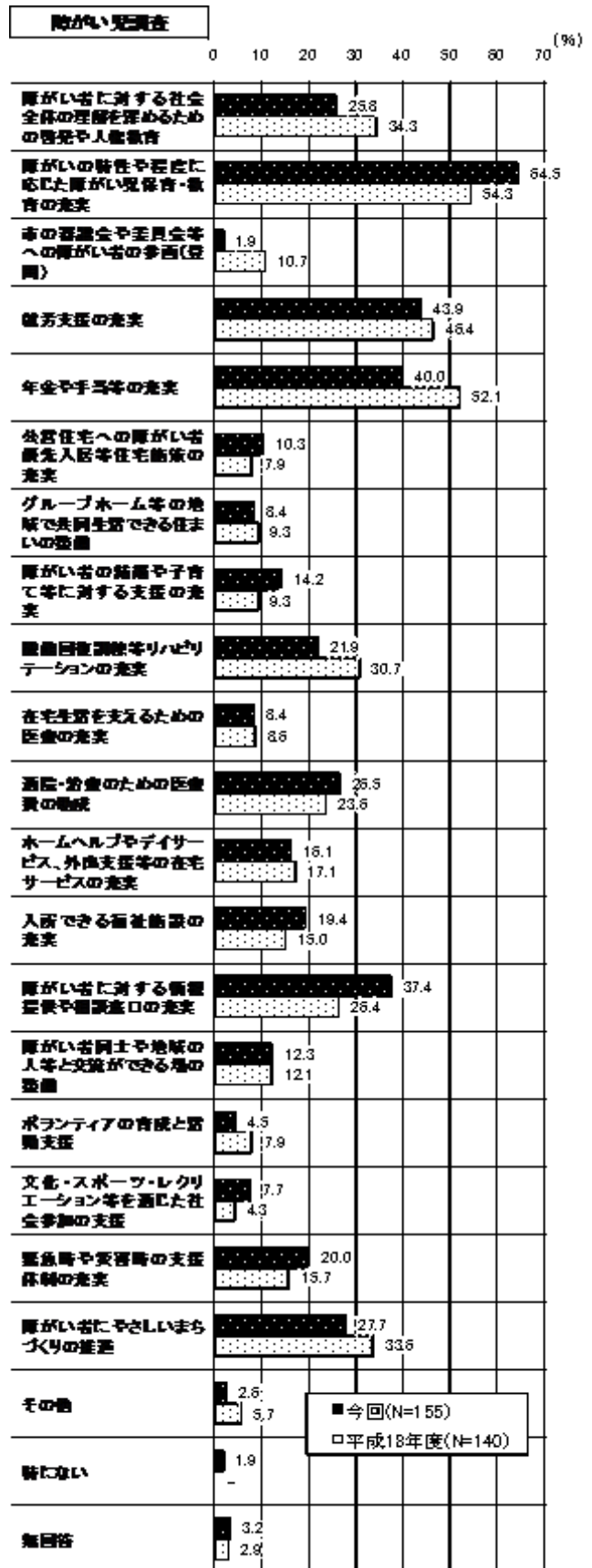
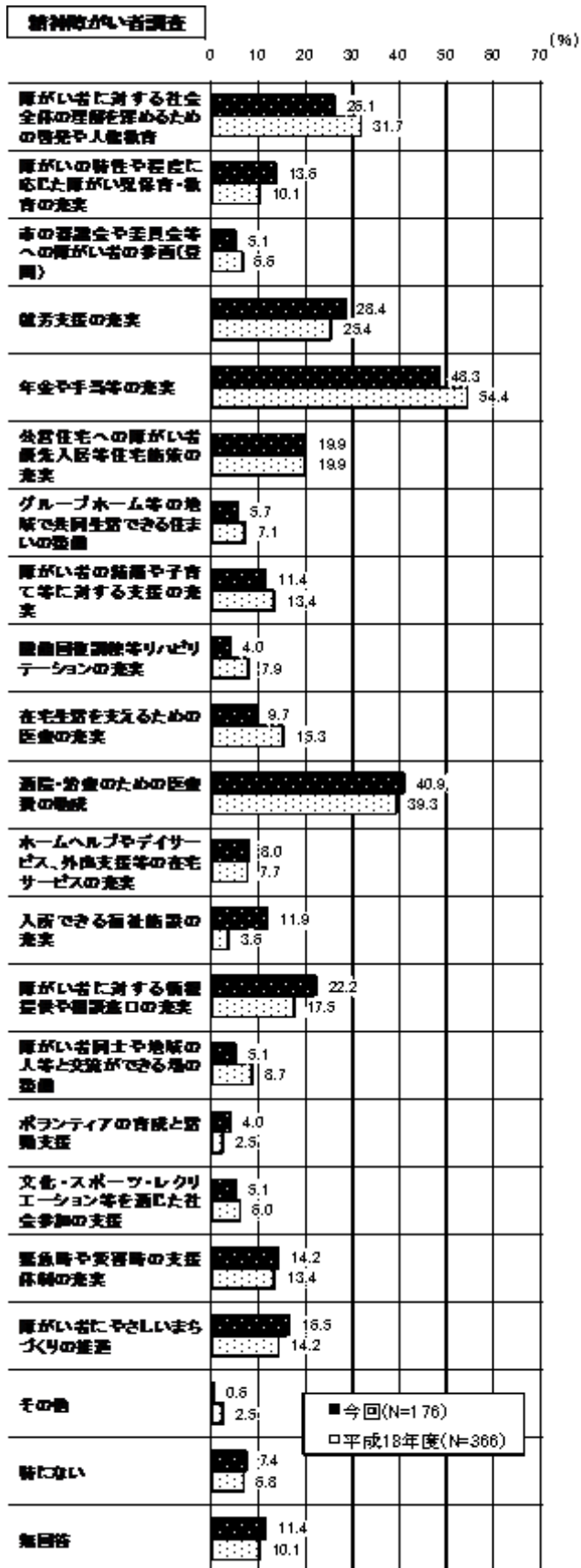


障がい者福祉施策として行政(国・県・市)が充実すべきことは、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、難病患者では「年金や手当等の充実」(身体障がい者:45.7%、知的障がい者:39.2%、精神障がい者:48.3%、難病患者:45.5%)が最も多いが、障がい児では「障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実」(64.5%)が最も多い。

このほか、身体障がい者、精神障がい者では「通院・治療のための医療費の助成」(身体障がい者:27.0%、精神障がい者:40.9%)、障がい児では「障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実」(37.4%)、難病患者では「障がい者にやさしいまちづくりの推進」(31.8%)等が多くなっている。

【図表 2-11-2 障がい者福祉施策として行政が充実すべきこと(全体・時系列)】



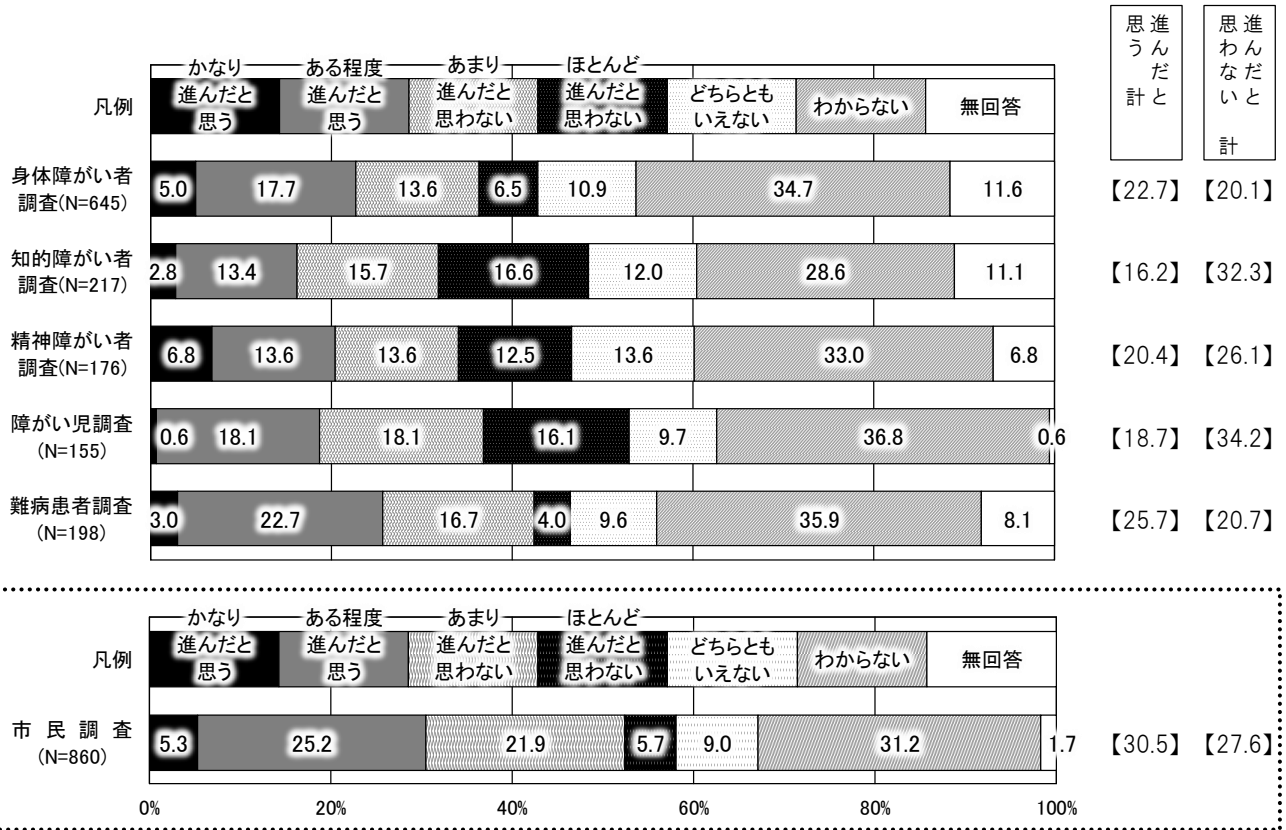


平成18年度調査と比較すると、大きな傾向の変化はないが、いずれも「年金や手当等の充実」の割合が減少している。また、障がい児においては「障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実」、「障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実」の割合がやや増加している。

(2)5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況

5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(○は1つだけ)[身体障がい者:問 38、知的障がい者:問 39、精神障がい者:問 41、障がい児:問 37、難病患者:問 39、市民:問 13]

【図表 2-11-3 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況(全体・調査別)】



5年前と比べた福祉・教育・雇用の・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況について、『進んだと思う』(「かなり進んだと思う」+「ある程度進んだと思う」)は難病患者(25.7%)が最も多く、次いで身体障がい者(22.7%)となっている。難病患者と身体障がい者は『進んだと思う』が『進んだと思わない』(「あまり進んだと思わない」+「ほとんど進んだと思わない」)の割合を上回っており、知的障がい者、精神障がい者、障がい児は『進んだと思わない』が『進んだと思う』を上回る結果となっている。

市民調査では、『進んだと思う』(30.5%)が『進んだと思わない』(27.6%)を上回る結果となっている。

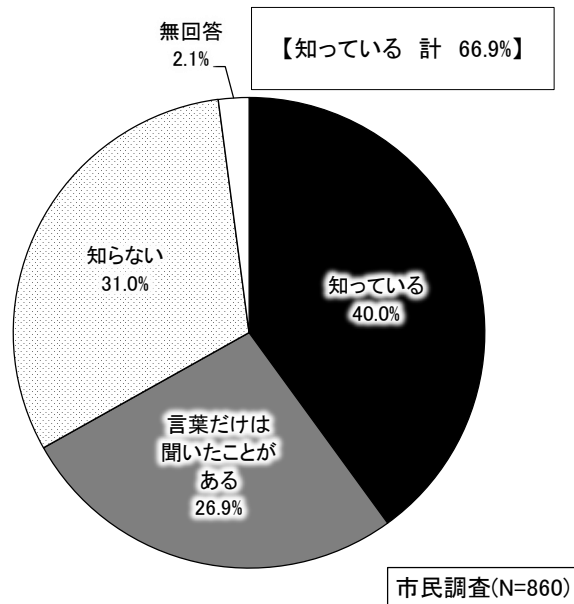
第12節 市民調査

1. 障がい者福祉に関連する言葉について

(1)「共生社会」認知状況

あなたは、障がいのある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。(○は1つだけ)[市民:問1]

【図表 2-12-1 「共生社会」認知状況(全体)】

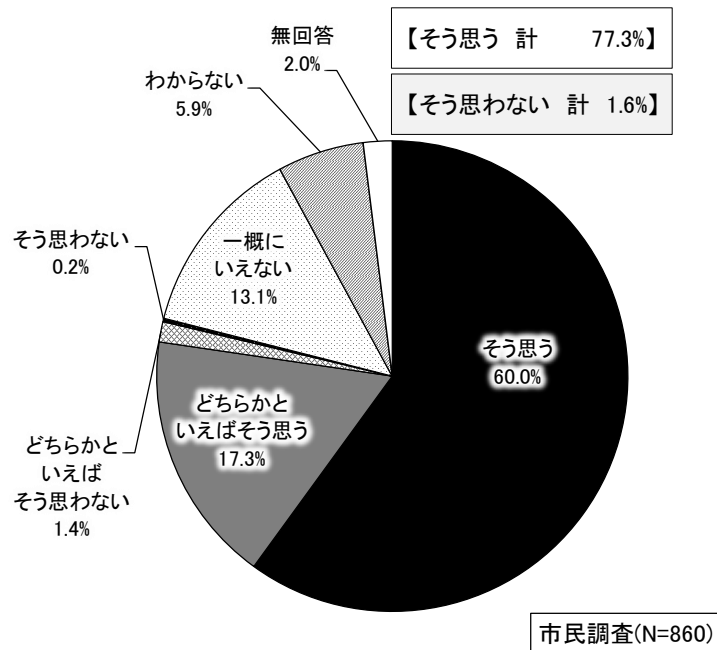


市民に対し「共生社会」について聞いたところ、「知っている」は 40.0%で、「言葉だけは聞いたことがある」も含めると 66.9%であった。

(2)「共生社会」に基づいた考え方について

国や地方公共団体では、「共生社会」の考え方に基づいて、障がいのある人もない人も共に生活できるための環境作りを進めています。あなたは、この「障がいのある人が身近で生活しているのがあたり前だ」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ) [市民:問2]

【図表 2-12-2 「共生社会」に基づいた考え方について(全体)】

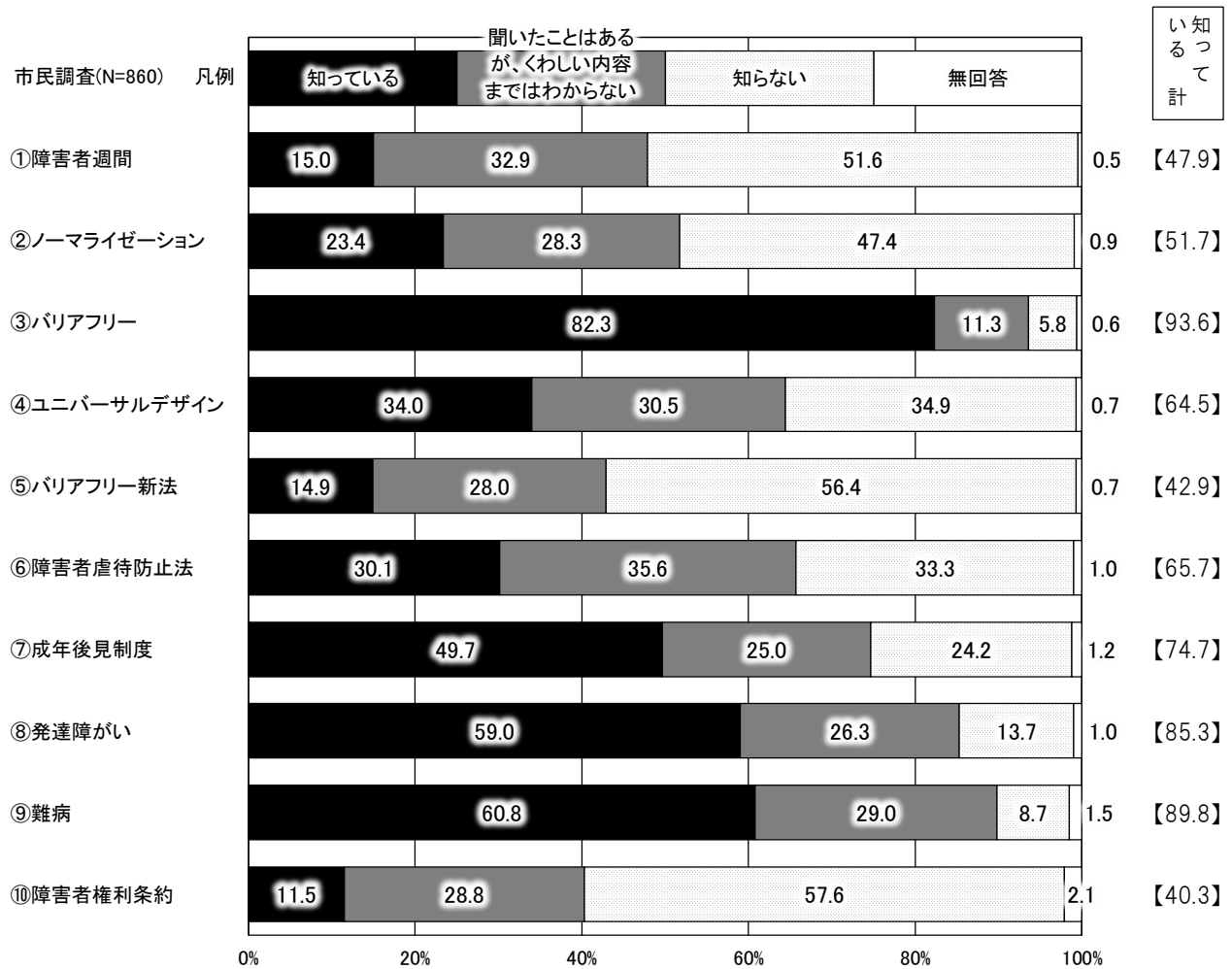


共生社会に基づいた考え方について、「そう思う」と回答した人は 60.0%で、「どちらかといえばそう思う」も含めた『そう思う』は 77.3%にのぼる。

(3)福祉に関する用語の認知状況

あなたは以下の言葉をご存知ですか。①から⑩までのそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。[市民:問3]

【図表 2-12-3 福祉に関する用語の認知状況(全体)】



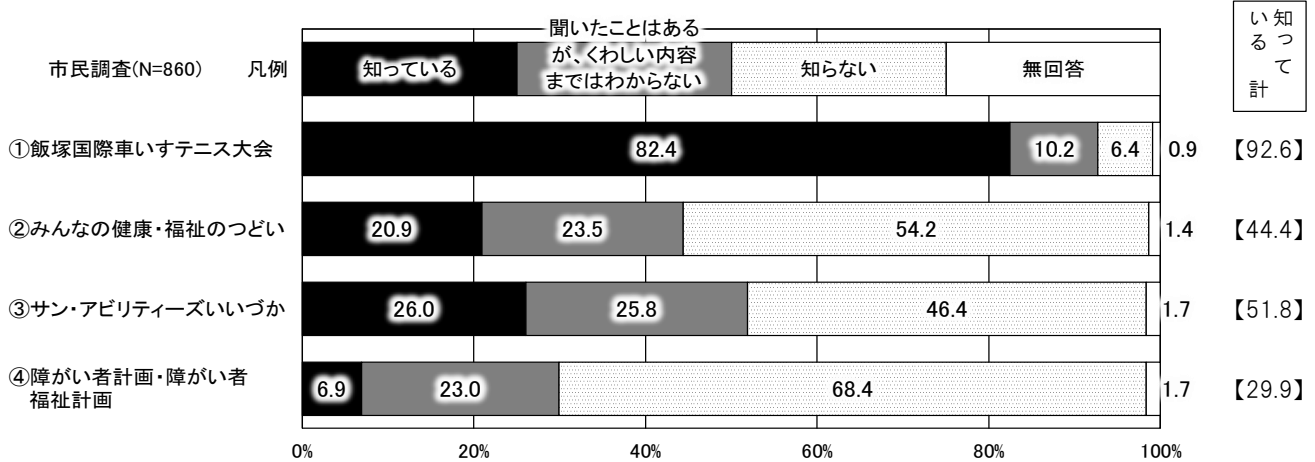
福祉に関する用語の認知状況について、「バリアフリー」(93.6%)、「難病」(89.8%)、「発達障がい」(85.3%)は8割以上を占め認知率は高い。一方、「障害者週間」(47.9%)、「バリアフリー新法」(42.9%)、「障害者権利条約」(40.3%)は5割を下回り、他の項目に比べると認知率は低い。

2. 障がい者施策やイベント等について

(1) 障がい者施策やイベント等の認知状況

あなたは、本市における以下の障がい者施策やイベント等をご存知ですか。①から④までのそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。[市民:問6]

【図表 2-12-4 障がい者施策やイベント等の認知状況(全体)】



【図表 2-12-5 障がい者施策やイベント等の認知状況(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	①飯塚国際車いすテニス大会					②みんなの健康・福祉のつどい					
		知っている	聞いたことはあるが、くわしい内容まではわからない	知らない	無回答	【知っている計】	知っている	聞いたことはあるが、くわしい内容まではわからない	知らない	無回答	【知っている計】	
全体	860	82.4	10.2	6.4	0.9	(92.6)	20.9	23.5	54.2	1.4	(44.4)	
要介護者の有無別	自分自身	27	40.7	40.7	14.8	3.7	(81.4)	14.8	22.2	51.9	11.1	(37.0)
	家族・親族	338	88.2	6.8	4.4	0.6	(95.0)	24.6	28.1	47.0	0.3	(52.7)
	知人・友人	87	90.8	4.6	3.4	1.1	(95.4)	24.1	26.4	48.3	1.1	(50.5)
	いない	438	78.8	12.6	7.3	1.4	(91.4)	17.8	19.6	60.5	2.1	(37.4)
	無回答	4	75.0	-	25.0	-	(75.0)	50.0	-	50.0	-	(50.0)
	サンプル数	③サン・アビリティーズいづか					④障がい者計画・障がい者福祉計画					
		知っている	聞いたことはあるが、くわしい内容まではわからない	知らない	無回答	【知っている計】	知っている	聞いたことはあるが、くわしい内容まではわからない	知らない	無回答	【知っている計】	
全体	860	26.0	25.8	46.4	1.7	(51.8)	6.9	23.0	68.4	1.7	(29.9)	
要介護者の有無別	自分自身	27	14.8	14.8	59.3	11.1	(29.6)	-	18.5	70.4	11.1	(18.5)
	家族・親族	338	28.1	28.4	42.9	0.6	(56.5)	6.8	28.7	63.9	0.6	(35.5)
	知人・友人	87	39.1	17.2	41.4	2.3	(56.3)	11.5	25.3	62.1	1.1	(36.8)
	いない	438	22.8	26.0	48.9	2.3	(48.8)	6.4	20.1	71.0	2.5	(26.5)
	無回答	4	50.0	-	50.0	-	(50.0)	25.0	-	75.0	-	(25.0)

(数値:%)

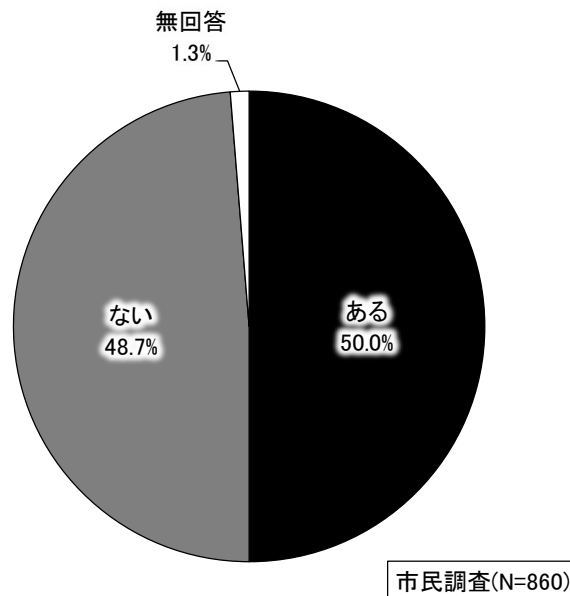
障がい者イベントについて、飯塚国際車いすテニス大会は「知っている」が8割以上を占め認知者は多いが、「障がい者計画・障がい者福祉計画」(6.9%)は1割未満に留まる。

3. ボランティア・福祉について

(1) 障がい者への介助経験

あなたは、地域の中や近所において障がいのある方に対して手助けをしたことがありますか。(○は1つだけ) [市民:問5]

【図表 2-12-6 障がい者への介助経験(全体)】



【図表 2-12-7 障がい者への介助経験(全体・要介護者の有無別)】

		サンプル数	ある	ない	無回答
全 体		860	50.0	48.7	1.3
要 介 護 者 の 有 無 別	自分自身	27	40.7	55.6	3.7
	家族・親族	338	63.9	35.2	0.9
	知人・友人	87	74.7	21.8	3.4
	いない	438	36.5	62.1	1.4
	無回答	4	75.0	25.0	-

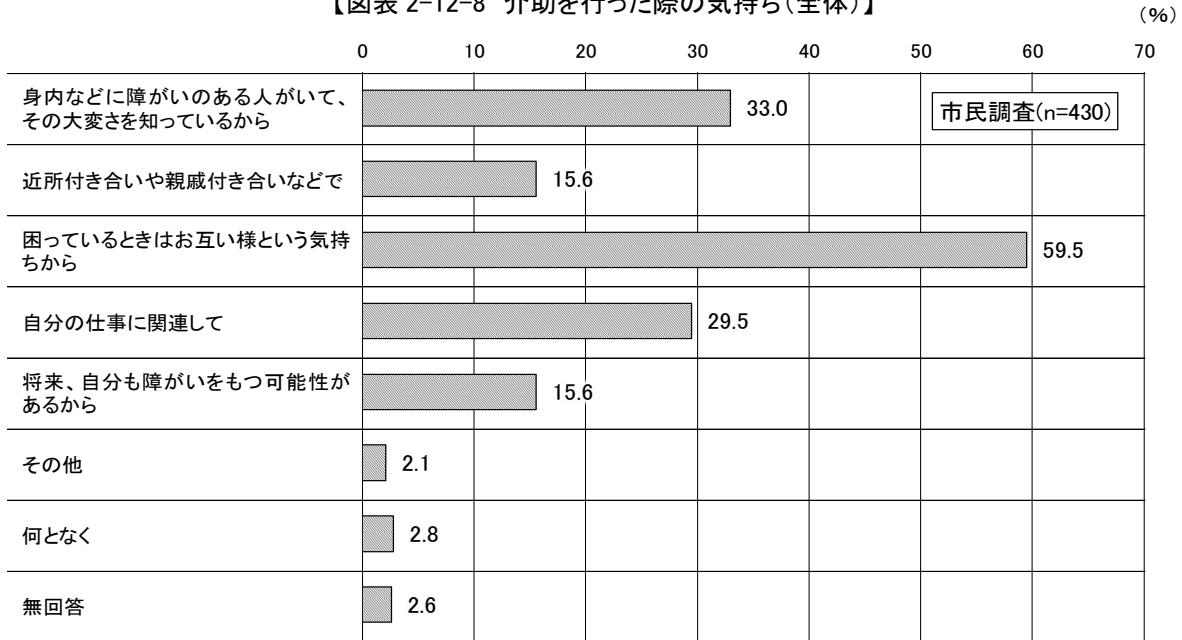
(数値:%)

障がい者への介助経験について、「ある」(50.0%)と「ない」(48.7%)がほぼ同率であった。

(2) 介助を行った際の気持ち

(問5で1を選んだ方のみお答えください) それほどのような気持ちからでしょうか。(〇はあてはまるものすべて) [市民:問5-1]

【図表 2-12-8 介助を行った際の気持ち(全体)】



【図表 2-12-9 介助を行った際の気持ち(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから	近所付き合いや親戚付き合いなどで	困っているときはお互い様という気持ちから	自分の仕事に関連して	将来、自分も障がいをもつ可能性があるから	その他	何となく	無回答
全体	430	33.0	15.6	59.5	29.5	15.6	2.1	2.8	2.6
要介護者の有無別	自分自身	11	18.2	-	72.7	-	27.3	18.2	-
	家族・親族	216	45.4	17.6	59.3	26.4	18.1	2.8	2.8
	知人・友人	65	40.0	18.5	69.2	38.5	13.8	1.5	3.1
	いない	160	20.6	11.3	56.9	33.8	13.1	0.6	3.1
	無回答	3	33.3	-	66.7	33.3	-	-	-

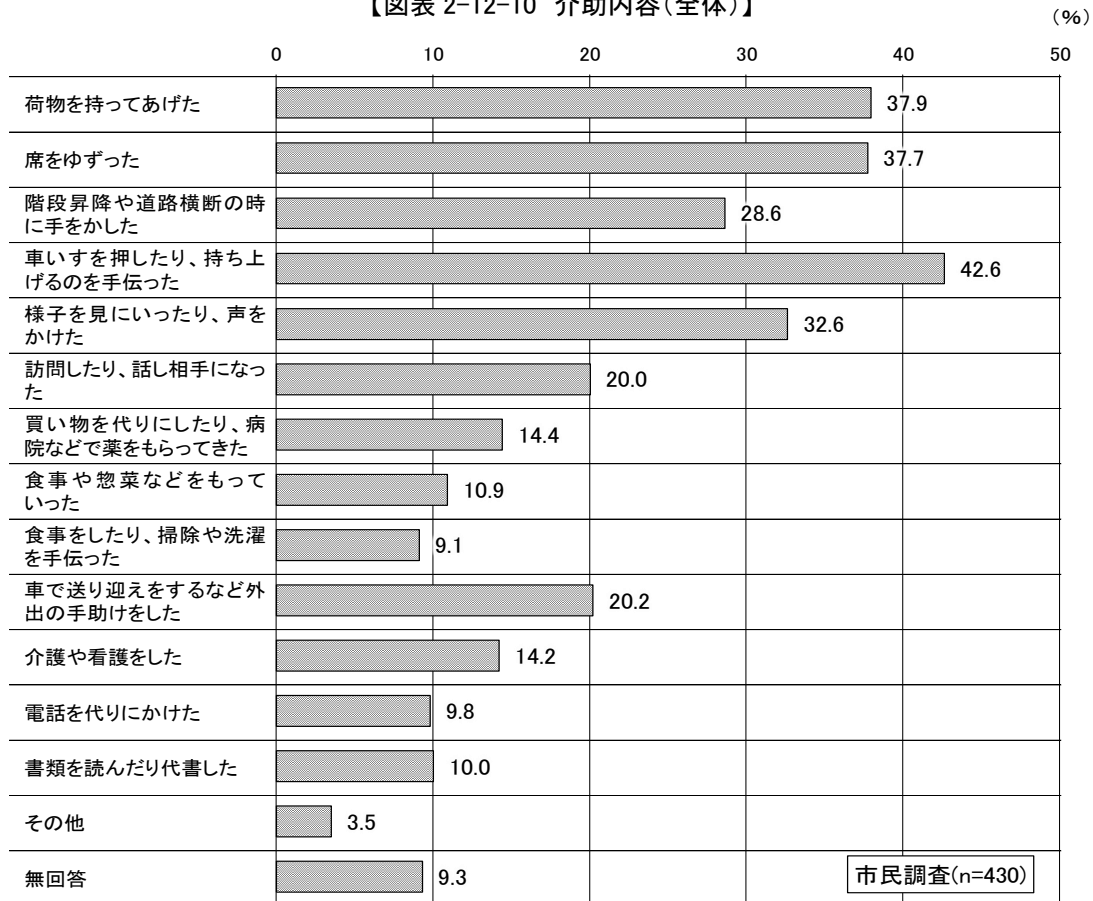
(数値:%)

介助を行った際の気持ちについて、「困っているときはお互い様という気持ちから」(59.5%)が突出して高く、次いで「身内などに障がいのある人がいて、その大変さを知っているから」(33.0%)、「自分の仕事に関連して」(29.5%)となっている。

(3) 介助内容

(問5で1を選んだ方のみお答えください) それほどのような手助けでしたか。(〇はあてはまるものすべて) [市民:問5-2]

【図表 2-12-10 介助内容(全体)】



【図表 2-12-11 介助内容(全体・要介護者の有無別)】

介助内容	サンプル数	荷物を持ってあげた	席をゆずった	階段昇降や道路横断の時に手をかけた	車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った	様子を見にいたり、声をかけた	訪問したり、話し相手になった	買い物を代りにしたり、病院などで薬をもらってきた	食事や惣菜などをもっていった	食事をしたり、掃除や洗濯を手伝った	車で送り迎えをするなど外出の手助けをした	介護や看護をした	電話を代りにかけた	書類を読んだり代書した	その他	無回答	
全体	430	37.9	37.7	28.6	42.6	32.6	20.0	14.4	10.9	9.1	20.2	14.2	9.8	10.0	3.5	9.3	
要介護者の有無別	自分自身	11	36.4	45.5	27.3	18.2	36.4	9.1	-	-	-	-	-	-	9.1	18.2	
	家族・親族	216	41.2	38.0	31.5	44.9	32.4	22.2	14.8	11.6	25.9	16.2	11.1	11.6	2.3	6.9	
	知人・友人	65	35.4	33.8	33.8	56.9	47.7	38.5	16.9	16.9	26.2	23.1	15.4	10.8	1.5	6.2	
	いない	160	36.9	39.4	25.0	39.4	29.4	15.6	10.0	7.5	6.9	13.8	12.5	7.5	8.8	4.4	11.9
	無回答	3	-	66.7	66.7	66.7	66.7	-	33.3	-	-	33.3	-	33.3	33.3	33.3	-

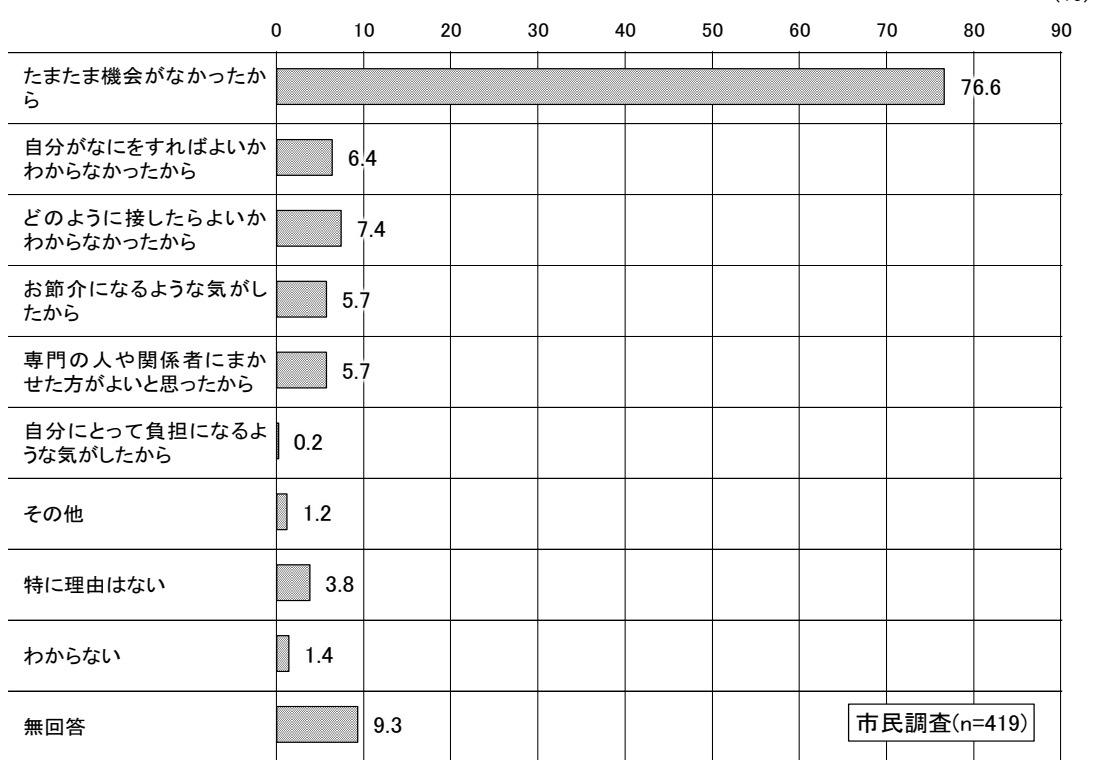
(数値:%)

手助けした内容として、「車いすを押したり、持ち上げるのを手伝った」(42.6%)、「荷物を持ってあげた」(37.9%)、「席をゆずった」(37.7%)、「様子を見にいたり、声をかけた」(32.6%)の順で多くなっている。

(4) 介助しなかった理由

(問5で2を選んだ方のみお答えください) 手助けをしなかったのはどうしてでしょうか。(〇はあてはまるものすべて) [市民:問5-3]

【図表 2-12-12 介助しなかった理由(全体)】



【図表 2-12-13 介助しなかった理由(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	たまたま機会がなかった	自分がなにをすればよいかわからなかった	どのように接したらよいかわからなかった	お節介になるような気がした	専門の人や関係者にまかせた方がよいと思った	自分にとって負担になるような気がした	その他	特に理由はない	わからない	無回答	
全体	419	76.6	6.4	7.4	5.7	5.7	0.2	1.2	3.8	1.4	9.3	
要介護者の有無別	自分自身	15	20.0	26.7	6.7	13.3	-	-	13.3	6.7	6.7	33.3
	家族・親族	119	78.2	6.7	9.2	6.7	9.2	-	0.8	2.5	1.7	4.2
	知人・友人	19	47.4	5.3	5.3	15.8	15.8	-	15.8	10.5	-	10.5
	いない	272	80.1	5.1	6.6	4.0	4.0	0.4	0.4	3.7	1.5	9.9
	無回答	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

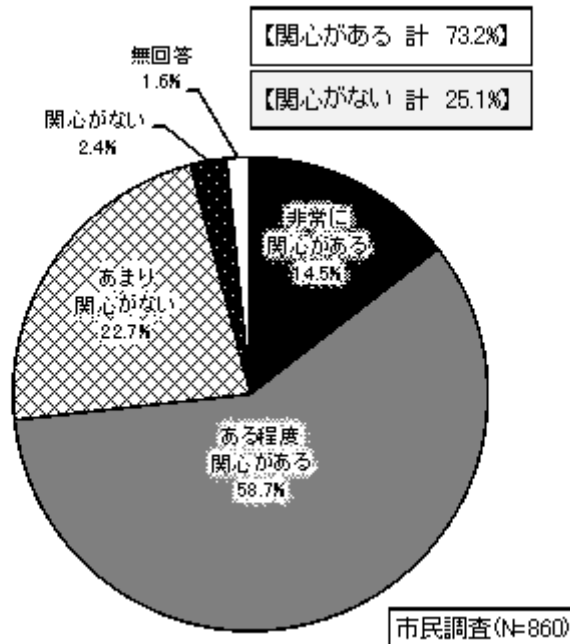
(数値:%)

介助をしなかった理由として、「たまたま機会がなかったから」(76.6%)が約8割と突出している。

(5) 障がい福祉への関心度

あなたは、障がいのある方の福祉に関心をお持ちですか。(○は1つだけ) [市民:問7]

【図表 2-12-14 障がい福祉への関心度(全体)】



【図表 2-12-15 障がい福祉への関心度(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	非常に興味がある	ある程度興味がある	あまり興味がない	関心がない	無回答	【関心がある計】	【関心がない計】	
全体	860	14.5	58.7	22.7	2.4	1.6	(73.2)	(25.1)	
要介護者の有無別	自分自身	27	18.5	48.1	14.8	11.1	7.4	(66.6)	(25.9)
	家族・親族	338	18.9	63.3	15.7	1.2	0.9	(82.2)	(16.9)
	知人・友人	87	20.7	65.5	10.3	2.3	1.1	(86.2)	(12.6)
	いない	438	11.0	54.1	29.7	3.0	2.3	(65.1)	(32.7)
	無回答	4	25.0	50.0	25.0	-	-	(75.0)	(25.0)

(数値:%)

障がいのある方の福祉について、『関心がある』(「非常に興味がある」+「ある程度興味がある」)は 73.2%と、『関心がない』(「あまり興味がない」+「関心がない」) (25.1%)を大きく上回る結果となった。

(6) 障がい福祉に関心を持つ理由

(問7で1または2を選んだ方のみお答えください) どのような理由から関心をお持ちですか。(〇はあてはまるものすべて) [市民:問7-1]

【図表 2-12-16 障がい福祉に関心を持つ理由(全体)】

(%)

	0	10	20	30	40	50
自分自身に障がいがあるため	3.2					
自分の身内や近所、知り合いに障がいのある方がいるから					43.8	
障がいのある方に対してボランティア活動を行っているから	2.4					
自分自身が福祉に関する職業に就いているから		12.1				
テレビや新聞等で障がいのある方に関することを見聞きするから					43.8	
市の広報誌で障がいのある方に関することを目にするから		9.4				
その他	4.6					
特に理由はない		7.8				
無回答	4.3					市民調査(n=630)

【図表 2-12-17 障がい福祉に関心を持つ理由(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	自分自身に障がいがあるため	自分の身内や近所、知り合いに障がいのある方がいるから	障がいのある方に対してボランティア活動を行っているから	自分自身が福祉に関する職業に就いているから	テレビや新聞等で障がいのある方に関することを見聞きするから	市の広報誌で障がいのある方に関することを目にするから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	630	3.2	43.8	2.4	12.1	43.8	9.4	4.6	7.8	4.3	
要介護者の有無別	自分自身	18	38.9	16.7	-	5.6	27.8	-	-	16.7	11.1
	家族・親族	278	2.5	67.3	3.2	11.9	36.3	7.2	2.9	4.7	3.2
	知人・友人	75	2.7	57.3	4.0	20.0	44.0	9.3	8.0	9.3	2.7
	いない	285	2.5	23.2	1.4	12.3	53.7	12.6	6.0	9.1	4.9
	無回答	3	-	33.3	-	33.3	66.7	-	-	-	-

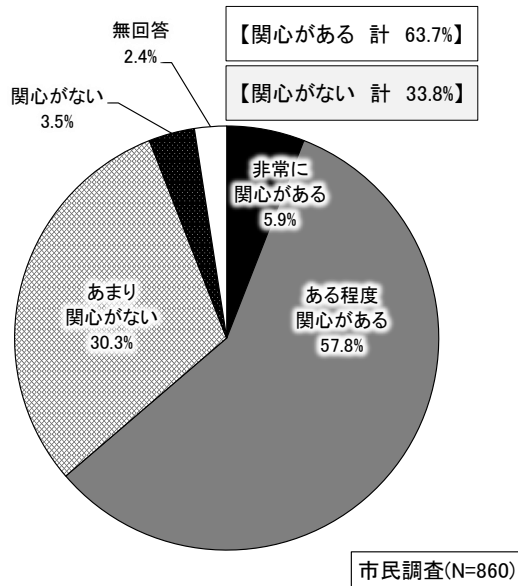
(数値:%)

障がい福祉に関心を持つ理由として、「自分の身内や近所、知り合いに障がいのある方がいるから」、「テレビや新聞等で障がいのある方に関することを見聞きするから」(ともに 43.8%)が最も多い。

(7) ボランティア活動への関心度

あなたは、ボランティア活動に関心がありますか。(○は1つだけ) [市民:問8]

【図表 2-12-18 ボランティア活動への関心度(全体)】



【図表 2-12-19 ボランティア活動への関心度

(全体・性別・年齢別・職業別)】

		サンプル数	非常に関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答	【関心がある計】	【関心がない計】
全体		860	5.9	57.8	30.3	3.5	2.4	(63.7)	(33.8)
性別	男性	316	5.1	52.8	33.9	6.3	1.9	(57.9)	(40.2)
	女性	516	6.0	61.8	28.1	1.7	2.3	(67.8)	(29.8)
	無回答	28	14.3	39.3	32.1	3.6	10.7	(53.6)	(35.7)
年齢別	20～29歳	125	8.0	52.0	35.2	4.0	0.8	(60.0)	(39.2)
	30～39歳	148	4.7	59.5	32.4	3.4	-	(64.2)	(35.8)
	40～49歳	128	4.7	51.6	39.1	2.3	2.3	(56.3)	(41.4)
	50～59歳	173	4.0	64.7	25.4	3.5	2.3	(68.7)	(28.9)
	60～64歳	74	6.8	54.1	36.5	2.7	-	(60.9)	(39.2)
	65歳以上	178	6.7	61.8	21.3	4.5	5.6	(68.5)	(25.8)
	無回答	34	11.8	47.1	29.4	2.9	8.8	(58.9)	(32.3)
職業別	農林水産業、自営業・自由業	88	4.5	60.2	30.7	3.4	1.1	(64.7)	(34.1)
	企業、役所、団体などの正規職員	229	4.8	55.9	33.2	3.9	2.2	(60.7)	(37.1)
	パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	161	5.0	64.0	28.6	1.9	0.6	(69.0)	(30.5)
	専業主婦・主夫	119	4.2	64.7	28.6	0.8	1.7	(68.9)	(29.4)
	学生	36	13.9	61.1	22.2	2.8	-	(75.0)	(25.0)
	無職、その他	158	8.2	52.5	29.7	5.7	3.8	(60.7)	(35.4)
	無回答	69	7.2	44.9	33.3	5.8	8.7	(52.1)	(39.1)

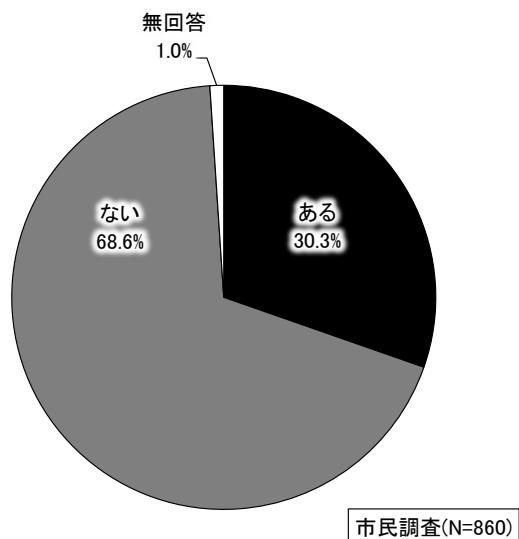
(数値:%)

ボランティア活動について、『関心がある』(「非常に関心がある」+「ある程度関心がある」)が 63.7%と、『関心がない』(「あまり関心がない」+「関心がない」) (33.8%)を大きく上回っている。

(8) ボランティアの活動経験

あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(○は1つだけ) [市民:問9]

【図表 2-12-20 ボランティアの活動経験(全体)】



【図表 2-12-21 ボランティアの活動経験
(全体・性別・年齢別・職業別)】

	サンプル数	ある	ない	無回答	
全体	860	30.3	68.6	1.0	
性別	男性	316	26.3	73.7	-
	女性	516	32.8	66.1	1.2
	無回答	28	32.1	57.1	10.7
年齢別	20～29歳	125	49.6	49.6	0.8
	30～39歳	148	32.4	67.6	-
	40～49歳	128	28.9	70.3	0.8
	50～59歳	173	27.2	72.8	-
	60～64歳	74	27.0	73.0	-
	65歳以上	178	21.3	76.4	2.2
	無回答	34	26.5	64.7	8.8
職業別	農林水産業、自営業・自由業	88	26.1	73.9	-
	企業、役所、団体などの正規職員	229	34.1	65.9	-
	パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など	161	35.4	64.0	0.6
	専業主婦・主夫	119	29.4	69.7	0.8
	学生	36	50.0	47.2	2.8
	無職、その他	158	21.5	77.8	0.6
	無回答	69	23.2	69.6	7.2

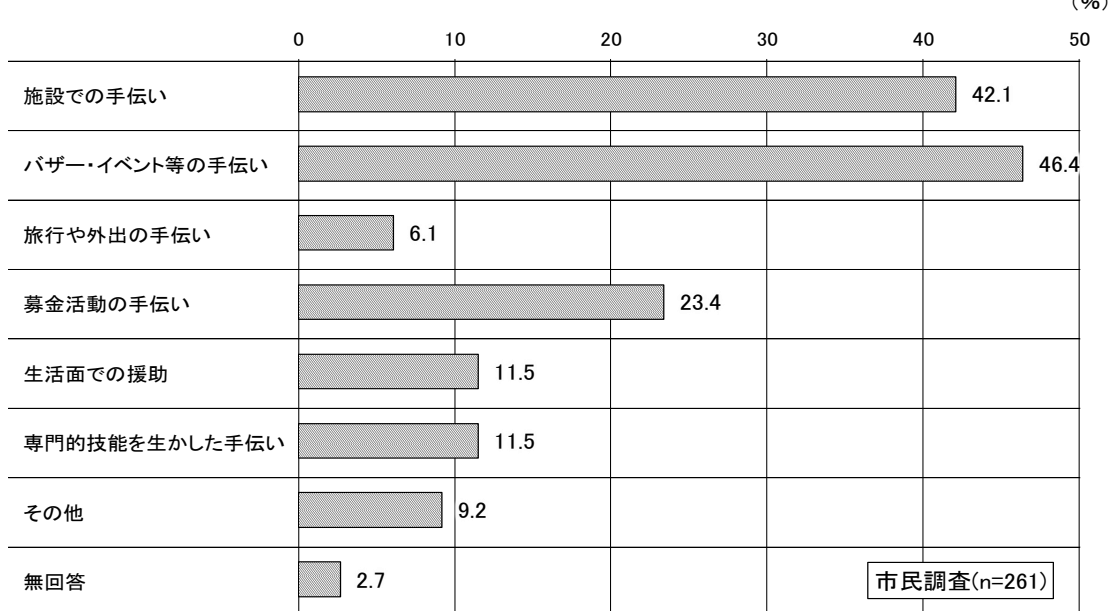
(数値:%)

ボランティア活動経験は、「ない」が 68.6%を占め、「ある」(30.3%)は全体の約 3 割に留まる。

(9) ボランティア活動内容

(問9で1を選んだ方のみお答えください) それほどのような活動ですか。(○はあてはまるものすべて)
[市民:問9-1]

【図表 2-12-22 ボランティア活動内容(全体)】

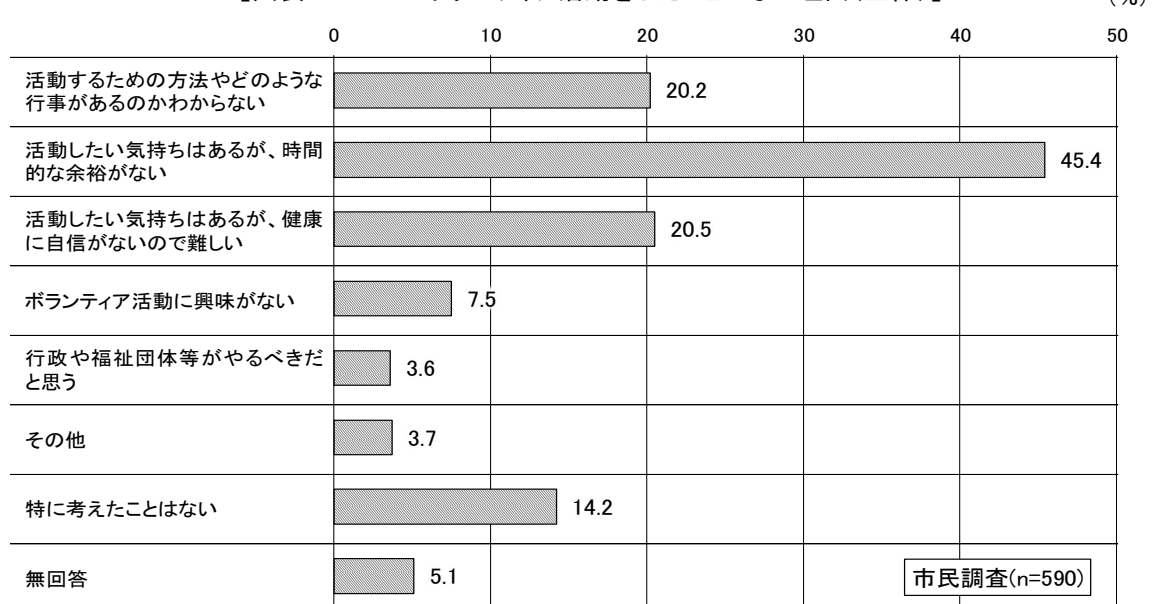


ボランティア活動内容は、「バザー・イベント等の手伝い」(46.4%)、「施設での手伝い」(42.1%)、「募金活動の手伝い」(23.4%)の順が多い。

(10) ボランティア活動をしたことがない理由

(問9で2を選んだ方のみお答えください) ボランティア活動についてどのようにお考えですか。(○はあてはまるものすべて) [市民:問9-2]

【図表 2-12-23 ボランティア活動をしたことがない理由(全体)】



「活動したい気持ちはあるが、時間的な余裕がない」(45.4%)が全体の約5割を占め突出している。

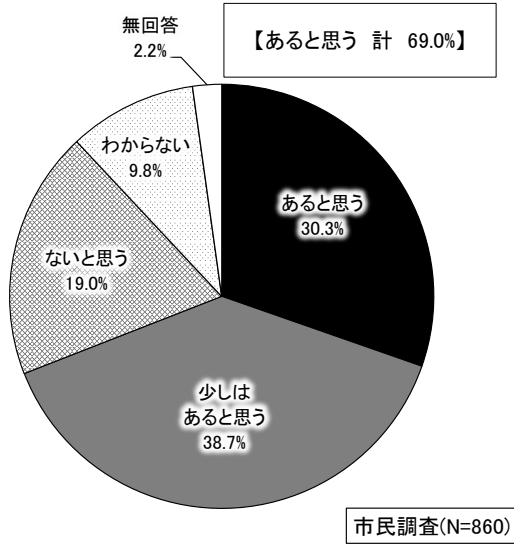
4. 障がい者への差別や偏見について

(1) 障がい者への差別や偏見

あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(○は1つだけ)

[市民:問 10]

【図表 2-12-24 障がい者への差別や偏見(全体)】



【図表 2-12-25 障がい者への差別や偏見

(全体・性別・年齢別・職業別)】

		サンプル数	あると思う	少しはあると思う	ないと思う	わからない	無回答	【あると思う計】
全 体		860	30.3	38.7	19.0	9.8	2.2	(69.0)
要 介 護 者 の 有 無 別	自分自身	27	7.4	40.7	22.2	25.9	3.7	(48.1)
	家族・親族	338	39.9	34.6	15.1	7.7	2.7	(74.5)
	知人・友人	87	35.6	34.5	21.8	3.4	4.6	(70.1)
	いない	438	24.0	42.5	20.5	11.2	1.8	(66.5)
	無回答	4	75.0	-	25.0	-	-	(75.0)

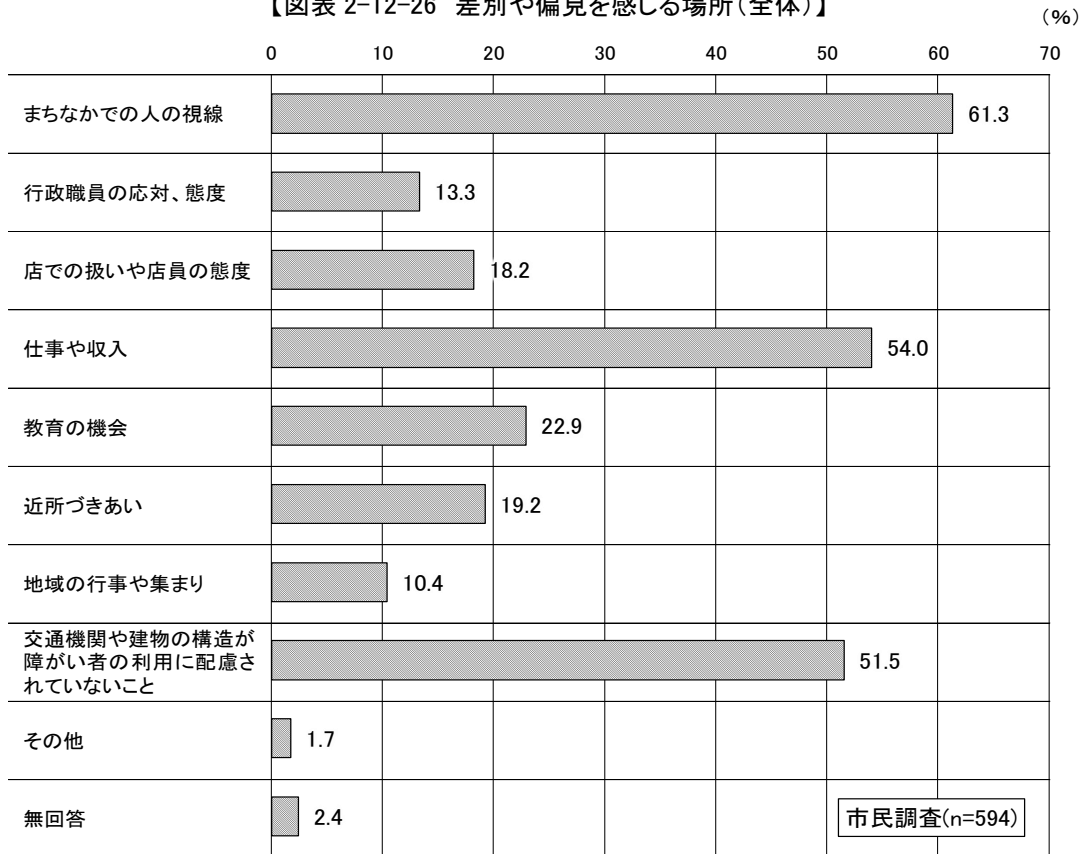
(数値:%)

障がい者への差別や偏見について、『あると思う』(「あると思う」+「少しはあると思う」)と回答した人は 69.0%であった。

(2) 差別や偏見を感じる場所

(問 10 で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください) 差別や偏見をどのような場所で感じますか。(○はあてはまるものすべて[市民:問 10-1])

【図表 2-12-26 差別や偏見を感じる場所(全体)】



【図表 2-12-27 差別や偏見を感じる場所(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	まちなかでの人の視線	行政職員の対応、態度	店での扱いや店員の態度	仕事や収入	教育の機会	近所づきあい	地域の行事や集まり	交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと	その他	無回答	
全体	594	61.3	13.3	18.2	54.0	22.9	19.2	10.4	51.5	1.7	2.4	
要介護者の有無別	自分自身	13	38.5	15.4	15.4	30.8	-	23.1	23.1	46.2	-	7.7
	家族・親族	252	58.7	15.9	21.0	57.1	27.4	19.4	11.9	56.7	1.2	2.8
	知人・友人	61	63.9	21.3	23.0	54.1	23.0	24.6	13.1	68.9	3.3	3.3
	いない	291	64.3	10.3	15.8	52.9	20.3	18.2	8.2	45.4	1.7	1.4
	無回答	3	100.0	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	66.7	-	-

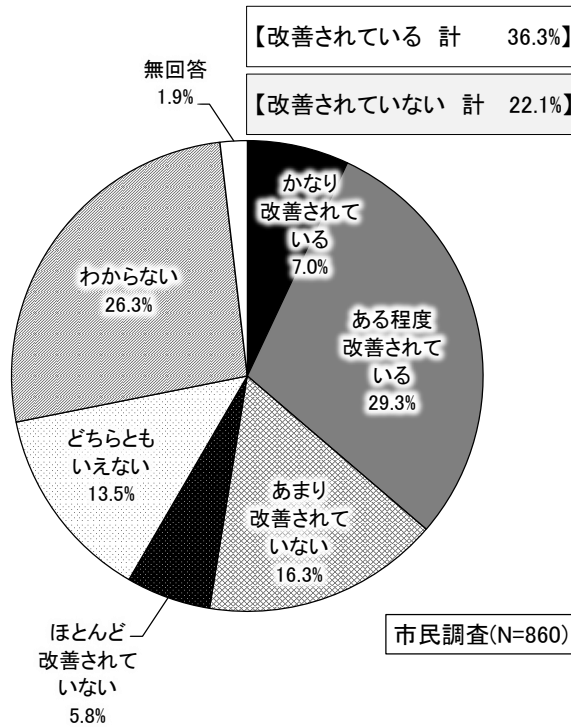
(数値: %)

差別や偏見を感じる場所として、「まちなかでの人の視線」(61.3%)、「仕事や収入」(54.0%)、「交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと」(51.5%)の順で多く、すべて半数以上を占めている。

(3)5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況

5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(○は1つだけ)[市民:問 11]

【図表 2-12-28 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況】



【図表 2-12-29 5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	かなり改善されている	ある程度改善されている	あまり改善されていない	ほとんど改善されていない	どちらともいえない	わからない	無回答	【改善されている計】		【改善されていない計】		
									(数値:%)	(数値:%)	(数値:%)	(数値:%)	
全体	860	7.0	29.3	16.3	5.8	13.5	26.3	1.9	(36.3)	(22.1)			
要介護者の有無別	自分自身	27	7.4	37.0	11.1	-	-	37.0	7.4	(44.4)	(11.1)		
	家族・親族	338	8.9	29.3	19.5	5.0	14.8	21.0	1.5	(38.2)	(24.5)		
	知人・友人	87	10.3	34.5	18.4	6.9	12.6	16.1	1.1	(44.8)	(25.3)		
	いない	438	5.0	28.3	13.5	6.6	13.9	30.4	2.3	(33.3)	(20.1)		
	無回答	4	-	-	50.0	-	-	50.0	-	(-)	(50.0)		

(数値:%)

5年前と比べた障がい者への差別や偏見の改善状況について、『改善されている』(「かなり改善されている」+「ある程度改善されている」)が36.3%で、『改善されていない』(「あまり改善されていない」+「ほとんど改善されていない」)(22.1%)を上回っている。

(4) 障がい者への理解を促進するために必要な取り組み

障がいのある方に対する理解を促進するためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

[市民:問 12]

【図表 2-12-30 障がい者への理解を促進するために必要な取り組み(全体)】

(%)

	0	10	20	30	40	50
子どもに対する福祉教育に力を入れる	[Bar chart showing 46.0%]					46.0
障がいのある児童生徒との相互理解を深める交流教育を促進する	[Bar chart showing 40.5%]					40.5
市民対象の福祉講座や講演会を開催する	[Bar chart showing 9.1%]					9.1
障がいのある方とない方とのふれあいの機会をふやす	[Bar chart showing 37.7%]					37.7
障がい者団体の活動をPRする	[Bar chart showing 13.5%]					13.5
障がいのある方に対するボランティア活動を育成・支援する	[Bar chart showing 19.2%]					19.2
地域で障がいのある方とない方との交流を深めるイベントを実施する	[Bar chart showing 22.2%]					22.2
市の広報紙で障がいのある方への理解を深めるための広報を推進する	[Bar chart showing 10.9%]					10.9
マスメディアに障がいのある方への理解を深めるための報道を依頼する	[Bar chart showing 14.4%]					14.4
市の職員に対する研修の実施	[Bar chart showing 13.0%]					13.0
その他	[Bar chart showing 2.3%]					2.3
特にない	[Bar chart showing 3.3%]					3.3
無回答	[Bar chart showing 5.9%]					5.9

市民調査(N=860)

【図表 2-12-31 障がい者への理解を促進するために必要な取り組み(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	子どもに対する福祉教育に力を入れる	障がいのある児童生徒との相互理解を深める交流教育を促進する	市民対象の福祉講座や講演会を開催する	障がいのある方とない方とのふれあいの機会をふやす	障がい者団体の活動をPRする	障がいのある方に対するボランティア活動を育成・支援する	地域で障がいのある方とない方との交流を深めるイベントを実施する	市の広報紙で障がいのある方への理解を深めるための広報を推進する	マスメディアに障がいのある方への理解を深めるための報道を依頼する	市の職員に対する研修の実施	その他	特にない	無回答	
全体	860	46.0	40.5	9.1	37.7	13.5	19.2	22.2	10.9	14.4	13.0	2.3	3.3	5.9	
要介護者の有無別	自分自身	27	40.7	18.5	7.4	29.6	11.1	14.8	11.1	7.4	7.4	11.1	-	7.4	29.6
	家族・親族	338	50.0	42.3	8.9	34.0	16.0	20.7	20.7	11.8	17.2	15.7	2.4	2.7	4.7
	知人・友人	87	44.8	44.8	11.5	42.5	12.6	25.3	24.1	12.6	13.8	17.2	4.6	2.3	5.7
	いない	438	44.3	39.7	8.9	40.6	12.1	17.6	23.7	10.7	13.2	10.7	2.3	3.4	5.9
	無回答	4	50.0	25.0	25.0	50.0	-	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-

(数値:%)

障がい者への理解を促進するための取り組みは、「子どもに対する福祉教育に力を入れる」(46.0%)、「障がいのある児童生徒との相互理解を深める交流教育を促進する」(40.5%)、「障がいのある方とない方とのふれあいの機会をふやす」(37.7%)の順で多くなっている。

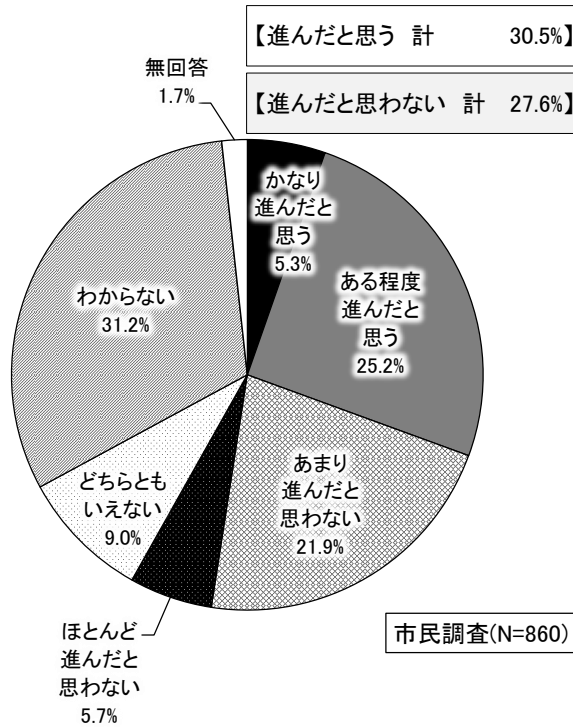
5. 障がい者福祉施策について

(1) 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況

5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(〇は1つだけ)

[市民:問 13]

【図表 2-12-32 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況(全体)】



【図表 2-12-33 5年前と比べた福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策の進捗状況(全体・要介護者の有無別)】

	サンプル数	かなり進んだと思う	ある程度進んだと思う	あまり進んだと思わない	ほとんど進んだと思わない	どちらともいえない	わからない	無回答	進捗状況の集計		
									【進んだと思う 計】	【進んだと思わない 計】	
全体	860	5.3	25.2	21.9	5.7	9.0	31.2	1.7	(30.5)	(27.6)	
要介護者の有無別	自分自身	27	3.7	33.3	11.1	-	3.7	40.7	7.4	(37.0)	(11.1)
	家族・親族	338	5.9	25.1	25.4	5.3	9.5	27.2	1.5	(31.0)	(30.7)
	知人・友人	87	6.9	29.9	19.5	3.4	13.8	23.0	3.4	(36.8)	(22.9)
	いない	438	4.8	24.4	19.9	6.6	8.2	34.2	1.8	(29.2)	(26.5)
	無回答	4	-	-	50.0	-	-	50.0	-	(-)	(50.0)

(数値:%)

障がい者福祉施策について、『進んだと思う』(「かなり進んだと思う」+「ある程度進んだと思う」)は 30.5%で、『進んだと思わない』(「あまり進んだと思わない」+「ほとんど進んだと思わない」)の 27.6%を上回っている。

第3章 自由回答(抜粋)

第3章 自由回答(抜粋)

福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていないと思われるのはどのような理由ですか。ご自由にお書きください。[身体障がい者:問 20-1、知的障がい者:問 21-1、精神障がい者:問 23-1、障がい児:問 20-1、難病患者:問 21-1]

自由回答は寄せられた意見を抜粋して掲載しています。

【身体障がい者】

●福祉サービス、福祉制度を知らない	福祉制度自体が何なのか知らないしわかりません。詳しく教えてもらいたいです。
	障がい支援の2級ですが、福祉サービスや福祉制度がどのようなものかぜんぜんわからない。
	このような制度がある自体知らない。どこに相談をしていいのかがわからない。(生活や仕事の事など)
	自分自身に必要な情報で得する情報を知らない。
●市職員の情報の提供不足	役所の窓口に行っても、こちらから質問しない限り窓口の方が丁寧に教えてくれる事は決していない。
	冊子をいただいて自分で調べなければならず、説明が不親切。障がいの程度に合わせてどういうサービスがあるか知りたい。
	問い合わせをしてもマニュアル通りの答えで気持ちをわかってくれていません。返事を待つのも時間がかかっています。
●入手できる情報量に限界がある	自分が収集できる情報が十分なのか、その検証ができない。
	福祉サービス、福祉制度は自分で調べなければならず、知らないことが多い。自分で調べるには限界がある。
●受けられるサービスの内容が不明	等級毎の受けられるサービス内容(本人の等級)通知してもらえれば助かります。障がい者手帳を受けてもそのままです。こちらから調べないとわからず、ただの手帳になってしまいます。

【知的障がい者】

●入手できる情報量に限界がある	外とのかかわりが少ないので、情報が限られてくる。
	インターネット等、パソコンを使えないので、入手の方法を誰でもできるようにしてほしい。
●情報量の少なさ	在学中は担当の先生から色々な情報を得たり施設見学等がありましたが、通所している施設ではあまり情報及び勉強会等がありませんので、自分の子がどのような制度が使えるかが分かりません。このところ色々福祉制度が変わっているようですね。
	福祉サービスや、福祉制度を必要となった時に色々な所をまわって教えてもらうことが多く、積極的な情報発信が少ないように思います。知らないままの人が多く気がします。
●利用方法が不明	「行動援護」「同行援護」の違いや内容がよくわからない。「日中一時支援」「地域活動支援センター」の利用方法や場所を知らないし、利用している話を聞いた事がない。

【精神障がい者】

●情報量の少なさ	情報を知る機会が非常に少ない。母が、教えてくれるだけです。自分で知る事はほとんどありません。
	情報が入りづらいし、入った時は期間が過ぎていて、とり残されたような気持ちになり、すぐ落ち込みます。
	精神障がいは、他の障がいと違い情報がとぼしい。
●福祉サービス、福祉制度を知らない	このアンケートの内容がよくわからない。知らないことが多すぎると感じる。
	今回の調査で、福祉サービスについて初めて知ったことが多かったから。
●情報の入手方法が不明	どこにどのような情報があるのかわからない。だれも教えてくれない。

【障がい児】

<p>●福祉サービス、福祉制度を知らない</p> <p>このアンケートを見て、このようなサービスがあると初めて知った。障がい者生活支援センターがどこにあるかも知らないし、福祉課もこちらから積極的に聞かないと教えてくれない。このような制度があると言うことをあらかじめ教えてくださるとありがたいです。区分認定もよくわかりません。</p> <p>障がい福祉サービス等があることすら知りませんでした。機能訓練等は毎週病院へ行っていますが、医師の診察を受けるのは、半年に1度程度ですので、その時に困ったことの相談をするのがやっとです。手続きには、役所へ行きますが、いったいどなたに聞けばよかったですか。</p> <p>どのような福祉サービスや、福祉制度があるか分からないのに、聞かないと教えてもらえない。同じ障がいを持つママ友などに聞いて、そんな制度があったの？と思うことがある。手帳をもらう時など、こんな制度があるとか、この手帳があればこんなサービスが受けられるなど詳しく教えて欲しい。</p>
<p>●市職員の情報の提供不足</p> <p>知らないことは市役所で教えてくれず、申請を知った者が行くと手続きが出来る。不平等である。障がい認定を受けた時点で、受け取ることの出来る手続きを教えてもらいたい。</p> <p>まだまだ知らないことが多い。通所、施設がどこにどれだけあるなど。特別児童手当の申請に行った時に(知人に聞いて行ったのに)一度は断られた。(市の担当者が知らなかった)</p> <p>まだまだ自分が知らないだけで、色んなサービスがあるんだと思う。窓口の方には積極的に教える(知らせる)ようにしてもらいたい。</p>
<p>●情報の提供が不十分</p> <p>知人からの情報がなければ、全く情報が入ってこない。療育に通っていても、そこからの情報提供は全くない。発信元を一元化し、利用者が行くところに公開(パンフレットを置くなど)して欲しい。どこにどのような支援が新しく出来た、現在ある支援事業所のサービスの内容など、目に入るところに情報提供があるとよい。</p> <p>市、県で利用できる施設や制度変更等について、自宅へ通知が届かない。市報等だけでなく、障がい者の自宅へ通知等で知らせるべきだと思う。</p> <p>友人などに聞いてないと受けられていない手当・援助などがたくさんあり、まだまだ根付いていないと思う。必要であるなら病院や学校との連携を持ち、情報を多くの人に伝えられるようにしてほしい。</p>
<p>●自分で情報を探さないといけない</p> <p>受けられるサービスは自分で探さないといけないで困る。障がいを持った時点で色々なサービスを教えてくれる人がいたらよいと思う。</p> <p>自分から積極的に調べたり、動いたりしないとどんなサービスがあり、どのように利用できるのかわからない。</p> <p>制度や利用方法など自分で調べないと分からないことが多い。障がいのある子を抱え、そのようなことを調べるにはどういうことをすればいいのかわからず、分からないことが多い。</p>
<p>●情報の入手方法が不明</p> <p>どこで調べて、どこで聞けばよいのかわからない。知らないことが沢山あると思うが、情報がどこから発信されているのかわからない。</p> <p>誰も何も教えてくれない。手帳を持っているので情報を送って欲しい。1級でも5級でも、障がい者には変わりがない。全然扱いが違う。</p> <p>地域によって受けられるサービスの内容が違って分かりにくい。市の窓口で支援センターの案内がなく、誰に何を相談したらいいのかわかりにくい。(自分の子どもが何のサービスを受けられるか情報が無い。)</p>
<p>●福祉制度が複雑</p> <p>手帳の級によって、受けることが出来るサービスが違い、手続きも複雑。直接窓口に行っても、スムーズに手続きが出来ないし、その度に子どもをどこかに預けなければならない。サービス提供の市と、サービスを受ける私たち、ニーズに合わせ、スムーズに日頃から相談できるアドバイザー的な人が必要。</p> <p>制度の内容が毎年のように変わるので、理解するのが大変。市の情報をHPで検索しても内容に乏しい。</p>

【難病患者】

●	<p>情報の提供が不十分</p> <p>福祉施設に入所しているのに、市や県の広報紙やチラシ、ホームページに接する事がないので、情報は入手できていない。現実問題として福祉施設の職員からも必要な情報や指導もない。</p> <p>特定疾患医療受給者証をいただいて病院、リハビリをしていますが、病院以外、福祉サービスや福祉制度など、情報はまったくわかりません。情報がありましたら、郵送でも良いので送って欲しいです。</p>
●	<p>自分で情報を探さないといけない</p> <p>身障者を対象とした優遇措置にどのような項目があるのかは、自分で探さなければ判明しない事項がある。</p> <p>実際に自分で調べなければ何も情報は入ってこない。広報紙のみでは、利用可能範囲がわからない。特に所得制限などあったりすると、聞きに行かずに諦めている事が多くある。今年は非課税なので、福祉タクシーチケットが使用できると思われるが、以前、窓口で冷たく断られたこともあり、窓口へは行きたくない。</p>
●	<p>市職員の情報の提供不足</p> <p>飯塚市の福祉課職員の対応が、あまりにも上からの目線です。職員の教育を希望します。相談しづらい。</p> <p>市や県に相談しても人により曖昧でたらい回しにされ結果、何の相談も解決せず、妥協する事が多い。</p> <p>役所の人からのおすすめなどなく、こちらからどうしたらいいか聞きに行き、初めてそういう制度があることを知る。我慢して過ごせばそのままつらい思いで生活する。どんどん聞きに行き、やっと知り、行けない人はそのまま。得している人。損をしている人の差が激しいと思います。</p>
●	<p>福祉サービス、福祉制度を知らない</p> <p>制度そのものがわからない。</p>
●	<p>福祉制度が複雑</p> <p>申請窓口が多岐にわたり、手続きも煩雑な場合がある。</p>

第3章 自由回答(抜粋)

障がい者福祉についてあなたが普段お考えになっていることや、あなたの将来の夢や希望など、何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

自由回答は寄せられた意見を抜粋して掲載しています。

【身体障がい者】

●福祉サービス・支援・施設について

福祉サービスについて情報が無い。

今は民間のアパートに住んでいます。これから先、住居について市・県営住宅が障がい者にスムーズに入居出来る様にさせていただきたく希望します。

障がい者手帳を頂いた時にガイドブックを頂きました。その中に助成が受けられる項目が書いてありますが、一つ一つの手続きが面倒です。簡単に手続きできれば、自己申告しないと助成が受けられない事もおかしいと思います。手帳を頂いた時点で、ある程度役所の方で自動的に助成手続きが出来る事を望みます。

外出する時の交通手段が家族の車がほとんどなので、民間の介護タクシーの利用券、又は割引券などの発行があれば嬉しい。だんだん移動手段が、年を取り家族には限界があります。※普通車での乗り移りが難しい。

年と共に体が動かなくなるので、寝たきりになるのが怖いです。妻も年を取っているの二人で入れる施設があると良い。妻も病気を持っているの、出来るだけ自宅で暮らしたいと思うが、その時介護を受けやすい様お願いしたい。

●経済面・金銭面・就労について

一番思うことは、経済的な支援をお願いしたい。将来一人になった時の不安からです。

障がい者になって年収がかなり低くなりました。障がい者年金の手当てを上げてほしい。これからの生活がとても不安に感じる。

現在、慢性腎不全で血液透析治療を実施しているが、年収によって月の負担金が大変なのがどうしても納得できない。

身体を維持していくための薬代がとても高く、子育てしながらで、パート代はほとんど医療費となります。なんとか負担が少なくならないでしょうか。

普通は一般の方と同様に過ごせますが、仕事になるとデスクワーク以外は無理だと思います。今は母といっているので何とかありますが、一人だとわかりません。一人になっても働きながら過ごして行きたいと思いますが、それが出来る仕事につけるかは不安があります。今現在、仕事についていますが、この職は一人になれば生活する上で、金銭的に無理です。私は働きながら一人でも生活できるようになりたい。脊髄損傷で無理は出来ないが、でも一般の不遇の方もいるから甘えていい訳はない。自活出来る職につけたらよいと思います。

●障がい者に対する理解について

障がい者用の駐車スペースが少ない(特にサービスエリア)。駐車スペースがあっても障がい者じゃない車が停まっている事がある。今は障がい者マークがどこでも販売しているので、特定のマーク以外駐車出来ない様にしてほしいです。

私は難聴で電話ができません。なのに何でも(手続きや相談)電話を求められ困ります。直接窓口へ行くにも、交通の便や体調不良で行きづらい。メールが利用できたらいいのといつも思っています。

障がい者に対する人間的扱いを理解するのではなく、障がい者に協力する努力を市長自らすることを考えてほしい。

罰則のある障がい者差別禁止法の制定を望みます。制定される日が来るまでは、地道に一般社会の人々(大人・子どもを含む)に啓発していくしかないと考えます。人は知ることによって理解をしていくものだと思います。

医師の証明書を書いてもらうのに、嫌な思いをした。以外と医者は無神経。

●外出について

買い物に行った時、障がい者駐車スペースが取られてない所が多い。障がい者用トイレが少ない。

車椅子の方のバリアフリーは色々な所にできているが、自力で歩ける人へのバリアフリーをもう少し考えてほしい。私も自力で歩けますが、階段などに手摺りがないとダメです。階段などに手摺りを両方に付けるとか、両方に付けられなかったら真ん中に1本付けるとかしてほしい。トイレも洋式でないとなんか、あっても一つしかなかったり、おばあさんも並んでいて時間がかかったりする。私はなかなか入りづらいところもある。パソコンを習うのに2階にパソコン教室があっても、エレベーターがあり、平らである所、それに洋式トイレがある所などの条件で探し、週に1回一人で運転して博多まで行っています。博多へ行くのに、八木山バイパスを利用しますが、その問題は料金所です。身障者手帳は見える所に置きお金を持ってボタンを押します。お金を入れるのが大変です。「割引です」と言うと「手帳を見せて下さい」と何回も言われ、なかなか半額に切り替わらないのでお金が入れられず、手からお金が落ちそうでもはらはらしています。八木山バイパスにあるETCって何のために付いているのでしょうか? 付いているETCは健常者でもなかなか入りきれないほどのぼろぼろの機械です。手が不自由な人の為にETCってあるのではないのでしょうか?

JRの駅でホームからホームへ移動する時、エレベーターがほしい。飯塚市は新飯塚駅しかありません。新飯塚駅までタクシーを利用するため、通院の交通費が大変です。高齢者の方も要望しております。せめて大分駅につけてほしい。

●その他

現在の私は、なるべく自分でできる事は行うようにしています。健康面でも健常者以上に気をつけています。でも年を重ねるごとに、体力的にも無理をするとすぐ健康面に現われます。自分で出来なくなった時でも、安心して暮らしていけるような市になってくれたらと願います。

学生時代に強く感じていた事ですが、養護学校の先生になる方、特に重度の障がい者を受け持つ先生という方が教員の資格を持っているだけで、障がいの事に対して全くの素人ではないのでしょうか? 親として心配で仕方ありませんでした。全くの素人に重度の障がい者をよく受け持たせるなどと思っていました。素人でも何人もの障がい児をみてきて経験を積んでおられる方ならまだわかるのですが、本当にもう少し考えてもらいたいです。

朝晩に必ず服用している薬があるため、万一災害が起きた時、一番に薬のことが心配になります。

【知的障がい者】

●福祉サービス・支援・施設について	<p>飯塚市には、福祉施設が少ないと思います。もう少し施設を充実させて欲しいです。</p> <p>入所福祉施設、グループホーム等の住まいの内容整備に力を入れて欲しい。障がい者が楽しく生活できること。親が安心して入所させる施設がたくさんでき、安心して死ねること。</p> <p>障がいを持った者が少しでも筋力、体力が維持できるような運動療法の場が欲しいと思います。そして楽しく交流できるレクレーション、簡単な調理、生活面への自立の学べる支援が沢山欲しいと希望します。</p> <p>障がい者施設(入所・通所)等内での、障がい者に対するいじめや虐待がなくなるようにして欲しい。健常者(先生達)が障がい者を傷つけたり、いじめたりしている施設が多々あることを耳にする。とても不安です。両親が元気な間はまだ安心ですが、両親がいなくなった後はとても不安です。</p> <p>市内に障がい者専科の病院があればいいと思います。歯科は福岡まで通院してます。</p>
●経済面・金銭面・就労について	<p>年をとり、おむつ代がかかるようになり、年金だけでは大変になりました。</p> <p>自分のできる仕事がしたいです。健康な人と一緒に働くことができるといいです。</p> <p>私は息子が知的障がい者(療育手帳B2軽度)です。息子は就職まで、支援センターで就職に対する知識、マナー、挨拶など学びました。就職まで、2年かかりました。障がい者の就職は、なかなか難しいと思いました。特に知的障がい者の就職は雇用者がなかなかいない。身体障がい者は雇用されるが、なぜでしょうか。頭から仕事ができない、教えるのが困難、教えることが面倒などあるのでしょうか。障がい者も働いて食べてと私達と同じです。将来に対する不安がいつぱいです。親は先に死にます。息子がこのままだと心配です。現在は正社員ではなくパートです。1時間は最低賃金の701円(1時間)で働いています。1日6時間労働です。週2日休みがあり、給料として最大で8万円です。1ヶ月一人で生活は無理ですよね。私達も生活が出来ないと思います。すると生活保護者の方がいいですよ。これから知的障がい者が不安なく生活が出来ようお願いします。好きで知的障がい者になったわけではないです。</p>
●相談窓口・情報提供について	<p>友人からしか情報が得られない。</p> <p>色んな人、色んな場所、色んな経験を積み、言葉で伝えることが出来なくても、人柄でコミュニケーションが出来ればと思います。だから、利用できる情報が知りたいし、親が窓口に来た時は、聞かれなくても市の職員等が情報を知らせてくれると良いですね。知らないことが多いので。</p> <p>市や県の窓口、また、民生委員の方はあまり情報を知らない。結構冷たい言い方で相談にくい。</p>
●障がい者に対する理解について	<p>親にも、子どもにも障がい者への教育ができていない。車椅子に乗る人や目の不自由な人などが障がい者という意識しかない。学校では知的障がい者がいることをもっと教えてほしい。人の目、親が教育が出来ていないといつも思います。子どもが息子を見てると、親は、「あの人はバカなんだから見ないのよ」と言う人もいました。悲しかったです。生きている私たち親子が悪いのでしょうか。心が折れてしまいます。</p> <p>障がいを持っているだけで、子どもや大人と一緒に、偏見のある態度で接してくる。家の周りでいたずらや、悪い事などがあった時は、調べもしないで真っ先に障がいがあるからといって疑って罵倒されることも。</p>
●その他	<p>飯塚市に、知的障がいの軽い人が通える高等学校を開校してほしい。中間市まで通っていたが、アクセスが不便。</p> <p>各選挙の投票について。投票用紙への記入が困難な人には(意思表示も困難な人)他人である代理人記入となりますが、これでは投票の秘密の意味がなくなります。両親が家族が代理人記入では何か問題でも生じるのでしょうか。家族であれば本人の将来を考慮して記入しますし、他人への秘密も守れます。是非改善して下さい。</p> <p>北九州市から転居してきて10年になります。福祉施設の方は飯塚市のほうがかなり充実していると思います。重度障がい者に対して、北九州市はかなり厳しかったです。現在、通所している「童王の里」は軽度から重度まで5段階に別れて教育していただいています。私は5段階(重度)ですが、毎日充実した教育を受けています。自民党の前、小泉首相が障がい者支援法という法律を適用し、福祉の予算を切り捨てられて1ヶ月予算の手当てを1日単位に切り替えられたので、私たちが病気で休むとその分施設に行く手当てが減らされて施設の先生方も給料をカットされていました。だから多少の病気では休まないようにしています。何とかならないでしょうか。</p> <p>生活保護費が少ないのに車を持たせない。自営業には車を持たせるのが気に食わない。買物と母の所に顔を出す時に車を利用する。外出時、大便をするときトイレが1つか2つしかないで困っている。</p> <p>以前と比べ障がい者施策が進んだと思えないのが残念なことです。よく、財源や人員の問題で語られる事が多いと思いますが、もしそうなら、今の原発問題の様な世論を巻き込んだ大きな運動が必要だと思います。それでも現状でできる事は多くあると思います。今、民間施設や教育現場の方々は大変よく頑張ってくれていますが、障がい者に関する理解の面では以前と変わっていないと感じます。この事が社会全体の理解が進まない理由ではないかと思っています。どうか、行政の方が先頭に立ち、施設や教育現場の方と常に交流を持って、学んだり、実践することで施策を進めていただきたいと思っています。また、その際は、障がい者本人や、その家族の考え、希望、苦しみを一番に尊重していただく事を願っています。</p>

【精神障がい者】

●経済面・金銭面・就労について
3級でも国民年金や自動車税を払える金額ではないので、減額、免除などしてほしい。「車を運転できる＝軽度」になるかもしれないが、車がないと移動できず、調子が出ない時は運転さえできない人も知ってほしい。入院を繰り返さないと2級、1級にはならないらしいが、収入がない人もいるので、公的支払いの負担を少なくしてほしい。入院していないから軽度ととらえるのは仕方ないが、自分の力で収入を得られるかも重視してほしい。
自分がやれそうな(実現できそうな)資格を取得し、自分で稼げるように頑張りたい。そして1日も早く生活保護のお世話にならずに済むようになりたい。
就職しても結局だめで、病気のため何度も辞めた。でも、面接では病気のことを言うのはタブー。とてもつらい。周りに嘘をつくのもつらい。なので、自分の好きなことを仕事にして、がんばって独立、自営して、そのお金で保護に頼らず、自分の稼ぎで人並みの生活がしたい。何もうしろめたく思わず、他人と比べず、自信を持って生きていきたい。そして、子どもがいるので、心配をかけずに進学や教育を受けさせたり、たまには欲しいものを買ってあげたい。
障がい年金の額が下がるのは困る。生活もギリギリなので、障がい者年金は下げないでほしい。障がいのある人が働く場所をもっと増やしてほしい。時間などの調整をしてくれたり、周りがサポートしてくれるような職場が地域にたくさんできると嬉しい。
両親の年金で生活しているのに、年金は下げられ、介護保険、国民保険、消費税、電気料金、物価は上げられて、この先どうやって生きていけばいいのか。両親も90歳に近く、病院に行く回数も増え、私の医療費も今年4月から3割出さないともらえない薬があって、欲しいけど経済的に無理です。年寄りと病人は死ぬということでしょうか。政府も私達のことを考えて、年金を引き下げないで下さい。
●福祉サービス・支援・施設について
交通機関等などが、もっと安く便利になれば良いと思う。
自立支援医療(精神通院)の制度は本当に助かっているの、今後も継続してほしいと思っています。
自立支援のことなどは、私がいらない場合でも職員がすぐに対応してくれて助かっています。
精神障がい者保健福祉手帳は、利用できるサービスが級によって限られている。手帳がうまくつかえない。例: 駐車場(障がい者用)、自動車税など。
障がい年金の中で1人暮らしのできる住居がほしい。月に2回でも良いので、通院のタクシー券などがほしい(調子が悪いときは運転できないので)。
●障がい者に対する理解について
外面から見える病気と、内面からくる病気の違いに気づかない人々が多いことにもどかしさを感じる。何でも体験してみないとわからないと思う、特に内面から気持ちが沈んでも誰も気づいてくれないし、気を遣って気丈にふるまう生活。大変苦しい。時には心が折れそうになり、何のために生きているのかわからなくなり、考えることが多い。
自分は、もう組織に所属することはありません。以前、病気の話をした上で採用されましたが、辞職の際、「うつ病だから、何を考えているか怖いよね」と言われました。そんな企業も存在します。
障がい者への偏見をなくしてほしい。
日本では2つの差別があると言われている。1つは病気になること、もう1つは社会の偏見。障がい者福祉はずいぶん進んではいるが、誰でも障がい者になる可能性があることを理解して、障がい者福祉教育を進めてほしい。
私の障がいの場合、1日の中で状態にひどく変化があり、実際の苦しさが回りの人に理解されづらい。
●相談窓口・情報提供について
現在うつ病で対象助成を受けていますが、身体機能障がい(事故による半月板損傷による行動範囲の制限)があります。手術を受けた病院が他県であったため、引き続きの機能訓練が止まってしまい、悪化しました。身辺にそのことを相談できる所がないことで、うつが悪化しました。仕事はしていますが、夫との自営です。1日9時～19時まで店舗に拘束され、自宅に帰ってから家事に追われ、息つく暇もありません。プライバシーを守りながら、きさくに話せる場所の必要性を強く感じます。見た目には精一杯、普通であるよう努めていますので、精神的に疲れます。唯一、月1回の通院の医師のケアが頼みです。
市役所の窓口の方は、とても親切な方がいる一方、面倒臭そうにする方もいる。
母も82歳になり、病院に自家用車で連れて行ったり、弟も自分勝手なことばかり押し通すので困っています(弟は統合失調症2級)。この状況を相談する相手は母だけなのです。自分で母の世話をしたり弟の面倒を見ているのですが、この先のことを考えると目の前が真っ暗になり、不安でたまりません。経済的なことや仕事(アパートの大家)のことを考えると、ますます不安になります。もし母が亡くなった時のことを考えると、相談する人が全くいなくなりますので不安でたまりません。自分は過去に自殺未遂を何回も繰り返しています。死んだ方が良いと思う時も多々ありますが、母の悲しみと将来の不安を思うとそれできません。一番大切なことは、それを理解してくれる人が病院の先生だけなのです。他に身近な人がいたら良いと思っています。

【精神障がい者】(続き)

●その他

今、小4、小1、2歳の子どもの母親です。この前、地区のPTAの役員が回ってきた際、断りきれずに引き受けた仕事を、主人に話して次の人に回してもらいました。そうしたら、役員を回してきた人から、次の方が怒っているとの話を聞き、とても不快な気分になり、リストカットなどの行為が再発したり、家事が出来なくなるなど、すごく大変でした。学校の方に相談しても、行政の区分ではタッチできないとのこと。この先、下の子ども達の時を考えると気が気ではないので、何か良い対策を考えていただけないかと思います。

今、私は主治医をととても信頼している。病院の精神保健福祉士の方に「病状は、一人ひとり違う」と言っていただき、自分なりの生活の在り方を模索している。個人情報保護ということで、どこまで、どのように保護されるのかしらと考えることがある。他の科にかからねばならなくなった場合に、問診票への記入を要求されるが、精神科通院と薬の服薬中についての公表は、非常に抵抗がある。その看護師さん、事務員さんが皆、読めるのだから。これは、まだ自分に自信のない裏返し心理なのかもしれないが、やはり、私は全面的OPENに抵抗を感じている。

今は何とか一人で生活出来ているが、加齢とともに心身のバランスがこわれたら不安になる。

高齢の母と二人暮らし。いずれ、一人暮らしとなる。一人暮らしの中、病状が悪化して、自己管理ができなくなるかもしれないという不安が常にある。友人や親せきに理解者はいるが、「一人でも安心して暮らせる」と、安心した気持ちが持てない。不安である。

ずっとこのまま病気が治らなかつたらと思うと、先のことを考えたくないです。前みたいに自由に出かけたいです。迷惑ばかりかけてしまつて、つらいです。

病気で生活保護を受けてる者と、ギャンブルに保護費を使っている者と、きちんと見極めて保護費を決めてほしい。国会議員の人数を減らし、それを福祉に活用したらよいと思う。

まさか、自分が心を病むなんて考えたことはありませんでした。体・手が震えたり、生汗が出たり、めまいがしたり、「周囲に気付かれてはいないだろうか」と考えただけで、外出するのも勇気がいります。帰宅後は更に具合が悪くなり、自責の念に押し潰されます。こんなご時世、いつ誰にだって発症する可能性はあるんだから。アベノミクス、外交などという前に国民を大切にする気持ちの強い人達に政治を任せたいと常に願っています。

難しいとは思いますが、希望を書かせていただきます。私は「てんかん」という病気ですが、日本で使える薬の種類が少なすぎます。海外の1/3ぐらいしか使用できません。もっと考えてほしいと思っています(政府にです)。

障がい者の全国大会がすごくすばらしいところでした。(千葉で開催された時に行きました)。

【障がい児】

●福祉サービス・支援・施設について

医療ケアのある子どもに対する制度が極端に悪い。放課後等、児童デイサービスができて、少しは毎日の送迎が楽になると思ったのに、結局施設側は、医療ケアのある子どもを受け入れてくれないので、いつも通学バスに乗っている子どもだけ利用できるのはどうかと思う。普段から、送迎している医療ケアのある子どもの方が、よっぽど時間にゆとりがなく、放課後だけでも送ってもらえたら助かるのに、看護師不足や人手不足を理由にして、してくれない。理解が足りないのだと思う。医療ケアのある子どもは、重度障がいの子が多く、買い物一つにしても一緒にいくのは難しく、預ける間にしないといけないことが、親にはたくさんあるので、もう少し理解して、医療ケアのある子どもが確実に利用できる制度を作って欲しい。レスパイト等はあるけど、何ヶ月に一回とかしか使わないし、普段の日常生活でもっと利用できるようにして欲しい。移動支援(親の代わりに送迎)は一番みんなが望んでいることだと思います。

飯塚には、訓練や療育を受けられる所が少ない。また、受けられる所があっても、患者が大変多く、十分な療育を受けることが出来ない。障がいに対して、このようなアンケートを取る前に、そのような不十分な点について考えるべき。今回もこのようなアンケートを取り、何かに反映されるのか？不信感でいっぱいです。

障がいのある子どもの親が気軽に働くことができるように預け先を増やして欲しい。特に重度の障がいを持った子どもを預ける施設が少ない。

緊急時や自分が病院等で子どもを見ることができなくなったとき、何も知らないところへ預けるのは不安。だから、365日、24時間いつでも(緊急でない時も)対応できる施設が必要。また、リハビリができる施設も増やして欲しい。

先日、初めて障がい者施設に見学に行きましたが、プライバシーが全くないので、悲しくなりました。安全のためかもしれませんが、悪く言えばきれいな刑務所のように、私の目には映りました。まだ他の施設には行ってないのでわからず、なんとも言えません…。今後見学に行った時は、プライバシーのことや、体罰に対する考え方なども聞いていきたいと思いました。

地域格差がなくなればいいなと願ってます。同じ障がい者でも都会に住んでいる人、地方に住んでいる人の差があまりにもあります。都市から引っ越してきたものとしてはこの違いに正直びっくりしています。地方だから仕方ないとあきれめなくてはいけないのは、納得できません。

●障がい者に対する理解について

子どもたちも含め、幼稚園や学校の父兄にもっと障がいについて理解してもらいたい。目に見えない発達障がいに関しては、どうしても偏見が強いように思えます。

障がい児・者が生活しやすいまちづくりが希望です。特にこの時期はプールに行きたいですが、周りの目が気になり、連れて行くことができません。気にすることなく、外出、外食することができたらうれしいです。学校等の授業で障がいの特性や関わり方など取り組んでいただけると理解も少ししてもらえるのではと感じています。

障がい者への理解は、本当に難しいことだと思う。わが子を産むまでは、かわいそうとか、大変そうとか、他人事しか見ることが出来なかったと思う。何か手伝おうと思っても、何をしたいのかわからなかった。わが子が障がいを持って生まれてきたから、障がいについて勉強し、理解をしようと思ってきた。障がいのある子、ない子関係なしに、生活する機会はとても大事だと思う。障がいのある本人も、全てをさらけ出す勇氣、障がいのない子も、そういう障がいのある子がいるんだと知ること。大きくなってきたら、さらけ出すことも知ること難しくなってくると思う。障がいのある人を特別扱いするのではなく、普通に接し、お互いできないことは自然と助け合う。出来ることが当たり前でないこと。大人になってから、理解する方が難しいと本当に思う。だから、小さい時から一緒に生活することで少しでも理解できるのではないかと思う。わが子の通っている保育園のお友達を見ていたら、本当にやさしくて、歩けないわが子のことを、何も言わなくても理解してくれている。出来ないことはそっと手助けする、教えることなく自然に出来ていること、本当にすばらしい。大人は、しようと思っても出来ないと思う。

「障がい者、障がい者」と言っ、一番差別しているのは、一番身近にいる、私たち親だったり、福祉かもしれない…。

娘は15歳の時に重度のストレス障がいを発症しました。当時は、何の病気かも分からず、病院を転々としてきました。心の病気はまだまだ専門医が少なすぎると感じます。これだけ多くの方が病気を抱えながら、また、病気に気付かず、頑張っていたりするのに、まだまだ周囲の理解も少ないのでは？もっと、子どもたちがゆったりできる社会になればと思います。誰でも、心の病はなりうる可能性が高いのに、病気のことをわかっていない人が多く、偏見も多いと思います。また、体の障がいと違って外から分かりにくい面もあるので、余計に大変な面もあると思います。思春期にいきなり発症することもあるので、先生や教育機関での理解を進めて欲しいです。

●相談窓口・情報提供について

5歳の子どもが発育障がいです。小学校に行けるかわからないし、新学級に進むかわからないです。でも、相談する場所も人もわかりません。

障がいのある子どもの支援サポートの情報が全く届いてきません。たまたま学校や病院で会った保護者と立ち話した時に様々な情報を得ることができず、知らない情報は活用できません。いち早く、市がキャッチしてそれを障がいのある子どもたちや学校の特別支援のクラス担任、保育士に伝えてあげるべきではないでしょうか。意外に特別支援クラスの担当者に情報が下りてきていません。保護者と一番近い支援者であり、指導者でもある存在なのに、「よくわからない」と言われ、がっかりすることがあります。障がいは病院で見つかるケースが多いので、病院で障がいのある子どものためにこれから受けられるサポート、施設等の情報をまとめた冊子のようなものを準備して手渡していただけたらありがたいです。

学校教育の事では先生方に大変お世話になっております。言葉の発語が苦手なため、訓練を…と思っても、言葉の先生がいないのです。機能訓練も、なかなか思い通りの時間に予約が取れない等あります。そんな悩みを先生方に相談したところ、何かと配慮いただきました。が、もしかしたら、筑豊にも小児専門の言葉の訓練等をしてくれるところがあるのかもしれない。でも、それを知るすべがないのです。どこか、ここで相談したらあらゆる方向(病院だったり、施設だったり、学校だったり)の情報が分かるようなところがあればいいなと思うのですが…。きっと、私のように福祉サービスのことをこのアンケートで知った方もいらっしゃると思うので、もっと、情報発信していただきたいと願うばかりです。

【障がい児】(続き)

●経済面・金銭面・就労について	<p>医療費の負担が多すぎる。子ども一人の療育のために年間15～20万の負担は大変だ。リハビリ等を行う必要があるので行っている。両親が仕事を出来ればよいが、仕事をしにくい状況である。</p> <p>子どもの療育を優先しているため、母の再就職が難しい状況です。更に支援センターの利用費が重なり、生計を圧迫しています。現在、週4日を幼稚園に、週1日で支援センターを利用しています。このままでは生活も不安なので、子どもの療育はあきらめるべきかと考える時もあります。</p> <p>障がい者と言うだけで、仕事が選べないことや給料に差があるという将来の不安はまだ改善されていないと思います。</p>
●診断・判定について	<p>幼稚園行事などで他の子のお母さんと話すことも多いのですが、その子の特徴がわが子と重なる部分もあり、また、療育の先生から発達障がい児の特徴だと指摘されたものであったり、その子の母親も不安に思っているとのことで、わが子の支援センター利用までの流れを教えたこともありました。この点からもまだまだ対策が不十分だと感じます。市の保健師が幼稚園を訪問していることは存じていますが、もう少し、保護者へのアンケートの実施など、踏み込んだ対策があればと思います。</p> <p>発達障がいの簡単なチェックシートを2歳児くらいの親へ配布をして、気づきの一つになれば良いと思います。小学校前とかでは遅いと言われたので、早めの気づきができれば良いと思います。</p> <p>娘は15歳の時に重度のストレス障がいを発症しました。当時は、何の病気かも分からず、病院を転々としてきました。心の病気はまだまだ専門医が少なすぎると感じます。</p>
●保育・教育について	<p>学校教育においては、(特別支援学校の指導案はどんなものか知りませんが)学校によっても先生によっても全く違い、特別支援学校なのに特別支援学校免許を持っていない先生が指導するのはどうかと思います。</p> <p>特別支援学校の高等科の学校をもっと増やして欲しい。通学に送り迎えに1時間くらいかかってしまうのはつらいです。寮も希望の人が全員が入れるようにしてほしいです。もしくは、スクールバスなどがあるとよいと思います。仕事も、職場でできること、できないことがあるとは思いますが、就職が可能になるようにしてほしいです。</p>
●その他	<p>親が亡くなった後、きょうだいに負担をかけず幸せに暮らせる世の中になってほしい。制度がコロコロ変わり、良かったり悪かったりと、本当に障がい者のことを考えているのか。認定も、老人と子ども一緒に聞き取りに疑問。</p> <p>今回アンケートで災害についての質問がありましたが、うちの子どものように常に薬を飲まなければならない場合、薬が災害時ちやんと手に入れられるかは不安に思います。2, 3ヶ月に1度の通院なので多めに薬はもらっていますが、そういった際の対策をして欲しいと思います。また、同じ肝移植の方で近くに住む人と情報交換や勉強会などあれば、参加してみたいです。</p> <p>障がいのある子どもを育てていくのは、家庭の力だけではどうにもならないことが沢山あります。家庭や病院、学校や福祉関係が連携しないと、より豊かな成長は望めません。弱者を切り捨てない社会になって欲しいです。</p> <p>障がいの種類の違いにもよるし、その時点でしかわからないことも出てくるので、この先どういう風に変えていったらよいのかは「障がい者」とひとくりにされると難しいと思います。</p> <p>発達障がいのある息子の将来が、どうなっていくのか、ただただ、漠然と不安を感じている。</p>

【難病患者】

●福祉サービス・支援・施設について	<p>パーキンソン病のため、将来、体が動かなくなる不安があり、その時に福祉サービスがすぐに受けられるかわからない事が不安です。又、1人になった時の生活がどうなるかが不安である。</p> <p>まだ若い方や、ひとり暮らしの方にとって障がいを持っているという事は、とすれば、人間としての幸せを得ることが困難であることがあるかと思えます。まわりの協力体制の充実はもちろん、“自立”出来るための仕事(就業)の支援、様々な方との交流の機会はとても重要です。障がいはあっても、可能な限り普通の暮らしをして、人としての幸せを十分に得られるよう、万人の理解と支援をお願いしたく思います。そのためにも、障がい者、病気を理由に社会から遠ざかりがちな人達の生の声を聞いてください。そういう場を作り、今何が必要かを検討し、少しずつ、形にしていればと願っております。</p> <p>障がいのある方、又は生活していく上で困難な特定疾患のある方、その家族に、公的支援の考慮と、障がい年金の受給、仕事・生活面・住居に関する支援・援助の枠を広げることを重視してほしい。支える家族にも色々な面で、先の保障に負担を軽減してほしいです。</p>
-------------------	--

【難病患者】(続き)

<p>●経済面・金銭面・就労について</p> <p>満62才で発症し、病院、整骨院、はり、灸と自費で治療してから5～6年厚生年金の掛け金不足のため、無理して働いて、やっと、給付年月を満たしましたが、69才で総合せき損センターで手術、両手・両足が動かず、5年程のリハビリで、やっと杖とともに立てるようになりました。現在、障がい者2級1種ですが、障がい年金は年金を32年以上掛けていないと支給されません。この制度を無くしてほしいと思います。年金の支給資格を得ているのですから、当然障がい年金も支給資格はあると思うのですが、わが国は何か間違っているような気がします。好んで病気になった訳でもないし、国指定の難病に掛ったのですから、障がい年金は受給できて当然と思うのですが。私の様な思いをされている方は他にも沢山おられると思います。本当に障がい者の身になって戴けるのなら、こういう事を先に解決すべきではないでしょうか。それからのアンケートだと私は思います。</p> <p>私は特定疾患を発症して7年目になります。本年2月に、病状が急激に悪化し、2ヶ月弱の入院生活を送り、ICDを植え込みました(身障者1級)。このため、退職を余儀なくされました。現在は、無職、無収入の状態です。再就職も、現在の体調からすれば、困難と考えます。しかし、医療費の控除、特定疾患のランク認定は前年度の収入に応じて決められます。私の場合、今年も半年間は働いていましたので、それら控除を受けるのは、再来年からになるとの説明を受けました。これからの生活は、今までの貯蓄をけずって、やっていくしかありません。せめて、身障者になり職を辞した場合等は、今後の収入に応じての配慮をお願いしたいと思います。私のような進行性の病気の場合は、将来に夢や希望等は持てません。せめて少しの経済的不安を解消していただきたいと思いま</p> <p>今現在、病気は軽いほうだけでも、就職活動中や、就職後に病気が悪化しないか不安がある。そういうことを気にせずに、就活、就職できるようになればいいと思っています。(自分自身の問題ですが…)</p>
<p>●障がい者に対する理解について</p> <p>見える障がい(視覚、四肢等)は、障がい者として行政もまわりの人も気をつけて対応しているところは見受けられる。しかし、内部障がいは見た目にはわからないので、非常に理解を得ることが難しい。内部障がいは治療を継続的に行わなければ命が途切れること、又、常に痛みや苦痛に耐えながらも、短時間就労で生活を支えている実態を知って欲しい。</p> <p>障がいとひとくくりでとらえるところに無理があると思います。知的障がい、身体、病弱、精神…。基本的には個々の障がいに応じた適切な治療や訓練、社会参加、就労が出来れば、“障がい”の垣根は低くなります。様々な障がいのある人たちがあたりまえに社会で活動している風景が生まれれば、障がいに対する理解(あたりまえの人と人のかかわりを通して)が進むと思います。知らないから偏見を生むと思います。啓発や人権教育といいますが、世の中を変える力を持つ人を育てる事こそ、大切だと考えます。</p>
<p>●外出について</p> <p>バリアフリーの進んだ社会の推進が必要。</p> <p>「障がい者にやさしい町づくりの推進」を充実させて欲しい。飯塚市内を車イスで散歩できるような町にして欲しい。</p>
<p>●その他</p> <p>私は特定疾患を受けているが、1年1年継続するのはおかしいと思います。半永久的か(死ぬまで)又は、本人が、治療を受けないと思うまで継続してほしい。</p> <p>毎年、飯塚市は障がい者国際車イステニス大会を開催しているが、その期間のみ注目されるのではなく、年間を通じて障がい者のためのいろいろなイベントを開催できて、その家族や観衆も収容できるようなまちになれば、今以上に発展していきだろうと思うし、まちの知名度も高くなっていくだろうと思う。“障がい者のイベントといえば飯塚市”というくらい“有名な特色のある都市”になって欲しい。車イスの外国人をたくさん見かけるような国際都市、車イスの高齢者が買い物や散歩できるまち、ベビーカーを押して参加できるコンサート等々、夢はふくらみますね。</p> <p>障がい手帳の調査に当てはまらなければアウト、人それぞれ、症状や不便の範囲は違うのです。同じ様式におさめようとする方が無理がある。国や行政は弱者や高齢者に言葉では甘いことを言っているが、現実には切り捨てていると思う。国の財政が苦しいことは十分分かっていて。しかし、難病患者も少ない収入の中から税金を健常者と同じように納めている事を忘れてほしくない。先天性疾患の患者は死ぬまでそれから逃れられない事を理解してほしい。新たな制度を策定できないものであろうか。難病と障がいを一まとめに考えるのはいかがだろうか。しかし、時期と共に障がいへと移行していくのは事実である。まだ少しでも働き、表面上、健常者として振舞っている今は良いが、4～5年先の事を考えたら、早く死にたいと思っているのが現状である。</p> <p>これまでも、いろいろな計画を策定しても、何も実現せず、生活が改善されることはないように思います。計画策定にかかる費用で何かしてほしいです。</p> <p>現在私は週2回デイサービスとヘルパーさんに来て頂いて大変有難く思っております。足の骨折のため、車椅子と車の無い歩行器を使って息子の介護により家で生活しています。今年度の認定で車椅子はいらない、歩けるといわれ、自費で買って使っていますが、認定する方は本人がどの程度の障がいがあるのか認識しているのでしょうか。歩行器を使っているからトイレ等行けるのですが、車椅子は私にとって必需品です。今までは、使い勝手がよく助かっていたのですが、別の物に変えと一寸の角度で肩甲骨や腕が痛んだり、不具合な事が多いので、今通所している理学療法士の先生の意見等取り入れて決めて戴きたいと思ひます。一度見ただけで決めないで頂きたい。高齢者はこれ以上良くならないし、悪くならないように注意して生活していただきたいと思ひます。車椅子生活は手が使いにくいし、物を持って移動できないし、整理できない事も忘れてください。お願い致します。</p> <p>市役所の窓口は人により曖昧さがあり、余りにも、無知なところが有りすぎる。個人で情報収集しても結果が出ず断念し、現状は厳しく生活する有様です。一日も早く、色々な面々での対処をしてほしい限りです。</p> <p>車イスで外出するのですが、道路と歩道との段差があり通りにくいです。道路整備をしてほしい。車イステニス開催地なのに“バリアフリー”の市とは思えない。</p>

第4章 調査票

いづかしょう ふくし かん ちょうさ
飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査
 ちょうさひょう
(調査票A)

【ご協力のお願い】

日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市内にお住まいの身体障がい者手帳をお持ちの18歳以上の方から無作為に抽出した約1,300人の方を対象に、日常生活の状況やご要望等をおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成25年8月

いづかしちょう
飯塚市長

きにゆう ちゆうい
記入にあたってのご注意

- この調査票は、**できる限りあて名のご本人がお答えください。**
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、**主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。**
- ひとり暮らしなどのため、**調査票への記入が難しい場合は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。**
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、**8月23日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください(住所やお名前を書く必要はありません)。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課 電話：0948-22-5500 (内線1175)

F A X : 0948-21-6356

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別、年齢についておたずねします。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性
(2) 年齢	満()歳	

問2 あなたの「身体障がい者手帳」の記載内容についておたずねします。ご自分の手帳を見てお答えください。

(1) 身体障がい者手帳に記載された**総合等級**は何級でしょうか。(○は1つだけ)

等級の数字に○印	→ 1	2	3	4	5	6
	級	級	級	級	級	級

(2) あなたの**身体障がい者手帳**に記載されたもののうち、**主な障がい**はどれですか。(○は1つだけ)

1. 視覚	2. 聴覚	3. 平衡機能
4. 音声・言語・そしゃく機能	5. 上肢	6. 下肢
7. 体幹	8. 心臓	9. 呼吸器
10. じん臓	11. ぼうこう	12. 直腸
13. 小腸	14. 肝臓	15. その他()

問3 問2(2)で回答した障がいのほかに、「重複する障がい」がありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 視覚	2. 聴覚	3. 平衡機能
4. 音声・言語・そしゃく機能	5. 上肢	6. 下肢
7. 体幹	8. 心臓	9. 呼吸器
10. じん臓	11. ぼうこう	12. 直腸
13. 小腸	14. 肝臓	15. その他()
16. 重複する障がいはない		

問4 **最初に障がい**が発生した時期をお答えください。(疾患の場合は発病時を意味します。)(○は1つだけ)

1. 出生時から	2. 乳幼児期(0～5歳)	3. 6～17歳
4. 18～39歳	5. 40～64歳	6. 65歳以上
7. わからない		

問5 あなたは、身体障がい者手帳以外の障がい者手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ)

1. 療育手帳を持っている
2. 精神障がい者保健福祉手帳を持っている
3. 療育手帳と精神障がい者保健福祉手帳を持っている
4. 持っていない

問6 あなたは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても〇をつけてください。

1. 認定を受けている
 ①区分1 ②区分2 ③区分3 ④区分4 ⑤区分5 ⑥区分6
2. 申請したが非該当
3. 現在申請中
4. 申請をしていない

問7 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 自分の年金や手当 | 2. 自分の就労等による収入 |
| 3. 家族の年金や手当 | 4. 家族の就労等による収入 |
| 5. 生活保護 | 6. その他 () |

問8 あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1~2回 | 3. 月2~3回 |
| 4. 年数回 | 5. 入院中 | 6. 受けていない |

【問9は40歳以上の方のみお答えください】

問9 介護保険の要介護認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 「要支援」と認定 | 2. 「要介護1」と認定 |
| 3. 「要介護2」と認定 | 4. 「要介護3」と認定 |
| 5. 「要介護4」と認定 | 6. 「要介護5」と認定 |
| 7. 要介護認定を受けて「非該当」になった | 8. 要介護認定は受けていない |

問9-1 (問9で1~6を選んだ方のみお答えください) あなたは介護保険のサービスを利用していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問10 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(〇は1つだけ)

1. 自分や家族の持ち家
2. 民間の借家や賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営住宅、公社・公団住宅等
4. 社宅や会社の寮、官公社等の住宅
5. 共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム
6. グループホーム・ケアホーム以外の福祉施設(入所中)
7. その他 ()

問10-1 (問10で1~4を選んだ方のみお答えください) あなたは、現在、どなたと同居していますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 配偶者 | 2. 父親 |
| 3. 母親 | 4. 祖父 |
| 5. 祖母 | 6. 兄弟姉妹 |
| 7. 子ども(子どもの配偶者含む) | 8. 孫(孫の配偶者含む) |
| 9. その他の家族・親族 | 10. 家族以外の人 |
| 11. その他 () | 12. いない(一人暮らし) |

問10-2 (問10で6を選んだ方のみお答えください) 現在入所している施設での生活に満足していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-------|---------------|---------------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらかといえば不満 |
| 4. 不満 | 5. わからない | |

問10-3 (問10で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(〇は1つだけ)

1. 施設でずっと暮らしたい
2. 自宅に戻って暮らしたい
3. 施設を出て、アパートなどを借りて暮らしたい
4. 施設を出て、グループホームなどで暮らしたい
5. その他 ()
6. わからない

次ページ問10-4へお進みください

問10-4 (問10-3で1を選んだ方のみお答えください) その理由はなぜですか。(〇は1つだけ)

1. 施設を出て生活することに、不安や問題があるから
2. 施設での生活に満足しているから
3. その他 ()

問10-5 (問10-4で1を選んだ方のみお答えください) どのような問題ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 住むところの問題
2. 介護・支援をしてくれる人の問題
3. 経済的な問題
4. 日常生活を送る上での問題
5. 対人関係の問題
6. 漠然とした不安がある
7. その他 ()

問10-6 (問10-6で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家族と同居できること
2. 昼間の介護・支援を頼める人がいること
3. 夜間の介護・支援を頼める人がいること
4. 食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがある等)
5. 掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
6. デイサービスや作業所等に通えること
7. ショートステイ等緊急時に宿泊できる場所があること
8. ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
9. 地域で独立して生活するためのアパートなどの住まい
10. 主治医や医療機関が近くにあること
11. 生活するのに十分な就労等による収入があること
12. 年金・手当・生活保護など経済的な面での公的な支援
13. 金銭の管理をしてくれるサービス
14. アパートを借りる際に、契約などの手続きを支援してくれるサービス
15. グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
16. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
17. その他 ()
18. 特にない

生活状況についておたずねします

問11 あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(〇は1つだけ)

1. 配偶者
2. 父母
3. 祖父母
4. 兄弟姉妹
5. 子ども・孫 (子ども・孫の配偶者含む)
6. その他の家族・親族
7. 家族以外の同居人
8. ホームヘルパー・家政婦等
9. ボランティア等
10. 福祉施設や医療機関の職員
11. その他 ()
12. 必要だが世話をしてくれる人がいない
13. 世話をしてもらい必要がない

問11-1 (問11で1～7のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の回りの世話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(〇は1つだけ)

1. 同居家族に頼む
2. 別居家族や親せきに頼む
3. 友人・知人に頼む
4. 近所の人に頼む
5. ホームヘルパー等に頼む
6. ボランティアに頼む
7. 介助者を雇う
8. 施設(短期入所)や病院に頼む
9. その他 ()
10. 介助を頼めるところがない
11. 介助を頼む必要がない
12. 考えたことがない・わからない

日中の過ごし方や就労状況についておたずねします

問12 あなたは、日中（平日）、主に何をしていますか。（〇は1つだけ）

1. 正規の社員・従業員として働いている（自営業を含む）
2. パートやアルバイトとして働いている（家業手伝いを含む）
3. 就労支援事業所に通っている
4. 学校（4年制大学、短大、専門学校等）に通っている
5. 施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等に通っている（介護保険のサービスを除く）
6. 仲間同士の集まり等に参加している
7. 自宅で過ごしている
8. 医療機関や福祉施設等に入院・入所している
9. 介護保険のデイサービス等を利用している
10. その他（ ）

問12-1 （問12で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（〇は1つだけ）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～7万円未満 | 5. 7万円～11万円未満 | 6. 11万円～15万円未満 |
| 7. 15万円～20万円未満 | 8. 20万円～30万円未満 | 9. 30万円以上 |

問12-2 （問12で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）仕事の中で悩んでいることや困っていることがありますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 収入が少ない
2. 通院や病気・障がいによって休むことが難しい
3. 勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
4. 仕事の内容が自分にあわない
5. 仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
6. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
7. 障がいへの理解が得にくく、人間関係がむずかしい
8. 職場の設備が不十分で障がい者にとって使いにくい
9. 職場までの通勤がたいへん
10. 障がいがない人と比べて、仕事の内容や昇進等に差がある
11. その他（ ）
12. 特になし

【問13は仕事をしている方もしていない方もお答えください】

問13 障がい者が働くために、必要な条件はどのようなものですか。（〇は3つまで）

1. 勤務する時間や日数を調整できること
2. 通勤手段があること
3. 通院等の保障があること
4. 自宅で仕事ができること
5. 賃金が妥当であること
6. 障がいにあつた仕事であること
7. 職業訓練等で就労のための技術を身につけること
8. ※ジョブコーチ（職場適応援助者）等職場に慣れるまで援助してくれる制度があること
9. 勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること
10. 周囲が自分を理解してくれること
11. 職場により指導者や先輩がいること
12. 就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること
13. その他（ ）
14. 特になし

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障がいのある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ち等をお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

がいしゅつ 外出についておたずねします

問14 あなたが外出する回数はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回くらい | 3. 月に2～3回くらい |
| 4. 月に1回くらい | 5. 年に数回くらい | 6. 外出していない |

問15 外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. JR・電車 | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自家用車 | 5. 自転車・バイク | 6. 車いす |
| 7. 徒歩 | 8. その他 () | |

問16 外出に関して、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|---|
| 1. 付き添ってくれる人がいない |
| 2. 障がい者用トイレが少ない |
| 3. 道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん |
| 4. 気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシーやリフト付きバス等) |
| 5. 障がい者用の駐車スペースや手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である |
| 6. 通路上に自転車や看板等の障がい物があるとおりにくい |
| 7. 外出先でコミュニケーションがとりにくい |
| 8. 必要などときに、まわりの人の手助けや配慮が足りない |
| 9. まわりの人の目が気になる |
| 10. 交通費の負担が大きい |
| 11. 外出したいが、外出するところがない |
| 12. その他 () |
| 13. 特にない・ほとんど外出しないのでわからない |

ふくし 福祉サービスについておたずねします

問17 現在あなたがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。

(〇はあてはまるものすべて)

※サービスの内容を別紙で解説していますので、あわせてご覧ください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) |
| 2. 行動支援 |
| 3. 同行支援・移動支援 |
| 4. 生活介護 (通所によるデイサービス) |
| 5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) |
| 6. 就労移行支援 |
| 7. 就労継続支援A型 |
| 8. 就労継続支援B型 |
| 9. 短期入所 (ショートステイ) |
| 10. 日中一時支援 |
| 11. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 12. 共同生活介護 (ケアホーム) |
| 13. 施設入所支援 |
| 14. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理 |
| 15. 日常生活用具の給付 |
| 16. 訪問入浴サービス |
| 17. 訪問理髪サービス |
| 18. 寝具乾燥及び洗濯サービス |
| 19. 配食サービス |
| 20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し |
| 21. 住宅改築助成事業 |
| 22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業) |
| 23. 地域活動支援センター |
| 24. 福祉タクシー利用券 |
| 25. 成年後見制度利用支援事業 |

問18 では、今後あなたが利用してみたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(〇はあてはまるものすべて)

1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
2. 行動援護
3. 同行援護・移動支援
4. 生活介護 (通所によるデイサービス)
5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
6. 就労移行支援
7. 就労継続支援A型
8. 就労継続支援B型
9. 短期入所 (ショートステイ)
10. 日中一時支援
11. 共同生活援助 (グループホーム)
12. 共同生活介護 (ケアホーム)
13. 施設入所支援
14. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理
15. 日常生活用具の給付
16. 訪問入浴サービス
17. 訪問理髪サービス
18. 寝具乾燥及び洗濯サービス
19. 配食サービス
20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
21. 住宅改造助成事業
22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
23. 地域活動支援センター
24. 福祉タクシー利用券
25. 成年後見制度利用支援事業

情報収集についておたずねします

問19 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市や県等の窓口 | 2. 市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等 |
| 3. 障がい者生活支援センター | 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員 |
| 5. 障がい者団体 | 6. 家族や友人・知人 |
| 7. 入所・通所している福祉施設の職員 | 8. ボランティア等の福祉団体 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所・薬局等 |
| 11. 学校・職場 | 12. 新聞・雑誌 |
| 13. テレビ・ラジオ | 14. インターネット |
| 15. その他 () | 16. 特にない |

問20 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分 | 2. どちらかといえば十分 |
| 3. どちらかといえば不十分 | 4. 不十分 |
| 5. わからない | |

問20-1 (問20で3または4を選んだ方のみお答えください) あなたがそう思われるのはどのような理由からですか。ご自由にお書きください。

問21 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何ですか。(〇は3つまで)

1. 社会情勢や福祉制度の変化等に関する情報
2. 福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報
3. 困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報
4. 学校の選び方等の就学に関する情報
5. 仕事の選び方等の就職に関する情報
6. 文化・スポーツやレクリエーション、レジャー等の余暇活動に関する情報
7. 災害時の避難情報
8. ボランティア団体等に関する情報
9. その他 ()
10. 特にない

しゃかいさん か ちいき せいかつ
社会参加や地域での生活についておたずねします

とひ 問29 あなたは、ふだんちいきの方とどのようなおつきあいをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 会えばあいさつしあう程度
2. 世間話をする
3. 一緒に遊んだり、出かけたりする
4. 自治会等の地域活動と一緒に参加する
5. 盆踊りや祭り等の行事と一緒に楽しむ
6. サークル等で趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ
7. 学校や職場の行事と一緒に参加する
8. 入所・通所している施設の行事等で交流する
9. その他 ()
10. つきあいはしていない

とひ 問30 あなたが地域で行われる行事や余暇活動(文化・スポーツ・レクリエーション活動等)に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. どのような活動が行われているか知らない
2. 気軽に参加できる活動が少ない
3. 一緒に活動する友人・仲間がない
4. 家事・仕事等との都合が難しい
5. 活動場所が近くにない・移動手段がない
6. 健康や体力に自信がない
7. コミュニケーションが難しい
8. 費用がかかる
9. 参加したくなるようなものがない
10. 参加したいが誘ってもらえない
11. 過去に参加したが期待はずれだった
12. その他 ()
13. 特にない
14. 参加しようとは思わない

とひ 問31 今後、余暇活動として、どのような活動をしたいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. スポーツ | 2. レクリエーション |
| 3. 旅行 | 4. 買い物 |
| 5. ボランティア活動 | 6. *セルフヘルプ活動 |
| 7. 趣味等のサークル活動・生涯学習 | 8. 講座・講演会等への参加 |
| 9. 地域の行事や祭り、学校・職場の行事 | 10. その他 () |
11. 特にない

*セルフヘルプ活動とは、同じような立場(病気・障がい等)の方たちが、その思いや体験を共有しながら、専門家の支援・援助を受けることなく、自らも自立しながら相互に支え合うことです。

せいかつぜんぱん
生活全般についておたずねします

とひ 問32 今後、あなたが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 障がいや健康上のこと
2. 経済的なこと
3. 仕事のこと
4. 日中の行き場所や過ごし方
5. 住まいのこと(アパートなどを借りるときの保証人の問題、公営住宅への入居など)
6. 結婚のこと
7. 子育てのこと
8. 家庭内の問題
9. 友人関係、仲間との交流
10. 周囲の人の理解について
11. 通院、通勤、通学のこと
12. 食事や洗濯など日常のこと
13. 生きがいについて
14. 財産の管理
15. その他 ()
16. 特にない

問33 生活の中で困っていることや不安・悩みを誰（どこ）に相談していますか。

（〇はあてはまるものすべて）

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 市や県等の職員 | 2. 障がい者生活支援センターの職員等 |
| 3. 障がい者相談員や民生委員、福祉委員 | 4. 障がい者団体 |
| 5. 家族 | 6. 友人・知人、近所の人 |
| 7. ボランティア等の福祉団体 | 8. 入所・通所している福祉施設の職員 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所の医師や看護師等 |
| 11. 学校・職場の関係者 | 12. その他（ ） |
| 13. 相談する人がいない | |

問34 障がい者に対する市民の理解について、どのように感じていますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 理解がある | 2. どちらかといえば理解がある |
| 3. どちらかといえば理解がない | 4. 理解がない |
| 5. どちらともいえない | |

問35 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あると思う | 2. 少しはあると思う |
| 3. ないと思う | 4. わからない |

問35-1 （問35で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください）差別や偏見をどのような場所で感じますか。（〇はあてはまるものすべて）

- | |
|----------------------------------|
| 1. まちなかでの人の視線 |
| 2. 行政職員の対応、態度 |
| 3. 店での扱いや店員の態度 |
| 4. 仕事や収入 |
| 5. 教育の機会 |
| 6. 近所づきあい |
| 7. 地域の行事や集まり |
| 8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと |
| 9. その他（ ） |

問36 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり改善されている | 2. ある程度改善されている |
| 3. あまり改善されていない | 4. ほとんど改善されていない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

福祉全般についておたずねします

問37 障がいがある人に対する支援として、行政（国・県・市）はどのようなことを充実すべきだと思いますか。（〇は5つまで）

- | |
|---|
| 1. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実 |
| 2. 障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実 |
| 3. 市の審議会や委員会等への障がい者の参画（登用） |
| 4. 就労支援の充実（働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等） |
| 5. 年金や手当等の充実 |
| 6. 公営住宅への障がい者優先入居等住宅施策の充実 |
| 7. グループホーム等の地域で共同生活できる住まいの整備 |
| 8. 障がい者の結婚や子育て等に対する支援の充実 |
| 9. 機能回復訓練等リハビリテーションの充実 |
| 10. 在宅生活を支えるための医療の充実 |
| 11. 通院・治療のための医療費の助成 |
| 12. ホームヘルプやデイサービス、外出支援等の在宅サービスの充実 |
| 13. 入所できる福祉施設の充実 |
| 14. 障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実 |
| 15. 障がい者同士や地域の人等と交流ができる場の整備 |
| 16. ボランティアの育成と活動支援 |
| 17. 文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援 |
| 18. 緊急時や災害時の支援体制の充実 |
| 19. 障がい者にやさしいまちづくりの推進（公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の※バリアフリー化や※ユニバーサルデザイン化） |
| 20. その他（ ） |
| 21. 特になし |

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア（障壁）をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差をなくしたり、出入口や廊下の幅員を広げる等、障がい者や高齢者等が生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア（障壁）を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア（障壁）を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障がいの有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

問38 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思
いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

ご協力ありがとうございました。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 本人が全部回答または記入した |
| 2. 他の人が本人の意思を確認しながら記入した |
| 3. 本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した |
| 4. その他 () |

いづかししょう ふうし かん ちょうさ ちょうさひょう
飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査
 (調査票B)

【ご協力のお願い】

日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市内にお住まいの療育手帳をお持ちの18歳以上の方から無作為に抽出した約400人の方を対象に、日常生活の状況やご要望等をおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成25年8月

飯塚市長

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- ひとり暮らしなどのため、調査票への記入が難しい場合は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、**8月23日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください(住所やお名前を書く必要はありません)。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課 電話：0948-22-5500 (内線1175)

FAX：0948-21-6356

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別、年齢についておたずねします。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性
(2) 年齢	満()歳	

問2 あなたの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。(○は1つだけ)

1. A	2. A1	3. A2	4. A3
5. B	6. B1	7. B2	

問3 どのような診断を受けていますか(○はあてはまるものすべて)

1. 発達遅滞	2. ダウン症
3. 自閉症	4. 情緒障がい(適応障がいを含む)
5. 脳性マヒ	6. てんかん
7. その他の知的障がいや発達障がい	

問4 最初に障がいが発生した時期をお答えください。(疾患の場合は発病時を意味します。)(○は1つだけ)

1. 出生時から	2. 乳幼児期(0~5歳)	3. 6~17歳
4. 18~39歳	5. 40~64歳	6. 65歳以上
7. わからない		

問5 あなたは「身体障がい者手帳」を持っていますか。持っている場合、手帳に記載された総合等級は何級ですか。(○は1つだけ)

1. 1級	2. 2級	3. 3級	
4. 4級	5. 5級	6. 6級	7. 身体障がい者手帳は持っていない

問5-1 (問5で1~6を選んだ方のみお答えください)どのような障がいですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 視覚	2. 聴覚	3. 平衡機能
4. 音声・言語・そしゃく機能	5. 上肢	6. 下肢
7. 体幹	8. 心臓	9. 呼吸器
10. じん臓	11. ぼうこう	12. 直腸
13. 小腸	14. 肝臓	15. その他()

問6 あなたは、精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。(〇は1つだけ)

1. 持っている 2. 持っていない 3. わからない

問7 あなたは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても〇をつけてください。

1. 認定を受けている
 ①区分1 ②区分2 ③区分3 ④区分4 ⑤区分5 ⑥区分6
2. 申請したが非該当
 3. 現在申請中
 4. 申請をしていない

問8 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(〇は1つだけ)

1. 自分の年金や手当 2. 自分の就労等による収入
 3. 家族の年金や手当 4. 家族の就労等による収入
 5. 生活保護 6. その他 ()

問9 あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(〇は1つだけ)

1. ほぼ毎日 2. 週1~2回 3. 月2~3回
 4. 年数回 5. 入院中 6. 受けていない

【問10は40歳以上の方のみお答えください】

問10 介護保険の要介護認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

1. 「要支援」と認定 2. 「要介護1」と認定
 3. 「要介護2」と認定 4. 「要介護3」と認定
 5. 「要介護4」と認定 6. 「要介護5」と認定
 7. 要介護認定を受けて「非該当」になった 8. 要介護認定は受けていない

問10-1 (問10で1~6を選んだ方のみお答えください) あなたは介護保険のサービスを利用していますか。(〇は1つだけ)

1. 利用している 2. 利用していない 3. わからない

問11 あなたの現在の住まいは次のどれですか。(〇は1つだけ)

1. 自分や家族の持ち家
 2. 民間の借家や賃貸アパート・マンション
 3. 市営・県営住宅、公社・公団住宅等
 4. 社宅や会社の寮、官公社等の住宅
 5. 共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム
 6. グループホーム・ケアホーム以外の福祉施設(入所中)
 7. その他 ()

問11-1 (問11で1~4を選んだ方のみお答えください) あなたは、現在、どなたと同居していますか。(続柄は、あて名のご本人からみたものをお選びください。〇はあてはまるものすべて)

1. 配偶者 2. 父親
 3. 母親 4. 祖父
 5. 祖母 6. 兄弟姉妹
 7. 子ども(子どもの配偶者含む)
 8. 孫(孫の配偶者含む)
 9. その他の家族・親族 10. 家族以外の人
 11. その他 () 12. いない(一人暮らし)

問11-2 (問11で6を選んだ方のみお答えください) 現在入所している施設での生活に満足していますか。(〇は1つだけ)

1. 満足 2. どちらかといえば満足 3. どちらかといえば不満
 4. 不満 5. わからない

問11-3 (問11で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(〇は1つだけ)

1. 施設ですっと暮らしたい
 2. 自宅に戻って暮らしたい
 3. 施設を出て、アパートなどを借りて暮らしたい
 4. 施設を出て、グループホームなどで暮らしたい
 5. その他 ()
 6. わからない

次ページ問11-4へお進みください

問 1 1 - 4 (問 1 1 - 3 で 1 を選んだ方のみお答えください) その理由はなぜですか。(○は1つだけ)

1. 施設を出て生活することに、不安や問題があるから
2. 施設での生活に満足しているから
3. その他 ()

問 1 1 - 5 (問 1 1 - 4 で 1 を選んだ方のみお答えください) どのような問題ですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 住むところの問題
2. 介護・支援をしてくれる人の問題
3. 経済的な問題
4. 日常生活を送る上での問題
5. 対人関係の問題
6. 漠然とした不安がある
7. その他 ()

問 1 1 - 6 (問 1 1 で 6 を選んだ方のみお答えください) あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 家族と同居できること
2. 昼間の介護・支援を頼める人がいること
3. 夜間の介護・支援を頼める人がいること
4. 食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがある等)
5. 掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
6. デイサービスや作業所等に通えること
7. ショートステイ等緊急時に宿泊できるところがあること
8. ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
9. 地域で独立して生活するためのアパートなどの住まい
10. 主治医や医療機関が近くにあること
11. 生活するのに十分な就労等による収入があること
12. 年金・手当・生活保護など経済的な面での公的な支援
13. 金銭の管理をしてくれるサービス
14. アパートを借りる際に、契約などの手続きを支援してくれるサービス
15. グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
16. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
17. その他 ()
18. 特にない

配偶者 生活状況についておたずねします

問 1 2 あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(○は1つだけ)

1. 配偶者
2. 父母
3. 祖父母
4. 兄弟姉妹
5. 子ども・孫(子ども・孫の配偶者含む)
6. その他の家族・親族
7. 家族以外の同居人
8. ホームヘルパー・家政婦等
9. ボランティア等
10. 福祉施設や医療機関の職員
11. その他 ()
12. 必要だが世話をしてくれる人がいない
13. 世話をしてもらう必要がない

問 1 2 - 1 (問 1 2 で 1 ~ 7 のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の周りの世話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(○は1つだけ)

1. 同居家族に頼む
2. 別居家族や親せきに頼む
3. 友人・知人に頼む
4. 近所の人に頼む
5. ホームヘルパー等に頼む
6. ボランティアに頼む
7. 介助者を雇う
8. 施設(短期入所)や病院に頼む
9. その他 ()
10. 介助を頼めるところがない
11. 介助を頼む必要がない
12. 考えたことがない・わからない

日中の過ごし方や就労状況についておたずねします

問13 あなたは、日中（平日）、主に何をして過ごしていますか。（○は1つだけ）

1. 正規の社員・従業員として働いている（自営業を含む）
2. パートやアルバイトとして働いている（家業手伝いを含む）
3. 就労支援事業所に通っている
4. 学校（4年制大学、短大、専門学校等）に通っている
5. 施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等に通っている（介護保険のサービスを除く）
6. 仲間同士の集まり等に参加している
7. 自宅で過ごしている
8. 医療機関や福祉施設等に入院・入所している
9. 介護保険のデイサービス等を利用している
10. その他（ ）

問13-1 （問13で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～7万円未満 | 5. 7万円～11万円未満 | 6. 11万円～15万円未満 |
| 7. 15万円～20万円未満 | 8. 20万円～30万円未満 | 9. 30万円以上 |

問13-2 （問13で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）仕事のことなどで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

1. 収入が少ない
2. 通院や病気・障がいを理由に休みを取ることが難しい
3. 勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
4. 仕事の内容が自分にあわない
5. 仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
6. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
7. 障がいへの理解が得にくく、人間関係がむずかしい
8. 職場の設備が不十分で障がい者にあつていないため使いにくい
9. 職場までの通勤がたいへん
10. 障がいがない人と比べて、仕事の内容や昇進等に差がある
11. その他（ ）
12. 特にない

【問14は仕事をしている方もしていない方もお答えください】

問14 障がい者が働くために、必要な条件はどのようなものですか。（○は3つまで）

1. 勤務する時間や日数を調整できること
2. 通勤手段があること
3. 通院等の保障があること
4. 自宅で仕事ができること
5. 賃金が妥当であること
6. 障がいにあつた仕事であること
7. 職業訓練等で就労のための技術を身につけること
8. ※ジョブコーチ（職場適応援助者）等職場に慣れるまで援助してくれる制度があること
9. 勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること
10. 周囲が自分を理解してくれること
11. 職場により指導者や先輩がいること
12. 就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること
13. その他（ ）
14. 特にない

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障がいのある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ち等をお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も 行います。

がいしゆつ

外出についておたずねします

問15 あなたが外出する回数はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回くらい | 3. 月に2～3回くらい |
| 4. 月に1回くらい | 5. 年に数回くらい | 6. 外出していない |

問16 外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1. J R・電車 | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自家用車 | 5. 自転車・バイク | 6. 車いす |
| 7. 徒歩 | 8. その他 () | |

問17 外出に関して、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|---|
| 1. 付き添ってくれる人がいない |
| 2. 障がい者用トイレが少ない |
| 3. 道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん |
| 4. 気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシーやリフト付きバス等) |
| 5. 障がい者用の駐車スペースや手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である |
| 6. 通路上に自転車や看板等の障がい物があるとおりにくい |
| 7. 外出先でコミュニケーションがとりにくい |
| 8. 必要などときに、まわりの人の手助けや配慮が足りない |
| 9. まわりの人の目が気になる |
| 10. 交通費の負担が大きい |
| 11. 外出したいが、外出するところがない |
| 12. その他 () |
| 13. 特にない・ほとんど外出しないのでわからない |

ふくし

福祉サービスについておたずねします

問18 現在あなたがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。

(〇はあてはまるものすべて)

※サービスの内容を別紙で解説していますので、あわせてご覧ください。

- | |
|---------------------------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ) |
| 2. 行動援護 |
| 3. 同行援護・移動支援 |
| 4. 生活介護 (通所によるデイサービス) |
| 5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) |
| 6. 就労移行支援 |
| 7. 就労継続支援A型 |
| 8. 就労継続支援B型 |
| 9. 短期入所 (ショートステイ) |
| 10. 日中一時支援 |
| 11. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 12. 共同生活介護 (ケアホーム) |
| 13. 施設入所支援 |
| 14. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理 |
| 15. 日常生活用具の給付 |
| 16. 訪問入浴サービス |
| 17. 訪問理髪サービス |
| 18. 寝具乾燥及び洗濯サービス |
| 19. 配食サービス |
| 20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し |
| 21. 住宅改造成事業 |
| 22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業) |
| 23. 地域活動支援センター |
| 24. 福祉タクシー利用券 |
| 25. 成年後見制度利用支援事業 |

問19 では、今後あなたが利用してみたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(〇はあてはまるものすべて)

1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
2. 行動援護
3. 同行援護・移動支援
4. 生活介護 (通所によるデイサービス)
5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
6. 就労移行支援
7. 就労継続支援A型
8. 就労継続支援B型
9. 短期入所 (ショートステイ)
10. 日中一時支援
11. 共同生活援助 (グループホーム)
12. 共同生活介護 (ケアホーム)
13. 施設入所支援
14. 補装具 (車いす、補聴器など)の交付・修理
15. 日常生活用具の給付
16. 訪問入浴サービス
17. 訪問理髪サービス
18. 寝具乾燥及び洗濯サービス
19. 配食サービス
20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
21. 住宅改造助成事業
22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
23. 地域活動支援センター
24. 福祉タクシー利用券
25. 成年後見制度利用支援事業

情報収集についておたずねします

問20 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市や県等の窓口 | 2. 市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等 |
| 3. 障がい者生活支援センター | 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員 |
| 5. 障がい者団体 | 6. 家族や友人・知人 |
| 7. 入所・通所している福祉施設の職員 | 8. ボランティア等の福祉団体 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所・薬局等 |
| 11. 学校・職場 | 12. 新聞・雑誌 |
| 13. テレビ・ラジオ | 14. インターネット |
| 15. その他 () | 16. 特になし |

問21 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分 | 2. どちらかといえば十分 |
| 3. どちらかといえば不十分 | 4. 不十分 |
| 5. わからない | |

問21-1 (問21で3または4を選んだ方のみお答えください) あなたがそう思われるのはどのような理由からですか。ご自由にお書きください。

問22 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何か。(〇は3つまで)

1. 社会情勢や福祉制度の変化等に関する情報
2. 福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報
3. 困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報
4. 学校の選び方等の就学に関する情報
5. 仕事の選び方等の就職に関する情報
6. 文化・スポーツやレクリエーション、レジャー等の余暇活動に関する情報
7. 災害時の避難情報
8. ボランティア団体等に関する情報
9. その他 ()
10. 特になし

さいがいたいさく
災害対策についておたずねします

問23 あなたは、自宅近くの災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている 2. 知らない

問24 あなたは、仕事場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている 2. 知らない

問25 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(〇は1つだけ)

1. 立っている 2. 立っていない

問25-1 (問25で1を選んだ方のみお答えください) それはどのような内容ののですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家族と避難方法を決めている
2. 地域の人等と避難方法を決めている
3. ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる
4. 近所の人に災害時の手助けを頼んでいる
5. 食料や水等の防災用品を用意している
6. 必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる
7. その他 ()

問26 あなたは、災害時にひとりで避難ができますか。(〇は1つだけ)

1. できる 2. できない 3. わからない

問27 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保等で頼れる人は誰ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 同居の家族 2. 近所の別居家族や親戚
3. 近所の友人・知人 4. 自治会長、隣組長など
5. 地元の消防団員 6. 民生委員、福祉委員
7. 施設の職員や仲間 8. その他 ()
9. いない

問28 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、あなたはどのような支援が必要ですか。(〇は3つまで)

1. 薬や日常生活用具等の備蓄
2. 医療的ケアの確保
3. バリアフリー化された避難場所
4. 避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに対応した設備の確保
5. 障がいに対応した災害情報の提供
6. 避難するときの介助・支援
7. コミュニケーション手段の確保
8. 障がいに対応した相談支援体制の確保
9. その他 ()
10. 特にない

問29 災害時にひとりで避難ができない方々の情報を、地域の防災組織にあらかじめ知らせておき、避難支援体制を整えておくことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。(〇は1つだけ)

1. 協力する
2. 方法によっては協力する
3. 協力しない

問29-1 (問29で3を選んだ方のみお答えください) それはなぜですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. プライバシーが守れない
2. 他人の手を借りたくない
3. ほかの手段で避難できる
4. その他 ()
5. わからない

しゃかいさんか ちいき せいかつ
社会参加や地域での生活についておたずねします

とひ 問30 あなたは、ふだんちいきかたどのようなおつきあいをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 会えばあいさつしあう程度
2. 世間話をする
3. 一緒に遊んだり、出かけたりする
4. 自治会等の地域活動と一緒に参加する
5. 盆踊りや祭り等の行事と一緒に楽しむ
6. サークル等で趣味やスポーツの活動と一緒に楽しむ
7. 学校や職場の行事と一緒に参加する
8. 入所・通所している施設の行事等で交流する
9. その他 ()
10. つきあいはしていない

とひ 問31 あなたが地域で行われる行事や余暇活動(文化・スポーツ・レクリエーション活動等)に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. どのような活動が行われているか知らない
2. 気軽に参加できる活動が少ない
3. 一緒に活動する友人・仲間がない
4. 家事・仕事等との都合が難しい
5. 活動場所が近くにない・移動手段がない
6. 健康や体力に自信がない
7. コミュニケーションが難しい
8. 費用がかかる
9. 参加したくなるようなものがない
10. 参加したいが誘ってもらえない
11. 過去に参加したが期待はずれだった
12. その他 ()
13. 特にない
14. 参加しようとは思わない

とひ 問32 今後、余暇活動として、どのような活動をしたいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. スポーツ | 2. レクリエーション |
| 3. 旅行 | 4. 買い物 |
| 5. ボランティア活動 | 6. ※セルフヘルプ活動 |
| 7. 趣味等のサークル活動・生涯学習 | 8. 講座・講演会等への参加 |
| 9. 地域の行事や祭り、学校・職場の行事 | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |

※セルフヘルプ活動とは、同じような立場(病気・障がい等)の方たちが、その思いや体験を共有しながら、専門家の支援・援助を受けることなく、自らも自立しながら相互に支え合うことです。

せいかつぜんぱん
生活全般についておたずねします

とひ 問33 今後、あなたが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 障がいや健康上のこと
2. 経済的なこと
3. 仕事のこと
4. 日中の行き場所や過ごし方
5. 住まいのこと(アパートなどを借りるときの保証人の問題、公営住宅への入居など)
6. 結婚のこと
7. 子育てのこと
8. 家庭内の問題
9. 友人関係、仲間との交流
10. 周囲の人の理解について
11. 通院、通勤、通学のこと
12. 食事や洗濯など日常のこと
13. 生きがいについて
14. 財産の管理
15. その他 ()
16. 特にない

問34 生活の中で困っていることや不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 市や県等の職員 | 2. 障がい者生活支援センターの職員等 |
| 3. 障がい者相談員や民生委員、福祉委員 | 4. 障がい者団体 |
| 5. 家族 | 6. 友人・知人、近所の人 |
| 7. ボランティア等の福祉団体 | 8. 入所・通所している福祉施設の職員 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所の医師や看護師等 |
| 11. 学校・職場の関係者 | 12. その他() |
| 13. 相談する人がいない | |

問35 障がい者に対する市民の理解について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 理解がある | 2. どちらかといえば理解がある |
| 3. どちらかといえば理解がない | 4. 理解がない |
| 5. どちらともいえない | |

問36 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あると思う | 2. 少しはあると思う |
| 3. ないと思う | 4. わからない |

問36-1 (問36で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください) 差別や偏見をどのような場所で感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|----------------------------------|
| 1. まちなかでの人の視線 |
| 2. 行政職員の対応、態度 |
| 3. 店での扱いや店員の態度 |
| 4. 仕事や収入 |
| 5. 教育の機会 |
| 6. 近所づきあい |
| 7. 地域の行事や集まり |
| 8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと |
| 9. その他() |

問37 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり改善されている | 2. ある程度改善されている |
| 3. あまり改善されていない | 4. ほとんど改善されていない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

福祉全般についておたずねします

問38 障がいがある人に対する支援として、行政(国・県・市)はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(〇は5つまで)

- | |
|---|
| 1. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実 |
| 2. 障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実 |
| 3. 市の審議会や委員会等への障がい者の参画(登用) |
| 4. 就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等) |
| 5. 年金や手当等の充実 |
| 6. 公営住宅への障がい者優先入居等住宅施策の充実 |
| 7. グループホーム等の地域で共同生活できる住まいの整備 |
| 8. 障がい者の結婚や子育て等に対する支援の充実 |
| 9. 機能回復訓練等リハビリテーションの充実 |
| 10. 在宅生活を支えるための医療の充実 |
| 11. 通院・治療のためのいりょうひ じよせい 助成 |
| 12. ホームヘルプやデイサービス、外出支援等の在宅サービスの充実 |
| 13. 入所できる福祉施設の充実 |
| 14. 障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実 |
| 15. 障がい者同士や地域の人等と交流ができる場の整備 |
| 16. ボランティアの育成と活動支援 |
| 17. 文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援 |
| 18. 緊急時や災害時の支援体制の充実 |
| 19. 障がい者にやさしいまちづくりの推進(公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の*バリアフリー化や*ユニバーサルデザイン化) |
| 20. その他() |
| 21. 特にない |

※バリアフリー: バリアフリーとは、バリア(障壁)をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差をなくしたり、出入口や廊下の幅員を広げる等、障がい者や高齢者等が生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア(障壁)を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン: バリア(障壁)を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障がいの有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

問39 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思
いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

ご協力ありがとうございました。

障がい者福祉についてあなたが普段お考えになっていることや、あなたの将来の夢や希望など、何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

- | |
|------------------------------------|
| 1. 本人が全部回答または記入した |
| 2. 他の人が本人の意思を確認しながら記入した |
| 3. 本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した |
| 4. その他 () |

いづかししょう ぶんし かん ちょうさ
飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査
 ちょうさひょう
(調査票C)

きょうりょく ねが
【ご協力のお願い】

ひごら いづかし しょう ぶんし しょう ぶんし ぶんし ぶんし ぶんし
 日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

いづかし しょう ぶんし ぶんし ぶんし ぶんし ぶんし ぶんし
 飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市内にお住まいの自立支援医療（精神通院医療）受給者の方等から無作為に抽出した約400人の方を対象に、日常生活の状況やご要望等をおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成25年8月

いづかしちやう
飯塚市長

きにゆう ちゆうい
記入にあたってのご注意

- この調査票は、**できる限りあて名のご本人がお答えください。**
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、**主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。**
- ひとり暮らしなどのため、調査票への記入が難しい場合は、**下記のお問い合わせ先にご連絡ください。**
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、**8月23日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください（住所やお名前を書く必要はありません）。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課

電話：0948-22-5500（内線1175）

F A X : 0948-21-6356

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別、年齢についておたずねします。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性
(2) 年齢	満 () 歳	

問2 あなたは精神障がい者保健福祉手帳をお持ちですか。

1. 持っている
2. 持っていない
3. わからない

問2-1 (問2で1を選んだ方のみお答えください) あなたの「精神障がい者保健福祉手帳」の等級は次のどれですか。(○は1つだけ)

等級の数字に○印	→	1	2	3
		級	級	級

問2-2 (問2で2を選んだ方のみお答えください) 精神障がい者保健福祉手帳を持っていない主な理由は何ですか。(○は1つだけ)

1. 利用価値が少ないから	2. 障がいを知られたくないから
3. 手続きがわずらわしいから	4. 自分是对象外であると思うから
5. 手帳のことを知らなかったから	6. その他 ()

問3 あなたの受けている診断のうち、主なものは何ですか。(○は1つだけ)

1. 統合失調症（非定型精神病を含む）
2. そううつ病・うつ病
3. アルコール依存症（薬物依存症を含む）
4. 認知症（高次脳機能障がい等を含む）
5. 神経症（不安神経症、強迫神経症等）
6. てんかん
7. その他（アルペルガー症候群、人格障がい等）
8. 病名は知らない、聞いていない

問4 問3で回答したもののほかに受けている診断はありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 統合失調症 (非定型精神病を含む)
2. そううつ病・うつ病
3. アルコール依存症 (薬物依存症を含む)
4. 認知症 (高次脳機能障がい等を含む)
5. 神経症 (不安神経症、強迫神経症等)
6. てんかん
7. その他 (アルペルガー症候群、人格障がい等)
8. ほかに受けている診断はない

問5 最初に障がいが発生した時期をお答えください。(疾患の場合は発病時を意味します。)(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|----------------|----------|
| 1. 出生時から | 2. 乳幼児期 (0～5歳) | 3. 6～17歳 |
| 4. 18～39歳 | 5. 40～64歳 | 6. 65歳以上 |
| 7. わからない | | |

問6 あなたは、精神障がい者保健福祉手帳以外の障がい者手帳をお持ちですか。(○は1つだけ)

1. 身体障がい者手帳を持っている
2. 療育手帳を持っている
3. 身体障がい者手帳と療育手帳を持っている
4. 持っていない

問7 あなたは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても○をつけてください。

1. 認定を受けている
 → ①区分1 ②区分2 ③区分3 ④区分4 ⑤区分5 ⑥区分6
2. 申請したが非該当
3. 現在申請中
4. 申請をしていない

問8 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 自分の年金や手当 | 2. 自分の就労等による収入 |
| 3. 家族の年金や手当 | 4. 家族の就労等による収入 |
| 5. 生活保護 | 6. その他 () |

問9 あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察 (機能訓練、デイケアなどを含む) を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2回 | 3. 月2～3回 |
| 4. 年数回 | 5. 入院中 | 6. 受けていない |

【問10は40歳以上の方のみお答えください】

問10 介護保険の要介護認定を受けていますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 「要支援」と認定 | 2. 「要介護1」と認定 |
| 3. 「要介護2」と認定 | 4. 「要介護3」と認定 |
| 5. 「要介護4」と認定 | 6. 「要介護5」と認定 |
| 7. 要介護認定を受けて「非該当」になった | 8. 要介護認定は受けていない |

問10-1 (問10で1～6を選んだ方のみお答えください) あなたは介護保険のサービスを利用していますか。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問11 あなたの現在の住まいは次のどれですか。(○は1つだけ)

1. 自分や家族の持ち家
2. 民間の借家や賃貸アパート・マンション
3. 市営・県営住宅、公社・公団住宅等
4. 社宅や会社の寮、官公社等の住宅
5. 共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム
6. グループホーム・ケアホーム以外の福祉施設 (入所中)
7. その他 ()

問11-1 (問11で1～4を選んだ方のみお答えください) あなたは、現在、どなたと同居していますか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 配偶者 | 2. 父親 |
| 3. 母親 | 4. 祖父 |
| 5. 祖母 | 6. 兄弟姉妹 |
| 7. 子ども (子どもの配偶者含む) | 8. 孫 (孫の配偶者含む) |
| 9. その他の家族・親族 | 10. 家族以外の人 |
| 11. その他 () | 12. いない (一人暮らし) |

次ページ問11-2へお進みください

問11-2 (問11で6を選んだ方のみお答えください) 現在入所している施設での生活に満足していますか。(〇は1つだけ)

1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらかといえば不満
4. 不満
5. わからない

問11-3 (問11で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(〇は1つだけ)

1. 施設でずっと暮らしたい
2. 自宅に戻って暮らしたい
3. 施設を出て、アパートなどを借りて暮らしたい
4. 施設を出て、グループホームなどで暮らしたい
5. その他 ()
6. わからない

問11-4 (問11-3で1を選んだ方のみお答えください) その理由はなぜですか。(〇は1つだけ)

1. 施設を出て生活することに、不安や問題があるから
2. 施設での生活に満足しているから
3. その他 ()

問11-5 (問11-4で1を選んだ方のみお答えください) どのような問題ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 住むところの問題
2. 介護・支援をしてくれる人の問題
3. 経済的な問題
4. 日常生活を送る上での問題
5. 対人関係の問題
6. 漠然とした不安がある
7. その他 ()

問11-6 (問11で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家族と同居できること
2. 昼間の介護・支援を頼める人がいること
3. 夜間の介護・支援を頼める人がいること
4. 食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがある等)
5. 掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
6. デイサービスや作業所等に通えること
7. ショートステイ等緊急時に宿泊できる場所があること
8. ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
9. 地域で独立して生活するためのアパートなどの住まい
10. 主治医や医療機関が近くにあること
11. 生活するのに十分な就労等による収入があること
12. 年金・手当・生活保護など経済的な面での公的な支援
13. 金銭の管理をしてくれるサービス
14. アパートを借りる際に、契約などの手続きを支援してくれるサービス
15. グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
16. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
17. その他 ()
18. 特にない

生活状況についておたずねします

問12 あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1. 配偶者 | 2. 父母 |
| 3. 祖父母 | 4. 兄弟姉妹 |
| 5. 子ども・孫 (子ども・孫の配偶者含む) | 6. その他の家族・親族 |
| 7. 家族以外の同居人 | 8. ホームヘルパー・家政婦等 |
| 9. ボランティア等 | 10. 福祉施設や医療機関の職員 |
| 11. その他 () | 12. 必要だが世話をしてくれる人がいない |
| 13. 世話をしてもらう必要がない | |

問12-1 (問12で1~7のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の周りの世話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1. 同居家族に頼む | 2. 別居家族や親せきに頼む |
| 3. 友人・知人に頼む | 4. 近所の人に頼む |
| 5. ホームヘルパー等に頼む | 6. ボランティアに頼む |
| 7. 介助者を雇う | 8. 施設(短期入所)や病院に頼む |
| 9. その他 () | 10. 介助を頼めるところがない |
| 11. 介助を頼む必要がない | 12. 考えたことがない・わからない |

問13 あなたの今の症状はいかがですか。(〇は1つだけ)

- | |
|------------------------|
| 1. かなり良くなってきている |
| 2. 少しずつ良くなってきている |
| 3. あまり変化がない |
| 4. 少しずつ悪くなってきている |
| 5. かなり悪くなっている |
| 6. 良くなったり悪くなったりと不安定である |

問14 あなたは、精神的に急に具合が悪くなり、誰かの支援が必要になった場合、家族・親族以外では、誰(どこ)に相談しますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|-------------------------|
| 1. 主治医やかかりつけの医療機関 |
| 2. 保健福祉環境事務所や市役所の相談窓口 |
| 3. 生活支援センターの職員やピアカウンセラー |
| 4. 友人・知人、近所の人 |
| 5. 当事者団体や家族会等の関係者 |
| 6. 保健師 |
| 7. ホームヘルパーや訪問看護師等 |
| 8. その他 () |
| 9. 相談するところがない |
| 10. 相談しない |

※障がいがある人が自らの経験を活かして同じ障がいがある人の相談にのることを「ピアカウンセリング」といい、「ピアカウンセラー」とはその相談相手となる人のことをさします。

日中の過ごし方や就労状況についておたずねします

問15 あなたは、日中(平日)、主に何をしておすごしていますか。(〇は1つだけ)

- | |
|---|
| 1. 正規の社員・従業員として働いている(自営業を含む) |
| 2. パートやアルバイトとして働いている(家業手伝いを含む) |
| 3. 就労支援事業所に通っている |
| 4. 学校(4年制大学、短大、専門学校等)に通っている |
| 5. 施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等に通っている(介護保険のサービスを除く) |
| 6. 仲間同士の集まり等に参加している |
| 7. 自宅で過ごしている |
| 8. 医療機関や福祉施設等に入院・入所している |
| 9. 介護保険のデイサービス等を利用している |
| 10. その他 () |

問15-1 (問15で1~3のいずれかを選んだ方のみお答えください) あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円~1万円未満 | 3. 1万円~3万円未満 |
| 4. 3万円~7万円未満 | 5. 7万円~11万円未満 | 6. 11万円~15万円未満 |
| 7. 15万円~20万円未満 | 8. 20万円~30万円未満 | 9. 30万円以上 |

次ページ問15-2へお進みください

問15-2 (問15で1~3のいずれかを選んだ方のみお答えください) 仕事の内容で悩んでいることや困っていることがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 収入が少ない
 2. 通院や病氣・障がい理由に休みを取ることが難しい
 3. 勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
 4. 仕事の内容が自分にあわない
 5. 仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
 6. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
 7. 障がいへの理解が得にくく、人間関係がむづかしい
 8. 職場の設備が不十分で障がい者にあていないため使いにくい
 9. 職場までの通勤がたいへん
 10. 障がいがない人と比べて、仕事の内容や昇進等に差がある
- 1 1. その他 ()
- 1 2. 特にない

【問16は仕事をしている方もしていない方もお答えください】

問16 障がい者が働くために、必要な条件はどのようなものですか。(〇は3つまで)

1. 勤務する時間や日数を調整できること
2. 通勤手段があること
3. 通院等の保障があること
4. 自宅で仕事ができること
5. 賃金が妥当であること
6. 障がいにあった仕事であること
7. 職業訓練等で就労のための技術を身につけること
8. ※ジョブコーチ(職場適応援助者)等職場に慣れるまで援助してくれる制度があること
9. 勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること
10. 周囲が自分を理解してくれること
- 1 1. 職場により指導者や先輩がいること
- 1 2. 就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること
- 1 3. その他 ()
- 1 4. 特にない

※ジョブコーチ(職場適応援助者)とは、障がいのある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ち等をお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことです。事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も行います。

がいしゆつ
外出についておたずねします

問17 あなたが外出する回数はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2~3回くらい | 3. 月に2~3回くらい |
| 4. 月に1回くらい | 5. 年に数回くらい | 6. 外出していない |

問18 外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. JR・電車 | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自家用車 | 5. 自転車・バイク | 6. 車いす |
| 7. 徒歩 | 8. その他 () | |

問19 外出に関して、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 付き添ってくれる人がいない
2. 障がい者用トイレが少ない
3. 道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん
4. 気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシーやリフト付きバス等)
5. 障がい者用の駐車スペースや手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である
6. 通路上に自転車や看板等の障がい物があるとおりにくい
7. 外出先でコミュニケーションがとりにくい
8. 必要などきに、まわりの人の手助けや配慮が足りない
9. まわりの人の目が気になる
10. 交通費の負担が大きい
- 1 1. 外出したいが、外出するところがない
- 1 2. その他 ()
- 1 3. 特にない・ほとんど外出しないのでわからない

福祉サービスについておたずねします

問20 現在あなたがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。

(○はあてはまるものすべて)

※サービスの内容を別紙で解説していますので、あわせてご覧ください。

- 1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
- 2. 行動援護
- 3. 同行援護・移動支援
- 4. 生活介護 (通所によるデイサービス)
- 5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
- 6. 就労移行支援
- 7. 就労継続支援A型
- 8. 就労継続支援B型
- 9. 短期入所 (ショートステイ)
- 10. 日中一時支援
- 11. 共同生活援助 (グループホーム)
- 12. 共同生活介護 (ケアホーム)
- 13. 施設入所支援
- 14. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理
- 15. 日常生活用具の給付
- 16. 訪問入浴サービス
- 17. 訪問理髪サービス
- 18. 寝具乾燥及び洗濯サービス
- 19. 配食サービス
- 20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
- 21. 住宅改造成事業
- 22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
- 23. 地域活動支援センター
- 24. 福祉タクシー利用券
- 25. 成年後見制度利用支援事業

問21 では、今後あなたが利用してみたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(○はあてはまるものすべて)

- 1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
- 2. 行動援護
- 3. 同行援護・移動支援
- 4. 生活介護 (通所によるデイサービス)
- 5. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
- 6. 就労移行支援
- 7. 就労継続支援A型
- 8. 就労継続支援B型
- 9. 短期入所 (ショートステイ)
- 10. 日中一時支援
- 11. 共同生活援助 (グループホーム)
- 12. 共同生活介護 (ケアホーム)
- 13. 施設入所支援
- 14. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理
- 15. 日常生活用具の給付
- 16. 訪問入浴サービス
- 17. 訪問理髪サービス
- 18. 寝具乾燥及び洗濯サービス
- 19. 配食サービス
- 20. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
- 21. 住宅改造成事業
- 22. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
- 23. 地域活動支援センター
- 24. 福祉タクシー利用券
- 25. 成年後見制度利用支援事業

じょうほうしゅうしゅうしゅう
情報収集についておたずねします

問22 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市や県等の窓口 | 2. 市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等 |
| 3. 障がい者生活支援センター | 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員 |
| 5. 障がい者団体 | 6. 家族や友人・知人 |
| 7. 入所・通所している福祉施設の職員 | 8. ボランティア等の福祉団体 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所・薬局等 |
| 11. 学校・職場 | 12. 新聞・雑誌 |
| 13. テレビ・ラジオ | 14. インターネット |
| 15. その他 () | 16. 特にない |

問23 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分 | 2. どちらかといえば十分 |
| 3. どちらかといえば不十分 | 4. 不十分 |
| 5. わからない | |

問23-1 (問23で3または4を選んだ方のみお答えください) あなたがそう思われるのはどのような理由からですか。ご自由にお書きください。

問24 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何ですか。(〇は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 社会情勢や福祉制度の変化等に関する情報 |
| 2. 福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 |
| 3. 困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報 |
| 4. 学校の選び方等の就学に関する情報 |
| 5. 仕事の選び方等の就職に関する情報 |
| 6. 文化・スポーツやレクリエーション、レジャー等の余暇活動に関する情報 |
| 7. 災害時の避難情報 |
| 8. ボランティア団体等に関する情報 |
| 9. その他 () |
| 10. 特にない |

さいがいたさいく
災害対策についておたずねします

問25 あなたは、自宅近くの災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問26 あなたは、仕事場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問27 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 立てている | 2. 立てていない |
|----------|-----------|

問27-1 (問27で1を選んだ方のみお答えください) それはどのような内容ののですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|---------------------------|
| 1. 家族と避難方法を決めている |
| 2. 地域の人等と避難方法を決めている |
| 3. ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる |
| 4. 近所の人に災害時の手助けを頼んでいる |
| 5. 食料や水等の防災用品を用意している |
| 6. 必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる |
| 7. その他 () |

問28 あなたは、災害時にひとりで避難ができますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

問29 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保等で頼れる人は誰ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 同居の家族 | 2. 近所の別居家族や親戚 |
| 3. 近所の友人・知人 | 4. 自治会長、隣組長など |
| 5. 地元の消防団員 | 6. 民生委員、福祉委員 |
| 7. 施設の職員や仲間 | 8. その他 () |
| 9. いない | |

問30 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、あなたはどのような支援が必要ですか。
(〇は3つまで)

1. 薬や日常生活用具等の備蓄
2. 医療的ケアの確保
3. バリアフリー化された避難場所
4. 避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保
5. 障がいに対応した災害情報の提供
6. 避難するときの介助・支援
7. コミュニケーション手段の確保
8. 障がいに対応した相談支援体制の確保
9. その他 ()
10. 特にない

問31 災害時にひとりで避難ができない方々の情報を、地域の防災組織にあらかじめ知らせておき、避難支援体制を整えておくことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。(〇は1つだけ)

1. 協力する
2. 方法によっては協力する
3. 協力しない

問31-1 (問31で3を選んだ方のみお答えください) それはなぜですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. プライバシーが守れない
2. 他人の手を借りたくない
3. ほかに手段で避難できる
4. その他 ()
5. わからない

社会参加や地域での生活についておたずねします

問32 あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 会えばあいさつしあう程度
2. 世間話をする
3. 一緒に遊んだり、出かけたりする
4. 自治会等の地域活動と一緒に参加する
5. 盆踊りや祭り等の行事と一緒に楽しむ
6. サークル等で趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ
7. 学校や職場の行事と一緒に参加する
8. 入所・通所している施設の行事等で交流する
9. その他 ()
10. つきあいはしていない

問33 あなたが地域で行われる行事や余暇活動(文化・スポーツ・レクリエーション活動等)に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. どのような活動が行われているか知らない
2. 気軽に参加できる活動が少ない
3. 一緒に活動する友人・仲間がいない
4. 家事・仕事等との都合が難しい
5. 活動場所が近くにない・移動手段がない
6. 健康や体力に自信がない
7. コミュニケーションが難しい
8. 費用がかかる
9. 参加したくなるようなものがない
10. 参加したいが誘ってもらえない
11. 過去に参加したが期待はずれだった
12. その他 ()
13. 特にない
14. 参加しようとは思わない

問34 今後、余暇活動として、どのような活動をしたいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. スポーツ | 2. レクリエーション |
| 3. 旅行 | 4. 買い物 |
| 5. ボランティア活動 | 6. ※セルフヘルプ活動 |
| 7. 趣味等のサークル活動・生涯学習 | 8. 講座・講演会等への参加 |
| 9. 地域の行事や祭り、学校・職場の行事 | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |

※セルフヘルプ活動とは、同じような立場(病気・障がい等)の方たちが、その思いや体験を共有しながら、専門家の支援・援助を受けることなく、自らも自立しながら相互に支え合うことです。

生活全般についておたずねします

問35 今後、あなたが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|--|
| 1. 障がいや健康上のこと |
| 2. 経済的なこと |
| 3. 仕事のこと |
| 4. 日中の行き場所や過ごし方 |
| 5. 住まいのこと(アパートなどを借りる時の保証人の問題、公営住宅への入居など) |
| 6. 結婚のこと |
| 7. 子育てのこと |
| 8. 家庭内の問題 |
| 9. 友人関係、仲間との交流 |
| 10. 周囲の人の理解について |
| 11. 通院、通勤、通学のこと |
| 12. 食事や洗濯など日常のこと |
| 13. 生きがいについて |
| 14. 財産の管理 |
| 15. その他 () |
| 16. 特にない |

問36 生活の中で困っていることや不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 市や県等の職員 | 2. 障がい者生活支援センターの職員等 |
| 3. 障がい者相談員や民生委員、福祉委員 | 4. 障がい者団体 |
| 5. 家族 | 6. 友人・知人、近所の人 |
| 7. ボランティア等の福祉団体 | 8. 入所・通所している福祉施設の職員 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所の医師や看護師等 |
| 11. 学校・職場の関係者 | 12. その他 () |
| 13. 相談する人がいない | |

問37 障がい者に対する市民の理解について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|------------------|------------------|
| 1. 理解がある | 2. どちらかといえば理解がある |
| 3. どちらかといえば理解がない | 4. 理解がない |
| 5. どちらともいえない | |

問38 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あると思う | 2. 少しはあると思う |
| 3. ないと思う | 4. わからない |

問38-1 (問38で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください)差別や偏見をどのような場所で感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|----------------------------------|
| 1. まちなかでの人の視線 |
| 2. 行政職員の対応、態度 |
| 3. 店での扱いや店員の態度 |
| 4. 仕事や収入 |
| 5. 教育の機会 |
| 6. 近所づきあい |
| 7. 地域の行事や集まり |
| 8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと |
| 9. その他 () |

問39 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり改善されている | 2. ある程度改善されている |
| 3. あまり改善されていない | 4. ほとんど改善されていない |
| 5. どちらともいえない | |
| 6. わからない | |

福祉全般についておたずねします

問40 障がいがある人に対する支援として、行政(国・県・市)はどのようなことを充実
すべきだと思いますか。(〇は5つまで)

1. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実
2. 障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実
3. 市の審議会や委員会等への障がい者の参画(登用)
4. 就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等)
5. 年金や手当等の充実
6. 公営住宅への障がい者優先入居等住宅施策の充実
7. グループホーム等の地域で共同生活できる住まいの整備
8. 障がい者の結婚や子育て等に対する支援の充実
9. 機能回復訓練等リハビリテーションの充実
10. 在宅生活を支えるための医療の充実
11. 通院・治療のための医療費の助成
12. ホームヘルプやデイサービス、外出支援等の在宅サービスの充実
13. 入所できる福祉施設の充実
14. 障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実
15. 障がい者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
16. ボランティアの育成と活動支援
17. 文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
18. 緊急時や災害時の支援体制の充実
19. 障がい者にやさしいまちづくりの推進(公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等の
※バリアフリー化や※ユニバーサルデザイン化)
20. その他()
21. 特にない

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア(障壁)をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差をなくしたり、出入口や廊下の幅員を広げる等、障がい者や高齢者等が生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア(障壁)を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア(障壁)を除去するというバリアフリーの考え方に對して、あらかじめ障がいの有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

問41 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

ご協力ありがとうございました。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

- | |
|-----------------------------------|
| 1. 本人が全部回答または記入した |
| 2. 他人が本人の意思を確認しながら記入した |
| 3. 本人の意思を確認するのは困難であり、他人が回答または記入した |
| 4. その他() |

いいづかししょう ふくし かん ちょうさ ちょうさひょう
飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査
 (調査票D)

【ご協力のお願い】

日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市内にお住まいの18歳未満の障がいがあるお子さん(身体障がい者手帳または療育手帳をお持ちのお子さん等)から無作為に抽出した約300人のお子さんの保護者の方を対象に、日常生活の状況やご要望等をおうかがいするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、お子さんのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。
 平成25年8月

飯塚市長

記入にあたってのご注意

- この調査票は、**あて名のお子さんの保護者の方がお答えください。**
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、**8月23日(金)まで**に、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください(住所やお名前を書く必要はありません)。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課 電話：0948-22-5500(内線1175)
 F A X : 0948-21-6356

お子さんやご家族のこと等についておたずねします

問1 お子さんの性別、年齢についておたずねします。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性
(2) 年齢	満()歳	

問2 あなたのお子さんをお持ちの障がい者手帳の種類は何ですか。(○は1つだけ)

1. 身体障がい者手帳のみ	2. 療育手帳のみ
3. 身体障がい者手帳と療育手帳	4. 精神障がい者保健福祉手帳のみ
5. 身体障がい者手帳と精神障がい者保健福祉手帳	6. 療育手帳と精神障がい者保健福祉手帳
7. 身体障がい者手帳と療育手帳と精神障がい者保健福祉手帳	8. 手帳は持っていない

問2-1 (お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください) お子さんの身体障がい者手帳に記載された総等級は何級ですか。(○は1つだけ)

等級の数字に○印 →

1	2	3	4	5	6
級	級	級	級	級	級

問2-2 (お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください) お子さんの身体障がい者手帳に記載されたもののうち、主な障がいはどれですか。(○は1つだけ)

1. 視覚	2. 聴覚	3. 平衡機能
4. 音声・言語・そしやく機能	5. 上肢	6. 下肢
7. 体幹	8. 心臓	9. 呼吸器
10. じん臓	11. ぼうこう	12. 直腸
13. 小腸	14. 肝臓	15. その他()

問2-3 (お子さんが身体障がい者手帳をお持ちの方のみお答えください) 問2-2で回答した障がいのほかに、「重複する障がい」がありますか。(○はあてはまるものすべて)

1. 視覚	2. 聴覚	3. 平衡機能
4. 音声・言語・そしやく機能	5. 上肢	6. 下肢
7. 体幹	8. 心臓	9. 呼吸器
10. じん臓	11. ぼうこう	12. 直腸
13. 小腸	14. 肝臓	15. その他()
16. 重複する障がいはない		

問2-4 (お子さんが療育手帳をお持ちの方のみお答えください) あなたのお子さんの「療育手帳」の判定は、次のどれですか。(〇は1つだけ)

- | | | | |
|------|-------|-------|-------|
| 1. A | 2. A1 | 3. A2 | 4. A3 |
| 5. B | 6. B1 | 7. B2 | |

問3 あなたのお子さんは、以下のような診断を受けていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| 1. 発達障がい | 2. ダウン症 |
| 3. 自閉症 | 4. 情緒障がい(適応障がいを含む) |
| 5. 脳性マヒ | 6. てんかん |
| 7. アスペルガー症候群 | 8. 学習障がい(LD) |
| 9. 注意欠陥・多動性障がい(ADHD) | 10. その他の知的障がいや発達障がい |
| 11. 知的障がいや発達障がいの診断を受けていない | |

問4 お子さんの障がい発症した時期をお答えください。(疾患の場合は発病時を意味します。)(〇は1つだけ)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 1. 出生時から | 2. 0歳 | 3. 1~2歳 |
| 4. 3~5歳 | 5. 6~12歳 | 6. 13~17歳 |
| 7. わからない | | |

問5 お子さんは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても〇をつけてください。

- | |
|---|
| 1. 認定を受けていない |
| 2. 認定を受けている |
| ①区分1 ②区分2 ③区分3 ④区分4 ⑤区分5 ⑥区分6 |

問6 お子さんは、現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察(機能訓練、デイケアなどを含む)を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1~2回 | 3. 月2~3回 |
| 4. 年数回 | 5. 入院中 | 6. 受けていない |

問7 お子さんの現在のお住まいは次のどれですか。(〇は1つだけ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 自分や家族の持ち家 |
| 2. 民間の借家や賃貸アパート・マンション |
| 3. 市営・県営住宅、公社・公団住宅等 |
| 4. 社宅や会社の寮、官公社等の住宅 |
| 5. 学校の寮 |
| 6. 共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム |
| 7. グループホーム・ケアホーム以外の福祉施設(入所中) |
| 8. その他() |

問7-1 (問7で1~4を選んだ方のみお答えください) お子さんは、現在、どなたと同居していますか。(続柄は、あて名のご本人から見たものをお選びください。〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|-----------|---------|-------------|
| 1. 父親 | 2. 母親 | 3. 祖父 |
| 4. 祖母 | 5. 兄弟姉妹 | 6. その他家族・親族 |
| 7. 家族以外の人 | | |
| 8. その他() | | |

問7-2 (問7で7を選んだ方のみお答えください) 現在入所している施設での対応に満足していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|----------|---------------|---------------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらかといえば不満 |
| 4. 不満 | | |
| 5. わからない | | |

問7-3 (問7で7を選んだ方のみお答えください) お子さんには、将来、どのように暮らしてほしいと思いますか。(〇は1つだけ)

- | |
|----------------------------|
| 1. 施設ですずくと暮らしてほしい |
| 2. 自宅に戻って暮らしてほしい |
| 3. 施設を出て、アパートなどを借りて暮らしてほしい |
| 4. 施設を出て、グループホームなどで暮らしてほしい |
| 5. その他() |
| 6. わからない |

次ページ問7-4へお進みください

問7-4 (問7-3で1を選んだ方のみお答えください) その理由はなぜですか。
(〇は1つだけ)

1. 施設を出て生活することに、不安や問題があるから
2. 施設での生活に満足しているから
3. その他 ()

問7-5 (問7-4で1を選んだ方のみお答えください) どのような問題ですか。
(〇はあてはまるものすべて)

1. 住むところの問題
2. 介護・支援をしてくれる人の問題
3. 経済的な問題
4. 日常生活を送る上での問題
5. 対人関係の問題
6. 漠然とした不安がある
7. その他 ()

問7-6 (問7で7を選んだ方のみお答えください) あなたは、どのような条件が
整えば、お子さんが自宅や地域で生活できると思いますか。(〇はあて
はまるものすべて)

1. 家族と同居できること
2. 昼間の介護・支援を頼める人がいること
3. 夜間の介護・支援を頼める人がいること
4. 食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがある等)
5. 掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
6. デイサービスや作業所等に通えること
7. ショートステイ等緊急時に宿泊できる場所があること
8. ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
9. 地域で独立して生活するためのアパートなどの住まい
10. 主治医や医療機関が近くにあること
11. 生活するのに十分な就労等による収入があること
12. 年金・手当・生活保護など経済的な面での公的な支援
13. 金銭の管理をしてくれるサービス
14. アパートを借りる際に、契約などの手続きを支援してくれるサービス
15. グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
16. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
17. その他 ()
18. 特にない

生活状況についておたずねします

問8 お子さんは身の回りの世話を、主にどなたにもらっていますか。(続柄は、あ
て名のお子さんから見たものをお選びください。〇は1つだけ)

1. 父母
2. 祖父母
3. 兄弟姉妹
4. その他の家族・親族
5. 家族以外の同居人
6. ホームヘルパー・家政婦等
7. ボランティア等
8. 福祉施設や医療機関の職員
9. その他 ()
10. 必要だが世話をしてくれる人がいない
11. 世話をしてもらう必要がない

問8-1 (問8で1~5のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の周りの世
話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることがで
きなくなったとした場合、どうしますか。(〇は1つだけ)

1. 同居家族に頼む
2. 別居家族や親せきに頼む
3. 友人・知人に頼む
4. 近所の人に頼む
5. ホームヘルパー等に頼む
6. ボランティアに頼む
7. 介助者を雇う
8. 施設(短期入所)や病院に頼む
9. その他 ()
10. 介助を頼める場所がない
11. 考えたことがない・わからない

問8-2 (問8で1~5のいずれかを選んだ方のみお答えください) お子さんの身の
周りの世話をしている方が、お子さんの世帯と仕事や余暇活動等の社会
活動を両立しやすくするためには、どのようなことが必要だと思います
か。(〇はあてはまるものすべて)

1. ホームヘルプやショートステイ等の在宅サービスを充実する
2. 就学(園)の放課後や長期休暇中の預かり先を確保する
3. 介助者が心身のリフレッシュを図るための支援サービス(レスパイトケア)を
充実する
4. 地域住民や企業等の理解を促進する
5. その他 ()
6. 特にない

療育等についておたずねします

問9 お子さんの障がいについて、どこで診断・判定を受けてははっきりしたことがわかりましたか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 病院・医院 | 2. 児童相談所 |
| 3. 肢体不自由児施設 | 4. 保健福祉環境事務所 |
| 5. その他 () | |

問10 お子さんの障がいの状況について、診断・判定を受けた頃、ご家族の皆さんには、どんな苦労、悩み、不安がありましたか。(〇は3つまで)

- | |
|------------------------------------|
| 1. 障がいのことや福祉の制度についての情報が少なかった |
| 2. 具体的な相談相手がなかった |
| 3. 制度的な健診を早くに実施してほしかった |
| 4. 保健福祉環境事務所・病院など専門機関でもっと指導してほしかった |
| 5. 適切な療育施設がほしかった |
| 6. 適切な医療機関がほしかった |
| 7. 子どもの介護・介助の手助けがほしかった |
| 8. 家族が働いているため、仕事上に問題が生じた |
| 9. 医療費に悩んだ |
| 10. その他 () |
| 11. 特にない |

問11 お子さんの今後の治療や療育、訓練等について、どのような希望をお持ちですか。お子さん自身の希望に最も近いと思われるものを選んでください。(〇は1つだけ)

- | |
|-------------------------|
| 1. 家庭で治療や訓練等を受けたい |
| 2. 治療や訓練等を受けられる施設に通いたい |
| 3. 治療や訓練等を受けられる施設に入所したい |
| 4. 治療や訓練等を受けられる病院に通いたい |
| 5. 治療や訓練等を受けられる病院に入院したい |
| 6. その他 () |
| 7. 特に希望はない |

保育や教育等についておたずねします

問12 お子さんは、現在、日中どのように過ごしていますか。(〇は1つだけ)

就学前(6歳以下)のお子さん	1. 保育園 3. 通園施設 5. どこにも通わず、自宅にいる	2. 幼稚園 4. その他()
学校に通っているお子さん	6. 小・中学校(普通学級) 7. 小・中学校(特別支援学級) 8. 特別支援学校(小・中・高等部)・訪問教育 9. 盲・ろう学校 10. 高等学校 11. その他()	
学校を卒業したお子さん	12. 就労支援の事業所等に通っている 13. 仕事をしている 14. 職業訓練を受けている 15. 機能訓練を受けている 16. 家事をしている 17. その他() 18. 特に何もしていない	

問12-1 (お子さんが、保育園・幼稚園等や学校に通っている方のみお答えください) 通園や通学に関して困っていることがありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 通うのがたいへん
2. 授業等についていけない
3. トイレ等の設備が使いにくい
4. 学校内・園での介助が十分でない
5. 先生や児童・生徒の理解が十分でない
6. 友達ができない
7. 医療的なケア(吸引・導尿等)が受けられない
8. その他()
9. 特になし

問12-2 (お子さんが、保育園・幼稚園等や学校に通っている方のみお答えください) 次のような保育・教育に関する要望がありますか。(〇は3つまで)

1. 学校教育におけるノーマライゼーションの推進
2. 本人が希望する学校に入れる等、個人のニーズに応じた教育
3. 専門知識を持った教職員の加配
4. 職業教育の充実
5. 障がいに関する理解向上
6. ことばの教室等通級制度の充実
7. 学校への訪問看護師の派遣
8. 障がい児学級の教員配置の見直し
9. 進路指導の充実
10. その他()
11. 特になし

問13 お子さんが、学校(中学校または高等学校)を卒業した後の進路について、どのようにお考えですか。お子さん自身の希望に最も近いと思われるものを選んでください。(〇は1つだけ)

1. 就労支援の事業所等に通いたい
2. 施設に入って、生活訓練や職業訓練等を受けたい
3. 一般の企業等で働きたい
4. 大学等に進学したい
5. その他()
6. わからない・まだ小さいので考えていない

がいしゆつ
外出についておたずねします

問14 お子さんが外出する回数はどれくらいですか。※家族やガイドヘルパー等のつきそい(外出支援)が必要なお子さんは、つきそいがある状態としてお答えください。(〇は1つだけ) (〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回くらい | 3. 月に2～3回くらい |
| 4. 月に1回くらい | 5. 年に数回くらい | 6. 外出していない |

問15 お子さんが外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1. J R・電車 | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自家用車 | 5. 自転車・バイク | 6. 車いす |
| 7. 徒歩 | 8. その他 () | |

問16 お子さんの外出に関して、どのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 付き添ってくれる人がいない |
| 2. 障がい者用トイレが少ない |
| 3. 道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん |
| 4. 気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシーやリフト付きバス等) |
| 5. 手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である |
| 6. 通路上に自転車や看板等の障がい物があるとおりにくい |
| 7. 外出先でコミュニケーションがとりにくい |
| 8. 必要なときに、まわりの人の手助けや配慮が足りない |
| 9. まわりの人の目が気になる |
| 10. 交通費の負担が大きい |
| 11. 外出したいが、外出するところがない |
| 12. その他 () |
| 13. 特にない・ほとんど外出しないのでわからない |

ふくし
福祉サービスについておたずねします

問17 現在お子さんがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。(〇はあてはまるものすべて)

※サービスの内容を別紙で解説していますので、あわせてご覧ください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 居宅介護(ホームヘルプ) |
| 2. 行動援護 |
| 3. 同行援護・移動支援 |
| 4. 児童発達支援・放課後等デイサービス |
| 5. 生活介護(通所によるデイサービス) |
| 6. 自立訓練(機能訓練、生活訓練) |
| 7. 就労移行支援 |
| 8. 就労継続支援A型 |
| 9. 就労継続支援B型 |
| 10. 短期入所(ショートステイ) |
| 11. 日中一時支援 |
| 12. 共同生活援助(グループホーム) |
| 13. 共同生活介護(ケアホーム) |
| 14. 施設入所支援 |
| 15. 補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理 |
| 16. 日常生活用具の給付 |
| 17. 訪問入浴サービス |
| 18. 訪問理髪サービス |
| 19. 寝具乾燥及び洗濯サービス |
| 20. 配食サービス |
| 21. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し |
| 22. 住宅改造助成事業 |
| 23. コミュニケーション支援事業(意思疎通支援者派遣事業) |
| 24. 地域活動支援センター |
| 25. 福祉タクシー利用券 |
| 26. 成年後見制度利用支援事業 |

問18 では、今後お子さんが利用したい、またはお子さんに利用させたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。(○はあてはまるものすべて)

1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
2. 行動支援
3. 同行支援・移動支援
4. 児童発達支援・放課後等デイサービス
5. 生活介護 (通所によるサービス)
6. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
7. 就労移行支援
8. 就労継続支援A型
9. 就労継続支援B型
10. 短期入所 (ショートステイ)
11. 日中一時支援
12. 共同生活援助 (グループホーム)
13. 共同生活介護 (ケアホーム)
14. 施設入所支援
15. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理
16. 日常生活用具の給付
17. 訪問入浴サービス
18. 訪問理髪サービス
19. 寝具乾燥及び洗濯サービス
20. 配食サービス
21. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
22. 住宅改造成事業
23. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
24. 地域活動支援センター
25. 福祉タクシー利用券
26. 成年後見制度利用支援事業

情報収集についておたずねします

問19 お子さんに関する、福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市や県等の窓口 | 2. 市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等 |
| 3. 障がい者生活支援センター | 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員 |
| 5. 障がい者団体 | 6. 家族や友人・知人 |
| 7. 入所・通所している福祉施設の職員 | 8. ボランティア等の福祉団体 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所・薬局等 |
| 11. 学校・職場 | 12. 新聞・雑誌 |
| 13. テレビ・ラジオ | 14. インターネット |
| 15. その他 () | 16. 特にない |

問20 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分 | 2. どちらかといえば十分 |
| 3. どちらかといえば不十分 | 4. 不十分 |
| 5. わからない | |

問20-1 (問20で3または4を選んだ方のみお答えください) あなたがそう思われるのはどのような理由ですか。ご自由にお書きください。

問21 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何ですか。(〇は3つまで)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 社会情勢や福祉制度の変化等に関する情報 |
| 2. 福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報 |
| 3. 困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報 |
| 4. 学校の選び方等の就学に関する情報 |
| 5. 仕事の選び方等の就職に関する情報 |
| 6. 文化・スポーツやレクリエーション、レジャー等の余暇活動に関する情報 |
| 7. 災害時の避難情報 |
| 8. ボランティア団体等に関する情報 |
| 9. その他 () |
| 10. 特にない |

災害対策についておたずねします

問22 おさんは、自宅近くの災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問23 おさんは、職場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問24 おさんは、災害時の対策を立てていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------|-----------|
| 1. 立てている | 2. 立てていない |
|----------|-----------|

問24-1 (問24で1を選んだ方のみお答えください) それはどのような内容のものですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|---------------------------|
| 1. 家族と避難方法を決めている |
| 2. 地域の人等と避難方法を決めている |
| 3. ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる |
| 4. 近所の人に災害時の手助けを頼んでいる |
| 5. 食料や水等の防災用品を用意している |
| 6. 必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる |
| 7. その他 () |

問25 おさんは、災害時にひとりで避難ができますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|--------|---------|----------|
| 1. できる | 2. できない | 3. わからない |
|--------|---------|----------|

問26 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、お子さんの安全の確保等で頼れる人は誰ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. 同居の家族 | 2. 近所の別居家族や親戚 |
| 3. 近所の友人・知人 | 4. 自治会長、隣組長など |
| 5. 地元の消防団員 | 6. 民生委員・福祉委員 |
| 7. 施設の職員や仲間 | 8. その他 () |
| 9. いない | |

問27 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、お子さんについてどのような支援が必要ですか。(〇は3つまで)

1. 薬や日常生活用具等の備蓄
2. 医療的ケアの確保
3. バリアフリー化された避難場所
4. 避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がい者に配慮した設備の確保
5. 障がいに対応した災害情報の提供
6. 避難するときの介助・支援
7. コミュニケーション手段の確保
8. 障がいに対応した相談支援体制の確保
9. その他 ()
10. 特にない

問28 災害時にひとりで避難ができない方々の情報を、地域の防災組織にあらかじめ知らせておき、避難支援体制を整えておくことについて、あなたはどのようにお考えになりますか。(〇は1つだけ)

1. 協力する
2. 方法によっては協力する
3. 協力しない

問28-1 (問28で3を選んだ方のみお答えください) それはなぜですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. プライバシーが守れない
2. 他人の手を借りたくない
3. ほかに手段で避難できる
4. その他 ()
5. わからない

地域生活や社会参加についておたずねします

問29 おさんは、下記のような地域の行事や活動に参加していますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 地域の子ども会等の行事
2. 障がい者団体等の行事
3. ボランティア団体等の行事
4. 市等が行う行事
5. 地域のスポーツクラブや趣味のサークル等
6. その他 ()
7. 参加していない

問30 おさんが地域で行われる行事等に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. どのような活動が行われているか知らない
2. 気軽に参加できる活動が少ない
3. 一緒に活動する友人・仲間がいない
4. 保護者の代りに介助や見守りをしてくれる人がいない
5. 活動場所が近くにない・移動手段がない
6. 健康や体力に自信がない
7. コミュニケーションが難しい
8. 費用がかかる
9. 参加したくなるようなものがない
10. 参加したいが誘ってもらえない
11. 過去に参加したが期待はずれだった
12. その他 ()
13. 特にない
14. 参加しようとは思わない

生活全般についておたずねします

問3 1 今後、お子さんが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1. 教育・学習のこと
- 2. 学友のこと
- 3. 経済的なこと
- 4. 自分の時間が持てないこと
- 5. 自分の健康状態
- 6. 本人の健康状態
- 7. 兄弟姉妹の問題
- 8. 住宅や居室
- 9. 就職のこと
- 10. 結婚のこと
- 1 1. 社会の無理解
- 1 2. 家族の無理解
- 1 3. 親の死後、子どもの世話をする人がいないこと
- 1 4. 親の病气、その他で一時的に子どもをみるができないこと
- 1 5. その他 ()
- 1 6. 特 に ない

問3 2 お子さんを育てていくうえで困っていることや不安・悩みを誰(どこ)に相談していますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1. 市や県等の職員
- 2. 障がい者生活支援センターの職員等
- 3. 保健師
- 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員、福祉委員
- 5. 障がい者団体
- 6. 家族
- 7. 友人・知人、近所の人
- 8. ボランティア等の福祉団体
- 9. 入所・通所している福祉施設の職員
- 10. ホームヘルパーや訪問看護師等
- 1 1. 病院・診療所の医師や看護師等
- 1 2. 保育士や学校の先生等
- 1 3. その他 ()
- 1 4. 相談する人がいない

問3 3 障がいがあるお子さんに対する市民の理解について、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

- 1. 理解がある
- 2. どちらかといえば理解がある
- 3. どちらかといえば理解がない
- 4. 理解がない
- 5. どちらともいえない

問3 4 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(〇は1つだけ)

- 1. あると思う
- 2. 少しはあると思う
- 3. ないと思う
- 4. わからない

問3 4-1 (問3 4で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください) 差別や偏見をどのような場所で感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 1. まちなかでの人の視線
- 2. 行政職員の応対、態度
- 3. 店での扱いや店員の態度
- 4. 仕事や収入
- 5. 教育の機会
- 6. 近所づきあい
- 7. 地域の行事や集まり
- 8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと
- 9. その他 ()

問3 5 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(〇は1つだけ)

- 1. かなり改善されている
- 2. ある程度改善されている
- 3. あまり改善されていない
- 4. ほとんど改善されていない
- 5. どちらともいえない
- 6. わからない

福祉全般についておたずねします

問36 障がいがある人に対する支援として、行政(国・県・市)はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(〇は5つまで)

1. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実
2. 障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実
3. 市の審議会や委員会等への障がい者の参画(登用)
4. 就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等)
5. 年金や手当等の充実
6. 公営住宅への障がい者優先入居等住宅施策の充実
7. グループホーム等の地域で共同生活できる住まいの整備
8. 障がい者の結婚や子育て等に対する支援の充実
9. 機能回復訓練等リハビリテーションの充実
10. 在宅生活を支えるための医療の充実
11. 通院・治療のための医療費の助成
12. ホームヘルプやデイサービス、外出支援等の在宅サービスの充実
13. 入所できる福祉施設の充実
14. 障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実
15. 障がい者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
16. ボランティアの育成と活動支援
17. 文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
18. 緊急時や災害時の支援体制の充実
19. 障がい者にやさしいまちづくりの推進(公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等のバリアフリー化やユニバーサルデザイン化)
20. その他 ()
21. 特にない

※バリアフリー：バリアフリーとは、バリア(障壁)をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差をなくしたり、出入口や廊下の幅員を広げる等、障がい者や高齢者等が生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア(障壁)を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン：バリア(障壁)を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障がいの有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

問37 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

ご協力ありがとうございました。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。続柄は、あて名のお子さまからみたものをお選びください。

- | | | |
|--------------|-----------|------------|
| 1. 父母 | 2. 祖父母 | 3. 兄弟姉妹 |
| 4. その他の家族・親族 | 5. 家族以外の人 | 6. その他 () |

5. 難病患者調査票

飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査
(調査票E)

【ご協力をお願い】

日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市内にお住まいの特定疾患の医療費助成者の方から無作為に抽出した約300人の方を対象に、日常生活の状況やご要望等をおうかぎするために 行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成25年8月

飯塚市長

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- ひとり暮らしなどのため、調査票への記入が難しい場合は、下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- 鉛筆またはボールペンで記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、8月23日(金)までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください(住所やお名前を書く必要はありません)。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課 電話：0948-22-5500 (内線1175)

F A X : 0948-21-6356

あなた自身のことについておたずねします

問1 あなたの性別、年齢についておたずねします。

(1) 性別	1. 男性	2. 女性
(2) 年齢	満 () 歳	

問2 あなたは障がい者手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級・判定もご記入下さい。

(○はいくつでも)

- 身体障がい者手帳 → ①1級 ②2級 ③3級 ④4級 ⑤5級 ⑥6級
- 療育手帳 → ①A ②B
- 精神障がい者保健福祉手帳 → ①1級 ②2級 ③3級
- 手帳は持っていない

問3 特定疾患医療受給者証を受けている疾病が発病した時期をお答えください。(○は1つだけ)

- | | | |
|-----------|---------------|----------|
| 1. 出生時から | 2. 乳幼児期(0~5歳) | 3. 6~17歳 |
| 4. 18~39歳 | 5. 40~64歳 | 6. 65歳以上 |
| 7. わからない | | |

問4 特定疾患医療受給者証を受けている疾病はどれですか。(○はあてはまるものすべて)

- | | |
|---|------------------------|
| 1. ベーチェット病 | 2. 多発性硬化症 |
| 3. 重症筋無力症 | 4. 全身性エリテマトーデス |
| 5. スモン | 6. 再生不良性貧血 |
| 7. サルコイドーシス | 8. 筋萎縮性側索硬化症 |
| 9. 強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎 | 10. 特発性血小板減少性紫斑病 |
| 11. 結節性動脈周囲炎 | 12. 潰瘍性大腸炎 |
| 13. 大動脈炎症候群 | 14. ビュルガー病 |
| 15. 天疱瘡 | 16. 脊髄小脳変性症 |
| 17. クローン病 | 18. 難治性の肝炎のうち劇症肝炎 |
| 19. 悪性関節リウマチ | |
| 20. パーキンソン病 (進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病) | |
| 21. アミロイドーシス | 22. 後縦靭帯骨化症 |
| 23. ハンチントン病 | 24. モヤモヤ病 (ウィリス動脈輪閉塞症) |
| 25. ウェグナー肉芽腫症 | 26. 特発性拡張型 (うっ血型) 心筋症 |
| 27. 多系統萎縮症
(線条体黒質変性症、オリブ橋小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群) | |
| 28. 表皮水疱症 (接合部型及び栄養障害型) | 29. 濃疱性乾癬 |
| 30. 広範脊柱管狭窄症 | 31. 原発性胆汁性肝硬変 |
| 32. 重症急性膵炎 | 33. 特発性大腿骨頭壊死症 |
| 34. 混合性結合組織病 | 35. 原発性免疫不全症候群 |
| 36. 特発性間質性肺炎 | 37. 網膜色素変性症 |
| 38. プリオン病 | 39. 肺動脈性肺高血圧症 |
| 40. 神経線維腫症 | 41. 亜急性性硬化性全脳炎 |
| 42. バッド・キアリ症候群 | 43. 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 |
| 44. ラインゾーム病 | 45. 副腎白質ジストロフィー |
| 46. 家族性高コレステロール血症 (ホモ接合体) | 47. 脊髄性筋萎縮症 |
| 48. 球脊髄性筋萎縮症 | 49. 慢性炎症性脱髄性多発神経炎 |
| 50. 肥大型心筋症 | 51. 拘束型心筋症 |
| 52. ミトコンドリア病 | 53. リンパ脈管筋腫症 (LAM) |
| 54. 重症多形滲出性紅斑 (急性期) | 55. 黄色靭帯骨化症 |
| 56. 間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症) | |

問5 特定疾患医療受給者証を受けている病気のために、過去3年以内に入院しましたか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 入院したことがある | 2. 過去3年以内には、入院していない |
|--------------|---------------------|

問5-1 (問5で1を選んだ方のみお答えください) 過去3年以内の入院回数はどれくらいですか。

過去3年以内に () 回入院した

問5-2 (問5で1を選んだ方のみお答えください) 過去3年以内の入院期間は通算どれくらいですか。(○は1つだけ)。

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 1か月以内 | 2. 1～3か月以内 | 3. 3～6か月以内 |
| 4. 6か月～1年以内 | 5. 1年～2年以内 | 6. 2年以上 |

問6 過去3年以内に、特定疾患医療受給者証を受けている病気の治療で健康保険がきかない治療を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 受けたことがある | 2. 受けたことはない |
|-------------|-------------|

問6-1 (問6で1を選んだ方のみお答えください) 健康保険がきかなかった治療内容(治療費、差額ベッド代など)と過去3年間のおおよその費用総額を記入してください。

①治療内容 (具体的に)	
②過去3年間に支払ったおおよその費用総額	約 () 万円

問7 あなたは、障がい福祉サービスを利用するための区分認定を受けていますか。認定を受けている場合、区分についても○をつけてください。

1. 認定を受けている
- ①区分1 ②区分2 ③区分3 ④区分4 ⑤区分5 ⑥区分6
2. 申請したが非該当
3. 現在申請中
4. 申請をしていない

問8 あなたの生活費は、主に、次のどれによってまかなわれていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 自分の年金や手当 | 2. 自分の就労等による収入 |
| 3. 家族の年金や手当 | 4. 家族の就労等による収入 |
| 5. 生活保護 | 6. その他 () |

問9 あなたは現在、医療機関や施設などで定期的に医師の診察（機能訓練、デイケアなどを含む）を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週1～2回 | 3. 月2～3回 |
| 4. 年数回 | 5. 入院中 | 6. 受けていない |

【問10は40歳以上の方のみお答えください】

問10 介護保険の要介護認定を受けていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 「要支援」と認定 | 2. 「要介護1」と認定 |
| 3. 「要介護2」と認定 | 4. 「要介護3」と認定 |
| 5. 「要介護4」と認定 | 6. 「要介護5」と認定 |
| 7. 要介護認定を受けて「非該当」になった | 8. 要介護認定は受けていない |

問10-1 (問10で1～6を選んだ方のみお答えください) あなたは介護保険のサービスを利用していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-----------|------------|----------|
| 1. 利用している | 2. 利用していない | 3. わからない |
|-----------|------------|----------|

問11 あなたの現在のお住まいは次のどれですか。(〇は1つだけ)

- | |
|------------------------------|
| 1. 自分や家族の持ち家 |
| 2. 民間の借家や賃貸アパート・マンション |
| 3. 市営・県営住宅、公社・公団住宅等 |
| 4. 社宅や会社の寮、官公社等の住宅 |
| 5. 共同生活をするためのグループホーム・ケアホーム |
| 6. グループホーム・ケアホーム以外の福祉施設（入所中） |
| 7. その他 () |

問11-1 (問11で1～4を選んだ方のみお答えください) あなたは、現在、あなたと同居していますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 配偶者 | 2. 父親 |
| 3. 母親 | 4. 祖父 |
| 5. 祖母 | 6. 兄弟姉妹 |
| 7. 子ども（子どもの配偶者含む） | 8. 孫（孫の配偶者含む） |
| 9. その他の家族・親族 | 10. 家族以外の人 |
| 11. その他 () | 12. いない（一人暮らし） |

問11-2 (問11で6を選んだ方のみお答えください) 現在入所している施設での生活に満足していますか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|-------|---------------|---------------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらかといえば不満 |
| 4. 不満 | 5. わからない | |

問11-3 (問11で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、将来、どのように暮らしたいですか。(〇は1つだけ)

- | |
|--------------------------|
| 1. 施設でずっと暮らしたい |
| 2. 自宅に戻って暮らしたい |
| 3. 施設を出て、アパートなどを借りて暮らしたい |
| 4. 施設を出て、グループホームなどで暮らしたい |
| 5. その他 () |
| 6. わからない |

次ページ問11-4へお進みください

問11-4 (問11-3で1を選んだ方のみお答えください) その理由はなぜですか。(〇は1つだけ)

1. 施設を出て生活することに、不安や問題があるから
2. 施設での生活に満足しているから
3. その他 ()

問11-5 (問11-4で1を選んだ方のみお答えください) どのような問題ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 住むところの問題
2. 介護・支援をしてくれる人の問題
3. 経済的な問題
4. 日常生活を送る上での問題
5. 対人関係の問題
6. 漠然とした不安がある
7. その他 ()

問11-6 (問11で6を選んだ方のみお答えください) あなたは、どのような条件が整えば、自宅や地域で生活できると思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家族と同居できること
2. 昼間の介護・支援を頼める人がいること
3. 夜間の介護・支援を頼める人がいること
4. 食事の心配をしなくていいこと (配食サービスがある等)
5. 掃除や洗濯等の家事の手伝いを頼める人がいること
6. デイサービスや作業所等に通えること
7. ショートステイ等緊急時に宿泊できるところがあること
8. ガイドヘルパーやリフト付自動車・寝台車等の外出支援のサービスがあること
9. 地域で独立して生活するためのアパートなどの住まい
10. 主治医や医療機関が近くにあること
11. 生活するのに十分な就労等による収入があること
12. 年金・手当・生活保護など経済的な面での公的な支援
13. 金銭の管理をしてくれるサービス
14. アパートを借りる際に、契約などの手続きを支援してくれるサービス
15. グループホーム等の仲間と共同生活できる場があること
16. 地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること
17. その他 ()
18. 特にない

生活状況についておたずねします

問12 あなたは身の回りの世話を、主にどなたにしてもらっていますか。(〇は1つだけ)

1. 配偶者
2. 父母
3. 祖父母
4. 兄弟姉妹
5. 子ども・孫(子ども・孫の配偶者含む)
6. その他の家族・親族
7. 家族以外の同居人
8. ホームヘルパー・家政婦等
9. ボランティア等
10. 福祉施設や医療機関の職員
11. その他 ()
12. 必要だが世話をしてくれる人がいない
13. 世話をしてもらう必要がない

問12-1 (問12で1～7のいずれかを選んだ方のみお答えください) 身の周りの世話をしている方が、万一病気や事故等で、一時的にお世話をすることができなくなったとした場合、どうしますか。(〇は1つだけ)

1. 同居家族に頼む
2. 別居家族や親せきに頼む
3. 友人・知人に頼む
4. 近所の人に頼む
5. ホームヘルパー等に頼む
6. ボランティアに頼む
7. 介助者を雇う
8. 施設(短期入所)や病院に頼む
9. その他 ()
10. 介助を頼めるところがない
11. 介助を頼む必要がない
12. 考えたことがない・わからない

日中の過ごし方や就労状況についておたずねします

問13 あなたは、日中（平日）、主に何をして過ごしていますか。（○は1つだけ）

1. 正規の社員・従業員として働いている（自営業を含む）
2. パートやアルバイトとして働いている（家業手伝いを含む）
3. 就労支援事業所に通っている
4. 学校（4年制大学、短大、専門学校等）に通っている
5. 施設で機能訓練などを受けるサービスや医療機関のデイケア等に通っている（介護保険のサービスを除く）
6. 仲間同士の集まり等に参加している
7. 自宅で過ごしている
8. 医療機関や福祉施設等に入院・入所している
9. 介護保険のデイサービス等を利用している
10. その他（ ）

問13-1（問13で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）あなたが仕事で得る月収は平均しておよそいくらくらいですか。（○は1つだけ）

- | | | |
|----------------|----------------|----------------|
| 1. 5千円未満 | 2. 5千円～1万円未満 | 3. 1万円～3万円未満 |
| 4. 3万円～7万円未満 | 5. 7万円～11万円未満 | 6. 11万円～15万円未満 |
| 7. 15万円～20万円未満 | 8. 20万円～30万円未満 | 9. 30万円以上 |

問13-2（問13で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）仕事のことで悩んでいることや困っていることがありますか。（○はあてはまるものすべて）

1. 収入が少ない
2. 通院や病気・障がいや理由に休みを取ることが難しい
3. 勤務時間の長さや時間帯が自分にあわない
4. 仕事の内容が自分にあわない
5. 仕事の内容が難しく、覚えるのがたいへん
6. 職場でのコミュニケーションがうまくとれない
7. 障がいへの理解が得にくく、人間関係がむずかしい
8. 職場の設備が不十分で障がい者にあつていないため使いにくい
9. 職場までの通勤がたいへん
10. 障がいがない人と比べて、仕事の内容や昇進等に差がある
11. その他（ ）
12. 特にない

【問14は仕事をしている方もしていない方もお答えください】

問14 障がい者が働くために、必要な条件はどのようなものですか。（○は3つまで）

1. 勤務する時間や日数を調整できること
2. 通勤手段があること
3. 通院等の保障があること
4. 自宅で仕事ができること
5. 賃金が妥当であること
6. 障がいにあつた仕事であること
7. 職業訓練等で就労のための技術を身につけること
8. ※ジョブコーチ（職場適応援助者）等職場に慣れるまで援助してくれる制度があること
9. 勤務場所に障がい者用の設備・機器が整っていること
10. 周囲が自分を理解してくれること
11. 職場により指導者や先輩がいること
12. 就労支援事業所等の福祉的就労の場を確保すること
13. その他（ ）
14. 特にない

※ジョブコーチ（職場適応援助者）とは、障がいのある方の働いている職場へ付き添い、職場の中で人間関係や労働習慣の習得、コミュニケーションの仲立ち等をお手伝いし、一人で仕事ができるまで手助けする指導員のことで、事業所の方に対する受け入れ体制整備等の助言も 行います。

がいしゅつ

外出についておたずねします

問15 あなたが外出する回数はどれくらいですか。(〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日 | 2. 週に2～3回くらい | 3. 月に2～3回くらい |
| 4. 月に1回くらい | 5. 年に数回くらい | 6. 外出していない |

問16 外出の時の移動手段は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | | |
|----------|------------|---------|
| 1. JR・電車 | 2. バス | 3. タクシー |
| 4. 自家用車 | 5. 自転車・バイク | 6. 車いす |
| 7. 徒歩 | 8. その他 () | |

問17 外出に関して、あなたはどのようなことに不便や困難を感じる人が多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

- | |
|---|
| 1. 付き添ってくれる人がいない |
| 2. 障がい者用トイレが少ない |
| 3. 道路・建物の段差や、電車・バス等の乗り降りがたいへん |
| 4. 気軽に利用できる移送手段が少ない(福祉タクシーやリフト付きバス等) |
| 5. 障がい者用の駐車スペースや手すり、スロープ、案内表示等、障がい者に配慮した設備が不十分である |
| 6. 道路上に自転車や看板等の障がい物があるとおりにくい |
| 7. 外出先でコミュニケーションがとりにくい |
| 8. 必要なときに、まわりの人の手助けや配慮が足りない |
| 9. まわりの人の目が気になる |
| 10. 交通費の負担が大きい |
| 11. 外出したいが、外出するところがない |
| 12. その他 () |
| 13. 特にない・ほとんど外出しないのでわからない |

ふくし

福祉サービスについておたずねします

問18 現在あなたがご利用中の障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。

(〇はあてはまるものすべて)

※サービスの内容を別紙で解説していますので、あわせてご覧ください。

- | |
|--------------------------------|
| 1. 居宅介護(ホームヘルプ) |
| 2. 行動支援 |
| 3. 同行支援・移動支援 |
| 4. 児童発達支援・放課後等デイサービス |
| 5. 生活介護(通所によるデイサービス) |
| 6. 自立訓練(機能訓練、生活訓練) |
| 7. 就労移行支援 |
| 8. 就労継続支援A型 |
| 9. 就労継続支援B型 |
| 10. 短期入所(ショートステイ) |
| 11. 日中一時支援 |
| 12. 共同生活援助(グループホーム) |
| 13. 共同生活介護(ケアホーム) |
| 14. 施設入所支援 |
| 15. 補装具(車いす、補聴器など)の交付・修理 |
| 16. 日常生活用具の給付 |
| 17. 訪問入浴サービス |
| 18. 訪問理髪サービス |
| 19. 寝具乾燥及び洗濯サービス |
| 20. 配食サービス |
| 21. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し |
| 22. 住宅改造成事業 |
| 23. コミュニケーション支援事業(意思疎通支援者派遣事業) |
| 24. 地域活動支援センター |
| 25. 福祉タクシー利用券 |
| 26. 成年後見制度利用支援事業 |

問19 では、今後あなたが利用してみたい障がい福祉サービスはどのようなものですか。介護保険制度の利用分は除き、障がい福祉サービスの利用についてのみ、お答えください。(〇はあてはまるものすべて)

1. 居宅介護 (ホームヘルプ)
2. 行動援護
3. 同行援護・移動支援
4. 児童発達支援・放課後等デイサービス
5. 生活介護 (通所によるデイサービス)
6. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練)
7. 就労移行支援
8. 就労継続支援A型
9. 就労継続支援B型
10. 短期入所 (ショートステイ)
11. 日中一時支援
12. 共同生活援助 (グループホーム)
13. 共同生活介護 (ケアホーム)
14. 施設入所支援
15. 補装具 (車いす、補聴器など) の交付・修理
16. 日常生活用具の給付
17. 訪問入浴サービス
18. 訪問理髪サービス
19. 寝具乾燥及び洗濯サービス
20. 配食サービス
21. 福祉電話、緊急通報システムの貸し出し
22. 住宅改造助成事業
23. コミュニケーション支援事業 (意思疎通支援者派遣事業)
24. 地域活動支援センター
25. 福祉タクシー利用券
26. 成年後見制度利用支援事業

情報収集についておたずねします

問20 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報をどこから得ていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1. 市や県等の窓口 | 2. 市や県の広報紙やチラシ、ホームページ等 |
| 3. 障がい者生活支援センター | 4. 障がい者相談員や民生委員・児童委員 |
| 5. 障がい者団体 | 6. 家族や友人・知人 |
| 7. 入所・通所している福祉施設の職員 | 8. ボランティア等の福祉団体 |
| 9. ホームヘルパーや訪問看護師等 | 10. 病院・診療所・薬局等 |
| 11. 学校・職場 | 12. 新聞・雑誌 |
| 13. テレビ・ラジオ | 14. インターネット |
| 15. その他 () | 16. 特にない |

問21 福祉サービスや福祉制度をはじめとする生活に必要な情報を十分に入手できていますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 十分 | 2. どちらかといえば十分 |
| 3. どちらかといえば不十分 | 4. 不十分 |
| 5. わからない | |

問21-1 (問21で3または4を選んだ方のみお答えください) あなたがそう思われるのはどのような理由からですか。ご自由にお書きください。

問22 あなたにとって、今後、特に充実してほしい情報は何ですか。(〇は3つまで)

1. 社会情勢や福祉制度の変化等に関する情報
2. 福祉サービスの内容や利用方法等に関する情報
3. 困ったときに相談ができる機関や窓口に関する情報
4. 学校の選び方等の就学に関する情報
5. 仕事の選び方等の就職に関する情報
6. 文化・スポーツやレクリエーション、レジャー等の余暇活動に関する情報
7. 災害時の避難情報
8. ボランティア団体等に関する情報
9. その他 ()
10. 特にない

さいがいたいさく
災害対策についておたずねします

問23 あなたは、自宅近くの災害時の避難先を知っていますか。(〇は1つだけ)

1. 知っている 2. 知らない

問24 あなたは、仕事場や通所先、学校の近くにある災害時の避難先を知っていますか。
(〇は1つだけ)

1. 知っている 2. 知らない

問25 あなたは、災害時の対策を立てていますか。(〇は1つだけ)

1. 立てている 2. 立てていない

問25-1 (問25で1を選んだ方のみお答えください) それほどのような内容のも
のですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 家族と避難方法を決めている
2. 地域の人等と避難方法を決めている
3. ボランティアの人に災害時の手助けを頼んでいる
4. 近所の人に災害時の手助けを頼んでいる
5. 食料や水等の防災用品を用意している
6. 必要な補装具、医療器具等はすぐに持ち出せる
7. その他 ()

問26 あなたは、災害時にひとりで避難ができますか。(〇は1つだけ)

1. できる 2. できない 3. わからない

問27 地震や台風等の大きな災害が起きた場合に、安全の確保等で頼れる人は誰ですか。
(〇はあてはまるものすべて)

1. 同居の家族 2. 近所の別居家族や親戚
3. 近所の友人・知人 4. 自治会長、隣組長など
5. 地元の消防団員 6. 民生委員・福祉委員
7. 施設の職員や仲間 8. その他 ()
9. いない

問28 地震や台風等の大きな災害が起きた場合、あなたはどのような支援が必要ですか。
(〇は3つまで)

1. 薬や日常生活用具等の備蓄
2. 医療的ケアの確保
3. バリアフリー化された避難場所
4. 避難場所における多目的トイレや簡易ベッドなどの障がいに配慮した設備の確保
5. 障がいに对应した災害情報の提供
6. 避難するときの介助・支援
7. コミュニケーション手段の確保
8. 障がいに对应した相談支援体制の確保
9. その他 ()
10. 特にない

問29 災害時にひとりで避難ができない方々の情報を、地域の防災組織にあらかじめ知
らせておき、避難支援体制を整えておくことについて、あなたはどのようにお考えに
なりますか。(〇は1つだけ)

1. 協力する
2. 方法によっては協力する
3. 協力しない

問29-1 (問29で3を選んだ方のみお答えください) それはなぜですか。(〇はあ
てはまるものすべて)

1. プライバシーが守れない
2. 他人の手を借りたくない
3. ほかの手段で避難できる
4. その他 ()
5. わからない

社会参加や地域での生活についておたずねします

問30 あなたは、ふだん地域の方とどのようなおつきあいをしていますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 会えばあいさつしあう程度
2. 世間話をする
3. 一緒に遊んだり、出かけたりする
4. 自治会等の地域活動と一緒に参加する
5. 盆踊りや祭り等の行事と一緒に楽しむ
6. サークル等で趣味やスポーツの活動を一緒に楽しむ
7. 学校や職場の行事と一緒に参加する
8. 入所・通所している施設の行事等で交流する
9. その他 ()
10. つきあいはしていない

問31 あなたが地域で行われる行事や余暇活動(文化・スポーツ・レクリエーション活動等)に参加しようとした場合、そのさまたげとなることはありますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. どのような活動が行われているか知らない
2. 気軽に参加できる活動が少ない
3. 一緒に活動する友人・仲間がない
4. 家事・仕事等との都合が難しい
5. 活動場所が近くにない・移動手段がない
6. 健康や体力に自信がない
7. コミュニケーションが難しい
8. 費用がかかる
9. 参加したくなるようなものがない
10. 参加したいが誘ってもらえない
11. 過去に参加したが期待はずれだった
12. その他 ()
13. 特にない
14. 参加しようとは思わない

問32 今後、余暇活動として、どのような活動をしたいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1. スポーツ | 2. レクリエーション |
| 3. 旅行 | 4. 買い物 |
| 5. ボランティア活動 | 6. ※セルフヘルプ活動 |
| 7. 趣味等のサークル活動・生涯学習 | 8. 講座・講演会等への参加 |
| 9. 地域の行事や祭り、学校・職場の行事 | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |

※セルフヘルプ活動とは、同じような立場(病氣・障がい等)の方たちが、その思いや体験を共有しながら、専門家の支援・援助を受けることなく、自らも自立しながら相互に支え合うことです。

生活全般についておたずねします

問33 今後、あなたが充実した生活を送ることを考えるうえで、どんなことに不安や悩みを感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 障がいや健康上のこと
2. 経済的なこと
3. 仕事のこと
4. 日中の行き場所や過ごし方
5. 住まいのこと(アパートなどを借りるときの保証人の問題、公営住宅への入居など)
6. 結婚のこと
7. 子育てのこと
8. 家庭内の問題
9. 友人関係、仲間との交流
10. 周囲の人の理解について
11. 通院、通勤、通学のこと
12. 食事や洗濯など日常のこと
13. 生きがいについて
14. 財産の管理
15. その他 ()
16. 特にない

問3 4 日常生活についての不安・悩みを誰（どこ）に相談していますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 病院・診療所の医師や看護師等
2. 医師会
3. 家族・親族
4. 同じ病気の友人
5. その他の友人・知人、近所の人
6. 患者会
7. ボランティアグループ
8. 福岡県難病団体連絡協議会
9. 福岡県難病相談・支援センター
10. 保健所（保健師等）
11. 市役所
12. その他（ ）
13. 相談する人がいない
14. 誰にも相談しない

問3 5 特定疾患医療受給者証を受けている病気についての不安・悩みを誰（どこ）に相談していますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. 病院・診療所の医師や看護師等
2. 医師会
3. 家族・親族
4. 同じ病気の友人
5. その他の友人・知人、近所の人
6. 患者会
7. ボランティアグループ
8. 福岡県難病団体連絡協議会
9. 福岡県難病相談・支援センター
10. 保健所（保健師等）
11. 市役所
12. その他（ ）
13. 相談する人がいない
14. 誰にも相談しない

問3 6 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。（〇は1つだけ）

- | | |
|----------|-------------|
| 1. あると思う | 2. 少しはあると思う |
| 3. ないと思う | 4. わからない |

問3 6-1 （問3 6で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください）差別や偏見をどのような場所で感じますか。（〇はあてはまるものすべて）

1. まちなかでの人の視線
2. 行政職員の対応、態度
3. 店での扱いや店員の態度
4. 仕事や収入
5. 教育の機会
6. 近所づきあい
7. 地域の行事や集まり
8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと
9. その他（ ）

問3 7 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。（〇は1つだけ）

1. かなり改善されている
2. ある程度改善されている
3. あまり改善されていない
4. ほとんど改善されていない
5. どちらともいえない
6. わからない

福祉全般についておたずねします

問38 障がいがある人に対する支援として、行政(国・県・市)はどのようなことを充実すべきだと思いますか。(〇は5つまで)

1. 障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や人権教育の充実
2. 障がいの特性や程度に応じた障がい児保育・教育の充実
3. 市の審議会や委員会等への障がい者の参画(登用)
4. 就労支援の充実(働くための訓練や職業紹介、就労後の指導や支援等)
5. 年金や手当等の充実
6. 公営住宅への障がい者優先入居等住宅施策の充実
7. グループホーム等の地域で共同生活できる住まいの整備
8. 障がい者の結婚や子育て等に対する支援の充実
9. 機能回復訓練等リハビリテーションの充実
10. 在宅生活を支えるための医療の充実
11. 通院・治療のための医療費の助成
12. ホームヘルプやデイサービス、外出支援等の在宅サービスの充実
13. 入所できる福祉施設の充実
14. 障がい者に対する情報提供や相談窓口の充実
15. 障がい者同士や地域の人等と交流ができる場の整備
16. ボランティアの育成と活動支援
17. 文化・スポーツ・レクリエーション等を通じた社会参加の支援
18. 緊急時や災害時の支援体制の充実
19. 障がい者にやさしいまちづくりの推進(公共施設や民間施設、公共交通機関、道路等)
*バリアフリー化や*ユニバーサルデザイン化)
20. その他 ()
21. 特にない

※バリアフリー: バリアフリーとは、バリア(障壁)をなくすという意味です。この場合は、建物内の段差をなくしたり、出入口や廊下の幅員を広げる等、障がい者や高齢者等が生活しやすい環境をつくるために、支障となる物理的なバリア(障壁)を取り除くことを意味します。

※ユニバーサルデザイン: バリア(障壁)を除去するというバリアフリーの考え方に対して、あらかじめ障がいの有無や年齢、性別、人種等にかかわらず様々な人々が利用しやすいように都市や生活環境をデザインするという考え方のことです。

問39 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

ご協力ありがとうございました。

障がい者福祉についてあなたが普段お考えになっていることや、あなたの将来の夢や希望など、何でも結構ですので、ご自由にお書きください。

◎この調査票はどなたが回答・記入しましたか。

1. 本人が全部回答または記入した
2. 他の人が本人の意思を確認しながら記入した
3. 本人の意思を確認するのは困難であり、他の人が回答または記入した
4. その他 ()

飯塚市 障がい福祉に関するアンケート調査 (調査票F)

＜「障がい(書)」の表記について＞
飯塚市では、法律や制度の名称、施設や団体等の名称(固有名詞)を除き、「障がい」という表記を用いています。

【ご協力をお願いします】

日頃から飯塚市の障がい福祉行政にご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。

飯塚市では、障がいのある方が、地域で自立し、かつ、安心して生活できる環境づくりを進めるため、平成25年度中に「飯塚市障がい者計画」を策定する予定です。

この調査は、計画策定の基礎資料とするため、市民の方から無作為に抽出した約2,000人の方を対象に、ご意見をお聞きするために行うものです。

なお、この調査票にお名前を書く必要はなく、調査結果は「対象者の〇〇%がこのような要望を持っている」というふうに、すべて統計的な処理にのみ使用します。したがって、あなたのお名前や回答の内容が他の人に知られることはありませんので、安心してお答えください。

お忙しいところお手数をおかけいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。
平成25年8月

飯塚市長

記入にあたってのご注意

- この調査票は、できる限りあて名のご本人がお答えください。
- ご本人の回答や記入が難しい場合は、主に介助されている方や、ご家族の方が、ご本人と相談したり、ご本人の立場にたってお答えください。
- 鉛筆またはボールペンでご記入ください。
- 回答は、あてはまる項目を選んで、その番号を○印で囲んでください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、ことわり書きの指示に従ってお答えください。
- 調査票の記入が終わったら、8月23日(金)までに、同封の返信用封筒に入れて、ポストに入れてください(住所やお名前を書く必要はありません)。

【調査に関するお問い合わせ先】

飯塚市 福祉部 社会・障がい者福祉課
電話：0948-22-5500 (内線1175)
FAX：0948-21-6356

問1 あなたは、障がいのある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。(○は1つだけ)

1. 知っている
2. 言葉だけは聞いたことがある
3. 知らない

問2 国や地方公共団体では、「共生社会」の考え方に基づいて、障がいのある人もない人も共に生活できるための環境作りを進めています。あなたは、この「障がいのある人が身近で生活しているのがあたり前だ」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. 一概にいえない
6. わからない

問3 あなたは以下の言葉をご存知ですか。①から⑩までのそれぞれの項目について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	知っている	わからない	聞いたことはあるが、詳しい内容まではわからない	知らない
①障害者週間 国民の間に広く障がいのある方の福祉について関心と理解を深めるとともに、障がいのある方が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めるため、障害者基本法で定める、毎年12月3日から12月9日までの1週間をいいます。	1	2	3	
②ノーマライゼーション 障がいのある方を特別視するのではなく、一般の社会の中で普通の生活が送れるような条件を整えるべきであり、共に生きることがノーマルな社会であるという考え方です。	1	2	3	
③バリアフリー 障がいのある方が社会で生活していく上で障壁(バリア)となるものを除去する意味で、もともと建築用語で登場し、段差等の物理的障壁の除去ということが多いのですが、より広く障がいのある方の社会参加を困難にしている、社会的、制度的、心理的なすべての障壁を除去するという意味でも用いられています。	1	2	3	

	知っている	聞いたことはあるが、 くわしい内容までは わからない	知らない
④ユニバーサルデザイン バリアフリーは、障がいによりもたらされる障壁に対処するという考え方であるのに対し、ユニバーサルデザインはあらかじめ障がいの有無、年齢、人種等に関わらず多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。	1	2	3
⑤バリアフリー新法 正式名称は『高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律』といいます。 高齢者、障がい者、妊婦、けが人などの移動や施設利用の利便性や安全性を向上させるために、公共交通機関、建築物、公共施設のバリアフリー化を推進するとともに、駅を中心とした地区や、高齢者、障がい者などが利用する施設が集まった地区において、重点的かつ一体的なバリアフリーを推進するための法律。従来のハートビル法と交通バリアフリー法を統合・拡充したものと、平成18年12月から施行されています。	1	2	3
⑥障害者虐待防止法 正式には「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」。障がい者に対する虐待の禁止、虐待防止のための国民の責務、虐待を受けた障がい者の保護及び自立支援のための措置等を定めた法律です。平成24年10月施行。飯塚市もこの法律に基づき虐待防止等に関する相談窓口（障がい者虐待防止センター）を設置しています。	1	2	3
⑦成年後見制度 知的障がいや精神障がい等により判断能力が不十分な人を保護し、支援する制度です。後見人が本人に代わって財産を管理したり、契約の締結などを行うことによって、本人の権利を守ることを目的としています。	1	2	3
⑧発達障がい 脳の機能の発達に関係する障がいで、通常は低年齢で症状が現れるものとされており、学習障がい（LD）、注意欠陥・多動性障がい（ADHD）、自閉症などが含まれます。平成23年8月の障害者基本法改正により、発達障がいのある人も従来の3障がい（身体・知的・精神）と同様に障がいの範囲に含まれることになりました。	1	2	3

	知っている	聞いたことはあるが、 くわしい内容までは わからない	知らない
⑨難病 原因不明で治療方法が確立していない病気を指す言葉であり、国は臨床調査研究対象疾患として130疾患を定めています（関節リウマチ、パーキンソン病など）。障害者自立支援法の改正により、平成25年4月から障がい者手帳を持っていない難病患者等も障がいの範囲に含まれるものとされ、必要に応じて障がい福祉サービスの利用が可能になりました。	1	2	3
⑩障害者権利条約 平成18年12月、国連総会において採択された、障がいのある人の尊厳や権利を保障するための国際的原則を定めた条約です。現在、日本はこの条約の批准（締結）に向けてさまざまな取組みを進めています。	1	2	3

問4 あなたの身近に、身のまわりのお世話（介護）を必要とする方がいらっしゃいますか。（○はあてはまるものすべて）

1. 自分自身	4. いない
2. 家族・親族	
3. 知人・友人	

問4-1 （問4で1～3のいずれかを選んだ方のみお答えください）その方はどのような方ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 高齢の方	
2. 身体障がいのある方	
3. 知的障がいのある方	
4. 精神障がいのある方	
5. 長期的な看護が必要な病人の方	
6. その他（ ）	

問7 あなたは、障がいのある方の福祉に関心をお持ちですか。(〇は1つだけ)

1. 非常に関心がある 2. ある程度関心がある
3. あまり関心がない 4. 関心がない

問7-1 (問7で1または2を選んだ方のみお答えください) どのような理由から関心をお持ちですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 自分自身に障がいがあるため
2. 自分の身内や近所、知り合いに障がいのある方がいるから
3. 障がいのある方に対してボランティア活動を行っているから
4. 自分自身が福祉に関する職業に就いているから
5. テレビや新聞等で障がいのある方に関することを目にしたり聞いたりするから
6. 市の広報紙で障がいのある方に関することを目にするから
7. その他 ()
8. 特に理由はない

問8 あなたは、ボランティア活動に関心がありますか。(〇は1つだけ)

1. 非常に関心がある 2. ある程度関心がある
3. あまり関心がない 4. 全く関心がない

問9 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(〇は1つだけ)

1. ある
2. ない

問9-1 (問9で1を選んだ方のみお答えください) それはどのような活動ですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 施設での手伝い 2. バザー・イベント等の手伝い
3. 旅行や外出の手伝い 4. 募金活動の手伝い
5. 生活面での援助 6. 専門的スキルを生かした手伝い
7. その他 ()

次ページ問9-2へお進みください

問9-2 (問9で2を選んだ方のみお答えください) ボランティア活動についてどのようにお考えですか。(〇はあてはまるものすべて)

1. 活動したい気持ちはあるが、活動するための方法やどのような行事があるのかわからない
2. 活動したい気持ちはあるが、時間的な余裕がない
3. 活動したい気持ちはあるが、健康に自信がないので難しい
4. ボランティア活動に興味がない
5. 行政や福祉団体等がやるべきだと思う
6. その他 ()
7. 特に考えたことはない

問10 あなたは、普段の暮らしの中で、障がいのある人への差別や偏見があると感じますか。(〇は1つだけ)

1. あると思う 2. 少しはあると思う
3. ないと思う 4. わからない

問10-1 (問10で1・2のいずれかを選んだ方のみお答えください) 差別や偏見をどのような場所で感じますか。(〇はあてはまるものすべて)

1. まちなかでの人の視線
2. 行政職員への対応、態度
3. 店での扱いや店員の態度
4. 仕事や収入
5. 教育の機会
6. 近所づきあい
7. 地域の行事や集まり
8. 交通機関や建物の構造が障がい者の利用に配慮されていないこと
9. その他 ()

問11 5年前と比べて障がい者への差別や偏見は改善されたと思いますか。(〇は1つだけ)

1. かなり改善されている 2. ある程度改善されている
3. あまり改善されていない 4. ほとんど改善されていない
5. どちらともいえない 6. わからない

問12 障がいのある方に対する理解を促進するためにどのような取り組みが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. こどもに対する福祉教育に力を入れる
2. 障がいのある児童生徒とない児童生徒とが相互理解を深める交流教育を促進する
3. 市民対象の福祉講座や講演会を開催する
4. スポーツ、レクリエーション、文化活動などを通じて障がいのある方とない方とのふれあいの機会をふやす
5. 障がい者団体の活動をPRする
6. 障がいのある方に対するボランティア活動を育成・支援する
7. 地域において障がいのある方とない方との交流を深めるイベントを実施する
8. 市の広報紙で障がいのある方への理解を深めるための広報を推進する
9. テレビ・新聞等マスメディアに障がいのある方への理解を深めるための報道を依頼する
10. 市の職員に対する研修の実施
11. その他 ()
12. 特になし

問13 5年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障がい者施策は進んだと思いますか。(〇は1つだけ)

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1. かなり進んだと思う | 2. ある程度進んだと思う |
| 3. あまり進んだと思わない | 4. ほとんど進んだと思わない |
| 5. どちらともいえない | 6. わからない |

問14 障がいのある方が安心して生活することができるためには、あなたはどのようなことをすべきだと思いますか。自由にご意見をお書きください。

最後に、ご回答を統計的に分析するため、失礼ですが、あなたご自身のことについておたずねします。

F1 性別 (〇は1つだけ)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

F2 年齢 (〇は1つだけ)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 20～24歳 | 2. 25～29歳 | 3. 30～34歳 |
| 4. 35～39歳 | 5. 40～44歳 | 6. 45～49歳 |
| 7. 50～54歳 | 8. 55～59歳 | 9. 60～64歳 |
| 10. 65～69歳 | 11. 70歳以上 | |

F3 あなたのお仕事の内容は何ですか。(〇は1つだけ)

1. 農林水産業 (家族従事者を含む)
2. 自営業・自由業 (家族従事者を含む)
3. 企業、役所、団体などの正規職員
4. パート・アルバイト、契約社員、派遣社員など
5. 専業主婦・主夫
6. 学生
7. 無職 (定年退職者を含む)
8. その他 ()

～ご協力ありがとうございました。～